

# 8 章

## 債権と債務

### 章の概要

この章では、債権債務領域における主な決算処理と設定について説明します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 残高確認書の作成
- 外貨建未消込明細および外貨建貸借対照表勘定の評価
- 個別値調整の転記方法と不良債権の均一レート値調整についての説明
- 債権と債務の再グループ化

### 章の内容

レッスン: 残高確認書 .....	298
演習問題 20: 残高確認書 .....	303
レッスン: 外貨評価 .....	307
演習問題 21: 外貨評価 .....	323
レッスン: 値調整 .....	330
演習問題 22: 値調整 .....	333
レッスン: 再グループ化 .....	340
演習問題 23: 再グループ化 .....	345

## レッスン: 残高確認書

### レッスンの概要

このレッスンでは、残高確認書を設定するために使用可能なオプションについて説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 残高確認書の作成

### ビジネスシナリオ

会計管理部門では、残高確認書を作成するために使用可能なオプションを知りたいと思っています。

総勘定元帳と同じ。10章

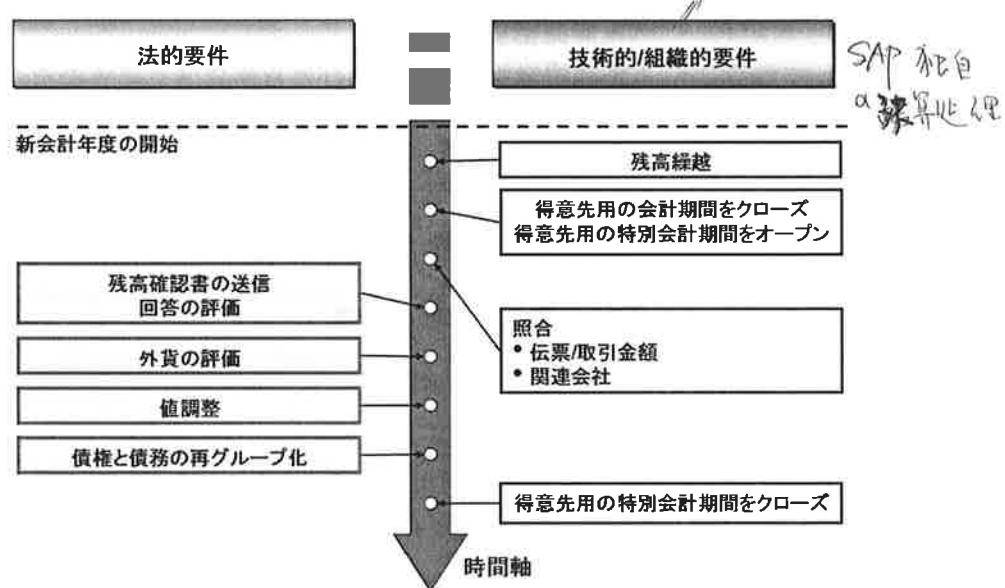


図 124: 概要: 得意先コード決算処理

会計年度の開始時には、残高繰越プログラムを実行して、得意先コードの残高を次会計年度に繰り越します。旧会計年度の会計期間をクローズして、決算転記のための特別会計期間をオープンします。照合処理によって、伝票の転記に関する技術的な問題がないことを確認します。

その後、残高の確認、外貨伝票の評価、金額の調整、および債権の再グループ化を行います。

これらが完了すると、特別会計期間をクローズすることができます。

残高確認書の生成、外貨評価、および債権の再グループ化は、債務管理でも同様に行います。

 **ヒント:** 決算処理プロセスは、国によって異なる場合があります。各自の国で必要な特殊な手順に関する情報については、講師から説明を受けてください。

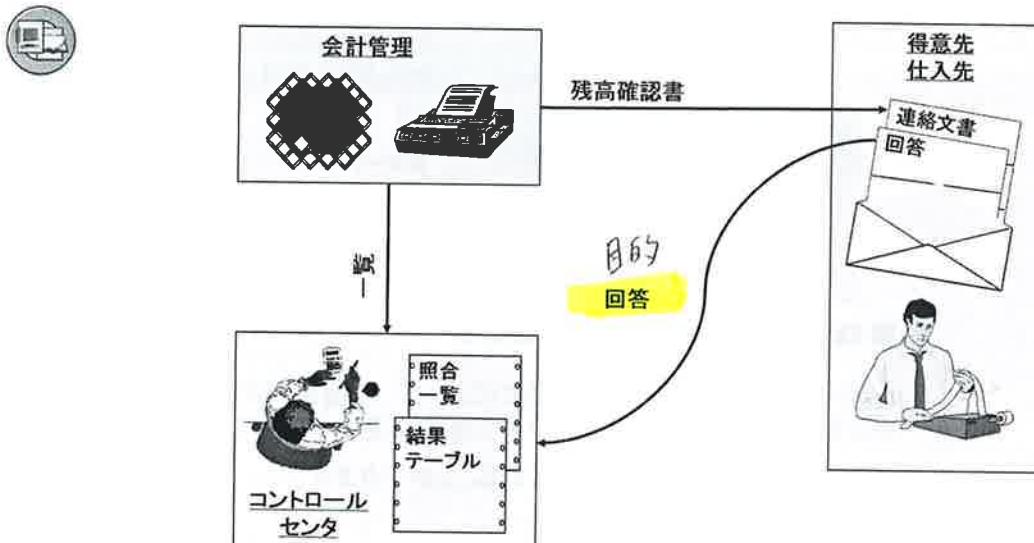


図 125: 残高確認書 (連絡文書)

残高確認書を登録するプログラムによって、任意の数の得意先および仕入先の残高確認書(回答フォームを含む)、および照合一覧と結果テーブルが自動的に登録されます。残高確認書と回答フォームは得意先または仕入先に送信し、一覧はコントロールセンタに転送します。IDES 社では、このコントロールセンタは“内部監査”部門です。

得意先または仕入先は受け取った残高情報をチェックし、コントロールセンタに回答を送信します。ここで、回答を照合一覧と比較し、結果テーブルに結果を入力します。

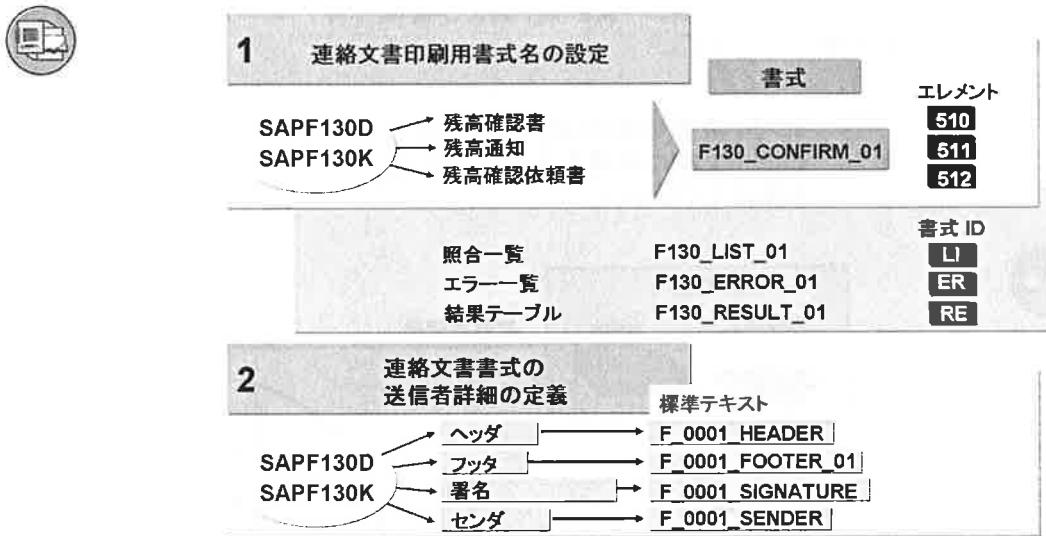


図 126: カスタマイジング I: 残高確認書

レポート SAPF130D と SAPF130K によって、債権債務の残高をチェックするために得意先や仕入先とやり取りする連絡文書を作成することができます。

以下のいずれかの手順を選択することができます。

- 残高確認書
- 残高通知
- 残高照会時に連絡文書依頼

レポートによって、会社コードごとに照合一覧とエラー一覧が出力されます。これらを使用して、残高確認書の受領をチェックします。エラー一覧には、評価時に発生したエラーがレポートによって記録されます。

回答を評価するための結果一覧を作成することもできます。結果一覧には、受け取った回答の数や各回答に記載されている合計金額などを表示することができます。

各レポート実行の選択カバーシートを印刷することができます。

また、レポートを使用して、回答期限が過ぎた残高確認書や問合せに対する確認書を印刷することもできます。そのためには、該当する得意先、“元の”発行日、および“元の”回答日を選択画面で入力します。

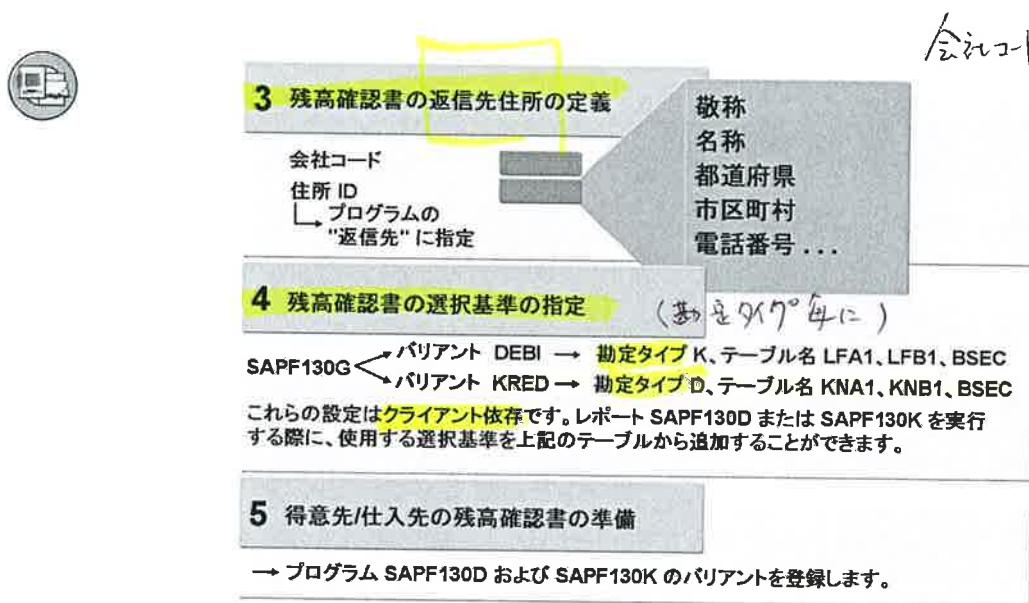


図 127: カスタマイジング II: 残高確認書

ポイント 3 を参照してください。

残高確認書の送信先住所を 1 つ以上指定する必要があります。ID を入力するか、または項目を空白のままにします。ここで入力する内容に応じて、**対応する ID をプログラムの実行時に選択基準に含める必要があります。**

例:

残高確認書を監査人に送信する場合に ID 項目を空白にします。これにより、たとえば同じ会社コードの ID 0001 の内部監査部門の住所を入力することができます。この ID は、内部監査人が関心を持つ残高のレポートに対する選択基準として入力します。



## 演習問題 20: 残高確認書

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 得意先の残高確認書の登録

### ビジネスシナリオ

債務と債権の決算処理を実行する必要があります。計算/チェックのために、残高確認書を登録して得意先コード残高の正確性を確認します。

### タスク:

会社コード AC## の得意先 T-F00A00 の残高確認書を登録します。

- 得意先マスターコードの通信言語をチェックします。会社コード **AC##** の得意先 **T-F00A00** について、住所タブページで通信言語をこのコースが実施されている国の言語に変更します。これにより、残高確認書が適切な言語で登録されるようになります。



**注意:** SAPscript で残高確認書のフォームがコース言語で設定されていない場合は、出力が標準設定のドイツ語に戻ります。

- 会社コードの得意先の残高確認書を登録します。

## 解答 20: 残高確認書

### タスク:

会社コード AC## の得意先 T-F00A00 の残高確認書を登録します。

- 得意先マスタレコードの通信言語をチェックします。会社コード AC## の得意先 T-F00A00 について、住所タブページで通信言語をこのコースが実施されている国の言語に変更します。これにより、残高確認書が適切な言語で登録されるようになります。



**注意:** SAPscript で残高確認書のフォームがコース言語で設定されていない場合は、出力が標準設定のドイツ語に戻ります。

- 会社コード AC## の得意先 T-F00A00 の残高確認書

得意先の通信言語

得意先マスタレコードを変更するためのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → マスタレコード → 変更  
以下のデータを入力します。

得意先: **T-F00A00**

会社コード: **AC##**

タブページ: 住所

通信項目グループ: 言語項目にスクロールダウンします。

言語をコース言語に変更します。

保存します。

メインメニューに戻ります。

次へ

2. 会社コードの得意先の残高確認書を登録します。

a) 残高確認書

残高確認書を印刷するためのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 定期処理 → 決算処理 →  
チェック/計算 → 残高確認書: 印刷

以下のデータを入力します。

得意先: T-F00A00

タブ: 一般選択

会社コード: AC##

照合基準日: 本日の日付

タブ: 追加選択

個別得意先: X

タブ: 出力管理

連絡文書のソートバリエント: K2 (勘定コードによるソート)

明細ソートキー: P1 (伝票日付、参照/伝票番号)

発行日: 本日の日付

回答日: 本日の日付 + 7 日

プリンタ LP01 を使用します。

書式設定用プリンタ

統制リスト用プリンタ

結果テーブル用プリンタ

エラー一覧用プリンタ

選択用プリンタ

プログラムを実行します。

上下にスクロールして、表示されたページ上の情報を参照します。  
次ページに移動して、他のレポートページを参照します。

メインメニューに戻ります。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 残高確認書の作成

## レッスン：外貨評価

### レッスンの概要

このレッスンでは、外貨評価のさまざまな方法について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 外貨建未消込明細および外貨建貸借対照表勘定の評価

### ビジネスシナリオ

外貨建未消込明細および外貨建貸借対照表勘定は、さまざまな業務関連の基準や法的基準にもとづいて評価する必要があります。



図 128: 外貨評価 (FAGL\_FC\_VALUATION)

財務諸表を登録する前に、外貨評価を実行します。外貨評価には、以下の勘定と明細が含まれています。

- 外貨建貸借対照表勘定、つまり外貨で管理する G/L 勘定 (外貨による G/L 勘定の残高が評価されます)
- 外貨で転記された未消込明細 (得意先、仕入先、G/L 勘定) (明細が評価されます)

レポート FAGL\_FC\_VALUATION では、外貨による未消込明細および外貨貸借対照表勘定が評価されます。

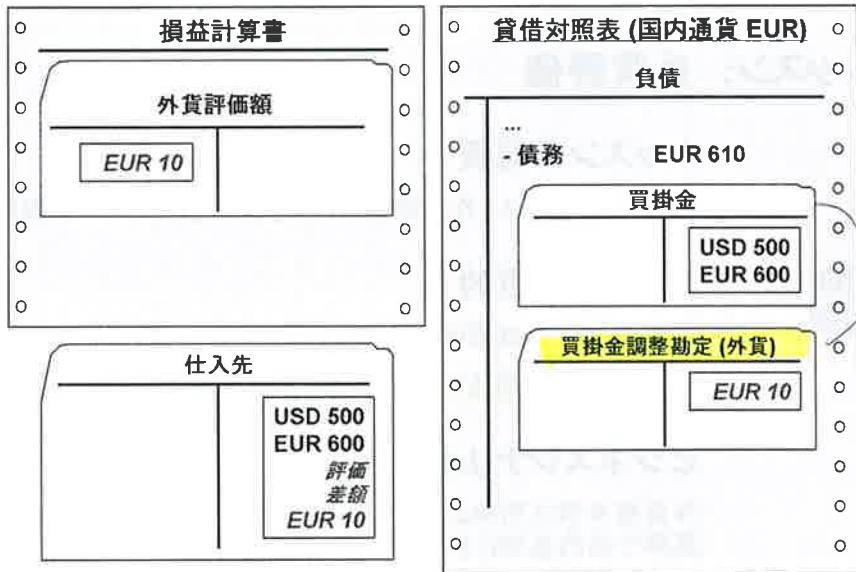


図 129: 外貨評価 *外貨評価を元に仕訳を行います*

外貨評価は、仕入先コードに外貨による未消込明細がある場合に必要となります。このような未消込明細の金額は、入力された時点での取引日レートを使用して国内通貨に換算されています(たとえば、500 USD から国内通貨の 600 EUR へ)。

決算時には為替レートが異なっている可能性があるため、未消込明細の再評価が必要になります。プログラムにより、新しい換算レートを使用して未消込明細が評価され、評価差額(スライドでは EUR 10)が評価された明細に入力されます。また、評価仕訳も転記されます。

#### 外貨評価による差額の調整勘定(図参照)

*統制勘定には直接転記することができないため、債務勘定への転記によって評価を行うことはできません。このため、金額は調整勘定に転記され、貸借対照表では統制勘定と同一の行に表示されます。*

評価方法によって、個別の明細がどのように評価されるかが決まります。これは、国固有の評価基準に従って設定する必要があります。たとえば、低価法、強制低価法、一般的な方法(評価による差益も含む)のうちどの方法を評価に使用するかを定義します。

未消込明細の評価 P309

国内通貨: 2月 10000円で取引  
3/1 (購入) 得意先 180円/売上 180円  
3/31 (決算) 評価差額 20円 / *未料金調整 20円* 100円 = 110円

収支代入なし (即時法) *二、四*

1月 G/L  
4/1 仕入なし  
4/15 未料金調整 20円 | 得意先 180円  
*実現差額 10円*

自対代入なし (後づ法) 図 13-

4/1 (登期前) 未料金調整 20円 / *未料金調整 20円*  
4/15 (N金) 独立 150円 | 得意先 180円 100円 = 170円  
実現差額 30円

Now G/L (差益転記ロジック) 図 13-

4/1 仕入なし  
4/15 独立 150円 | 得意先 180円  
実現差額 30円

4/1 (N金) 外貨評価  
未料金調整 20円 / *未料金調整 20円*  
実現差額 30円



例：

売掛金		実現差損益		銀行預金		売上	
① 180 ✓	180 ③ ✓	③ 30		③ 150			180 ①
売掛金調整		評価差損益		1. 請求書		100 FC 1.8	
② b 20	20 ② a	② a 20	20 ② b	2. 評価		1.6	
a) 基準日		b) 基準日 + 1		3. 入金		1.5	

図 130: 未消込明細の評価 (FAGL\_FC\_VALUATION)

上記の勘定は、外貨で明細を評価する場合の転記処理を示しています。

評価が実行される期間（基準日によって定義される期間）に、換算レートの変動に合わせて債権残高全体が調整されるように転記が行われます。この転記は次の期間に反対仕訳され、残高は元の金額に戻されます。後続の評価や支払決済は、元の転記にもとづいて行われます。

通常、調整転記は基準日に実行され、翌日に反対仕訳されます。ただし、別の転記日付を指定することもできます。



例：

売掛金		実現差損益		銀行預金		売上	
① 180 ✓	180 ③ ✓	③ 30		③ 150			180 ①
売掛金調整		評価差損益		1. 請求書		100 FC 1.8	
20 ④	20 ②	② 20	20 ④	2. 評価		1.6	
(△ 10)		3. 入金		4. 入金後の評価		1.5	

図 131: 差分転記ロジックを使用した未消込明細の評価 (FAGL\_FC\_VALUATION)

差分転記ロジックを使用した未消込明細の評価については、セクションの最後でより詳細に説明します。



外貨	100	100	100	100	100
国内通貨	180	160	175	180	170
取引日 / 基準日	請求書 2007	12/31 2008	12/31 2009	12/31 2009	支払
	X		X		時間
		X			
			X		
				X	
					X

差分転記ロジックを使用した評価					
- 低価法	-20	+15	+5	-10	
- 強制低価法	-20			-10*	

差分転記ロジックを使用しない評価					
- 低価法	-20	+20	-5	+5	0
(自動反対仕訳転記)					-10

\* 差分転記を使用した評価の注記: 次の評価実行で、最後の評価実行以降消し込まれた明細の評価転記の合計額が反対仕訳されます。

図 132: まとめ: 未消込明細の評価

この図は、低価法または強制低価法を選択した場合の評価転記による各期間の未消込明細の金額の推移の例を示しています。

\* 差分転記を使用した評価の注記: 次の評価実行で、最後の評価実行以降消し込まれた明細の評価転記の合計額が反対仕訳されます。



**開始ポイント:** 外貨の仕入先請求書: USD 10,000.00 が今年度 01/15 に換算レート (EUR → USD) 1.25 で転記されました。

#### 総勘定元帳ビュー/元帳 OL/伝票 19000...

会社コード	P	PK	G/L 勘定	テキスト	Σ 金額	通貨	税	原価セント	PC	セグメント
1000	1	31	160000	仕入先債務	10,000.00	USD	V9		1000	SEG A
	2	40	417000	サービス購買	10,000.00	USD	V9	1000	1000	SEG A
0.00 USD										

#### 基準日である今年度の 1 月 31 日時点での上記伝票の仕入先未消込明細一覧:

ステータス	伝票番号	伝票タイプ	伝票日付	期日	正味支払期日	金利	国内通貨額	国内通貨	会社コード	会社コード通貨	換算レート
■	19000...	CO	02/15/CY	□	03/01/CY	-32	8,000.00	€	10,000.00	\$	1/1.25000
■	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

**ビジネスシナリオ:** 基準日である今年度の 1 月 31 日時点でユーロ/ドル換算レートが 1.00 になったと仮定すると、債務は転記日付よりも EUR 2,000 高くなります。このため、(外貨評価による) EUR 2,000 の費用を入力する必要があります。これは、外貨評価実行によって入力されます。

図 133: 外貨評価 – FAGL\_FC\_VALUATION (1)

調整転記を開始するには、New G/L を有効にし、SAP ERP でプログラム *FAGL\_FC\_VALUATION* を呼び出します。新総勘定元帳を有効化した後は、古いプログラム *SAPF100* を実行することができません。SAP Easy Access メニューのいくつかの場所で新しいプログラムを見つけることができます。たとえば、債務管理の定期処理 → 決算処理 → 評価 → 未消込明細の外貨評価(新)にあります。

仕入先明細と販売明細における利益センタとセグメントの継承は、この例に示されている転記で伝票分割が有効であることを示しています。

このため、修正転記で選択された勘定は、伝票分割の明細カテゴリとして定義されている必要があります。



- 評価実行が機能するためには、(FI の) 評価領域を入力する必要があります。
- カスタマイジングでこの評価領域を定義し、評価方法を割り当てる必要があります。  
評価実行中に行なうことはできません。  
■ 評価方法では、以前と同様に、どの評価アプローチを使用してどのように評価が実行されるか(低価法など)が定義されます。
- 評価領域と会計原則(AP)のリンク:  
残高評価時、または、複数の元帳が存在する場合は、必須  
1つの元帳で未消込明細評価時は任意(ただし行なうことも可能)

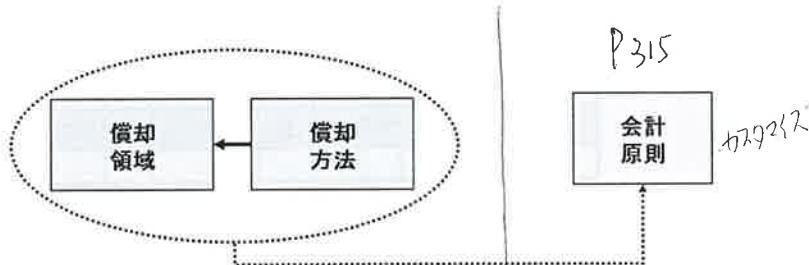


図 134: 外貨評価 – FAGL\_FC\_VALUATION (2)

関連するカスタマイジングパスは、財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 定期処理 → 評価 → ... です。

ここで定義する評価領域を固定資産管理(FI-AA)の償却領域と混同しないようにしてください。これらはオリジナル FI 評価領域です。これらの評価領域は、SAP システムでパラレル決算報告をモデル化する場合にも使用します。この章で想定されているように、ローカル評価アプローチのみを必要とする場合には、1つの評価領域を定義するだけで済みます。ID と名称は自由に選択することができます。

提案の生成: LO - ローカル評価領域

評価方法		評価条件
低価法		レートが取引時のレート → → 評価と比べる
強制低価法		レートが評価時のレート → 儲害を出したときのレートと比べる
常時評価		差益、差損両方
再評価のみ		差益のみ



OB A1

**内部処理キー KDF の勘定設定 (換算レート差損益: 未消込明細/G/L 勘定):**

勘定コード表: INT  
評価領域: --  
G/L 勘定: 160000 (仕入先債務)  
評価:

費用:	230010 (通貨評価による費用)
収益:	280010 (通貨評価による収益)
貸借対照表調整:	160099 (調整勘定: 仕入先債務)

今年度の月末の外貨評価/評価領域 XY - 転記結果:  
総勘定元帳ビュー/元帳 OL/伝票 100...20/転記日付: 今年度 01/31

会社コード	P	BS	勘定	名稱	Σ	主額	通貨	税	原価 セント	PC	セグメント
1000	1	40	230010	評価による費用	2,000.00	EUR			1000	SEG A	←
	2	50	160099	仕入先債務修正	2,000.00	EUR			1000	SEG A	←

(未消込明細評価時に) 同じ評価実行において: 反対仕訳転記 \*  
総勘定元帳ビュー/元帳 OL/伝票 100...21/転記日付: 今年度 02/01

会社コード	P	BS	勘定	名稱	Σ	主額	通貨	税	原価 セント	PC	セグメント
1000	1	50	230010	評価による費用	2,000.00	EUR			1000	SEG A	←
	2	40	160099	仕入先債務修正	2,000.00	EUR			1000	SEG A	←

図 135: 外貨評価 – FAGL\_FC\_VALUATION (3)

転記を登録するには、最初に**費用勘定と調整勘定を定義**しておく必要があります。定義するには、カスタマイジングで、財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 定期処理 → 評価 → 外貨評価 → 準備: 外貨評価の自動転記 → 内部処理キー: 換算レート差損益: 未消込明細/G/L 勘定(=> 勘定 160000など)を選択します。

外貨評価プログラム FAGL\_FC\_VALUATION では評価領域が必要となります。勘定更新では評価領域は空白でかまいません。つまり、評価領域なしで勘定を定義します。

オリジナル仕入先請求書/未消込明細の FI エンティティは、伝票分割が有効化されている場合には外貨評価伝票で継承されます。

伝票分割が有効でない場合には、勘定には対応する値のみが入力されます。つまり、FI エンティティは修正/評価転記で継承されません。

上記の例のオリジナル仕入先請求書にさまざまな費用明細や異なる特性割当が含まれている場合は、分割が有効化されていると、修正伝票も分割されます。

\*(未消込明細評価時の)リセット伝票や反対仕訳伝票を避ける必要がある場合は、差分転記ロジックを使用するための追加の設定を行う必要があります。



評価差額は、(未消込明細の) 外貨評価が関連する場合などに、異なる会計原則が原因で生じます。

#### 例: 得意先明細

##### 基準日 今年度 01/31 の得意先明細一覧:

=> ユーロ/ドル換算レート 1.25 で入力された、未消込得意先売掛金 USD 1,000 を照会します。

ステータス	伝票番号	伝票タイプ	伝票日付	期日	正味支払期日	金利	国内通貨額	国外通貨	転記通貨額	PC	換算レート
■	1800013	DR	今年度 01/13	2013-02-27	2013-02-27	-44	800	€	1,000	\$	1.25000
■	.....	....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....

#### 想定:

基準日 今年度 01/31 に、ユーロの換算レートが 1.25 から "1" (=> 平価) に下落しました。

#### 理論的効果:

=> 債権は基準日に EUR 1,000 となります。

#### 会計上の結果:

=> グローバル会社通貨に対するアクションは不要 - キーワード: 低価法

=> 国際的な会計原則 (IAS/IFRS や U.S. GAAP など) では再評価が必要  
- キーワード: 外貨評価

#### 評価原則のモデル化:

SAP システムでは、さまざまな評価原則が評価方法としてモデル化されています。

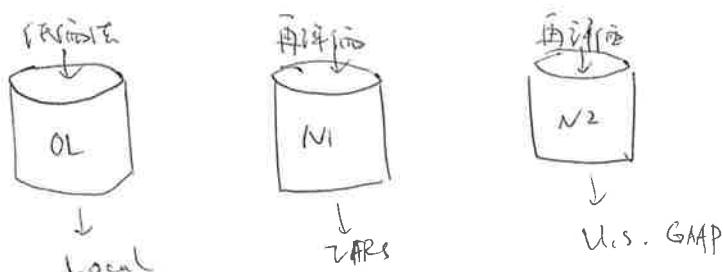
図 136: 評価差額 - 例: 外貨評価

評価方法を定義するには、カスタマイジングで財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 定期処理 → 評価 → 定義: 評価方法を選択します。

SAP ERP では、評価方法は (FI の) 評価領域とリンクされています。評価領域を定義するには、カスタマイジングで財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 定期処理 → 評価 → 定義: 評価領域を選択します。

1 つの評価領域は常に 1 つの評価方法に割り当てられます。ただし、同じ評価方法を複数の評価領域に割り当てるることはできます。

SAP R/3 Enterpriseまでのリリースでは、外貨評価プログラム (=> SAPF100) を実際に開始するまで、評価方法は割り当てられません。



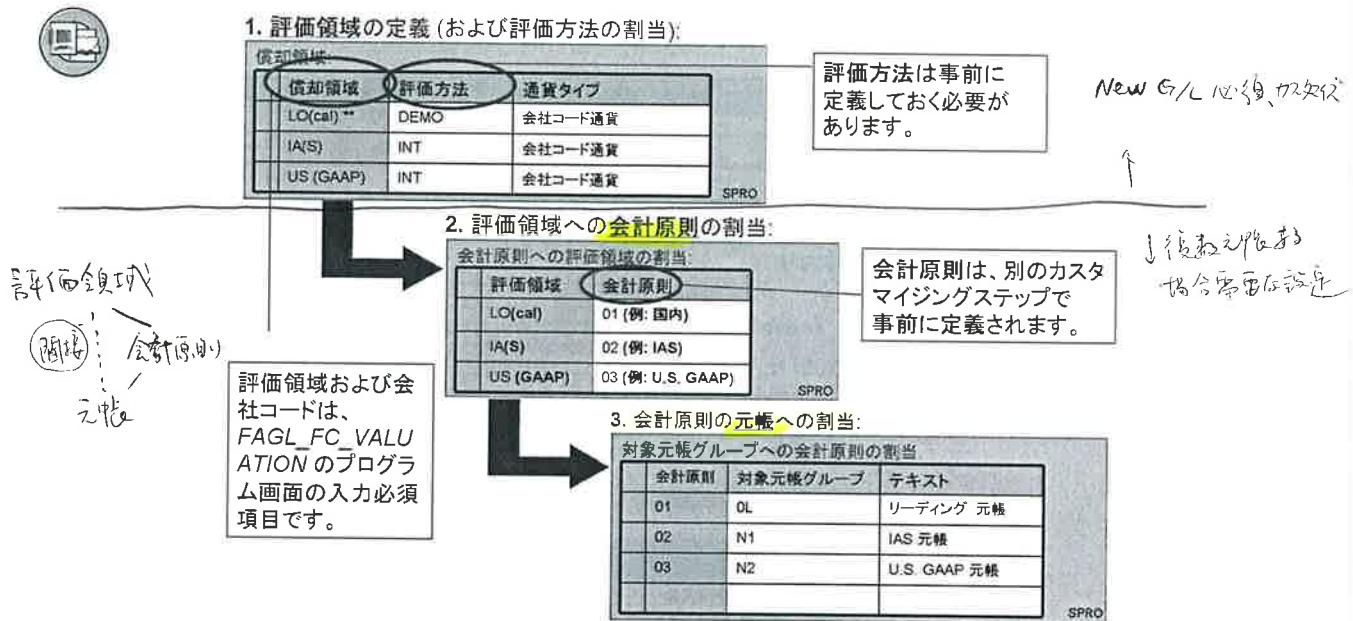


図 137: 複数元帳アプローチの外貨評価のカスタマイジング

このスライドは、どの評価アプローチ (さまざまな評価領域からの値) がどの元帳で使用されているかを調べる方法を示しています。

- リーディング元帳に加えて、少なくとも 1 つの非リーディング元帳が必要です。
- (FI で登録された) 評価領域を定義します (=> スライド 1 を参照)。
- 会計原則 (AR) を定義します (=> スライド 2 を参照)。
- 会計原則を評価領域に割り当てます (=> スライド 2 を参照)。
- 次に、会計原則を対応する元帳と組み合わせます (=> スライド 3 を参照)。

各評価領域に対して使用する評価方法 (低価法、基本評価など) もカスタマイジングで定義します (=> このスライドの 1 と前のスライドを参照)。

このスライドには、費用、収益、および貸借対照表調整勘定を定義する勘定設定更新のカスタマイジングは示されていません。勘定設定を更新するには、カスタマイジングで財務会計 (新規) → 総勘定元帳 (新) → 定期処理 → 評価 → 外貨評価 → 準備: 外貨評価自動仕訳を選択し、内部処理キー KDF を実行します。

→ **注記:** (新総勘定元帳の) 元帳ソリューションでは同じ勘定が異なる複数の元帳に転記されるため、外貨評価では勘定設定を評価領域空白に対して定義するだけです。

\*\* 実際には、技術的な観点から見るとローカル評価はすべて同じものであると見なされることがあるため、複数のローカル評価領域を登録する必要がある場合があります。

開始ポイントは、ユーロ換算レート 1.25 で入力された USD 1,000 の未消込明細です。



ステータス	伝票番号	伝票 タイプ	伝票日付	期日	正味支払期日	金利	国内通貨	転記通貨	会社コード 通貨	換算レート
	1800013	045	今年度 01/13	05/01	今年度 02/27	-44	800.00	€	1,000.00	\$

入力ビュー (伝票通貨):											
FI 伝票 1800013 は、 次のようになります。	会社 コード	P	BS	勘定	名稱	会期	通貨	税	原価 セグメント	PC	セグメント
	1000	1	01	140000	得意先 Janning		1,000.00	USD	A0		
		2	50	800200	収益		300.00	USD	A0	1402	SEG A
		3	50	800200	収益		700.00	USD	A0	1000	SEG B

=> 設定済の (セグメント別) 伝票分割により、総勘定元帳ビューに別の得意先明細が登録されます。

今年度 01/31 に、基準日換算レート 1、つまり USD 1 = EUR 1 で新しい外貨評価プログラム FAGL\_FC\_VALUATION を開始します。債権の金額が EUR 1,000 になります。

=> たとえば評価領域 IA(S) に対する評価実行によって、EUR 200 の再評価額が入力されます。セグメント別のオンライン分割が定義されている場合は、それに従って伝票が分割されます。

割り当てられた元帳の伝票通貨での入力ビューおよび総勘定元帳ビュー (この例では 元帳 N1):

会社 コード	P	BS	勘定	テキスト	金額	通貨	税	原価 セグメント	PC	セグメント
1000	1	50	280010	評価差益	60	EUR			SEG A	
	2	40	140099	得意先債権調整	60	EUR			SEG A	
	3	50	280010	評価差益	140	EUR			SEG B	
	4	40	140099	得意先債権調整	140	EUR			SEG B	

伝票は常に今年度  
02/01 に反対仕訳  
されます。

図 138: 外貨評価 - 例 (複数元帳アプローチ)

転記対象勘定 (280010 と 140099) は、内部処理キー “換算レート差損益/未消込明細/G/L 勘定” (内部処理キー KDF) の (評価領域空白に対する) 勘定設定から誘導されます。

外貨プログラムによって生成された転記伝票は、翌月 1 日に同じプログラムによって自動的に反対仕訳されます。

SAP ERP の新機能: 反対仕訳は、外貨評価実行が開始された評価領域に依存しません。

この場合、ローカル評価領域 (ドイツ商法の規則用の評価領域など) に対する (追加の) 評価実行では、再評価は登録されません。

オリジナル得意先伝票の対応する評価領域では、金額が “0” に更新されます。

スライドに示されている修正伝票は、元帳 N1 にのみ転記されます。

したがって、伝票を転記するには、元帳の入力ビューで対応する伝票タイプに番号範囲間隔を割り当てる必要があります。このことを行うには、カスタマイジング: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票タイプ → 定義: 元帳の入力ビューの伝票タイプを選択します。

訳注: 伝票を転記するには、元帳の入力ビューで対応する伝票タイプに番号範囲間隔を割り当てる必要があります。このことを行うには、カスタマイジング: 財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新) → 伝票 → 伝票タイプ → 定義: 元帳の入力ビューの伝票タイプを選択します。

**シナリオ:**

=> 従来の総勘定元帳では、翌月に反対仕訳伝票が発生しないように外貨評価実行  
(=> SAPF100) を制御する必要がありました。\*

=> このことは、評価金額がテーブル BSEG の項目 BDIFF (評価差額) に保存されていたため、可能でした。

問題: New G/L の EP テーブル (FAGLFLEXA) には項目 BDIFF は存在しなくなりました。仮に存在している場合でも、各 (New G/L) 元帳または各評価領域で必要になります。

ソリューション: 引き続き修正伝票なしで処理する必要がある場合: => 既存の評価領域を、差分転記ロジックを使用した評価領域に変更することができます。  
このコンテキストでは、単に差分ロジックの使用と呼ばれます。

Valuation	LongText	International Valuation Area	Ct.Date	Mon.Rev.
1	International Valuation Area	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	Local Valuation Area	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

図 139: New G/L の FC 評価における差分転記ロジック 新規領域が既存に影響

差分評価領域は、カスタマイジング: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 定期処理 → 評価 → デルタロジック有効化で定義されています。また、この機能はビュー V\_FAGL\_FCV\_DELTA を使用して直接開始することもできます。この詳細については、SAP ノート 960661 および 1006684 を参照してください。これらのノートには、さまざまな ERP リリースにおいて差分ロジックを提供するサポートパッケージについて説明されています。

\* 一部の国では、反対仕訳転記は翌月に行われます。この場合は、会計年度末の評価実行時に、異なる会計年度で調整転記が行われることになりますが、これは許可されていません。



⇒ カスタマイジングで FI 評価領域が差分ロジックに変更された場合、反対仕訳転記は行われなくなります。1 件の FI 伝票のみが転記されます。(決算時のみ)

Foreign Currency Valuation													
Foreign Currency Valuation													
Time 13:53:56 Date 17.01.2008													
FAGL_FC_VALUATION/HARTMANNJOE Page 1													
CC AF2100 BSBW Plant: Frankfurt Key Date: 31.01.08 Valuation in Company code currency (10) Method: DEMO valuation w/ Exchange Rate Type K Ledger Group: GL													
Ld	Accts	BFL	Item	Amount in FC	Ccy	Amount in LC	Local Curr	Exch. Rate S	Exch. Rate L	Typ	Val. diff.	New Differ	Amount Pos.
*	K	160000	1	10,000.00	USD	9,000.00	EUR	/1,00000	/1,25000	ER	0,80	2,000.00	2,000.00
*		160000		10,000.00	USD	9,000.00	EUR			0,00	2,000.00	2,000.00	
**				10,000.00	USD	9,000.00	EUR			0,00	2,000.00	2,000.00	

⇒ 次の評価までに換算レートが変更されない場合、追加の評価転記は行われません。  
換算レートが変更されると、未消込明細のみがそれに従って再度評価されます。この場合、前回の評価との差異のみが考慮されます。

例:

次回評価日付: 2008/02/29 ユーロ/ドル換算レート: 0.8

(⇒つまり、EUR 1 = USD 0.8)

⇒ 元の USD 10,000 は請求書日付における EUR 8,000 ではなく、EUR 12,500 に変わっています。

評価差額: EUR 2,000 新規評価差額: EUR 4,500

転記金額: EUR 2,500

図 140: 差分転記ロジック

評価差額は、テーブル FAGL\_BSBW\_HISTORY に保存されます。

このトピックの詳細については、SAP ノート 960661 および 1006684 を参照してください。



シナリオ:

法的な理由から、会計年度中に評価転記の反対仕訳を実行する必要があり

(⇒ 評価実行中の 2 件の伝票)、会計年度末には反対仕訳転記を省略する必要がある場合 (⇒ 1 件の評価伝票のみ)、差分ロジックを使用する FI 評価領域に

月次反対仕訳許可区分を設定することもできます。

Delta Posting Logic	
Valuation	LongText
L	Local Valuation Area

パス: 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新規) → 定期処理 → 評価 → デルタロジック有効化

この区分を設定した場合の効果:

外貨評価プログラムのプログラムテンプレ

レート (⇒ タブページ 転記の下部) で、  
評価を修正/反対仕訳する (⇒ 区分中間  
会計年度評価) か、またはしない  
(⇒ 区分年次処理評価) かを決定することができます。

Delta Logic Controls for Open Item Valuation	
<input type="checkbox"/> Year-End Closing Valuation	→ 反対仕訳
<input checked="" type="checkbox"/> Mid-Fiscal Year Valuation	

→ 反対仕訳

図 141: 差分転記ロジック (2)

同じトランザクションで、追加の区分を設定することができます。この区分は、消込日付を反対仕訳日付として使用する区分です。この区分を設定する理由は何でしょうか。

**説明:** New G/L では、外貨の伝票が消し込まれると(このコースの例では、仕入先請求書の消込)、従来の G/L とは異なり、New G/L のすべての元帳に消込伝票が入力されるため、実際に実現された換算レート差損益は即時には入力されません。多くの場合、実際の換算レート差損益は、元帳ごとに異なります。その結果、New G/L における外貨での消込伝票では、元の請求書日付と消込日付との間の差額は、常に実現換算レート差異として表示および転記されます。その後、次回外貨評価実行時に、(最初に) 各評価領域に対して正しい実現換算レート差異がテーブル FAGL\_BSBW\_HISTORY に記録された差額および消込日付の実際の換算レートから特定されて、すでに入力された実現換算レートに対して転記されます。この 2 回目の転記は、最初は転記日付として評価実行の日付(通常は月末)を持っています。消込日付を反対仕訳日付として使用する区分を設定すると、(修正) 評価実行の転記日付を評価対象明細の消込日付とすることができます。ただし、反対仕訳転記では、消込日付はどうしても必要な場合にのみ使用してください。プログラムでは、その期間がオープンであることが保証されないためです。この期間がクローズである場合は、エラーメッセージが表示され、転記は実行されず、バッチインプットセッションに保存されます。

 **重要:** 必要に応じて、管理会計で直接請求されたオリジナル管理会計対象に対して、再評価額をオンラインで転記することもできます。

**前提条件:** 「リアルタイム」

- ⇒ 伝票分割が有効であること
- ⇒ [費用、収益、および調整勘定が明細カテゴリとして定義されていること]
- ⇒ 伝票分割特性(この例では原価センタ)が CO に対して定義されていること
- ⇒ 再評価勘定が(一次)原価要素として定義されていること

結果: 各外貨評価伝票から CO 伝票に直接ナビゲートすることができます。

原価センタ: 実績/計画/差異 原価センタ: 1000 [(元の) CO 19000...に対する請求] レポート期間: 今年度 02 ~ 02		
原価要素	実績	計画
230010 評価差損	2,000	
417000 購買サービス	8,000*	
* 原価	10,000	

\* EUR 8,000 = USD 10,000 = 元費用

図 142: 外貨評価 – FAGL\_FC\_VALUATION (4)

→ **注記:** 仕入先請求書を(外貨で)転記する場合は、スライドに示されている(システムの)前提条件が満たされている必要があります。

**国際コンテキスト:** 外貨評価の収益勘定も原価要素として定義することができます。この場合、債務に対する通貨関連の削減が行われた後、対応する CO 対象にマイナス原価が転記されます。

年度全体をレポート期間に指定して 2 月に原価センタレポートを実行すると、原価要素 230010 には値が示されません。

CO レポートの明細から転記済 CO 伝票に移動し、そこから FI 伝票に戻ることができます。

スライドに示されている伝票とは異なり、FI 伝票には追加特性として原価センタ 1000 が表示されている場合があります。

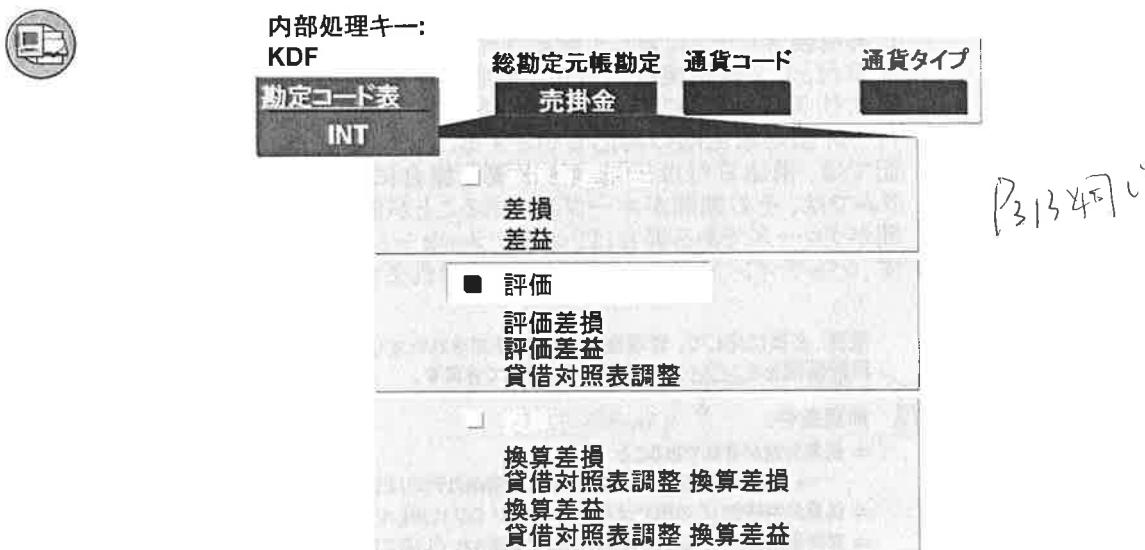


図 143: 勘定設定: 換算レート差損益 (未消込明細)

未消込明細管理勘定の外貨評価を実行するには、補助元帳勘定の統制勘定ごとに評価済換算レート差損益の勘定入力を定義します。

実現換算レート差損益の勘定入力は、外貨での未消込明細の消込時に転記されます。

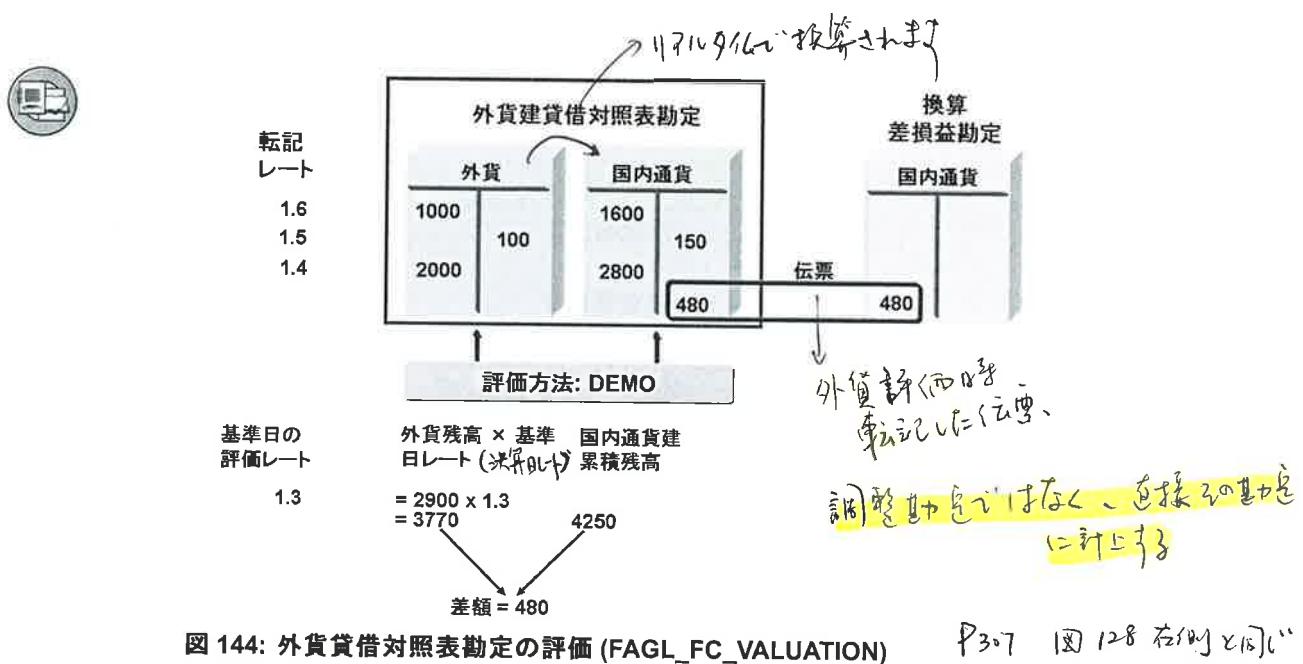


図 144: 外貨貸借対照表勘定の評価 (FAGL\_FC\_VALUATION)

P3.7 図128右側と同じ

レポート FAGL\_FC\_VALUATION を使用して外貨貸借対照表勘定の評価を実行することができます。“G/L 残高”タブページで、外貨建貸借対照表勘定を選択します。

使用する評価方法や外貨建貸借対照表勘定の残高に応じて、勘定の評価損または評価益が発生することがあります。同一の選択基準を使用して何度も評価を実行することができます。

前回の評価実行以降に勘定に転記された新しい取引は、次の実行時に評価されます。

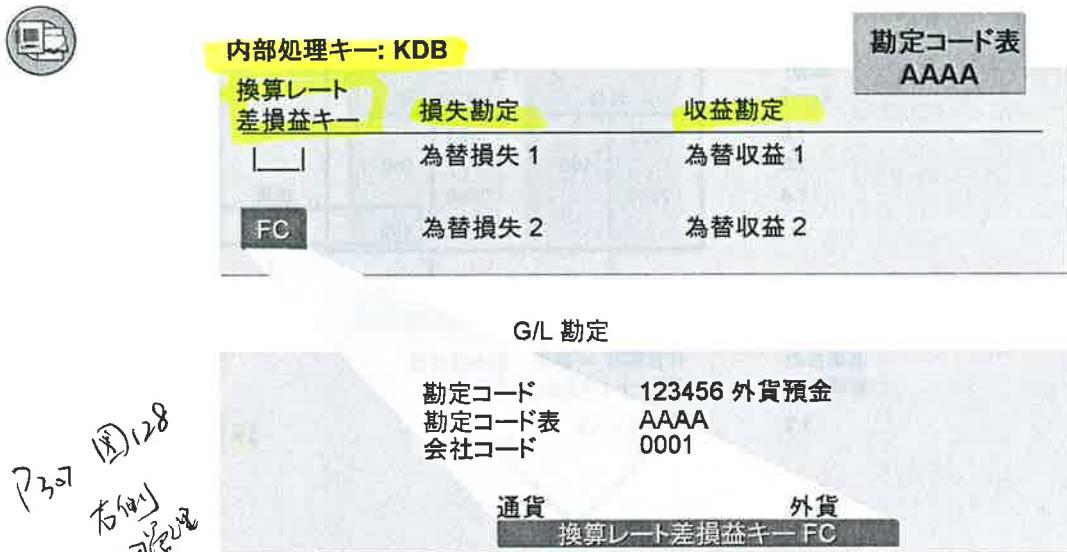


図 145: 勘定設定: 換算レート差損益 (外貨貸借対照表勘定)

外貨勘定は、残高を元に評価されます。

外貨建貸借対照表勘定の換算レート差損益は、勘定コードマスタレコードに入力した“換算レート差損益キー”にもとづいて、さまざまな収益勘定および損失勘定に転記されます。

このキーは、カスタマイジングで定義することができます。

調整基準が不要ない

## 演習問題 21: 外貨評価

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 得意先の外貨建未消込明細の評価

### ビジネスシナリオ

正確な国内通貨評価を行うには、外貨建未消込明細を再評価する必要があります。差分転記ロジックを使用する評価アプローチと使用しないアプローチのいずれかを選択することができます。

### タスク:

差分転記ロジックを使用する明細の外貨建未消込明細の評価

高い換算レートを指定して、外貨による得意先請求書を得意先 T-F00A00 に転記します。換算レートを変更して、システムによって提案されたレートで換算した金額を国内通貨による売掛金が上回るようにします。

収益勘定 800200 および利益センタ NGL\_4020 を使用します。

例: GBP /61.00、システム提案: /68.35500

例: USD /0.81、システム提案: /1.24140

- 外貨建未消込明細評価を転記する前に、貸借対照表/損益計算書 (RFBILA00) で“売掛金”を確認します。以前に登録したレポートバリアント VAR## を使用してください。
- 2つ伝票転記後に別のセッションで、最初にテストモードで外貨評価プログラムを実行して、現会計期間の最終日における評価差額を確認します。会社コード AC##、評価領域 US、および得意先 T-F00A00 を指定してプログラムを実行します。



**注意:** 必ず会社コードを指定してください。

- 更新実行で外貨評価プログラムを実行して、評価差額を転記します。会社コード AC##、評価領域 US、および得意先 T-F00A00 を指定してプログラムを実行します。バッチインプットセッション GR## (# = 各自のグループ番号) を指定します。



**ヒント:** バッチインプットを使用するかどうかは任意です。直接転記も可能です(この場合は、項目“バッチインプットセッション名”が空である必要があります)。

次へ

評価実行が終了したら、フォアグラウンドでバッチインプットセッション GR## を実行します。

4. 外貨建未消込明細(通貨 GBP または USD)に記録されている評価差額を照会します。



**ヒント:** 必要に応じて、伝票通貨が表示されるように明細照会のレイアウトを変更してください。

5. 最初のセッションに戻って財務諸表を作成します。貸借対照表では、外貨再評価が売掛金調整勘定に転記され、債権合計が減少します。この金額と元の金額の差異は、損益計算書の“評価差損”勘定に反映されます。

## 解答 21：外貨評価

### タスク：

差分転記ロジックを使用する明細の外貨建未消込明細の評価

高い換算レートを指定して、外貨による得意先請求書を得意先 T-F00A00 に転記します。換算レートを変更して、システムによって提案されたレートで換算した金額を国内通貨による売掛金が上回るようにします。

収益勘定 800200 および利益センタ NGL\_4020 を使用します。

例: GBP /61.00、システム提案: /68.35500

例: USD /0.81、システム提案: /1.24140

1. 外貨建未消込明細評価を転記する前に、貸借対照表/損益計算書 (RFBILA00) で“売掛金”を確認します。以前に登録したレポートバリアント VAR## を使用してください。

- a) 外貨評価 (差分転記ロジックを使用する)

#### 財務諸表 (RFBILA00)

レポートのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳レポート(新) → 財務諸表/キャッシュフロー → 一般 → 実績/実績比較 → 財務諸表

バリアントを選択します。

ジャンプ → バリアント → 取込

VAR## と入力します。

実行を選択してバリアントを選択します。

レポートを実行します。

レポートをチェックした後、財務諸表画面に戻ります。

2. 2つ伝票転記後に別のセッションで、最初にテストモードで外貨評価プログラムを実行して、現会計期間の最終日における評価差額を確認します。会社コード AC##、評価領域 US、および得意先 T-F00A00 を指定してプログラムを実行します。

次へ



**注意:** 必ず会社コードを指定してください。

a) 外貨評価 (テスト実行)

新しいセッションを開始するためのメニューパス:

システム → セッション開始

外貨による未消込明細を評価するためのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 定期処理 → 決算処理 →  
評価 → 未消込明細の外貨評価 (新)

以下のデータを入力します。

会社コード: **AC##**

評価基準日: 現会計期間の末日

評価領域: **US**

未消込明細タブページ:

得意先未消込明細の評価: **選択**

得意先: **T-F00A00**

プログラムを実行します。

結果をチェックします。

転記を選択して、提案された転記を照会します。

外貨評価の選択基準に戻ります。

3. **更新実行**で外貨評価プログラムを実行して、評価差額を転記します。  
会社コード **AC##**、評価領域 **US**、および得意先 **T-F00A00** を指定して  
プログラムを実行します。バッチインプットセッション **GR##** (**##**=各自  
のグループ番号) を指定します。



**ヒント:** バッチインプットを使用するかどうかは任意です。直接転記も可能です(この場合は、項目“バッチインプットセッション名”が空である必要があります)。

次へ

評価実行が終了したら、フォアグラウンドでバッチインプットセッション **GR##** を実行します。

a) **外貨評価(更新実行)**

外貨による未消込明細を評価するためのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 定期処理 → 決算処理 → 評価 → 未消込明細の外貨評価(新)

以下のデータを入力します。

会社コード: **AC##**

評価基準日: **現会計期間の末日**

評価領域: **US**

タブ: **転記**

転記登録: **X**

バッチインプットセッション名: **GR##** (## = 各自のグループ番号)

伝票日付

現在日付

転記日付

現会計期間の末日

**未消込明細タブページ:**

得意先未消込明細の評価: **選択**

得意先: **T-F00A00**

プログラムを実行します。

a) プログラムによって登録されたバッチインプットセッションを処理します。メニューで、システム → サービス → バッチインプット → セッションを選択します。

b) セッション **GR##** を選択します。

c) 処理を選択します。

d) 表示して処理を選択します。

e) 処理を選択します。

f) セッションの実行が終了するまで、Enterを選択して後続の画面を確認します。

メインメニューに戻ります。

次へ

4. 外貨建末消込明細(通貨 GBP または USD)に記録されている評価差額を照会します。



**ヒント:** 必要に応じて、伝票通貨が表示されるように明細照会のレイアウトを変更してください。

a) **評価差額**

得意先未消込明細を照会するためのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 勘定 → 明細照会/変更  
以下のデータを入力します。

得意先コード: **T-F00A00**

会社コード: **AC##**

実行します。

レイアウト(表示バリアント)を変更するためのメニューパス:

設定 → レイアウト → 現...

右側の一覧で伝票通貨を選択し、設定を受け入れます。その後、明細照会に戻ります。

通貨 GBP または USD の未消込明細をダブルクリックします。

環境 → 評価 → 値照会を選択します。

外貨評価金額を確認します。

最初のセッションに戻ります。

5. 最初のセッションに戻って財務諸表を再作成します。貸借対照表では、外貨再評価が売掛金調整勘定に転記され、債権合計が減少します。この金額と元の金額の差異は、損益計算書の“評価差損”勘定に反映されます。

a) -



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 外貨建未消込明細および外貨建貸借対照表勘定の評価

## レッスン: 値調整

### レッスンの概要

このレッスンでは、個別値調整のタイプについて説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 個別値調整の転記方法と不良債権の均一レート値調整についての説明

### ビジネスシナリオ

値調整の転記に使用可能なさまざまなオプションを説明するように財務会計の従業員から依頼されました。



### 債権の調整

個別値 調整 (IVA) マニアレ	均一レート 値調整 フラグ・ラム	均一レート値調整 (FVA)
特殊仕訳取引 E	F107 (SAPF107V)	FB01/FB50

### 損益計算書

貸借対照表	
売掛金	
1 000 000	
均一レート調整 による費用	FVA
1500	1500

図 146: 値調整

債権の値調整の登録には、以下のオプションを使用することができます。

- 特殊仕訳取引 E として個別値調整 (IVA) を入力します。
- プログラム SAPF107V “追加評価” を使用して均一レート値調整を実行します。
- 値調整の金額を算出した後、マニュアル一般転記によって均一レート値を調整します。均一レート値調整による費用および売掛金 - 勘定に転記されます。

TFIN52 - week 2

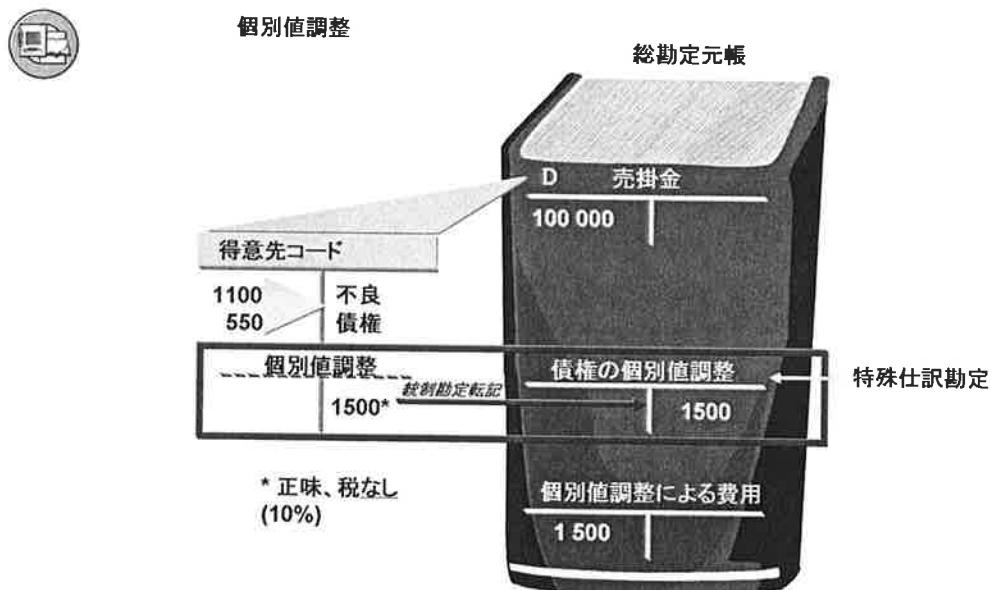


図 147: 不良債権の個別値調整

不良債権は、年次処理時に個別値調整 (IVA) として取り崩されます。この取引は得意先コードに入力されると共に、特殊仕訳勘定 “債権の個別値調整” にも “転記” されるため、この手順には特殊仕訳方法が適しています。

ゼロパーセントの税率を表す税コードを使用して転記します。

債権が回収不可能であるか、または債権の回収が完了していることを確認した後、個別値調整を反対仕訳します。債権が回収不可能である場合は、得意先コードの債権が消し込まれ、不良債権の勘定に金額が転記されます。消費税は転記で調整されます。

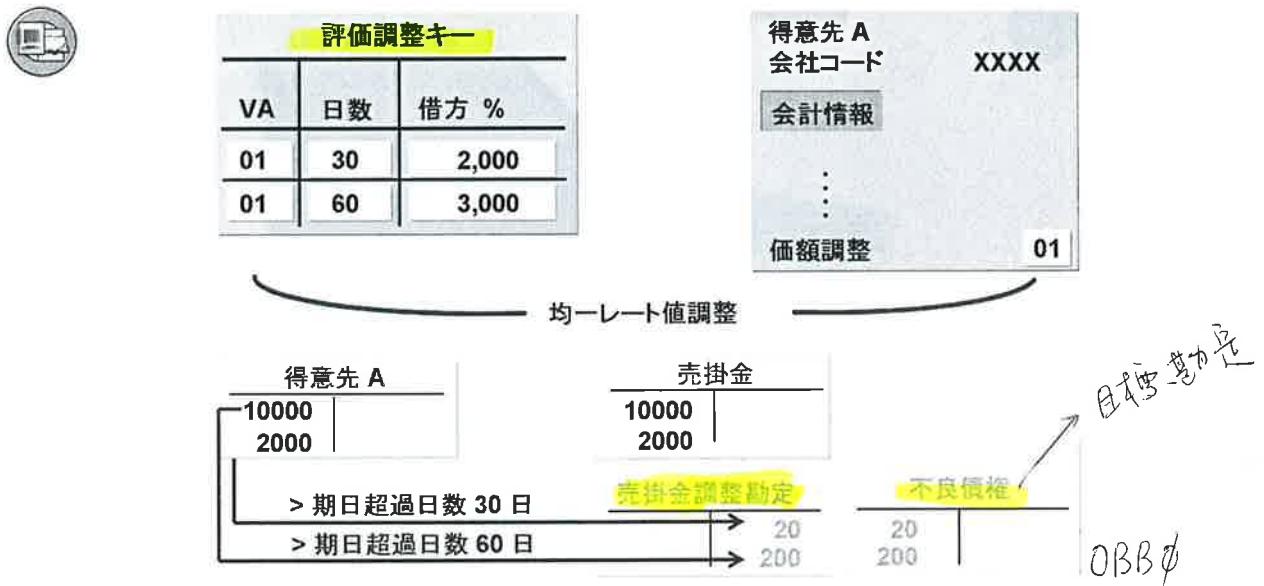


図 148: 期日超過債権の均一レート値調整

リリース 4.5 から、支払期日が過ぎた債権の均一レート個別値調整を自動的に行なうことができるようになりました (SAPF107V)。

債権管理の設定で、評価調整キーの借方の割合 (貸倒引当金率) と期日超過日数を定義します。また、不良債権の適切な調整勘定と貸倒引当金勘定を勘定設定テーブルで設定する必要があります。

均一レート値調整転記を行う得意先コードのマスタレコードに評価調整キーを割り当てます。

評価実行を定期的に行って、期日超過明細の転記する貸倒引当金を計算します。評価実行によって評価提案が生成されます。必要に応じて、評価提案をマニュアルで変更することができます。評価提案を受け入れると、その評価を総勘定元帳に転送して転記を生成することができます。該当する基準日の調整転記と、基準日後の日付の反対仕訳転記が実行されます。

## 演習問題 22: 値調整

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 均一レート値調整の実行

### ビジネスシナリオ

債権が正しく表示されるようにするには、個別値調整を実行する必要があります。均一レート値調整を選択します。

### タスク:

均一レート値調整をテストします。

1. 評価調整では、評価調整キーが使用されます。このキーは、得意先マスターで入力する必要があります。得意先 **T-F00A00** について、会社コードデータに評価調整キー AB を入力します。  
会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → マスタレコード → 変更
2. 得意先 **T-F00A00** について、会社コード AC## における期日超過日数 60 日の得意先請求書を転記します。  
会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票入力 → 請求書
3. 実行日付として'本日'を指定して、得意先 **T-F00A00** について均一レート値調整を実行します。どの ID を選択してもかまいません。基準日は今月末です。評価方法として均一レート値調整を選択します。評価領域 US を入力します。

転記(転記日付: 今月末、反対仕訳転記日付: 翌月初め、伝票タイプ: SA (一般会計伝票)を選択します。

選択オプションを選択します。会社コード AC## と得意先 T-F00A00 を選択します。実行ログを分析します。そのためには、照会押ボタンと評価一覧を使用します。

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 定期処理 → 決算処理 → 評価 → 追加評価

編集 → パラメータ → 更新

評価実行を計画します。

編集 → 評価実行 → スケジュール

スケジュール(入力)押ボタン

ログを分析します。

次へ

**照会押ボタン**

評価一覧を照会します。

第一画面に戻ります。

**編集→評価実行→値一覧**

ダイアログボックスとバリエントを受け入れます。

4. 評価を転記し、ログで調整転記伝票を探します。伝票番号を書き留めてください。

評価実行: 第一画面

**押ボタン: 転送**

伝票番号を書き留めます。

**編集→評価転送→ログ照会**

5. 評価済明細で評価を照会します。

会計管理→財務会計→債権管理→勘定→明細照会/変更→環境  
→評価→値照会

## 解答 22: 値調整

### タスク：

均一レート値調整をテストします。

- 評価調整では、評価調整キーが使用されます。このキーは、得意先マスタレコードで入力する必要があります。得意先 **T-F00A00** について、会社コードデータに評価調整キー AB を入力します。

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → マスタレコード → 変更

- 均一レート値調整をテストするには、特定の SAP ERP システムアクトイビティを実行します。

評価調整では、評価調整キーが使用されます。このキーは、得意先マスタレコードで入力する必要があります。得意先 T-F00A00 について、会社コードデータに評価調整キー AB を入力します。

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → マスタレコード → 変更

項目名またはデータ型	値
得意先	T-F00A00
会社コード	AC##

押ボタン会社コードデータ

評価調整キーをチェック/入力します。

(価額調整)

評価調整キー	AB
--------	----

得意先マスタレコードを保存します。

データリリースを選択して追加メッセージを確認します。

- 得意先 **T-F00A00** について、会社コード **AC##** における期日超過日数 60 日の得意先請求書を転記します。

次へ

会計管理→財務会計→債権管理→伝票入力→請求書

- a) 得意先 **T-F00A00** について、会社コード **AC##** における期日超過日数 60 日の得意先請求書を転記します。

会計管理→財務会計→債権管理→伝票入力→請求書

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC##
得意先	T-F00A00
請求書日付	60 日以上過去の日付
転記日付	60 日以上過去の日付
金額	EUR 10000
税額計算	区分を設定
G/L 勘定	800200
伝票通貨による金額	10000

転記アイコン

3. 実行日付として'本日'を指定して、得意先 **T-F00A00** について均一レート値調整を実行します。どの ID を選択してもかまいません。基準日は今月末です。評価方法として均一レート値調整を選択します。評価領域 US を入力します。

転記(転記日付: 今月末、反対仕訳転記日付: 翌月初め、伝票タイプ: SA(一般会計伝票))を選択します。

選択オプションを選択します。会社コード **AC##** と得意先 **T-F00A00** を選択します。実行ログを分析します。そのためには、照会押ボタンと評価一覧を使用します。

会計管理→財務会計→債権管理→定期処理→決算処理→評価→追加評価

編集→パラメータ→更新

評価実行を計画します。

編集→評価実行→スケジュール

スケジュール(入力)押ボタン

ログを分析します。

照会押ボタン

評価一覧を照会します。

次へ

第一画面に戻ります。

編集 → 評価実行 → 値一覧

ダイアログボックスとバリエントを受け入れます。

- a) 得意先 T-F00A00 について均一レート値調整を実行します。実行ログを分析します。

そのためには、照会押ボタンと評価一覧を使用します。

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 定期処理 → 決算処理 → 評価 → 追加評価

項目名またはデータ型	値
実行日	本日の日付
ID	GR##

編集 → パラメータ → 更新

基準日	今月末
評価方法	3
評価領域	US
転記	X
伝票タイプ	SA

選択オプション押ボタン

会社コード	AC##
得意先コード	T-F00A00

実行アイコン

前画面が表示されます。アイコン：

保存します。

評価実行を計画します。

編集 → 評価実行 → スケジュール

即時開始	X
------	---

Enter 押ボタン

次へ

ログを分析します。

照会押ボタン

第一画面に戻ります。

編集 → 評価実行 → 値一覧

ダイアログボックスとバリアントを受け入れます。

4. 評価を転記し、ログで調整転記伝票を探します。伝票番号を書き留めてください。

評価実行: 第一画面

押ボタン: 転送

伝票番号を書き留めます。

編集 → 評価転送 → ログ照会

- a) 評価を転記し、ログで調整転記伝票を探します。

伝票番号を書き留めます。

評価実行: 第一画面

押ボタン: 転送

即時開始	X
------	---

Enter を選択します。

伝票番号を書き留めます。

編集 → 評価転送 → ログ照会

5. 評価済明細で評価を照会します。

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 勘定 → 明細照会/変更 → 環境 → 評価 → 値照会

- a) 評価済明細で評価を照会します。

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 勘定 → 明細照会/変更

項目名またはデータ型	値
得意先	T-F00A00
会社コード	AC##

実行押ボタン

明細を選択します。

環境 → 評価 → 値照会

評価差額、実際に重複されない  
(税抜き)



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 個別値調整の転記方法と不良債権の均一レート値調整についての説明

## レッスン：再グループ化

## レッスンの概要

このレッスンでは、債権と債務を再グループ化する方法について説明します。



## レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- #### ・ 債権と債務の再グループ化

## ビジネスシナリオ

外部利害関係者が会社の流動性の概要をより適切に把握可能にするために、貸借対照表上で残存年数に従って債権と債務をグループ化する必要があります。



図 149・債務の再グループ化

新総勘定元帳が有効である場合は、プログラム “FAGL\_CL\_REGROUP” を使用する必要があります。カスタマが従来の総勘定元帳を使用している場合、プログラム名は “SAPF101” です。

債務と債権は、貸借対照表で別個に表示する必要があります。仕入先によつては借方残高がある場合があるため、財務諸表を登録する前に、これらの残高を得意先のような債権勘定に変更する必要があります。

一部の国ではさらに、貸借対照表で残存年数に従って債務をグループ化する必要があります。

いずれの再グループ化も、特別なプログラムを使用して実行します。また、再グループ化は日常の処理では必要ないため、次会計期間の初日に反対仕訳されます。

スライドでは、財務諸表の登録を容易にするために、残存年数が長い債務を別の勘定に再転記する必要があることが示されています。また、借方残高有仕入先が再グループ化されています。ここでも、相手勘定コードとして調整勘定が使用されています。これは、統制勘定に直接調整転記をすることができないためです。



**ヒント:** 外貨評価と再グループ化は、さまざまな法的要件に応じてさまざまな方法で実行することができます。その結果は、さまざまな勘定に転記され、各財務諸表バージョンで使用されます。



**ヒント:** このプログラムは、仕入先の統制勘定が会計年度中に変更された場合にも使用されます。



#### ソート方法の例：

##### 債権:

開始	時間単位	名称	得意先転記	仕入先転記	G/L 転記		勘定
0 年		1 年以内の債権				勘定	V00
1 年		1 年を超える債権				勘定	V01

##### 債務:

開始	時間単位	名称	得意先転記	仕入先転記	G/L 転記		勘定
0 年		1 年以内の債務				勘定	V02
1 年		1 ~ 5 年の債務				勘定	V03
5 年		5 年を超える債務				勘定	V04

図 150: 債権と債務の再グループ化 (FAGL\_CL\_REGROUP)

財務諸表を登録する前に、残存年数に従って債権と債務をグループ化して、財務諸表に正しく表示されるようにする必要があります。そのためには、調整転記を行う必要があります。

レポート FAGL\_CL\_REGROUP を使用すると、債権と債務の再グループ化とソートを行うことができます。このレポートには以下の機能があります。

- ・ 残存年数に従って債権と債務をソートして、必要な振替転記を実行します。
- ・ 必要な調整転記を実行します（統制勘定が変更された場合など）。
- ・ レポート FAGL\_CL\_REGROUP を使用して、振替転記が必要な場所を特定することができます。カスタマイジングでソート方法を定義するときに、どのような場合に債権と債務を再グループ化するかを“選択”することができます。



例:

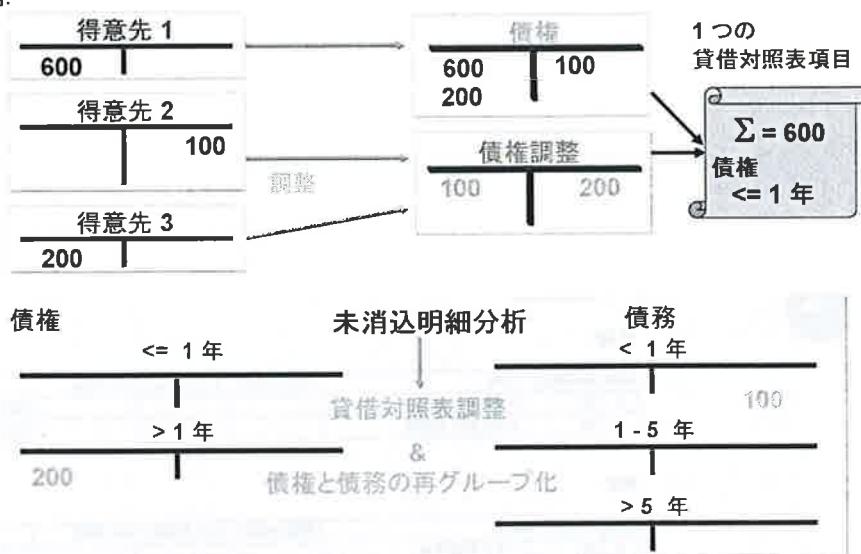


図 151: 貸方残高がある得意先または借方残高がある仕入先の再グループ化 (FAGL\_CL\_REGROUP)

勘定の残高によって、債権として表示されるか債務として表示されるかが決まります。

1. オリジン

債権と債務は、残存年数に従って別個に表示されます。

レポート FAGL\_CL\_REGROUP の実行時に振替転記が生成されるようにするには、使用的ソート方法に対して、関連する選択をカスタマイジングで行っておく必要があります。

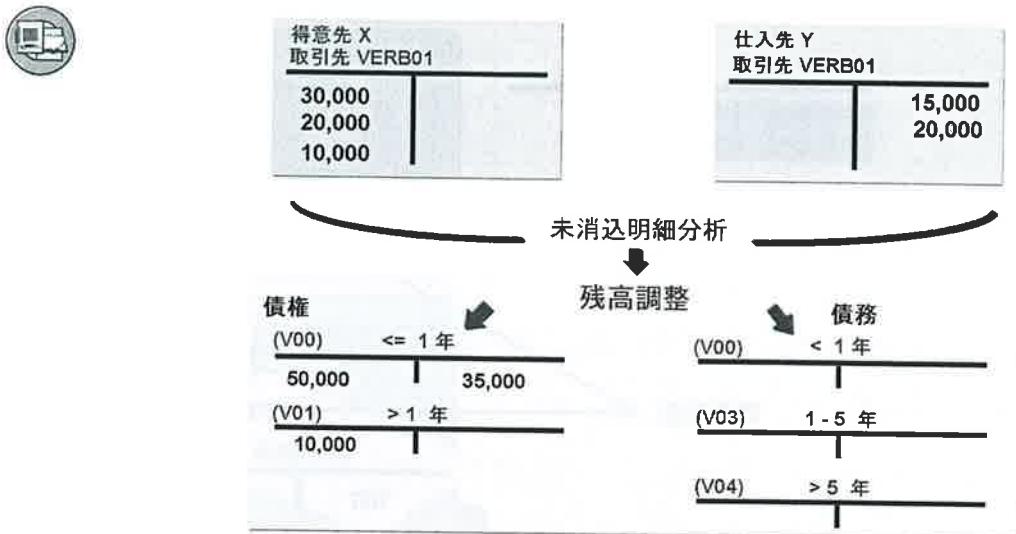


図 152: 関連会社の残高処理 (FAGL\_CL\_REGROUP)

シナリオ: 会社コードに、以下のようなビジネスパートナーとの間の債権/債務があります。

（例）

- 得意先であると共に仕入先でもある
- 関連会社である（グループ内の別の会社コードなど）

非 SAP システム:

- 得意先および仕入先マスターの一般管理データで、“取引先”項目に同一の会社 ID を定義してください。
- マスターで別の統制勘定を定義することをお奨めします（関連会社債権、関連会社債務）。

カスタマイジングで、これらの特殊な統制勘定にもとづいて調整勘定を割り当てる必要があります。

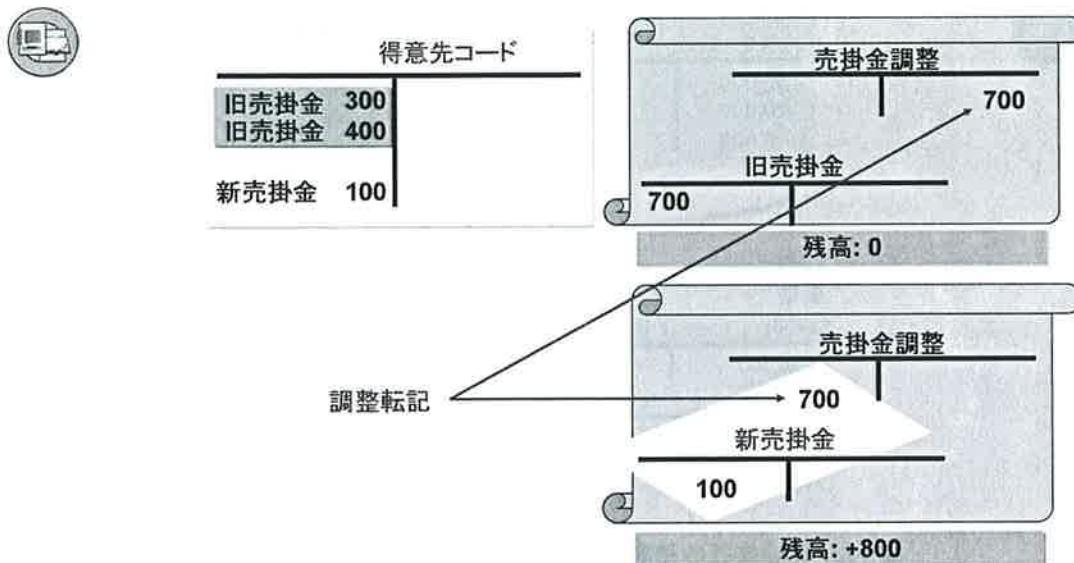


図 153: 統制勘定の変更 (FAGL\_CL\_REGROUP)

会計年度中に、得意先/仕入先マスタレコードの統制勘定を変更することができます。

この変更を行うためのレポートには、貸借対照表基準日のすべての債権が新しい統制勘定を使用して表示されます。関連する区分が、レポート FAGL\_CL\_REGROUP のパラメータタブページにあります。

## 演習問題 23: 再グループ化

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 売掛金の再グループ化

### ビジネスシナリオ

財務諸表に売掛金が正しく表示されるように、再グループ化プログラムを実行して、残存年数に従って債権を分割します。

### タスク:

残存年数が 1 年を超える売掛金を再グループ化します。

1. 再グループ化の前に、貸借対照表/損益計算書 (RFBILA00) で“売掛け金”を確認します。この時点では、すべての売掛け金が短期 (支払期日が 1 年以内) として表示されます。以前に登録したレポートバリアント VAR## を使用してください。
2. 別のセッションで、会社コード AC## の得意先 T-F00A00 について支払期日が 2 年以内の未消込明細を照会します。明細照会で、支払条件表示バリアントを選択します。
3. 会社コード AC## の得意先 T-F00A00 について、債権と債務を再グループ化するプログラムを本稼動実行で処理します。財務諸表の基準日として期間の最終日を入力し、標準の SAP ソート方法および評価領域 US を使用します。

プログラムによって、再グループ化転記を伴うバッチインプットセッションが開始されます。レポート選択画面で、バッチインプットセッション名をわかりやすいように RECLASS## に変更します。



**注意:** 必ず会社コードを指定してください。

4. バッチインプットセッション RECLASS## (エラーのみ) を処理して、総勘定元帳への転記を生成します。'バッチインプット処理完了' というメッセージが表示されたら、処理は完了です。



**ヒント:** バッチインプットセッションの名称を変更しなかった場合、デフォルト名はプログラム名 FAGL\_CL\_REGR です。各自のセッションを特定するには、登録者列で各自のユーザ ID を探してください。

次へ

5. 最初のセッションに戻って財務諸表を再登録します。レポート期間を現会計期間の末に制限します。貸借対照表では、“一年以内返済”明細が、調整勘定への貸方転記によって減額されています。この転記の借方は、貸借対照表の“一年を超える返済”セクションに示されます。
6. (オプション) 次期間について貸借対照表/損益計算書を実行します。調整転記は基準日の翌日に自動的に反対仕訳されるため、次会計期間について実行すると、貸借対照表は元の金額に戻ります。

## 解答 23: 再グループ化

### タスク：

残存年数が 1 年を超える売掛金を再グループ化します。

1. 再グループ化の前に、貸借対照表/損益計算書 (RFBILA00) で “売掛金”を確認します。この時点では、すべての売掛金が短期(支払期日が 1 年以内)として表示されます。以前に登録したレポートバリアント VAR## を使用してください。
  - a) 残存年数が 1 年を超える売掛金を再グループ化します。

#### 財務諸表の呼出

レポートのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳レポート(新) → 貢務諸表/キャッシュフロー → 一般 → 実績/実績比較 → 貢務諸表

バリアント選択: ジャンプ → バリアント → 取込

VAR## と入力します。

実行を選択してバリアントを選択します。

レポートを実行します。

レポートをチェックした後、財務諸表画面に戻ります。

2. 別のセッションで、会社コード AC## の得意先 T-F00A00 について支払期日が 2 年以内の未消込明細を照会します。明細照会で、支払条件表示バリアントを選択します。

- a) 得意先 T-F00A00 の支払期日明細の照会

得意先未消込明細を照会するためのメニューパス:

会計管理 → 貢務会計 → 債権管理 → 勘定 → 明細照会/変更  
以下のデータを入力します。

得意先コード: T-F00A00

会社コード: AC##

実行します。

設定 → レイアウト → 選択... を選択します。

支払条件のレイアウトをダブルクリックします。

支払日が今後 2 年以内の伝票を確認します。メインメニューに戻ります。

次へ

3. 会社コード AC## の得意先 T-F00A00 について、債権と債務を再グループ化するプログラムを本稼動実行で処理します。財務諸表の基準日として期間の最終日を入力し、標準の SAP ソート方法および評価領域 US を使用します。

プログラムによって、再グループ化転記を伴うバッチインプットセッションが開始されます。レポート選択画面で、バッチインプットセッション名をわかりやすいように RECLASS## に変更します。



**注意:** 必ず会社コードを指定してください。

a) **債権の再グループ化**

債権を再グループ化するためのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 定期処理 → 決算処理 → 再グループ化 → ソート再分類(新)

以下のデータを入力します。

会社コード: **AC##**

貸借対照表基準日: **現会計期間の末日**

ソート方法: **SAP**

評価領域: **US**

タブページ: **転記**

転記生成: **X**

バッチインプットセッション名: **RECLASS##**

選択タブを選択します。

以下のデータを入力します。

勘定タイプ: **D (得意先)**

得意先: **T-F00A00**

プログラムを実行します。

レポート画面で転記を選択して、登録された取引を確認します。レポートに戻ります。

レポート画面で、メッセージを選択してバッチインプットセッション情報を探します。

次へ

4. バッチインプットセッション RECLASS##(エラーのみ)を処理して、総勘定元帳への転記を生成します。'バッチインプット処理完了'というメッセージが表示されたら、処理は完了です。



**ヒント:** バッチインプットセッションの名称を変更しなかった場合、デフォルト名はプログラム名 FAGL\_CL\_REGR です。各自のセッションを特定するには、登録者列で各自のユーザ ID を探してください。

#### a) バッチインプットセッションの処理

バッチインプットセッションのメニューパス:

システム → サービス → バッチインプット → セッション

各自のセッションを選択し、処理を選択します。

エラーのみ表示を選択し、処理を選択します。

終了を選択して“バッチインプット処理完了”というメッセージを確認します。

5. 最初のセッションに戻って財務諸表を再登録します。レポート期間を現会計期間の末に制限します。貸借対照表では、“一年以内返済”明細が、調整勘定への貸方転記によって減額されています。この転記の借方は、貸借対照表の“一年を超える返済”セクションに示されます。

#### a) 財務諸表の呼出

財務諸表画面 (RFBILA00) から、レポートを再度実行します。

**重要:** 現在のレポート年度におけるレポート期間の“終了期間”として現会計期間を選択してください。

レポートをチェックした後、財務諸表画面に戻ります。

6. (オプション) 次期間について貸借対照表/損益計算書を実行します。調整転記は基準日の翌日に自動的に反対仕訳されるため、次会計期間について実行すると、貸借対照表は元の金額に戻ります。

#### a) (オプション) 次会計期間の財務諸表の作成

財務諸表画面で、以下のように入力します。

会計期間: 現会計期間 + 1 から 現会計期間 + 1

レポートを再度実行します。

結果をチェックした後、メインメニューに戻ります。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 債権と債務の再グループ化



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- ・ 残高確認書の作成
- ・ 外貨建未消込明細および外貨建貸借対照表勘定の評価
- ・ 個別値調整の転記方法と不良債権の均一レート値調整についての説明
- ・ 債権と債務の再グループ化



# 9 章

## 見越と繰延

### 章の概要

この章では、以下の内容について説明します。

- ・ さまざまな見越/繰延方法



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ・ 期末処理のための見越/繰延転記
- ・ 見越/繰延転記機能を使用する利点についての説明
- ・ 見越/繰延エンジンの一般的な機能についての説明
- ・ 通常の見越/繰延手順との比較による、見越/繰延エンジンを使用した場合の利点についての説明
- ・ 会社コードに対する見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの有効化
- ・ 見越/繰延エンジンに必要な決算処理の列挙
- ・ アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/繰延”の機能についての説明
- ・ 見越/繰延の対象の見越/繰延オブジェクトとしての定義
- ・ アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/繰延”的基本設定についての説明
- ・ 見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの転記管理の定義
- ・ 規則を使用した見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの勘定設定の設定

### 章の内容

レッスン: 見越/繰延転記 .....	354
演習問題 24: 見越/繰延(見越/繰延伝票、繰返伝票) .....	359
レッスン: 見越/繰延エンジン .....	369
レッスン: マニュアル見越/繰延 .....	375
レッスン: 転記管理と勘定設定 .....	382
演習問題 25: 見越/繰延エンジン、マニュアル見越/繰延 .....	389

## レッスン: 見越/繰延転記

### レッスンの概要

このレッスンでは、さまざまなタイプの見越/繰延転記について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 期末処理のための見越/繰延転記
- ・ 見越/繰延転記機能を使用する利点についての説明

### ビジネスシナリオ

プロジェクトチームのメンバーとして、見越/繰延転記を登録する方法を部門の従業員に熟知させます。



### 見越/繰延転記

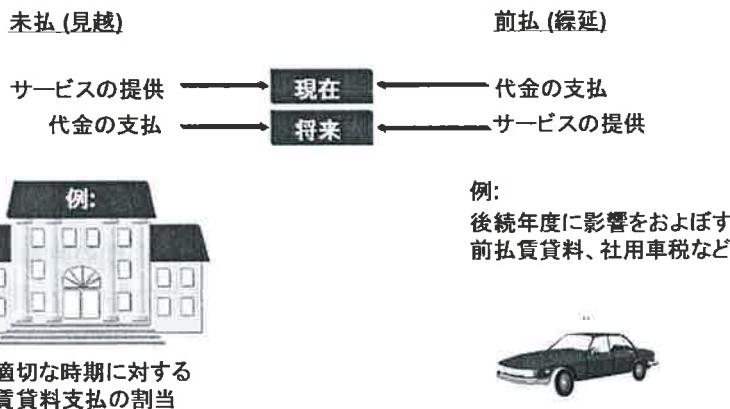
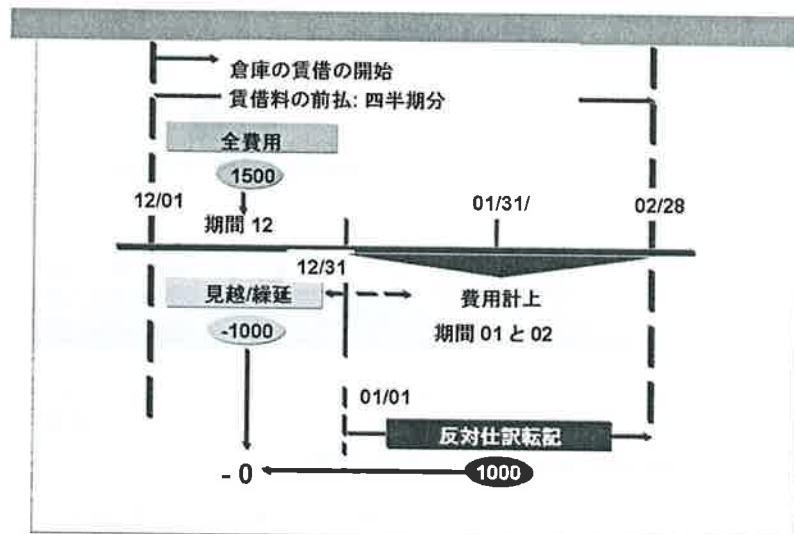


図 154: 見越/繰延転記

費用を正しい期間に転記するために、見越/繰延伝票を入力し、後でそれらの伝票を反対仕訳することができます（一括処理）。その伝票の反対仕訳日付（区分）が反対仕訳伝票の転記日付になります。見越/繰延を頻繁に入力する必要がある場合は、繰返入力プログラムを使用することができます。



重複  
入力不可  
(FB51)

図 155: 見越転記: 倉庫リース

月額賃貸料は 500 です。

- 12/1 における賃貸料の前払  
借方 賃借料 1,500 貸方 預金 1,500
- 12/31 における見越/繰延転記  
借方 前払費用 1,000 貸方 賃借料 1,000
- 1/1 における反対仕訳転記  
借方 賃借料 1,000 貸方 前払費用 1,000

見越/繰延伝票を入力する場合には、反対仕訳理由を入力する必要があります。反対仕訳理由は、反対仕訳される伝票に記載されます。そのため、この項目からその伝票が反対仕訳された理由がわかります。

反対仕訳理由によって、以下の事項も決まります。

- 反対仕訳伝票に異なる転記日付を使用することができるかどうか
- 反対仕訳伝票にマイナス転記を使用することができるかどうか

### 見越/繰延

方法: 3種類

①専用の入力画面 P361 タスク

②繰延転記プログラム P364 タスク

③見越・繰延エンジン

12/31 01/01 反対仕訳  
見越/繰延後 車元記入  
※など、



例: 費用の見越/繰延

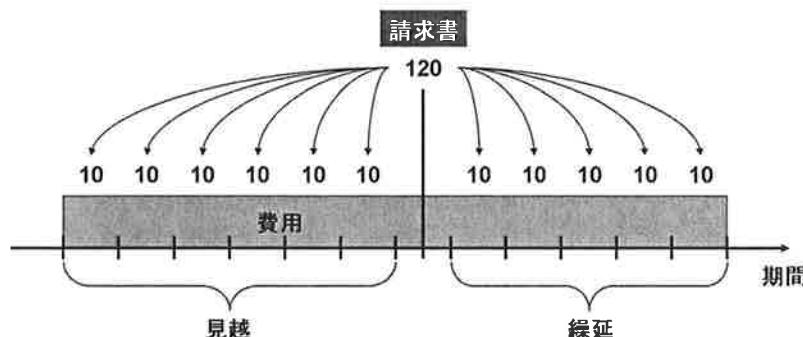


図 156: 費用と収益の見越/繰延

1つの期間に転記される費用と収益は、他の期間に起因することがよくあります。そのため、費用と収益の見越/繰延を行う必要があります。つまり、費用と収益が発生した期間に配分します。

見越と繰延は以下のように区別されます。

- **見越**

誘因となる状況: 経済的には費用/収益が現会計期間に属しており、転記のみ請求書が受領または発行された後で後続期間に対して行われます。

- **繰延**

誘因となる状況: 請求書の受領/発行時点では現会計期間に費用/収益が転記されているが、経済的には費用/収益の少なくとも一部が後続期間に属します。

財務会計では、見越と繰延を別々に管理することができます。

上の図は、請求書が7番目の期間に受領され、転記された例を示しています。この請求書はその年度を通じて使用される品目について登録されたものであるため、120の費用を全期間に均等に配分する必要があります。そのため、初めの6期間については、金額10の6つの見越を登録する必要があります。請求書の受領後には、後の5期間に金額50を配分する必要があります。

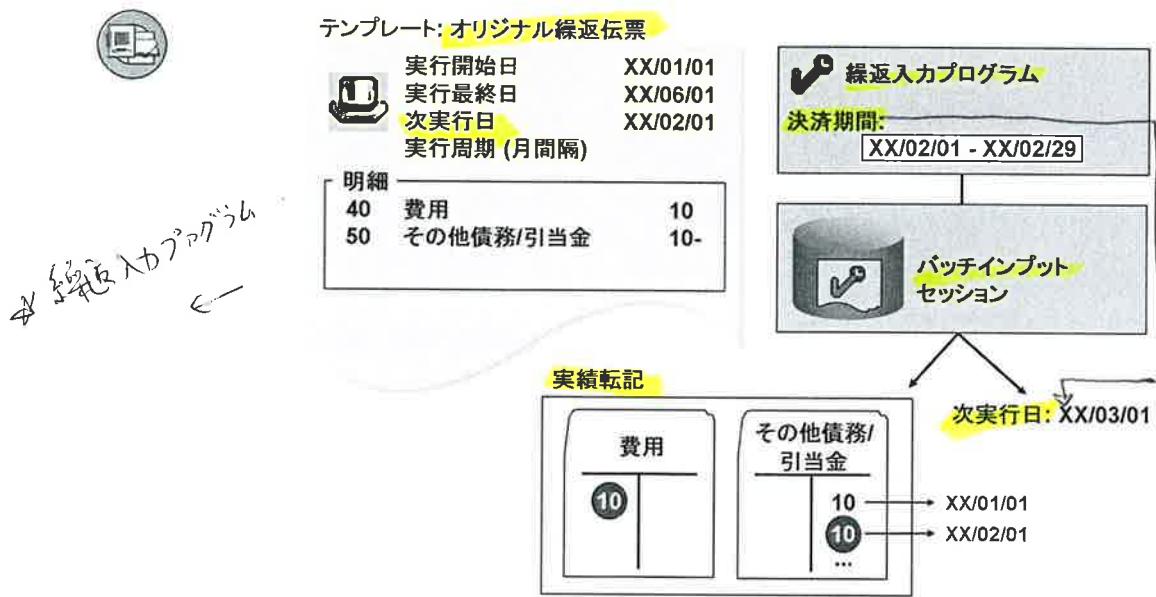


図 157: 見越

**見越** 将来支払う費用や受け取る収益の一部または全部が、実際には現会計期間において発生したり獲得されたりする場合は、見越を登録する必要があります。各期間において同じ金額(ここでは 10)が同じ勘定に転記されるため、見越転記には繰返入力プログラムが適しています。

各期間に“費用/その他債務(または引当金)”が転記されます。

以下の勘定に転記されます。

- その他債務: 見越の理由と金額が確かな場合
- 引当金: 見越の金額や理由が確かではなく、見積のみが可能な場合

見越を行った各期間において、勘定“その他債務(または引当金)”の貸方残高が増加します。



## 演習問題 24: 見越/繰延 (見越/繰延伝票、繰返伝票)

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ・ 見越伝票と繰返伝票による見越の転記

### ビジネスシナリオ

会社コード AC## (##=各自のグループ番号) で、今年度の 12 月 1 日に四半期分の賃貸料支払が行われました。見越/繰延伝票と繰返伝票を使用して、正しい期間に費用を見越計上します。

### タスク 1:

見越/繰延伝票による見越/繰延

#### 1. 費用勘定転記入力の登録

転記日付を今年度の 12 月 1 日として、12 月、1 月、2 月について金額 EUR 1500 の賃貸料 (勘定 470000、原価センタ T-A20A##) を入力します (税コード: 0%、国内仮払消費税 V0)。

#### 2. 支払の入力 (オプション)

ドイツ銀行の銀行勘定 (113100) からのマニュアル銀行支払を使用して、この請求書の支払を入力します。

#### 3. 損益計算書のチェック

各自の会社コードの損益計算書を呼び出し、損益計算書で費用勘定の状況をチェックします。

#### 4. 見越/繰延伝票の入力

今年度の 12 月 31 日付で見越/繰延伝票を入力します。反対仕訳日付として翌年度の 1 月 1 日、反対仕訳理由として見越/繰延を入力します。伝票タイプとして一般会計伝票 (SA)、相手勘定コードとして繰延費用 (98000) を使用してください。明細のテキストを入力します。

#### 5. 財務諸表のチェック

費用の繰延を行った後、12 月 (今年度) の繰延費用と損益計算書をチェックします。

#### 6. 見越/繰延伝票の反対仕訳

翌年度の 1 月 1 日付で見越/繰延伝票を反対仕訳します。

次へ

## タスク 2:

### 繰返伝票による見越/繰延 (オプション)

#### 1. 費用勘定転記入力の登録

もう一度、初期状態を同じように設定します。転記日付を今年度の 12 月 1 日として、12 月、1 月、2 月について金額 EUR 1500 の建物賃貸料 (勘定 470000、原価センタ T-A20A##) を入力します (税コード: 0% 国内仮払消費税 V0)。

#### 2. 支払の入力 (オプション)

ドイツ銀行の銀行勘定 (113100) からのマニュアル銀行支払を使用して、この請求書の支払を入力します。

#### 3. 損益計算書のチェック

各自の会社コードの損益計算書を呼び出し、損益計算書で費用勘定の状況をチェックします。

#### 4. 見越/繰延への費用の再転記

今年度の 12 月 1 日付で繰延費用 (98000) に費用を転記します。税コードとして毎回 0% 国内仮払消費税 (V0) を入力し、選択行にテキストを入力します。費用明細に原価センタ T-A20A## を入力します。

#### 5. オリジナル繰返伝票の登録

後続の 3 カ月の 1 日に毎月費用転記することができるよう、オリジナル繰返伝票を登録します。伝票タイプ SA を使用します。伝票番号を書き留めてください。

#### 6. 繰返入力プログラムの開始

各自の会社コードについて今年度の 12 月 1 日付で繰返入力プログラムを開始します。バッチインプットセッションの名称として各自のグループ番号を使用してください。バッチインプットセッションを処理して、オリジナル繰返伝票から更新伝票を登録します。

#### 7. 財務諸表のチェック

繰返入力プログラムを使用して費用を決済した後、繰延費用と損益計算書をチェックします。

## 解答 24: 見越/繰延(見越/繰延伝票、繰返伝票)

### タスク 1:

見越/繰延伝票による見越/繰延

#### 1. 費用勘定転記入力の登録

転記日付を今年度の12月1日として、12月、1月、2月について金額 EUR 1500 の賃貸料(勘定 470000、原価センタ T-A20A##)を入力します(税コード: 0%、国内仮払消費税 V0)。

a) 財務会計 → 債務管理 → 伝票入力 → 請求書

項目名またはデータ型	値
仕入先	T-F00A00
請求書日付	今年度/12/01
転記日付	今年度/12/01
金額	1500.--
税額計算	区分を設定
税コード	V0 (0% 仮払消費税)
G/L 勘定	470000
金額	1500.--
原価センタ	T-A20A##

転記

#### 2. 支払の入力(オプション)

次へ

ドイツ銀行の銀行勘定(113100)からのマニュアル銀行支払を使用して、この請求書の支払を入力します。

- a) 財務会計→債務管理→伝票入力→銀行支払→転記

項目名またはデータ型	値
伝票日付	今年度/12/01
転記日付	今年度/12/01
勘定	113100
金額	1500.--
勘定	T-F00A00
未消込明細処理	選択
割引	無効化

請求書を選択します。

転記します。

3. 損益計算書のチェック

各自の会社コードの損益計算書を呼び出し、損益計算書で費用勘定の状況をチェックします。

- a) 損益計算書のチェック

4. 見越/繰延伝票の入力

次へ

今年度の12月31日付で見越/繰延伝票を入力します。反対仕訳日付として翌年度の1月1日、反対仕訳理由として見越/繰延を入力します。伝票タイプとして一般会計伝票(SA)、相手勘定コードとして繰延費用(98000)を使用してください。明細のテキストを入力します。

- a) 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 評価 → 見越/繰延伝票入力

項目名またはデータ型	値
伝票日付	今年度/12/31
タイプ	SA (一般会計伝票)
転記日付	今年度/12/31
反対仕訳理由	05 (見越/繰延)
反対仕訳日付	翌年度/01/01
転記キー	40
勘定	98000 (繰延費用)

エンター

項目名またはデータ型	値
金額	1000.--
税コード	V0 (0% 仮払消費税)
テキスト	任意のテキスト
転記キー	50
勘定	470000 (建物賃貸料)

エンター

項目名またはデータ型	値
金額	1000.--
原価センタ	T-A20A##

転記

## 5. 財務諸表のチェック

次へ

費用の繰延を行った後、12月(今年度)の繰延費用と損益計算書をチェックします。

- a) 財務諸表のチェック
6. 見越/繰延伝票の反対仕訳  
翌年度の1月1日付で見越/繰延伝票を反対仕訳します。  
a) 財務会計→総勘定元帳→定期処理→決算処理→評価→見越/繰延伝票の反対仕訳

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC##
反対仕訳転記日付	翌年度/01/01
テスト実行	選択を解除

実行

## タスク 2:

繰返伝票による見越/繰延(オプション)

1. 費用勘定転記入力の登録 P361 同じ  
もう一度、初期状態を同じように設定します。転記日付を今年度の12月1日として、12月、1月、2月について金額EUR 1500の建物賃貸料(勘定470000、原価センタT-A20A##)を入力します(税コード: 0%国内仮払消費税V0)。
  - a) 費用転記入力の登録(前述の1-1の解答を参照)
2. 支払の入力(オプション)  
ドイツ銀行の銀行勘定(113100)からのマニュアル銀行支払を使用して、この請求書の支払を入力します。
  - a) 支払の入力(オプション)(前述の1-2の解答を参照)
3. 損益計算書のチェック  
各自の会社コードの損益計算書を呼び出し、損益計算書で費用勘定の状況をチェックします。
  - a) 損益計算書のチェック
4. 見越/繰延への費用の再転記

次へ

今年度の12月1日付で繰延費用(98000)に費用を転記します。税コードとして毎回0%国内仮払消費税(V0)を入力し、選択行にテキストを入力します。費用明細に原価センタT-A20A##を入力します。

a) 見越/繰延への費用の再転記

会計管理→財務会計→総勘定元帳→伝票入力→G/L 勘定  
伝票入力

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC##
伝票日付	今年度/12/01
転記日付	今年度/12/01
勘定	98000
D/C	借方
金額	1500.--
税コード	V0
テキスト	任意のテキスト
勘定	470000
D/C	貸方
金額	1500.--
税コード	V0
原価センタ	T-A20A##

5. オリジナル繰返伝票の登録

次へ

後続の3カ月の1日に毎月費用転記することができるよう、オリジナル繰返伝票を登録します。伝票タイプ SA を使用します。伝票番号を書き留めてください。

a) オリジナル繰返伝票の登録

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 伝票入力 → 参照伝票 → 繰返伝票

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC##
実行開始日	今年度/12/01
実行最終日	翌年度/02/01
実行周期(月間隔)	1
実行日	1
伝票タイプ	SA(一般会計伝票)
通貨/レート	EUR
転記キー	40
勘定	470000

エンター

項目名またはデータ型	値
金額	500.-
税コード	V0
原価センタ	T-A20A##
転記キー	50
勘定	98000
金額	500.-
テキスト	任意のテキスト

転記

伝票番号を書き留めます。

6. 繰返入力プログラムの開始

次へ

各自の会社コードについて今年度の12月1日付で繰返入力プログラムを開始します。バッチインプットセッションの名称として各自のグループ番号を使用してください。バッチインプットセッションを処理して、オリジナル繰返伝票から更新伝票を登録します。

a) 繰返入力プログラムの開始

財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 繰返伝票 → 実行

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC##
決済期間	今年度/12/01
バッチインプットセッション名	#

実行

システム → サービス → バッチインプット → セッション

セッション名の前にある項目をクリックしてセッションを選択します。

処理します。“エラーのみ表示”を選択し、処理を選択します。

7. 財務諸表のチェック

繰返入力プログラムを使用して費用を決済した後、繰延費用と損益計算書をチェックします。

a) 財務諸表のチェック

財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳レポート(新)  
→ 財務諸表/キャッシュフロー → 実績/実績比較 → 財務諸表

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC##

実行します。

関連する勘定を選択して、金額を確認します。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 期末処理のための見越/繰延転記
- 見越/繰延転記機能を使用する利点についての説明

## レッスン：見越/繰延エンジン (まわづがれねん)

### レッスンの概要

このレッスンでは、見越/繰延エンジンの機能について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 見越/繰延エンジンの一般的な機能についての説明
- ・ 通常の見越/繰延手順との比較による、見越/繰延エンジンを使用した場合の利点についての説明
- ・ 会社コードに対する見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの有効化
- ・ 見越/繰延エンジンに必要な決算処理の列挙

### ビジネスシナリオ

見越/繰延エンジンの機能について学習します。

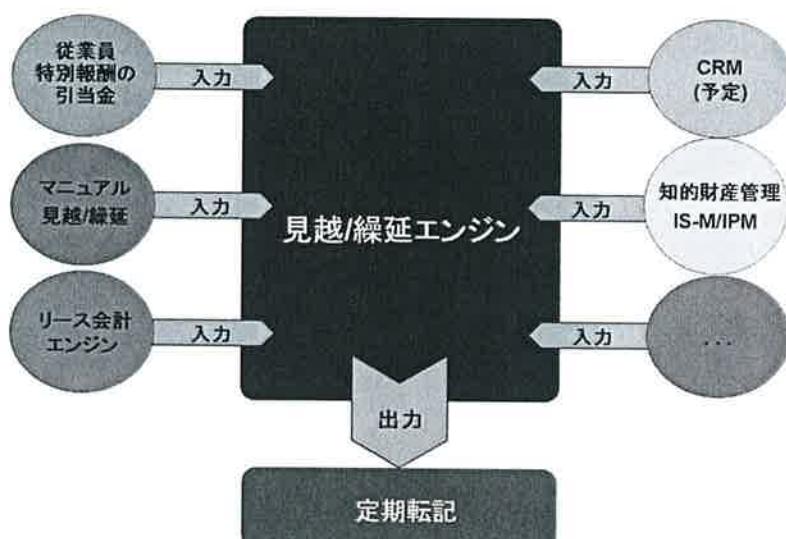


図 158: 見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネント

**見越/繰延エンジン**は、見越/繰延の計算と転記を行うための汎用的なツールです。

見越/繰延エンジンは、賃貸契約のデータなどの、見越/繰延の対象を表す**基本データ**を入力として受け取ります。見越/繰延エンジンでは、このデータを使用して見越/繰延金額が計算され、関連する定期転記が登録されます。

機械のモーターと同様に、見越/繰延エンジン自体はエンドユーザーの目には見えません。代わりに、ユーザーは見越/繰延エンジンの**アプリケーションコンポーネント**を使用します。見越/繰延の対象をアプリケーションコンポーネントに入力すると、見越/繰延エンジンに転送されます。

SAP では見越/繰延エンジンの**アプリケーションコンポーネント**を開発し、提供しています。これらの**アプリケーションコンポーネント**をカスタマが開発することはできません。アプリケーションコンポーネントでは、常に特殊な見越/繰延シナリオが参照されて、そのシナリオについて最適化されたユーザインターフェースが提供されます。

見越/繰延エンジンは、以下のような目的で使用されます。

- 財務会計のマニュアル見越/繰延
- 特別報酬引当金
- リース会計
- 知的財産管理

今後の拡張では、追加の**アプリケーションコンポーネント**が提供される予定です。

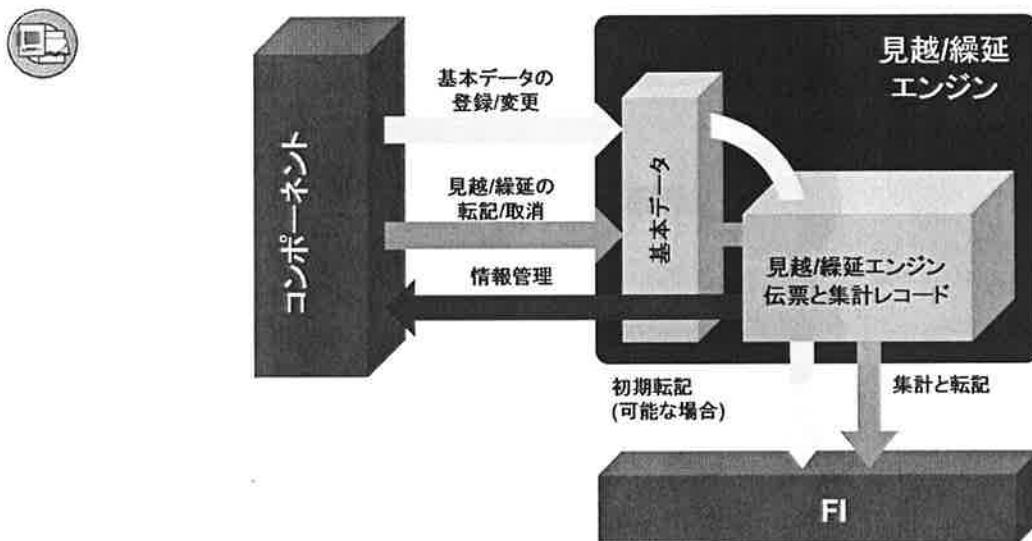


図 159: 見越/繰延エンジンとの相互作用

この図は、見越/繰延エンジンと**アプリケーションコンポーネント**との相互作用を示しています。

見越/繰延エンジンには、以下の 2 種類のデータが格納されます。

- **基本データ**

基本データには、見越/繰延の対象(見越/繰延オブジェクト)を表すテキストと見越/繰延の実行に必要なその他のあらゆる情報が含まれています。基本データは時間依存です。

- **見越/繰延エンジン伝票と集計レコード**

すべての見越/繰延転記によって、見越/繰延エンジンの伝票(見越/繰延エンジン伝票)が登録され、会計年度ごとの集計レコードが更新されます。見越/繰延エンジン伝票によって、対応する伝票が財務会計に自動的に登録されます。さまざまなレベルの集計を行うことができます。財務会計更新時にエラーが発生した場合は、マニュアルで再実行することができます。

通常は、以下の 2 つの主なプロセスがアプリケーションコンポーネントからトリガされます。

- **基本データの登録/変更。**カスタマイジング設定によっては、即座に初期転記を実行することができます。
- **見越/繰延実行の定期実行または見越/繰延実行の取消。**

情報管理から見越/繰延エンジンの集計レコードや伝票に直接アクセスすることができます。見越/繰延のシミュレーションを実行することもできます。



- **見越/繰延金額の自動計算**
  - 繰返伝票への固定値の入力が不要
- **自動定期転記 (自動調整)**
- **シミュレーション (将来の見越/繰延など)**
- **パラレルレポートのサポート**
- **広範な情報管理**
- **SAP 提供のコンポーネントにより、  
カスタマのコンポーネント作成が不要**

図 160: 見越/繰延エンジンの利点

標準的な見越/繰延の実行方法と比較すると、見越/繰延エンジンにはいくつかの利点があります。

- 見越/繰延エンジンでは、見越/繰延金額が自動的に計算されます。マニュアルで金額を計算し、固定値として繰返伝票に入力する必要はありません。
- 見越/繰延実行を使用することによって、パフォーマンスが最適化された一括データ処理として定期見越/繰延転記を自動的に実行することができます。累計見越/繰延金額から実行済の見越/繰延金額を差し引いた差分の金額が転記されます。見越/繰延の予定金額が変更されると、見越/繰延金額が自動的に調整されます。
- 予定されている将来の見越/繰延をシミュレートすることができます。アプリケーションコンポーネントの設定に応じて、シミュレーションシナリオ全体を実行することもできます。
- 見越/繰延エンジンでは、異なる勘定領域または総勘定元帳の元帳を使用したパラレル会計がサポートされています。
- 広範な情報管理によって、予定されている見越/繰延とすでに実行された見越/繰延に関する情報が提供されます。



- コンポーネントを使用する会社コードにコンポーネントを割り当てます。
- 会計基準を定義します (まだ定義していない場合)。
- 必要な会計基準/会社コードの組合せにコンポーネントを割り当てます。
- 必要なコンポーネントの会計年度 (通常は前会計年度と現会計年度) をオープンします。

図 161: アプリケーションコンポーネントの有効化

見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントを有効化するには、以下のカスタマイジングアクティビティを実行する必要があります。

- アプリケーションコンポーネントを使用する会社コードにアプリケーションコンポーネントを割り当てる必要があります。
- まだ定義されていない場合には、必要な会計基準を定義する必要があります。
- 必要な会計基準/会社コードの組合せにアプリケーションコンポーネントを割り当てる必要があります。
- アプリケーションコンポーネントの現会計年度をオープンします。

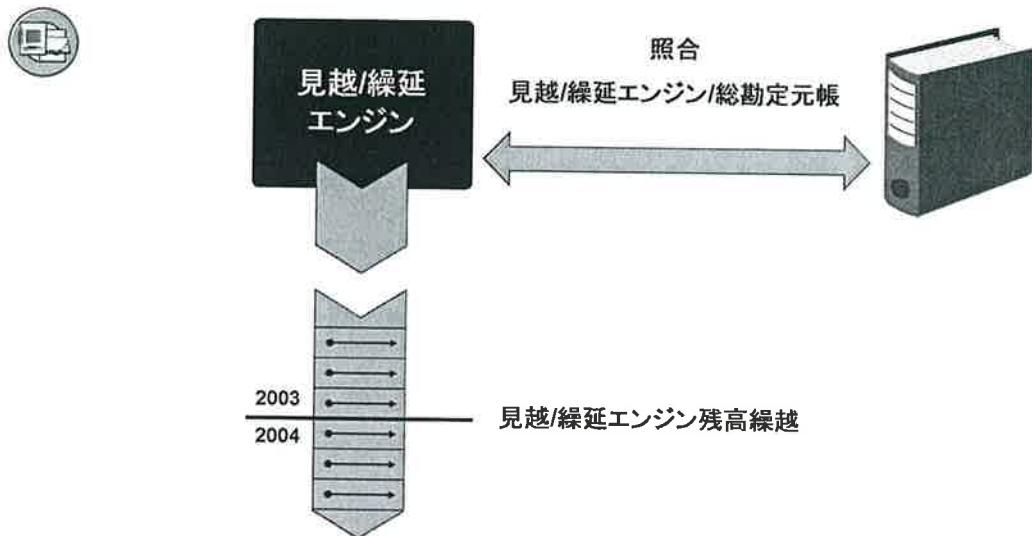


図 162: 見越/繰延エンジンの決算処理

見越/繰延エンジンでは、純粹に技術的な決算処理を少し行えればよいだけです。

- 照合: 見越/繰延エンジン/総勘定元帳

ここでは、見越/繰延エンジン伝票と総勘定元帳伝票が相互に照合され、総勘定元帳への転送が完全でエラーがないことを確認します。

- 残高繰越

会計年度末には、見越/繰延オブジェクトの残高を次会計年度に繰り越す必要があります。これは、総勘定元帳の残高繰越とは関係ありません。

( ACCARDFORWARD )



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ・ 見越/繰延エンジンの一般的な機能についての説明
- ・ 通常の見越/繰延手順との比較による、見越/繰延エンジンを使用した場合の利点についての説明
- ・ 会社コードに対する見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの有効化
- ・ 見越/繰延エンジンに必要な決算処理の列挙

## レッスン：マニュアル見越/縫延

### レッスンの概要

このレッスンでは、アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/縫延”について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/縫延”的機能についての説明
- 見越/縫延の対象の見越/縫延オブジェクトとしての定義
- アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/縫延”的基本設定についての説明

### ビジネスシナリオ

アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/縫延”的基本設定を行うように依頼されました。

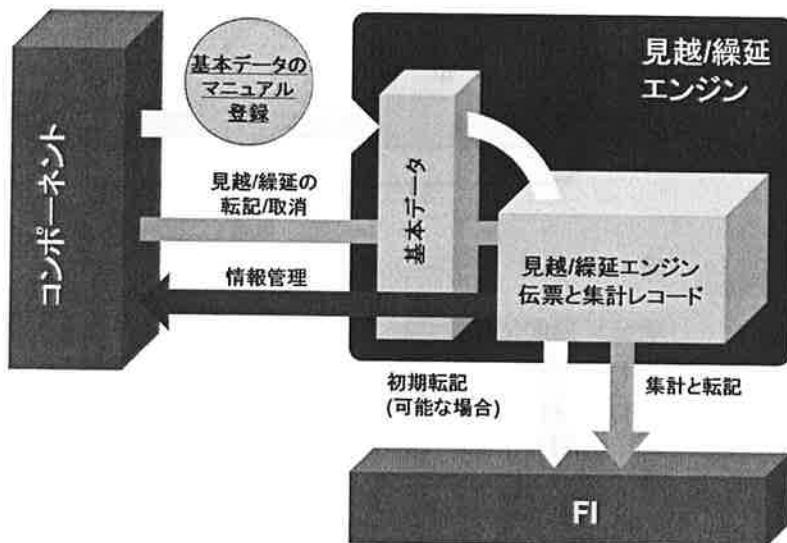


図 163: 見越/縫延エンジンによるマニュアル見越/縫延

アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/縫延”では、シンプルなユーザインターフェースを使用してマニュアルで基本データを登録します。

基本データは通常、賃貸契約や保険契約などのさまざまな契約にもとづく見越/繰延の対象です。



**ヒント:** データベーステーブルから見越/繰延オブジェクトをバッチジョブでインポートするために使用可能な 2 つの汎用モジュールもあります。それらは、以下の汎用モジュールです。

見越/繰延オブジェクトを登録する ACAC\_OBJECT\_CREATE\_EXT。

見越/繰延オブジェクトを変更する ACAC\_OBJECT MODIFY\_EXT。

見越/繰延オブジェクトがない場合は、登録されます。

データの選択、データのエクスポート、および汎用モジュールの構造に合わせたデータの調整を行うレポートを作成する必要があります。それにより、汎用モジュールを呼び出して見越/繰延エンジンにデータをロードすることができるようになります。この方法で旧システム上のデータを転送することもできます(詳細については、IMG 文書を参照してください)。



#### 例: 費用の見越/繰延

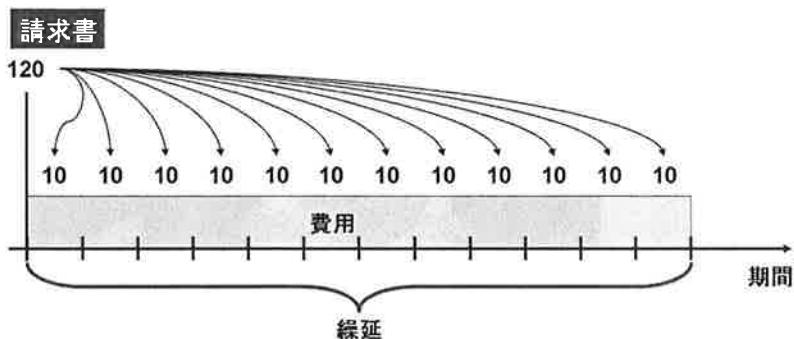


図 164: 繰延

現会計期間に転記されている費用や収益の一部または全部が、実際には将来発生したり獲得されたりする場合は、**繰延**を登録する必要があります。

このスライドは、年度の開始時に € 120 の費用請求書を受け取り、最初の期間に転記された繰延の例を示しています。ただし、この請求書の対象は、年度を通して使用される契約サービス(保険など)です。そのため、会計年度のすべての会計期間に均等に費用を配分する必要があります。

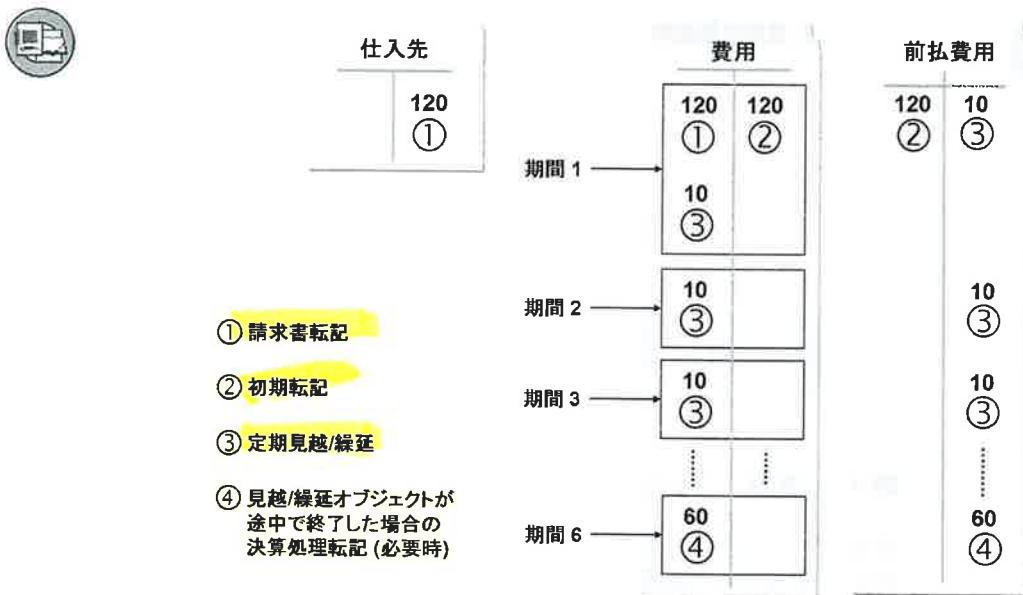


図 165: 継延の転記

前のスライドの例にもとづく継延の転記は、以下のように行われます。

債務管理では、最初の期間に € 120 の請求書を受け取り、転記が行われます。転記レコードは、以下のようになっています。

費用 120 / 仕入先 120

初期転記を使用して、費用勘定を全額前払費用勘定に振り替えます。転記レコードは、以下のようになっています。

前払費用 120 / 費用 120

期末処理時に、前払費用勘定から費用勘定に金額の一部が転記されて戻されます。つまり、前払費用が取り崩されます。転記レコードは、以下のとおりです。

費用/前払費用

マニアルで (F501)

契約が途中で終了した場合は、残りの金額全額を費用勘定に振り替えます。転記レコードは、以下のとおりです。

費用/前払費用

マニアルで (F501) → 合計原則を実行する



例: 費用の見越/緑延

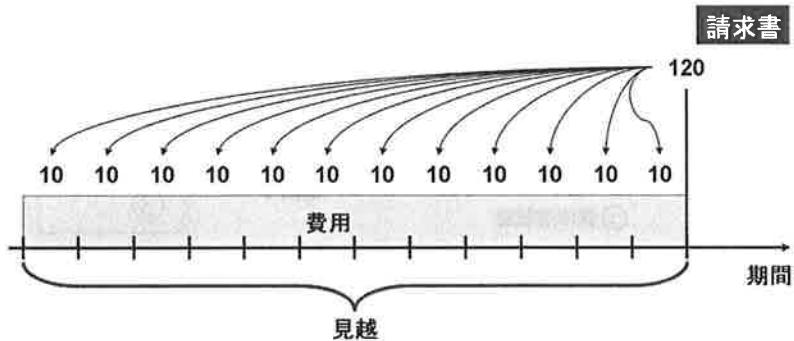


図 166: 見越 (終込の上)

将来支払う費用や受け取る収益の一部または全部が、実際には現会計期間において発生したり獲得されたりする場合は、**見越**を登録する必要があります。

このスライドは、年度の終了時に € 120 の費用請求書を受け取り、最後の期間に転記される見越の例を示しています。ただし、この請求書は、年度を通して使用されるサービスの請求書です。そのため、会計年度のすべての会計期間に均等に費用を配分する必要があります。

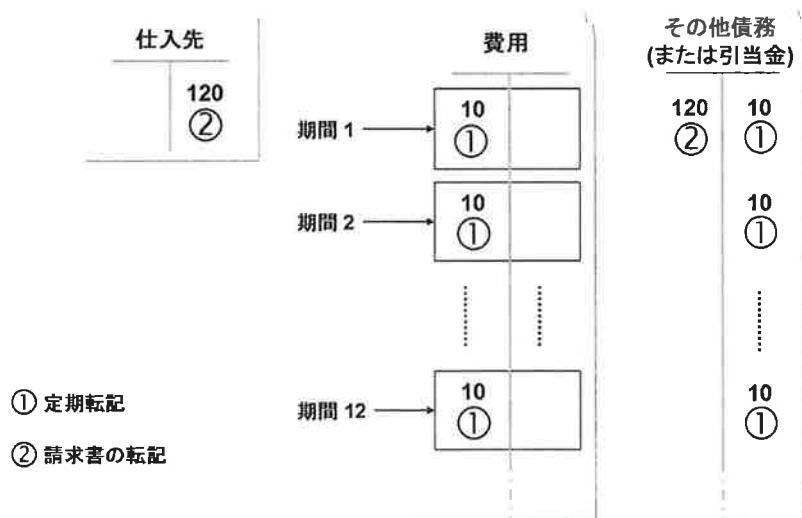


図 167: 見越の転記

各期間の見越の転記レコードは、“費用/その他債務（または引当金）”です。以下の勘定に転記されます。

- ・ その他債務：見越の理由と金額が確かな場合
- ・ 引当金：見越の金額や理由が確かではなく、見積のみが可能な場合

見越を行った各期間において、勘定“その他債務（または引当金）”の貸方残高が増加します。

最終的に請求書を受領すると、次のように転記します。

その他債務（または引当金）/仕入先。これにより、その他債務が実際の債務に変換されます。

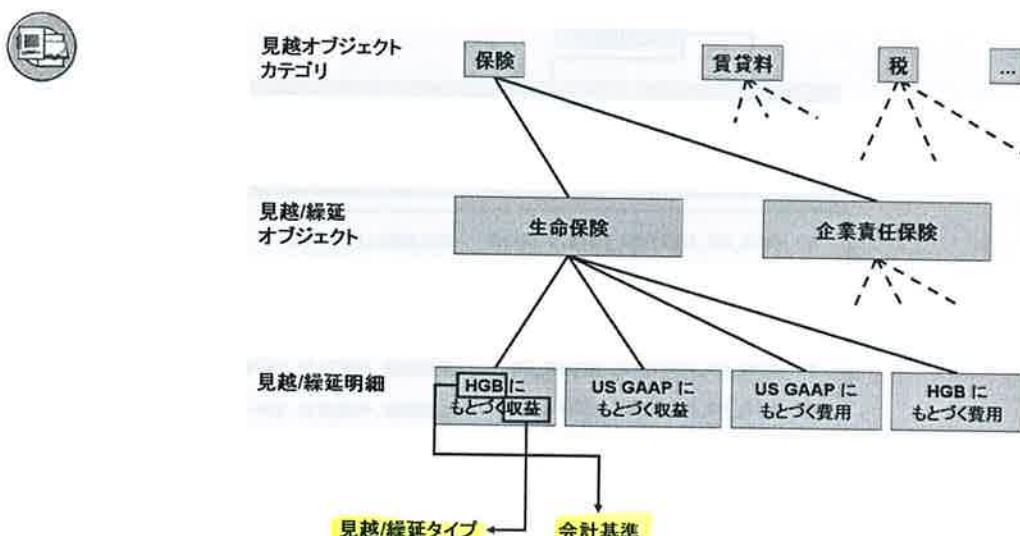


図 168: 見越/縫延の対象の定義

見越/縫延の対象は、見越/縫延オブジェクトとして定義されます。この定義は、アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/縫延”でマニュアルで行います。このアプリケーションコンポーネントの見越/縫延オブジェクトは、定義された番号範囲の見越/縫延オブジェクト番号を使用して会社コードごとに一意に識別されます。

見越/縫延オブジェクトは、マニュアル見越/縫延の見越/縫延オブジェクトカテゴリにグループ化されます。このカテゴリは、類似する見越/縫延オブジェクトの概要を表します。たとえば、保険契約（見越/縫延オブジェクト）は見越/縫延オブジェクトカテゴリ“保険”に割り当てることができます。

見越/繰延オブジェクトカテゴリは、以下のように使用することができます。

- 見越/繰延オブジェクトをより容易に探すためのナビゲーションの単位として使用
- 見越/繰延オブジェクトをより詳細に表す特殊なカスタマ定義パラメータを割り当てるために使用

各見越/繰延オブジェクトに複数の見越/繰延明細を割り当てることができます。見越/繰延明細は、特定の会計原則(会計基準)を使用して、関連する見越/繰延タイプ(通常は費用または収益)がどのように見越/繰延されるかを表します。

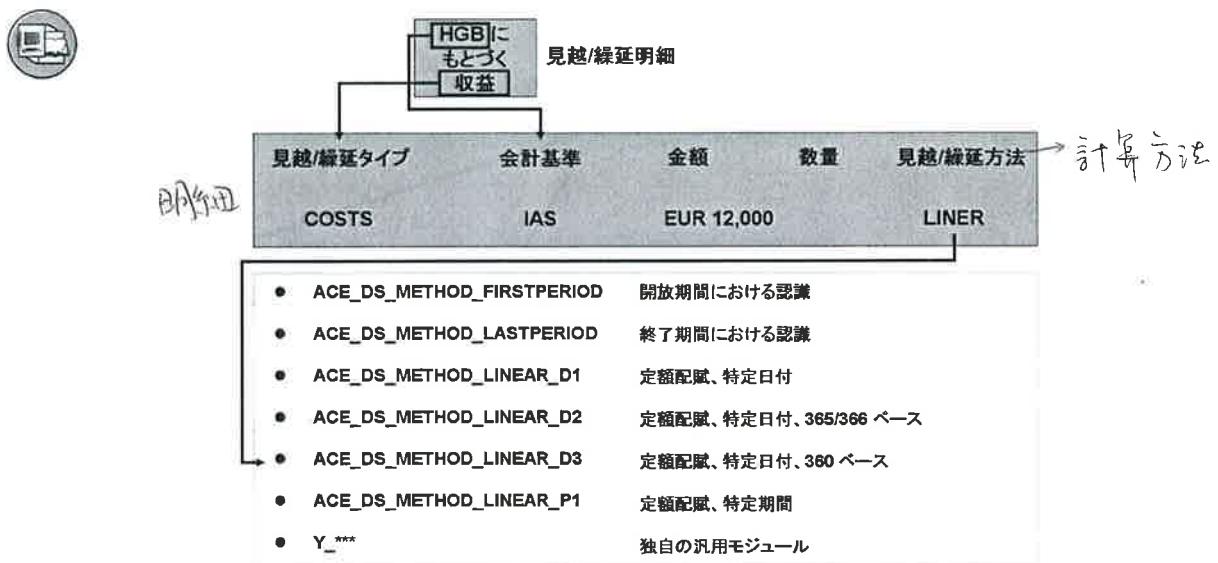


図 169: 見越/繰延計算

見越/繰延金額は、見越/繰延明細ごと、つまり指定された見越/繰延タイプと会計原則(会計基準)の組合せごとに計算されます。見越/繰延金額(および見越/繰延数量)に加えて、見越/繰延明細には見越/繰延方法も含まれています。  
見越/繰延方法の汎用モジュールが定義されており、これにより見越/繰延金額が計算されます。“マニュアル見越/繰延”の領域には、いくつかの汎用モジュールが用意されています。ただし、見越/繰延に使用する独自の汎用モジュールを開発することもできます。

提供されている汎用モジュールは、スライドの一覧のとおりです。これらの汎用モジュールは ACE\_DS\_\* で始まり、マニュアル見越/繰延に使用することができます。

また、誘導見越/繰延タイプを定義することもできます。これらの見越/繰延金額は、直接ではなく、他の見越/繰延タイプの見越/繰延金額から計算されます。ただし、誘導見越/繰延タイプはマニュアル見越/繰延のみに関連するわけではなく、他のアプリケーションコンポーネントでより重要になります。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/繰延”の機能についての説明
- 見越/繰延の対象の見越/繰延オブジェクトとしての定義
- アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/繰延”の基本設定についての説明

## レッスン: 転記管理と勘定設定

### レッスンの概要

このレッスンでは、見越/繰延エンジンの転記管理と勘定設定を設定する方法について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの転記管理の定義
- ・ 規則を使用した見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの勘定設定の設定

### ビジネスシナリオ

アプリケーションコンポーネントで使用可能なさまざまな転記オプションを説明するように財務会計の従業員から依頼されました。

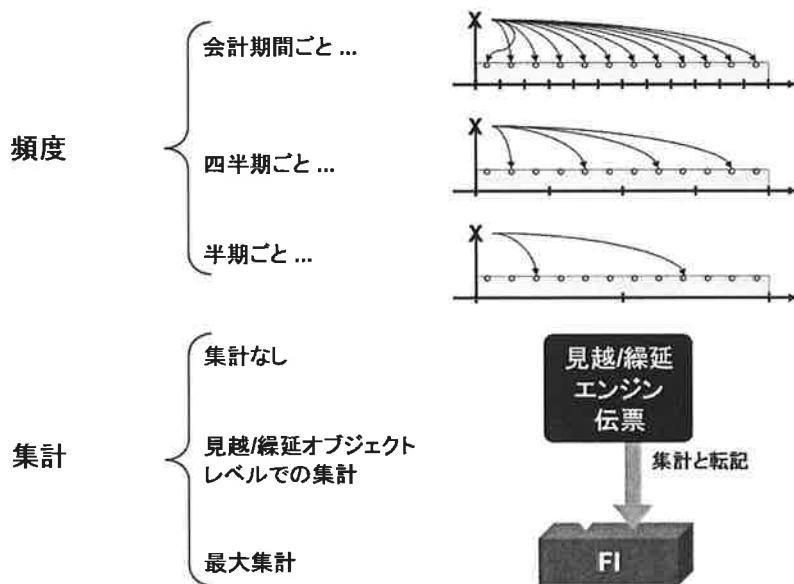


図 170: 転記管理

転記管理は、以下の組合せで定義します。

- 会社コード
- 会計原則(会計基準)
- 見越/繰延タイプ

以下を定義します。

- 見越/繰延の実行頻度(会計期間ごと、日次、月次、四半期ごと、半期ごと、年次)。
- 財務会計への更新前の転記の集計レベル。以下の設定が可能です。
  - 集計なし: 見越/繰延明細ごとに個別明細が登録されます。
  - 見越/繰延オブジェクトレベルでの集計: 見越/繰延オブジェクトごとに明細が登録されます。
  - 最大集計: 個々の追加勘定割当のレベルで転記が集計されます。

原価セグメント毎に伝票登録

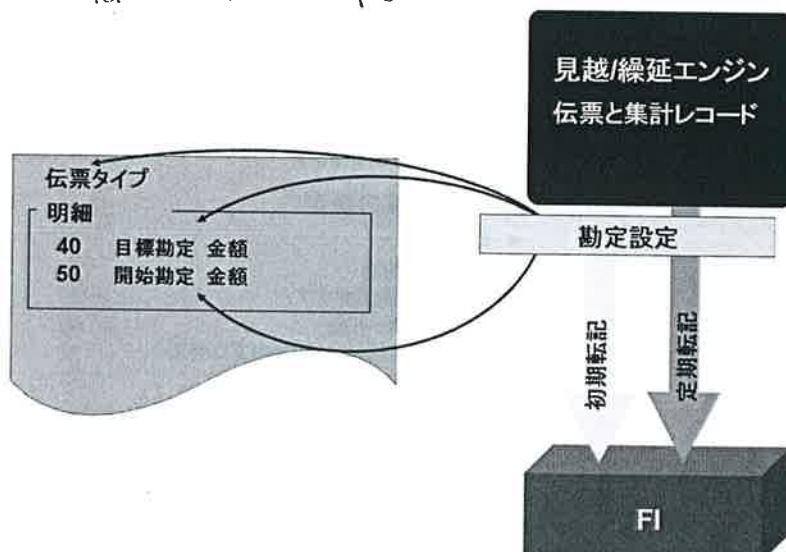


図 171: 勘定設定タスク

勘定設定の目的は以下のとおりです。

- 伝票タイプの設定
- 借方勘定(ここでは目標勘定)の設定
- 貸方勘定(ここでは開始勘定)の設定

見越/繰延タイプごとに、自動的に実行する転記、つまり勘定設定が必要な転記をカスタマイジングで定義します。

- なし(見越/繰延エンジンで見越/繰延金額が計算されるが、転記されない)
- 初期転記のみ
- 定期転記のみ(見越/繰延などに便利)
- すべて(初期転記、定期見越/繰延、見越/繰延オブジェクトが途中で終了した場合、決算処理転記)

パラレル会計については、見越/繰延エンジンで以下がサポートされています。

- パラレル勘定
- 総勘定元帳の元帳

パラレル勘定の場合は、それに応じた見越/繰延エンジンの勘定設定を設定する必要があります。つまり、会計原則(会計基準)にもとづいて勘定を特定する必要があります。

複数元帳アプローチでは、カスタマイジングで会計原則をまだ割り当てていない場合は、レッスン“外貨評価”的説明に従って会計原則を割り当てる必要があります。



- 実行条件(オプション)
- 使用する項目の設定
  - 元項目
    - ◆ 会計基準
    - ◆ 見越/繰延タイプ
    - ◆ 勘定コード表
    - ◆ 見越/繰延エンジンのプロセス
    - ◆ 独自のパラメータ
  - 対象項目
    - ◆ 伝票タイプ
    - ◆ 開始勘定(貸方勘定)
    - ◆ 目標勘定(借方勘定)
    - ◆ 独自のパラメータ
- 規則値の定義

図 172: 誘導規則

勘定は、誘導規則を使用して設定されます。誘導規則は以下の要素で構成されます。

- 誘導規則が実行される条件(オプション)。
- 誘導規則で使用する項目の設定。ここでは以下の項目を定義します。
  - 元項目(誘導規則の入力)。すべての項目は見越/繰延エンジンから入力されます。
  - 目標項目(誘導規則の出力)。適切な勘定設定のために入力される必要があるすべての項目、または順次誘導規則に使用可能なユーザ定義パラメータです。
- 元項目の内容から目標項目の入力を誘導する規則値。

マニュアル見越/繰延(アプリケーションコンポーネント ACAC)の場合:

必要に応じて、データディクショナリ構造(DDIC 構造)ACAC\_PARAMETERS でパラメータを定義します。標準システムでは、このテーブルには“EXAMPLE”という名称のパラメータが 1 つ格納されているだけです。他のパラメータを登録するには、この DDIC 構造に該当する項目を入力します。ただし、この構造を直接使用するのではなく、INCLUDE 構造 CI\_ACAC\_PARAMETERS に入力します。新しい項目は、Y または Z で始まるカスタマ定義項目である必要があります。変更した INCLUDE 構造を有効化した後、1 つ以上の見越/繰延オブジェクトカテゴリに新しいパラメータを割り当て、該当する見越/繰延オブジェクトで更新することができます。



- 並行誘導規則
  - 誘導規則は連続して処理され、独立した結果を生成します。
- 順次誘導規則
  - 誘導規則は順番に処理され、結果は累積されます。

図 173: 勘定設定ルール

誘導規則は、ルールセットにまとめられます。誘導規則の定義にもとづき、並行処理または順次処理が行われれます。

- 並行誘導規則は連続して処理され、独立した結果が生成されます。
- 順次誘導規則の結果は累積されるため、正しい順序で登録する必要があります。



- すべての誘導規則が連続して処理され、独立した結果を生成します。  
処理の順序は関係ありません。

- 貸料に誘導規則 1 を使用
  - 保険料に誘導規則 2 を使用
  - 手数料に誘導規則 3 を使用
- または
- 伝票タイプに誘導規則 1 を使用
  - 開始勘定に誘導規則 2 を使用
  - 目標勘定に誘導規則 3 を使用

**図 174: 並行誘導規則**

並行誘導規則の結果は相互に依存しないため、登録および処理順序は関係ありません。以下に例を示します。

- ユーザ定義パラメータによって区別される個々の見越/繰延オブジェクトの誘導規則。条件でユーザ定義パラメータの内容 (Parameter = “Rents”?) など) が照会され、条件を満たす場合にのみ誘導規則が実行されます。
- 会計伝票の個々の要素の誘導規則。つまり、伝票タイプにはある誘導規則を使用し、勘定には別の誘導規則を使用します。



- 誘導規則は順番に処理され、結果は累積されます。

- 誘導規則 1: 非常に漠然とした勘定設定
- 導誘規則 2: 詳細な勘定設定
- 誘導規則 3: 非常に詳細な勘定設定

または拡張勘定設定の使用

- 誘導規則 1: 特性組合せの設定
- 誘導規則 2: 勘定シンボルの設定
- 誘導規則 3: 勘定の設定

**図 175: 順次誘導規則**

順次誘導規則の登録および処理順序は重要です。以下に例を示します。

- 詳細レベルが異なる勘定設定の誘導規則。つまり、最初の誘導規則では非常に基本的な勘定設定が提供され、2番目の誘導規則では特定の取引についてのより詳細な勘定設定が提供され、3番目の誘導規則では他の取引についての非常に詳細な勘定設定が提供されます。
- 拡張勘定設定の使用。拡張勘定設定を使用すると、特性組合せの誘導規則を使用して元項目の組合せをまとめることができます。2番目の誘導規則では、特性組合せから勘定シンボルが設定されます。3番目の誘導規則では、勘定シンボルから勘定が誘導されます。



## 演習問題 25: 見越/繰延エンジン、マニュアル見越/繰延

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ・ 見越/繰延エンジンを使用した見越/繰延の転記

### ビジネスシナリオ

会社コード AC## (## = 各自のグループ番号) で、毎年の保険金額が国内通貨で 6000 単位の保険に加入しました。年度の最初の月に、今年度の保険金額をすべて支払いました。

#### タスク:

見越/繰延エンジンを使用して保険金額の繰延額を転記します。

1. 会社コード AC## (## = 各自のグループ番号) の見越/繰延オブジェクトを登録します。見越/繰延オブジェクトカテゴリ Z\_INSURANC を選択します。繰延の説明テキストとして倉庫保険負担金の繰延 ## (## = 各自のグループ番号) を入力します。あなたは、この見越/繰延オブジェクトの責任者です。

原価センタ T-A20A## を勘定割当に使用します (## = 各自のグループ番号)。

時間基準繰延の場合は、金額を配分する期間を把握することが重要です。この期間は今年度を超えます。

保険負担金に見越/繰延タイプ INSURA を選択します。財務諸表に使用する会計基準は、国内会計基準 LOGA です。会社では、毎年の保険金額が 6,000 EUR の保険契約を締結しました。この金額に対応する繰延を登録します。

2. 'チェックとシミュレート' を選択します。配分転記のシミュレーションのパラメータとして、今年度の 1 月 1 日を選択します。この基準日から期間が設定されます。シミュレーションの結果を照会します。
3. 見越/繰延オブジェクトを保存します。



**注意:** 見越/繰延オブジェクトの番号を書き留めてください。

会計伝票を照会します。伝票ヘッダテキストのエントリは何ですか。明細のテキストは何ですか。会計伝票から、見越/繰延エンジンによって登録されたオリジナル伝票 (= 見越/繰延エンジン伝票) にジャンプします。

次へ

4. 見越/繰延エンジンの情報管理で見越/繰延エンジンの明細を照会します。まず、各自の会社コードと見越/繰延オブジェクトの実績値のみを選択します。次に、レポート基準日を今年度の3月31日に指定してシミュレート値を選択します。
5. 最初の会計期間について見越/繰延を実行します。

定期見越/繰延実行を開始します。一般選択を、各自の会社コード、会計基準、見越/繰延タイプ、および見越/繰延オブジェクト番号に制限します。繰延の基準日として、今年度の**1月31日**を選択します。まずテスト実行を行ってから、更新実行を行います。

情報管理で、見越/繰延エンジンの合計と明細を照会します。各自の見越/繰延オブジェクト番号に選択を制限します。

## 解答 25: 見越/繰延エンジン、マニュアル見越/繰延

### タスク：

見越/繰延エンジンを使用して保険金額の繰延額を転記します。

1. 会社コード AC## (## = 各自のグループ番号) の見越/繰延オブジェクトを登録します。見越/繰延オブジェクトカテゴリ Z\_INSURANC を選択します。繰延の説明テキストとして倉庫保険負担金の繰延 ## (## = 各自のグループ番号) を入力します。あなたは、この見越/繰延オブジェクトの責任者です。

原価センタ T-A20A## を勘定割当に使用します (## = 各自のグループ番号)。

時間基準繰延の場合は、金額を配分する期間を把握することが重要です。この期間は今年度を超えます。

次へ

保険負担金に見越/繰延タイプ INSURA を選択します。財務諸表に使用する会計基準は、国内会計基準 LOGA です。会社では、毎年の保険金額が 6,000 EUR の保険契約を締結しました。この金額に対応する繰延を登録します。

- a) アプリケーション: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → マニュアル見越額 → 見越/繰延オブジェクト登録

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC## (## = 各自のグループ番号)
見越/繰延オブジェクトカテゴリ	Z_INSURANC
テキスト	倉庫保険負担金の繰延 ##
担当者	各自のユーザ ID

有効日数:

項目名またはデータ型	値
期間開始	01.01. (今年度)
期間終了	31.12. (今年度)

勘定割当:

項目名またはデータ型	値
原価センタ	T-A20A## (## = 各自のグループ番号)

明細データ: 行追加:

項目名またはデータ型	値
見越/繰延タイプ	INSURA
会計基準	LOGA
見越繰延予定の合計額	6000
通貨	EUR

次へ

2. 'チェックとシミュレート' を選択します。配分転記のシミュレーションのパラメータとして、今年度の1月1日を選択します。この基準日から期間が設定されます。シミュレーションの結果を照会します。
- a) 見越/繰延オブジェクト → 変更のチェックおよびシミュレート

項目名またはデータ型	値
見越/繰延の基準日	01.01. (今年度)

シミュレーションの結果:

項目名またはデータ型	値
タブページ	計算済見越/繰延

3. 見越/繰延オブジェクトを保存します。



注意: 見越/繰延オブジェクトの番号を書き留めてください。

次へ

会計伝票を照会します。伝票ヘッダテキストのエントリは何ですか。明細のテキストは何ですか。会計伝票から、見越/繰延エンジンによって登録されたオリジナル伝票(=見越/繰延エンジン伝票)にジャンプします。

a) 見越/繰延オブジェクト→保存

項目名またはデータ型	値
見越/繰延の基準日	01.01. (今年度)



注意: 見越/繰延オブジェクトの番号を書き留めてください。

転記結果:

項目名またはデータ型	値
タブページ	転記

参照会計伝票番号をダブルクリックします。

会計伝票を選択します。ジャンプ→伝票ヘッダ

項目名またはデータ型	値
伝票ヘッダテキスト	見越/繰延エンジン: ACAC/I

項目名またはデータ型	値
テキスト(明細)	見越/繰延エンジンからの転記: ACAC/配分

環境→伝票関連処理→オリジナル伝票

見越/繰延オブジェクトの照会に戻ります。

次へ

4. 見越/繰延エンジンの情報管理で見越/繰延エンジンの明細を照会します。まず、各自の会社コードと見越/繰延オブジェクトの実績値のみを選択します。次に、レポート基準日を今年度の3月31日に指定してシミュレート値を選択します。
- a) アプリケーション: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → マニュアル見越額 → 情報管理 → 転記済見越/繰延の照会 → マニュアル見越/繰延: 見越/繰延エンジンにおける明細照会

項目名またはデータ型	値
実績値のみ	選択
会社コード	AC##
見越オブジェクト番号	各自の見越/繰延オブジェクト番号

プログラム → 実行

戻る

項目名またはデータ型	値
将来の転記のシミュレート	選択
レポートの基準日	31.03. (今年度)
会社コード	AC##
見越オブジェクト番号	各自の見越/繰延オブジェクト番号を入力

プログラム → 実行

5. 最初の会計期間について見越/繰延を実行します。

定期見越/繰延実行を開始します。一般選択を、各自の会社コード、会計基準、見越/繰延タイプ、および見越/繰延オブジェクト番号に制限します。繰延の基準日として、今年度の1月31日を選択します。まずテスト実行を行ってから、更新実行を行います。

次へ

情報管理で、見越/繰延エンジンの合計と明細を照会します。各自の見越/繰延オブジェクト番号に選択を制限します。

- a) アプリケーション: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → マニュアル見越額 → 定期見越/繰延実行開始

項目名またはデータ型	値
会社コード	AC##
見越オブジェクト番号	各自の見越/繰延オブジェクト番号を入力
見越/繰延基準日	31.01. (今年度)

アプリケーション: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → マニュアル見越額 → 情報管理 → 転記済見越/繰延の照会 → マニュアル見越/繰延: 見越/繰延エンジンにおける明細照会

項目名またはデータ型	値
実績値のみ	選択
会社コード	AC##
見越/繰延オブジェクトカテゴリ	Z_INSURANC
見越オブジェクト番号	各自の見越/繰延オブジェクト番号

プログラム → 実行

戻る

アプリケーション: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → マニュアル見越額 → 情報管理 → 転記済見越/繰延の照会 → マニュアル見越/繰延: 見越/繰延エンジンにおける合計値照会

項目名またはデータ型	値
実績値のみ	選択
会社コード	AC##
見越/繰延オブジェクトカテゴリ	Z_INSURANC
見越オブジェクト番号	見越/繰延オブジェクト番号

プログラム → 実行

戻る



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 見越/縦延エンジンのアプリケーションコンポーネントの転記管理の定義
- 規則を使用した見越/縦延エンジンのアプリケーションコンポーネントの勘定設定の設定



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 期末処理のための見越/繰延転記
- 見越/繰延転記機能を使用する利点についての説明
- 見越/繰延エンジンの一般的な機能についての説明
- 通常の見越/繰延手順との比較による、見越/繰延エンジンを使用した場合の利点についての説明
- 会社コードに対する見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの有効化
- 見越/繰延エンジンに必要な決算処理の列挙
- アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/繰延”の機能についての説明
- 見越/繰延の対象の見越/繰延オブジェクトとしての定義
- アプリケーションコンポーネント“マニュアル見越/繰延”的基本設定についての説明
- 見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの転記管理の定義
- 規則を使用した見越/繰延エンジンのアプリケーションコンポーネントの勘定設定の設定

# 10 章

## 技術的ステップ、組織的ステップ、および 伝票関連ステップ

### 章の概要

“技術的ステップ、組織的ステップ、および伝票関連ステップ”の章では、これらのステップの概要を説明します。ここでは、会計期間テーブルにおける転記と、残高繰越、CO と FI の統合、元帳グループ転記などのその他の決算処理について説明します。この章の終了時には、これらの処理のいくつかを実行します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 残高繰越の方法についての説明
- 会計期間テーブルを使用する利点についての説明
- 会計期間テーブルの更新
- 残高監査証跡の目的についての説明
- 伝票分割の目的の説明
- CO から FI への統合機能の説明
- 

### 章の内容

レッスン: 技術的ステップ .....	400
レッスン: 伝票関連ステップ .....	406
演習問題 26: 伝票関連ステップ .....	407
レッスン: 伝票分割 .....	411
レッスン: CO と FI 間の照合 .....	416
レッスン: 元帳グループ転記 .....	420
演習問題 27: 元帳グループ転記 .....	425

## レッスン: 技術的ステップ

### レッスンの概要

このレッスンでは、残高繰越機能と会計期間テーブルについて説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 残高繰越の方法についての説明
- ・ 会計期間テーブルを使用する利点についての説明
- ・ 会計期間テーブルの更新

### ビジネスシナリオ

会計期間の終了時には、元帳の決算処理を行い、残高を繰り越す必要があります。社内における期間の技術的な変更を担当します。

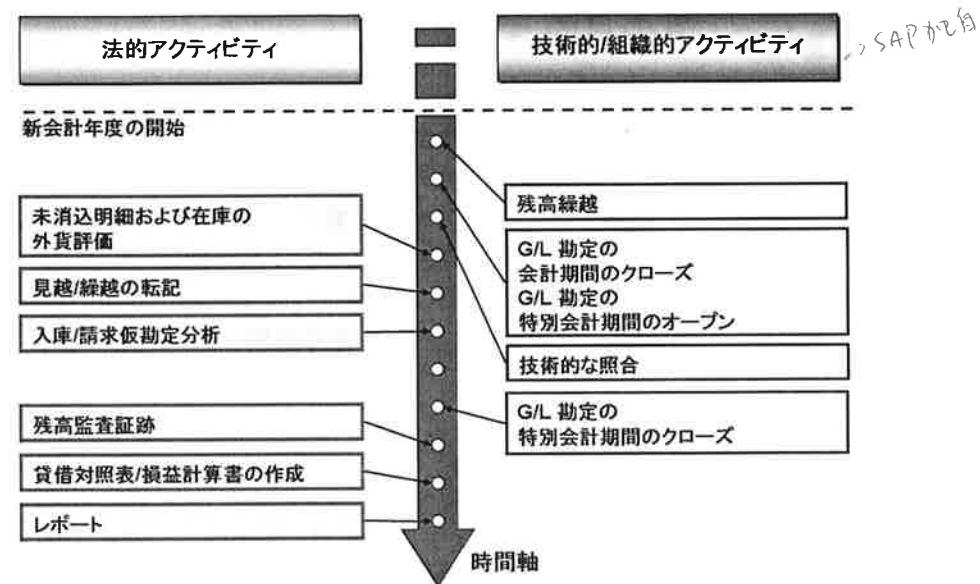


図 176: 概要: 総勘定元帳決算処理

会計年度の開始時には、残高繰越プログラムを実行して、G/L 勘定の残高を次会計年度に繰り越します。

旧会計年度の会計期間をクローズして、決算転記のための特別会計期間をオープンします。取引金額と伝票の技術的な照合をすることによって、伝票の転記に関する技術的な問題が回避されます。

その後、外貨伝票の評価、見越/繰延の実行、および入庫/請求仮勘定の分析、残高の再グループ化を行います。

これらが完了すると、特別会計期間をクローズすることができます。

続いて、文書化を目的として残高監査証跡を実行し、財務諸表を作成します。最後に、法定レポートに関するメッセージを作成します。



**ヒント:** 決算処理プロセスは、国によって異なる場合があります。各自の国で必要な特殊な手順に関する情報については、講師から説明を受けてください。



例: G/L 勘定 (SAPFGVTR)

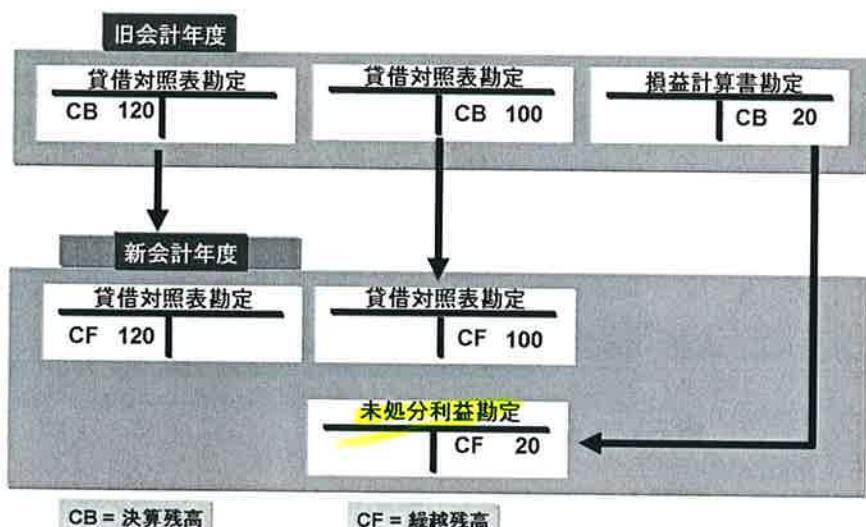


図 177: 残高繰越

新会計年度への繰越残高は、貸借対照表勘定ごとに計算されます。

損益計算書勘定の残高は、損益繰越勘定(未処分利益勘定)に転記されます。リース 4.6C 以降: 特定の未処分利益勘定に繰り越された個々の損益計算書勘定の残高を照会することができます。これにより、未処分利益勘定の残高合計の内訳を把握することができます。

損益計算書勘定のみ:

- 通貨が異なる勘定がある場合、損益繰越勘定のマスタレコードで区分を設定することによって、すべての通貨を換算して集計することができます。“国内通貨での残高のみ”区分を使用します。

このプログラムは、必要に応じて何度も実行することができます。

転記のたびに次年度の繰越残高が自動的に更新されるため、このプログラムを旧会計年度中に実行することもできます。現会計年度中に残高繰越を実行する場合は、可能な限り遅い時期にプログラムを実行することをお奨めします。

**債権および債務の残高繰越を実行するには、レポート SAPF010 を使用します。**

FI-SL などの追加元帳やパラレル通貨を使用する場合は、プログラム SAPFGVTR を使用して残高繰越を実行する必要があります。

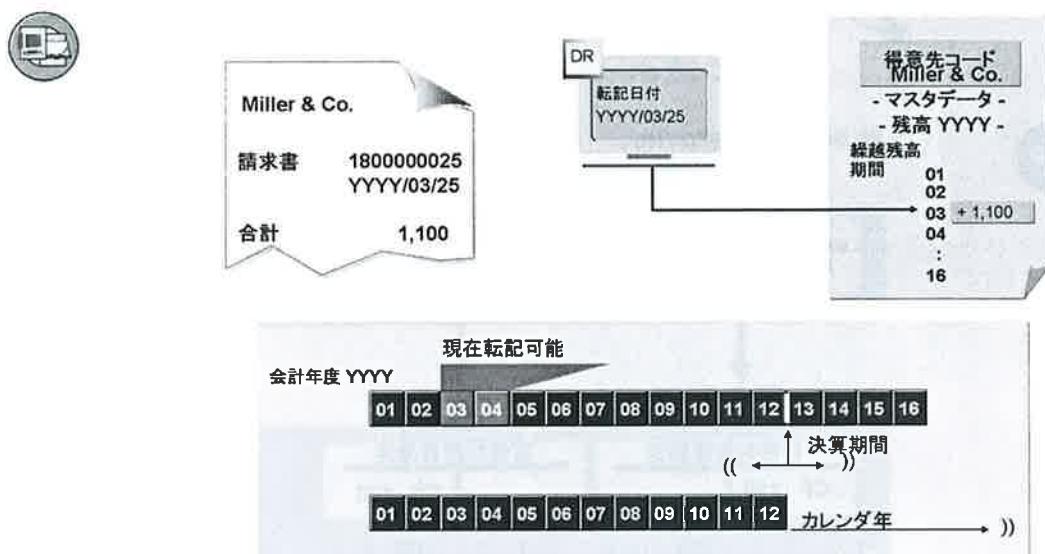


図 178: 会計期間の定義

伝票入力時に指定した転記日付によって、伝票が転記される会計期間が決まります。

会社の会計期間は、会計年度バリアントによって定義されます。

会計年度バリアントを使用して、以下のシステム設定を行うことができます。

- 会計年度の開始と終了
- “通常”会計期間の数 (01 ~ 16)
- 特別会計期間の数 (“通常”期間の選択後の残りの期間。最大 16)
- 会計期間の長さ



**期間 1**                    **期間 2**

バリ アント	A	開始勘定	終了勘定	開始期間 1	年度	終了期間 1	年度	開始期間 2	年度	終了期間 2
0001	+			1	2000	2	2000	13	1999	16
0001	A		ZZZZZZZZ	1	2000	2	2000	13	1999	16
0001	D		ZZZZZZZZ	1	2000	2	2000	13	1999	16

↓ 補助元帳について期間 1 をクローズ

**期間 1**                    **期間 2**

バリ アント	A	開始勘定	終了勘定	開始期間 1	年度	終了期間 1	年度	開始期間 2	年度	終了期間 2
0001	+			1	2000	2	2000	13	1999	16
0001	A		ZZZZZZZZ	2	2000	2	2000	13	1999	16
0001	D		ZZZZZZZZ	2	2000	2	2000	13	1999	16

↓ すべての転記について期間 1 をクローズ

**期間 1**                    **期間 2**

バリ アント	A	開始勘定	終了勘定	開始期間 1	年度	終了期間 1	年度	開始期間 2	年度	終了期間 2
0001	+			2	2000	2	2000	13	1999	16
0001	A		ZZZZZZZZ	2	2000	2	2000	13	1999	16
0001	D		ZZZZZZZZ	2	2000	2	2000	13	1999	16

図 179: 会計期間管理

会計期間テーブルは、会計期間をオープンおよびクローズするために使用されます。会計期間は、必要な数だけオープンすることができます。

図の最初の列には、**会計期間バリアント**が含まれています。このコードは会社コードに割り当てられており、これにより同時に複数の会社の会計期間をオープンおよびクローズすることができます。

次の列には、勘定タイプが含まれています。勘定タイプには、すべての勘定を表す“+”、資産を表す“A”、得意先コードを表す“D”、仕入先コードを表す“K”、G/L 勘定を表す“S”があります。これにより、勘定タイプごとにオープンする会計期間を管理することができます。

勘定は、テーブルで指定された期間に対してオープンになり、指定されていない期間についてはクローズされます。

勘定タイプが“+”の行(すべての勘定に有効)によって、勘定タイプのオープン期間の最大の長さが決まります。

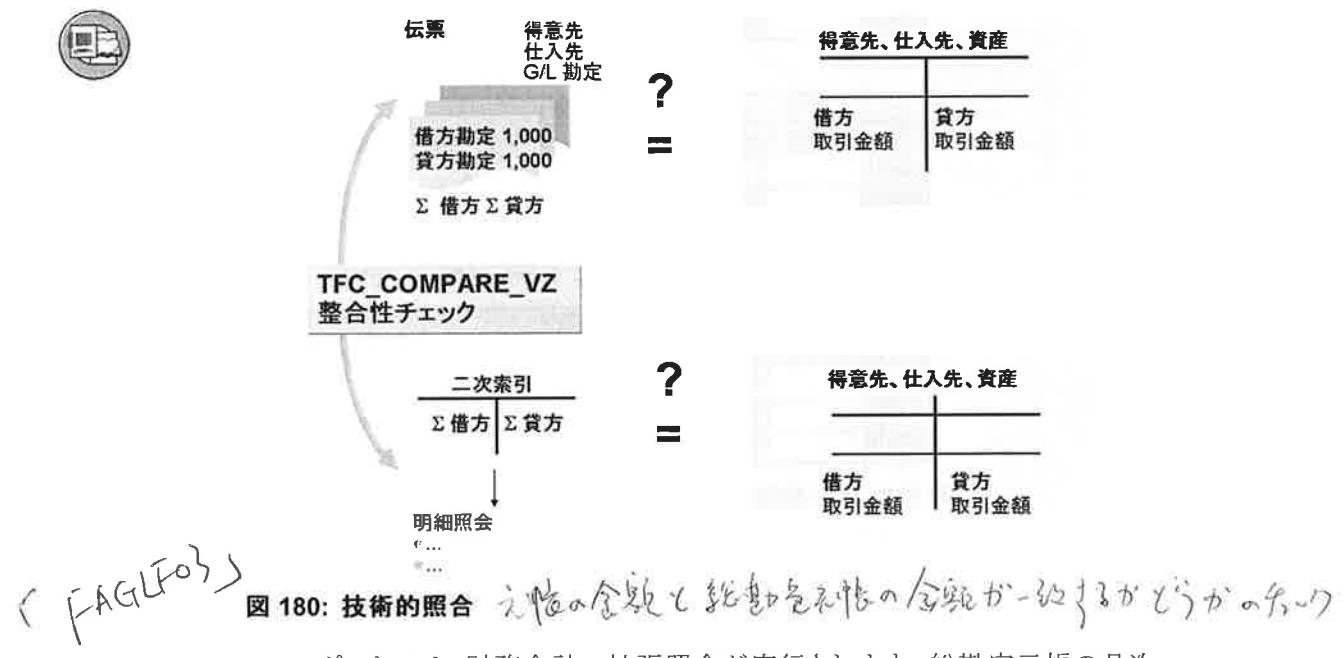
たとえば 2 番目のテーブルでは、1999 年の期間 13 ~ 16 と 2000 年の期間 1 ~ 2 がすべての勘定に対してオープンになっています。

勘定タイプ(A, D など)ごとの他の他の行では、指定された勘定のオープンしている期間の数が制限されます。

例の 2 番目のテーブルでは、固定資産管理補助元帳と債権管理補助元帳では 2000 年の第 1 会計期間がクローズにされています。

テーブルの別の列(図では表示されていません)では、“期間 1”でオープンになっている期間に対して、権限グループを割り当てることができます。権限グループは、期間 2 でオープンになっている期間には影響を与えませ

ん。そのため、期間 1 では(会計部門の)特定のユーザグループのみが転記を実行可能であり、期間 2 ではすべてのユーザが転記を実行可能であるように定義することができます。



このレポートでは、財務会計の拡張照合が実行されます。総勘定元帳の月次処理の一環として、以下の整合性チェックが実行されます。

- 得意先勘定、仕入先勘定、および G/L 勘定の借方および貸方取引金額 (テーブル FAGLFLEXT) と転記された伝票の借方および貸方合計 (テーブル BSEG)
- 得意先勘定、仕入先勘定、および G/L 勘定の借方および貸方取引金額 (テーブル FAGLFLEXT) とアプリケーション索引の借方および貸方合計 (二次索引テーブル BSIS/BSAS, BSIK/BSAK, BSID/BSAD)

アプリケーション索引は、明細消込管理または明細照会が設定された勘定の総勘定元帳ビューに使用されます。

新総勘定元帳が有効でない場合は、レポート財務会計比較分析 (SAPF190) を使用して照合を実行します。

照合の結果はすべて、履歴管理に追加されます。これにより、照合処理の実行と精度に関する報告書を時間別に管理することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ・ 残高繰越の方法についての説明
- ・ 会計期間テーブルを使用する利点についての説明
- ・ 会計期間テーブルの更新

## レッスン: 伝票関連ステップ

### レッスンの概要

このレッスンでは、残高監査証跡の機能と資金フロー分析の登録方法について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 残高監査証跡の目的についての説明

### ビジネスシナリオ

会計伝票は、複数年にわたって保存するように法律で義務付けられています。財務会計部門の従業員に残高監査証跡について説明する必要があります。



残高監査証跡には、期首残高と期末までの勘定の変動が表示されます。

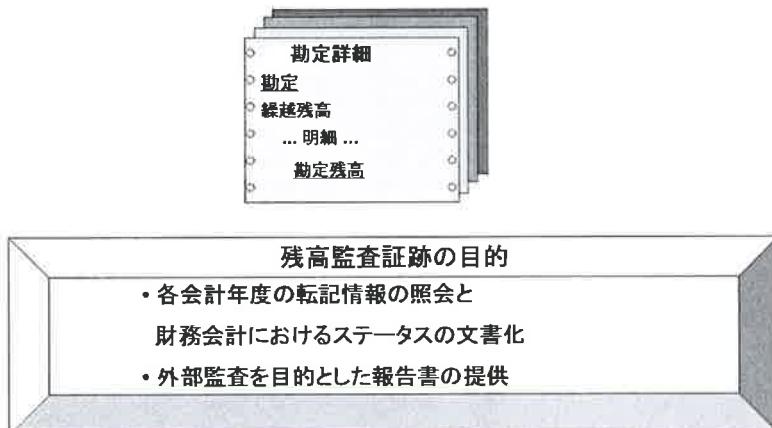


図 181: 残高監査証跡

通常、過去数年間の会計年度について、関連する伝票明細を使用していくでも勘定残高について説明することができるよう法律で義務付けられています。このためには、関連する伝票がシステムに保存されている必要があります。

ただし通常は、システムの負荷を軽減するために、古くなった伝票をアーカイブし、データベースから削除する必要があります。そのため、勘定残高について説明するには、伝票をアーカイブする前に残高監査証跡を開始する必要があります。これにより、期間ごとの要約仕訳帳が一覧形式で生成されます。残高監査証跡には、期首残高と期末までの勘定の変動が表示されます。

本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは伝達すること、電子的、機械的、フォトコピー、錄音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。

## 演習問題 26: 伝票関連ステップ

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 期間の取引を文書化するレポートの実行

### ビジネスシナリオ

月次処理時に、総勘定元帳の勘定残高を構成する取引を文書化し、期間中に入力された伝票の一覧を生成します。

#### タスク 1:

伝票ファイル(現在のデータ)からの残高監査証跡レポートの出力をチェックします。

- 現会計年度について、会社コード AC## の伝票ファイルからの総勘定元帳レポートを実行します。
- 現会計年度について、会社コード AC## の伝票ファイルからの明細消込管理勘定の残高監査証跡レポートを実行します。

#### タスク 2:

財務会計での文書化を完了するには、会計年度ごとにすべての伝票の(日付順の)概要を作成する必要があります。

- 総勘定元帳で要約仕訳帳を作成し、現会計年度における会社コード AC## のすべての伝票を選択します。
- 一覧は何を基準にしてソートされていますか。

## 解答 26: 伝票関連ステップ

### タスク 1:

伝票ファイル(現在のデータ)からの残高監査証跡レポートの出力をチェックします。

1. 現会計年度について、会社コード AC## の伝票ファイルからの総勘定元帳レポートを実行します。

- a) 伝票ファイル(現在のデータ)からの残高監査証跡レポートの出力をチェックします。

現会計年度について、会社コード AC## の伝票ファイルからの総勘定元帳レポートを実行します。

全勘定(未消込明細勘定以外)の残高監査証跡のメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 全勘定 → 伝票ファイルからの総勘定元帳  
以下のデータを入力します。

会社コード: AC##

会計年度: 今年度

レポートを実行します。

出力をチェックした後、メインメニューに戻ります。

2. 現会計年度について、会社コード AC## の伝票ファイルからの明細消込管理勘定の残高監査証跡レポートを実行します。

- a) 伝票ファイルからの残高監査証跡

明細消込管理勘定の残高監査証跡のメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 未消込明細勘定 → 伝票ファイルからの未消込明細勘定の残高監査証跡

以下のデータを入力します。

会社コード: AC##

会計年度: 今年度

レポートを実行します。

出力をチェックした後、メインメニューに戻ります。

次へ

## タスク 2:

財務会計での文書化を完了するには、会計年度ごとにすべての伝票の(日付順の)概要を作成する必要があります。

1. 総勘定元帳で要約仕訳帳を作成し、現会計年度における会社コード AC## のすべての伝票を選択します。

- a) 日付順の伝票一覧の生成

要約仕訳帳のメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳 レポート(新) → 伝票 → 一般 → 要約仕訳帳

以下のデータを入力します。

会社コード: AC##

会計年度: 今年度

元帳: 0L

レポートを実行します。

2. 一覧は何を基準にしてソートされていますか。

- a) 一覧は何を基準にしてソートされていますか。

伝票番号を基準にしてソートされています。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ・ 残高監査証跡の目的についての説明

## レッスン：伝票分割

### レッスンの概要

このレッスンでは、新総勘定元帳における伝票分割の概要について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 伝票分割の目的の説明

### ビジネスシナリオ

会社では、利益センタおよびセグメントレベルで財務諸表を登録します。システムの伝票分割機能を使用することによって、この目標を達成することができます。



セグメント貸借対照表を作成するための SAP システムの既存の機能  
(リリース SAP ERP 2004 以降):

- セグメント項目は、新総勘定元帳の集計テーブル内の標準項目です (=> FAGLFLEXT)。

会社コード	明細	BS	勘定	名稱	金額	通貨	セグメント
1000	1 31	1000	仕入先 X	11.000	EUR		
	2 40	417000	購買サービス	4.000	EUR	SEG A	
	3 40	417000	購買サービス	6.000	EUR	SEG B	
	4 40	154000	仮払消費税	1.000	EUR		

- 新しい FI ドリルダウンレポート機能を使用すると、セグメント貸借対照表を作成することができます。



要件: 例: さまざまなセグメント割当による転記

会社コード	明細	BS	勘定	名稱	金額	通貨	セグメント
1000	1 31	1000	仕入先 X	11.000	EUR		
	2 40	417000	購買サービス	4.000	EUR	SEG A	
	3 40	417000	購買サービス	6.000	EUR	SEG B	
	4 40	154000	仮払消費税	1.000	EUR		

ソリューション: 伝票分割/オンライン分割

図 182: 伝票分割の誘因

システム要件がさらに“単純”になります。債務明細で異なるセグメント割当が必ずしも必要ではなくなります。たとえば、セグメント別の財務諸表を登録する場合には、(総勘定元帳ビューの)債務明細に 1 つの“セグメント勘定割当”行を用意するだけで済みます。



### 分割の前提事項

- オンラインチェックによって、伝票入力の操作プロセスが妨げられない（変更されない）ようにする必要があります。具体例:  
システムで以下の仕入先請求書を入力する場合

名称	金額	通貨	セグメント	
仕入先 X	11,000	EUR		
購買サービス	4,000	EUR	SEG A	
購買サービス	6,000	EUR	SEG B	
仮払消費税	1,000	EUR		



ユーザは、**仕入先を1回のみ入力することを希望しています。**  
当然のことながら、後でセグメント財務諸表が必要になった場合（たとえばセグメント A）、（総勘定元帳では）債務の金額として対応する金額（4,400）がレポートされる必要があります。

- (FI-AP 助手元帳で) 仕入先明細一覧を呼び出すと、上記の請求書に対しては依然として1件の未消込明細のみが存在しています。  
つまり、伝票分割は総勘定元帳にのみ関連し、補助元帳内で確認可能である必要はありません。

図 183: 分割の前提事項

例では、税率 10% が使用されています。



### マッピングされた取引:

- 複数の費用明細と異なる勘定割当のある仕入先請求書（税 10%）

-----

入力ビュー:

会社コード	P	BS	勘定	名称	金額	通貨	税	原価センタ	利益センタ	セグメント
1000	1	31	1000	Miller Inc.	11,000	EUR	11			
	2	40	477000	広告宣伝費	1,000	EUR	11	1000	1000	SEG A
	3	40	417000	購買サービス	9,000	EUR	11	4140	1402	SEG B
	4	40	154000	仮払消費税	1,000	EUR	11			

-----

総勘定元帳ビュー/元帳 OL:

会社コード	P	BS	勘定	名称	金額	通貨	税	原価センタ	利益センタ	セグメント
1000	1	31	160000	仕入先債務	1,100	EUR	11		1000	SEG A
	2	40	477000	広告宣伝費	1,000	EUR	11	1000	1000	
	4	40	154000	仮払消費税	100	EUR	11		1000	
	1	31	160000	仕入先債務	9,900	EUR	11		1402	SEG B
	3	40	417000	購買サービス	9,000	EUR	11	4140	1402	
	4	40	154000	仮払消費税	900	EUR	11		1402	

セグメントで昇順ソートされたレイアウト

図 184: 伝票分割 - アクティブ分割

分割特性として定義されたエンティティは、勘定割当のない転記行に継承されます。

スライドからわかるように、選択された特性の残高はゼロです。

このルール基準分割では、総勘定元帳ビューの仕入先明細と税明細(明細1と4)が、費用明細/基準明細カテゴリ費用(明細2と3、費用勘定477000と417000)に従って分割されます。



#### マッピングされた取引:

- 仕入先請求書の支払を完了しました(前の例の図を参照)。
  - 3% の現金割引が差し引かれました - 支払金額: EUR 10,670
- 検討項目:
  - 選択した伝票分割特性は、支払伝票の転記行にも継承される必要があります。
  - 支払伝票は、元の費用転記/仕入先請求書の分割ルールに従って分割されます。

#### 入力ビュー:

会社コード	P	BS	勘定	名称	金額	通貨	税	原価センタ	利益センタ	セグメント
1000	1	50	113100	銀行	10,670-	EUR				
	2	50	276000	受取済現金割引	30-	EUR	11		1000	SEG A
	3	50	276000	受取済現金割引	270-	EUR	11		1402	SEG B
	4	25	1000	Miller Inc.	11,000	EUR				
	5	50	154000	仮払消費税	30-	EUR	11			

総勘定元帳ビューについては次のスライドを参照

図 185: 伝票分割 - 後続処理 I



#### 総勘定元帳ビュー/元帳 OL

会社コード	P	BS	勘定	名称	Σ 金額	通貨	税	原価センタ	利益センタ	セグメント
1000	1	50	113100	銀行	1,067-	EUR			1000	SEG A
	2	50	276000	受取済現金割引	30-	EUR	11		1000	
	4	25	160000	仕入先債務	1,100	EUR			1000	
	5	50	154000	仮払消費税	3-	EUR	11		1000	
<b>0 EUR</b>								<b>SEG A</b>		
1000	1	50	113100	銀行	9,603-	EUR			1402	SEG B
	3	50	276000	受取済現金割引	270-	EUR	11		1402	
	4	25	160000	仕入先債務	9,900	EUR			1402	
	5	50	154000	仮払消費税	27-	EUR	11		1402	
<b>0 EUR</b>								<b>SEG B</b>		

セグメントで昇順ソートされた、セグメント別小計を伴うレイアウト

図 186: 伝票分割 - 後続処理 II

明細照会で、支払伝票とオリジナル請求書伝票は以前のリリースと同様に消込済明細として表示されます。



**ヒント: 重要:**

新総勘定元帳における伝票分割は、従来の総勘定元帳の機能“財務諸表の調整”を置き換えるものです。従来の総勘定元帳を使用する場合は、“補足資料”の章の財務諸表の調整のレッスンでさらに詳細な情報を参照することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 伝票分割の目的の説明

## 関連情報

伝票分割のルールおよび設定のさらに詳細な説明については、コース AC210 を参照してください。

## レッスン: CO と FI 間の照合

### レッスンの概要



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- CO から FI への統合機能の説明

### ビジネスシナリオ

新総勘定元帳の機能である CO から FI への統合の目的は、CO で組織ユニット間(利益センタ間など)の転記が行われる場合に、即座に FI で修正転記が行われるようにすることです。

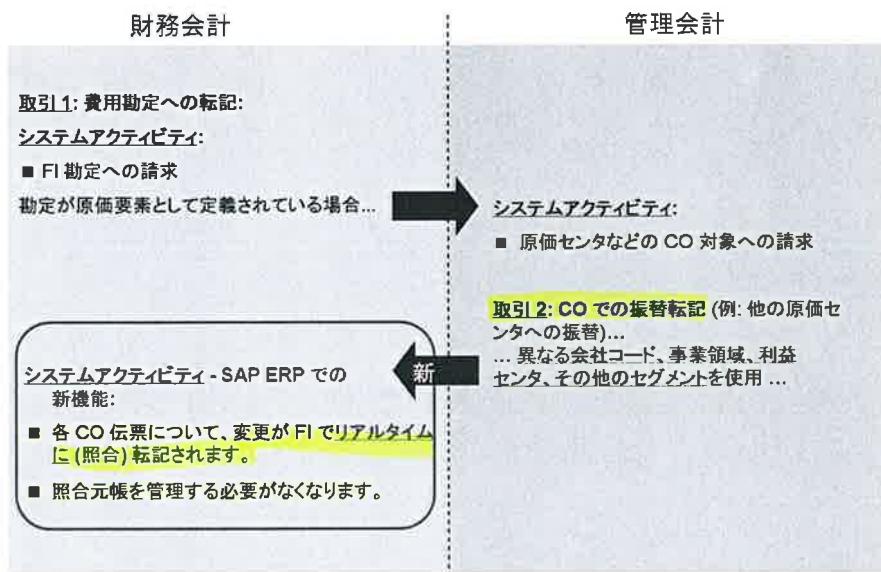


図 187: CO から FI へのリアルタイム統合

財務会計(FI)から管理会計(CO)への(リアルタイム)統合は、しばらく前からSAPシステムで提供されています。

以前は逆方向の統合、つまり CO から FI への統合はリアルタイムでは不可能でした。これには、たとえば以下のプロセス/トランザクションでの特性に対する変更などが関連します。定期配分(配賦、付替、振替転記)、COへのマニュアル振替転記[トランザクション KB11(N)]、活動配分[トランザクション KB21(N)]、指図またはプロジェクトからの決済[トランザクション KO88 と CJ88]。

従来の総勘定元帳の使用:

財務会計との CO 照合では、原価要素会計で更新されている照合元帳が常に必要でした。定期プログラム実行により、各原価要素/費用勘定に対する集計調整/照合転記が行われていました(トランザクションコード KALC)。

新総勘定元帳を有効化した後、トランザクション KALC は(デフォルトでは)使用することができなくなります。CO と FI 間の新しいリアルタイム統合に関する情報メッセージが表示されます。トランザクション KALC では、セグメント特性を照合することはできませんでした。

従来の総勘定元帳を使用する場合は、“補足資料”の章の管理会計のレッスンで、照合元帳についてのさらに詳細な情報を参照することができます。

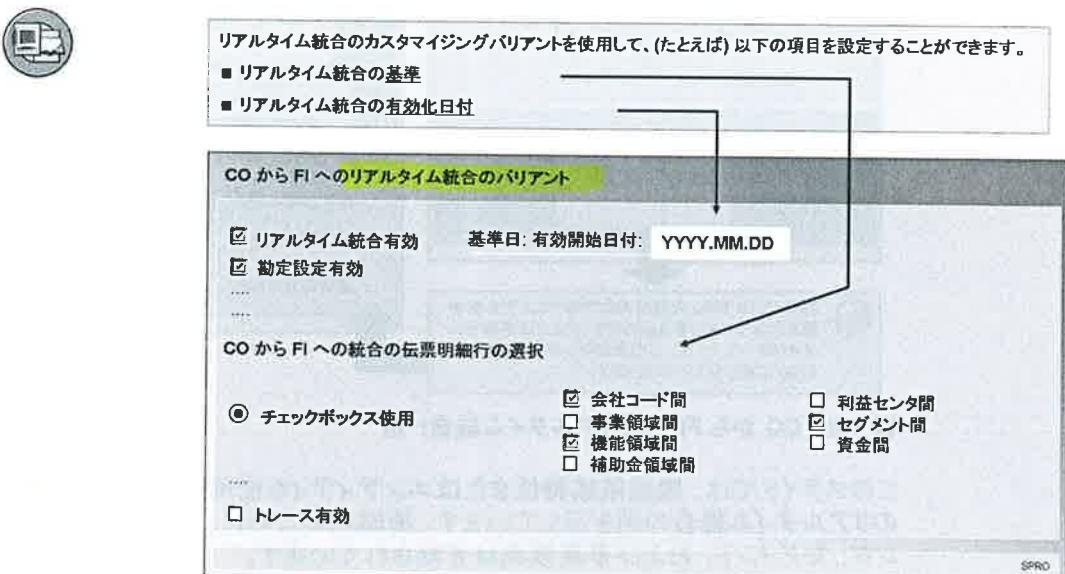


図 188: CO から FI へのリアルタイム統合のバリアント

CO から FI へのリアルタイム統合の **バリアントを定義**するには、カスタマイジングで、財務会計(新規)→財務会計共通設定(新)→元帳→管理会計と財務会計のリアルタイム統合→定義: リアルタイム統合のバリアントを選択します。

後続のステップで、**バリアントを会社コードに割り当てます**。

チェックボックスを使用するか、ブール規則を定義するか、または独自のプログラムロジックを使用した BAdI を実装することによって、どの特性変更によって FI 明細がリアルタイムで生成されるかを決定することができます。ただし、シナリオでどの元帳にも割り当てられていない特性を選択しても意味がありません。

有効化基準日によって、リアルタイム統合による CO と FI 間の照合がいつ(CO 伝票のどの転記日付以降)可能になるかが定義されます。新総勘定元帳を有効化する前に入力された CO 伝票に対して財務会計伝票を登録することもできます。

CO から FI に二次原価要素を転送するには、勘定割当を定義する必要があります。勘定設定を定義するには、カスタマイジングで、財務会計(新規)→財務会計共通設定(新)→元帳→管理会計と財務会計のリアルタイム統合→リアルタイム統合の勘定設定を選択します。勘定設定によって一次原価を FI に転送することもできます。通常、このためには元の原価要素が使用されます。

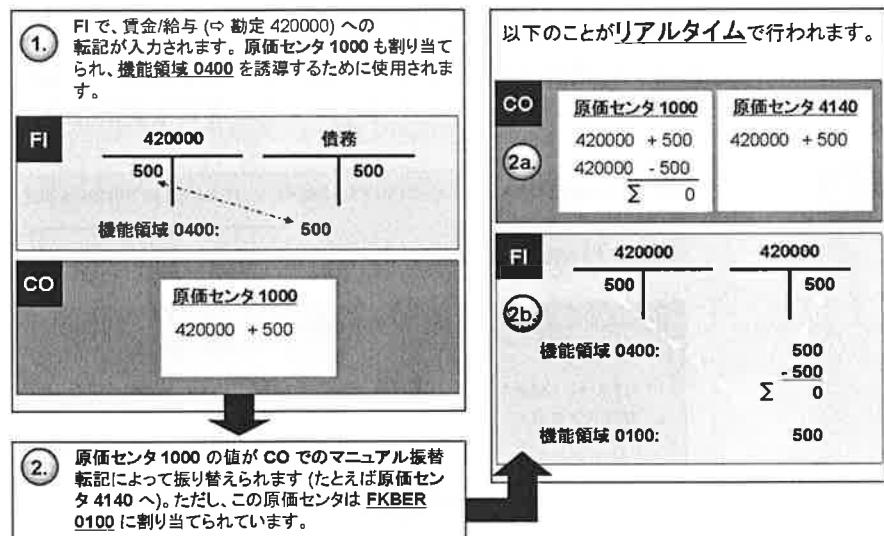


図 189: CO から FI へのリアルタイム統合: 例

このスライドでは、機能領域特性またはエンティティを使用した CO から FI へのリアルタイム統合の例を示しています。簡略化のために、この例では利益センター、セグメント、および事業領域は省略されています。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- CO から FI への統合機能の説明

## レッスン: 元帳グループ転記

### レッスンの概要

このレッスンでは、元帳グループ転記の概要について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 

### ビジネスシナリオ

会計上の値について複数の異なる値を算出するために、元帳グループに直接転記する必要がある場合があります。このレッスンでは、この手順について説明します。



パラレル会計レポートをモデル化するために、  
SAP ERP ソリューションでは、まったく新しいアプローチが導入されました。  
(従来の勘定ベースソリューションに加えて)

### 新総勘定元帳の複数元帳アプローチ

このアプローチについて、具体的な例を使用して説明します。

図 190: パラレル会計

パラレル決算報告とは、会社の財務諸表を異なる複数の会計基準に従って作成する必要があることを意味しています。これは、債権者(銀行、株主)やビジネスパートナーがグローバル化した現在の世界では、(米国の U.S. GAAP による)ローカルビューだけでは不十分になったためです。国際的に認められた標準に準拠することがますます求められています。

国際的に認められた会計基準の例としては、IAS/IFRS や US GAAP などがあります。

新総勘定元帳の勘定ベースソリューションを使用することにより、(従来どおり)さまざまな会計基準をモデル化することができます。新総勘定元帳では、さまざまな元帳を使用して複数の異なる評価アプローチを保存することもできます。これは、(新総勘定元帳)の元帳ソリューションと呼ばれます。

ただし、複数元帳アプローチと特別元帳(FI-SL)を混同しないでください。特別元帳はSAP ERPで使用することができますが、新総勘定元帳の元帳ソリューションのような機能は備えておらず、また元帳ソリューションのように統一されたものではありません。

どの評価アプローチをモデル化する必要がありますか。SAPでは、通常、元帳ソリューションと勘定ベースソリューションは同等のものとして見なされます。詳細については、SAPノート779251を参照してください。



- 総勘定元帳には、クライアントごとに1つのリーディング元帳があります。
- (総勘定元帳内で) 追加の元帳を定義することもできます。
- これらのさまざまな元帳を使用して、たとえば複数の異なる会計基準をモデル化することができます。

例:



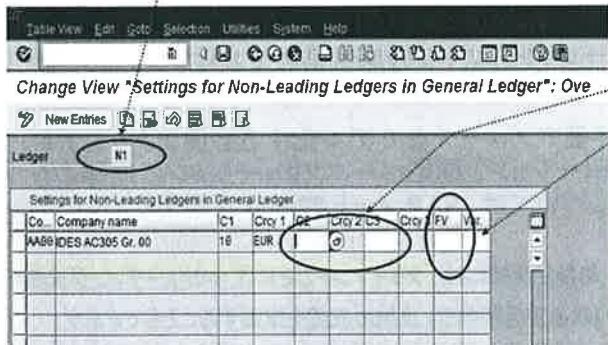
図 191: 非リーディング元帳の定義

リーディング元帳での会計基準をモデル化するかについて決定することが重要です。SAPでは、SAP ERPにアップグレードした既存のカスタマはリーディングビューを変更しないことをお奨めします。これまでと同様、リーディングビューの変更は別のプロジェクトで行う必要があります。リーディング元帳は、COに統合されている(唯一の)元帳です。非リーディング元帳を使用することにより、1つの会社コード内で異なる会計年度バリアントを使用することも可能になります(=>後続のスライドも参照してください)。



リーディング元帳または新総勘定元帳は、**クライアントレベル**で有効化します。

**注記:** すべての**非リーディング元帳**(N1など)は、それぞれの定義に応じて**各会社コード**で別途有効化する必要があります。



**追加オプション:** このトランザクションで、追加の国内通貨\*または代替会計年度バリアント(リーディング元帳のバリアントの代替)を非リーディング元帳に割り当てることができます。

\* 非リーディング元帳の通貨には、リーディング元帳の通貨の一部の通貨のみを指定することができます。

図 192: 非リーディング元帳の有効化

**パス:** カスタマイジング: 財務会計(新) → 財務会計共通設定(新) → 元帳 → 元帳 → 定義/有効化: 非リーディング元帳

追加の非リーディング元帳は、会社で異なる会計年度バリアントを使用して同じ会社コードをモデル化する場合などに役立ちます。たとえば、リーディング元帳では会計年度バリアント K4 を使用し、非リーディング元帳では会計年度バリアント V9 を使用することができます。

**注記:** これまで、SAP システムでは、**FI 総勘定元帳内**の 1 つの会社コードで異なる会計年度バリアントを使用することはできませんでした。このようなオプションは、特別目的元帳コンポーネント(FI-SL)でのみ提供されていました。FI-SL では、総勘定元帳で使用されている通貨とは異なる通貨を使用することが可能でした。

固定資産管理コンポーネントを同時に使用する場合の、非リーディング元帳での異なる会計年度バリアントの設定の詳細については、**SAP ノート 844029**を参照してください。



非リーディング元帳に対して更新される項目を定義することも必要です。つまり、シナリオを割り当てる必要があります。

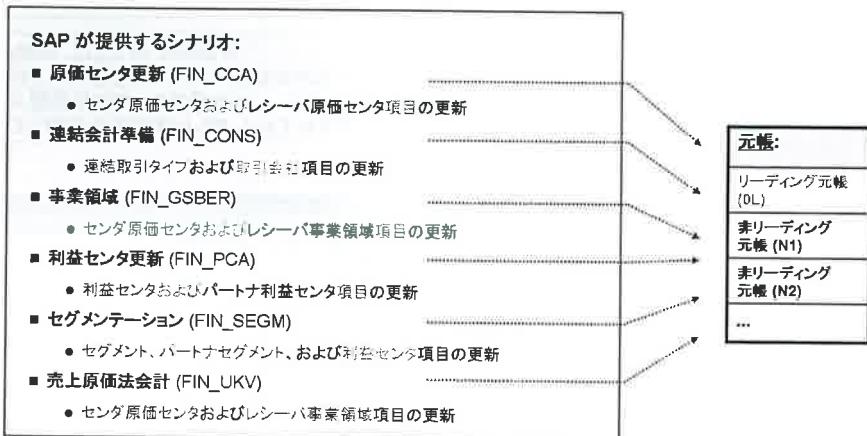


図 193: シナリオ割当

提供されるシナリオは、(非リーディング)元帳に割り当てられます。この割当は、カスタマイジングの財務会計(新)→財務会計共通設定(新)→元帳→元帳→割当:シナリオおよびユーザ定義項目->元帳で行われます。1つの元帳に1つまたは複数のシナリオを割り当てるのも、6つすべてのシナリオを一度に割り当てるもできます。割り当てるシナリオの数は、対応する(非リーディング)元帳でどの“切り口”および“業務要件”をモデル化するかによってのみ決定します。



この押ボタンを選択すると、非リーディング元帳の総勘定元帳ビューを照会することができます。

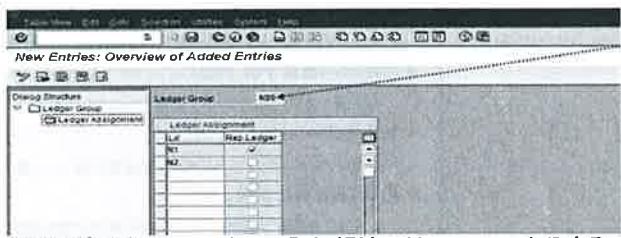
図 194: FI 伝票の総勘定元帳ビュー



**ビジネスへの適用/状況:** たとえば、U.S. GAAP と IAS/IFRS の両方に対して外貨評価を実行する必要があると仮定します。いずれの場合も、未消込明細（および残高）が“標準”評価される必要があります。

**オプション 1:** 2つの評価領域と2つの会計基準の定義、および元帳への関連するリンク。  
その後、外貨評価を2回実行 - それぞれで適切な元帳を更新（=> 例: 元帳 N1 のみ、かつ次回実行時に N2 のみ）

**オプション 2:** 評価領域（たとえば、領域国際）および会計基準の定義。さらに、元帳グループを定義（この例では N99）。この元帳グループには元帳 N1 および N2 が含まれており、新しい評価領域国際にリンクされています。



**オプション 2 の効果:** 外貨評価プログラムは、（新しい評価領域に対して）1回実行するだけで済みます。値は、元帳グループのすべての元帳（N1 と N2）に同時に書き込まれます。

図 195: オプション: 元帳グループの定義

パス: カスタマイジング → 財務会計（新）→ 財務会計共通設定（新）→ 元帳 → 元帳 → 定義: 元帳グループ

元帳グループは、特定の場合に作業を簡易化または高速化するためのオプションです。独自の元帳グループを必ず登録する必要はありません。

ただし、新総勘定元帳の各元帳に対しては、自動的に新たな元帳グループが登録されます。この新しい元帳グループには、関連する元帳が含まれており、その元帳と同じ名称が付けられます。

伝票は、選択した元帳にのみ転記されます。

元帳グループに1つ以上の非リーディング元帳のみが含まれている場合には、“单一元帳の入力ビュー伝票タイプ”を定義する必要があります。この定義を行うには、カスタマイジングで財務会計（新）→ 財務会計共通設定（新）→ 伝票 → 伝票タイプ → 定義: データ入力ビューの伝票タイプを選択します。

総勘定元帳ビューには、この設定に従って1つの元帳のみが表示されます。

## 演習問題 27: 元帳グループ転記

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 元帳グループ転記の説明と使用

### ビジネスシナリオ

会計上の値について複数の異なる値を算出するために、元帳グループに直接転記する必要がある場合があります。この演習問題では、この手順について実習します。

### タスク:

元帳グループへの引当金の一般転記

- 元帳グループ L5 に対して、会社コード 1000 の引当金を転記します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	1000
伝票日付および転記日付	現在日付
元帳グループ	L5
伝票ヘッダテキスト	引当金 GR## > L5
画面バリアントの使用	ZPROFITCENTER
各明細での転記先利益センタ	PRCTR##
借方	G/L 勘定 239000 予想損失引当金
貸方	G/L 勘定 79000 不足費用引当金
金額	明細ごとに € 1000

トランザクションで引当金を転記します。

元帳グループの G/L 勘定伝票を入力します。

- 伝票を照会します。

入力ビューと総勘定元帳ビューの両方で、ヘッダに元帳グループ L5 が表示されます。この元帳グループにのみ転記が行われています。

## 解答 27: 元帳グループ転記

### タスク:

元帳グループへの引当金の一般転記

- 元帳グループ **L5** に対して、会社コード 1000 の引当金を転記します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	<b>1000</b>
伝票日付および転記日付	<b>現在日付</b>
元帳グループ	<b>L5</b>
伝票ヘッダテキスト	<b>引当金 GR## &gt; L5</b>
画面バリアントの使用	<b>ZPROFITCENTER</b>
各明細での転記先利益センタ	<b>PRCTR##</b>
借方	<b>G/L 勘定 239000 予想損失引当金</b>
貸方	<b>G/L 勘定 79000 不足費用引当金</b>
金額	<b>明細ごとに € 1000</b>

トランザクションで引当金を転記します。

元帳グループの G/L 勘定伝票を入力します。

- 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 伝票入力 → 元帳グループの G/L 勘定伝票入力 (Enjoy) を選択します。
- ダイアログウィンドウが表示された場合は、会社コードとして **1000** を入力します。
- 会社コード入力用のダイアログウィンドウ:

項目名	値
会社コード	1000

- 続行 (Enter) を選択します。
- 基本データ

項目名	値
伝票日付	<b>本日の日付</b>
転記日付	<b>本日の日付</b>

次へ

元帳グループ	L5
伝票ヘッダテキスト	引当金 GR## > L5

- f) Enter を選択します。  
 g) 左側に画面バリアントが表示されない場合は、"ツリーオン" ボタンを押します。

明細の画面バリアントフォルダを開きます。

画面バリアント **ZPROFITCENTER** を選択します。

明細 1

項目名	値
G/L 勘定	239000
D/C	借方
伝票通貨金額	1000
利益センタ	PRCTR##

明細 2

項目名	値
G/L 勘定	79000
D/C	貸方
伝票通貨金額	1000
利益センタ	PRCTR##

- h) 伝票 → 転記を選択するか、またはシンボル(転記)を選択して、Ctrl + S キーを押します。

## 2. 伝票を照会します。

入力ビューと総勘定元帳ビューの両方で、ヘッダに元帳グループ L5 が表示されます。この元帳グループにのみ転記が行われています。

- a) 最後に行った転記を照会する場合は、以下を選択します。

伝票 → 照会(転記画面)

または、以下のメニューパスを使用します。

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 伝票 → 照会

入力ビューと総勘定元帳ビューの両方で、ヘッダに元帳グループ L5 が表示されます。この元帳グループにのみ転記が行われています。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 

## 関連情報



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 残高繰越の方法についての説明
- 会計期間テーブルを使用する利点についての説明
- 会計期間テーブルの更新
- 残高監査証跡の目的についての説明
- 伝票分割の目的の説明
- CO から FI への統合機能の説明
-



# 11 章

## 決算コックピット

### 章の概要

“決算コックピット”の章では、この領域で使用することができる主な設定オプションと機能について説明します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- テンプレート作成
- タスクリストの登録
- タスクリストのタスクの実行
- コックピットモニタを使用したタスクのチェック

### 章の内容

レッスン: 決算コックピット .....	432
演習問題 28: 決算コックピット .....	449

## レッスン: 決算コックピット

### レッスンの概要

レッスン“決算処理コックピット”では、この領域で使用可能な設定オプションと機能について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- テンプレート作成
- タスクリストの登録
- タスクリストのタスクの実行
- コックピットモニタを使用したタスクのチェック

### ビジネスシナリオ

#### 決算処理コックピットの使用可能アプリケーション



定義タスクの繰返

発生順に定義された  
(または依存関係によって  
決定された) プロセスフロー



各種責任者

すべての関係者  
が使用する  
共通インターフェース

すべての定期処理  
のステータスの文書化

図 196: 決算コックピット: 利点

決算コックピットの使用可能アプリケーション：このサポート機能を使用すると、決算処理プロセスなどの複雑なプロセスの一部を構成するトランザクションやプログラムを実行するための構造化されたインターフェースを登録することができます。構造レイアウトでは、会社コードなどの組織構造内の処理、および複数の組織構造に影響を与えるシナリオがサポートされています。

決算処理コックピットは、具体的には次のケースでアプリケーションツールとして使用できます。

- 定期的に処理が繰り返される場合 (タスク管理)
- 複数の責任者が必要となる可能性がある場合
- 固定された発生順をとるプロセス、または依存対象によって決定されるプロセス内で活動が実行される場合 (タスクの順番を管理)
- 関連する全部門で共有される統一されたインターフェースによってサポートされる必要がある活動 (会員登録や支払い処理など)
- 文書化し、関連する全部門で透過的に使用することができるようにしておく必要があるすべての定期活動のステータス
- 決算処理タスクを後からチェックするために文書化する場合

The screenshot displays the SAP Financial Cockpit interface with several open windows:

- Organizational Structure:** Shows a tree view of organizational structures, including IDeS AC 305 On 29, IDeS AC 305 On 30, IDeS AC 305 On 31, and IDeS Training AC On 00.
- Task List:** A grid showing tasks such as "Task Create GL", "Task Create F1", "Task Create F2", "Task Create F3", "Task Create F4", "Task Create F5", "Task Create F6", and "Task Create F7".
- Task List Status Meeting:** A grid showing task status meetings, including "Task Create GL", "Task Create F1", "Task Create F2", "Task Create F3", "Task Create F4", "Task Create F5", "Task Create F6", and "Task Create F7".
- Task Detail:** A detailed view of a task, showing steps like "Task Create GL", "Task Create F1", "Task Create F2", "Task Create F3", "Task Create F4", "Task Create F5", "Task Create F6", and "Task Create F7".
- Dependency Management:** A grid showing dependencies between tasks.
- Monitor:** A timeline view showing the progress of tasks over time.

図 197: 決算コックピット: 概要

決算処理をサポートするために、決算処理コックピットでは、以下のオプションが提供されています。

- ・ 決算処理プロセスに関連する組織オブジェクトを表示する階層
- ・ 組織構造にもとづくタスクリストテンプレート
- ・ タスクリストテンプレートで使用される個々の階層レベルの特性値の詳細ビュー
- ・ タスクリストテンプレートから取得されるタスクリスト
- ・ 個々のタスクリストから管理および実行されるすべてのタスクについて、処理を行ったりタスクの進捗状況を監視できるようにしたりする一覧照会
- ・ グラフィックフォームでタスクの順序、タスクのステータスと依存対象、およびクリティカルパスの概要を提供するモニタ
- ・ タスクの技術設定の評価と、バックグラウンドプログラム(スプール、ジョブログ情報)の分析を行うための詳細情報
- ・ 個々のタスクを処理するための前提条件を照会する依存対象

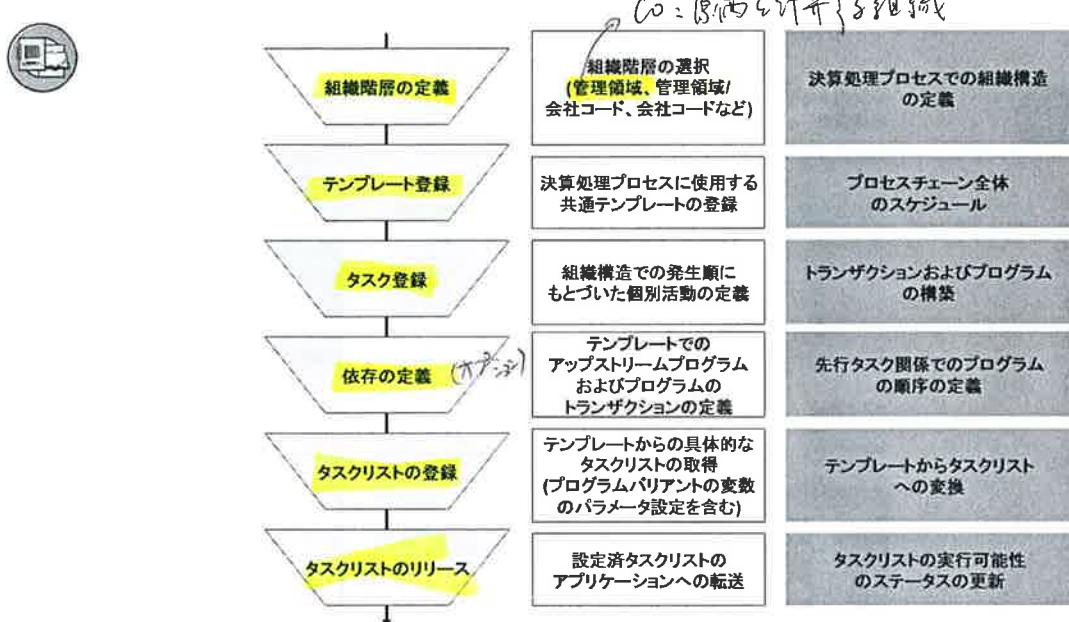


図 198: 決算コックピット: 手順

組織階層を使用すると、組織構造に応じて決算処理プロセスを管理できます。したがって、決算処理時に、たとえば会社コードレベルなどで、個別の独立した会計システム単位の特別な機能を考慮することができます。これにより、すべての会社コードに同じ処理ステップを適用するのを避けることができます。

決算処理コックピットを使用できるのは、タスクリストテンプレートが登録されて組織構造(管理領域/会社コード、会社コードなど)へ割り当てられ、タスク(サブフォルダ、トランザクション、プログラム、フロー定義、注記)がタスクリストテンプレートに割り当てられ、タスクリストが取得されて、アプリケーションに対してリリースされた後です。

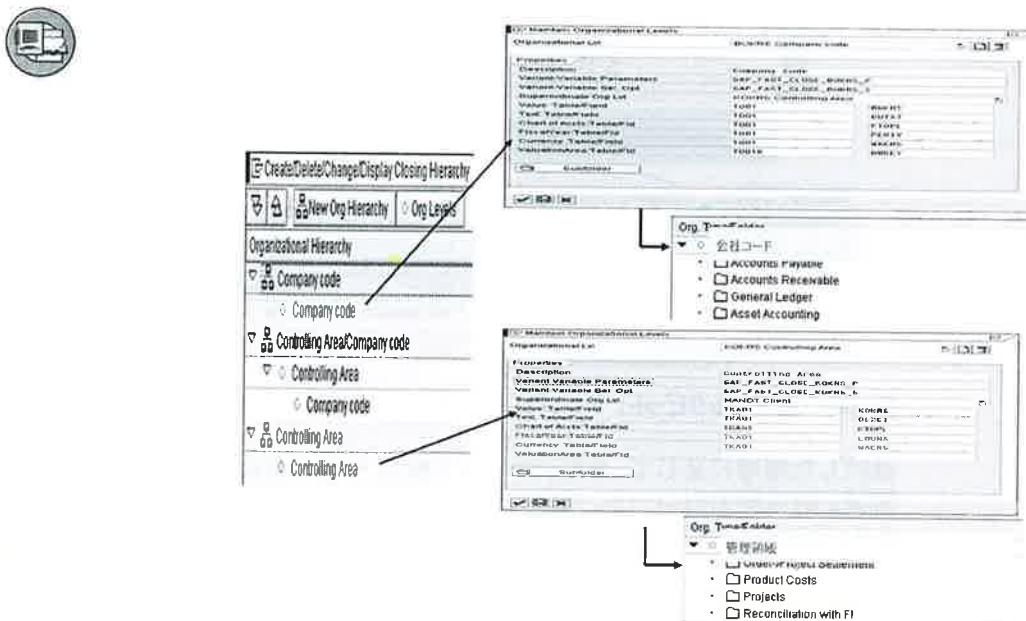


図 199: 決算コックピット: 組織レベルの選択

標準の組織レベル(管理領域と会社コード)が用意されており、決算処理プロセスに関連する組織レベルのマッピングで使用できます。

#### 組織レベルのプロパティ

選択した組織タイプから、バリアント変数のパラメータおよび選択オプションの値(会社コードパラメータの SAP\_FAST\_CLOSE\_BUKRS\_P など)が取得され、その値がテーブル TVARV で自動的に更新されます。

上位組織レベル項目で選択したエントリにより、組織階層における組織オブジェクトの以降の使用が決定されます。上位組織レベルを定義しない場合、組織オブジェクトは階層内で“初期ノード”としてのみ使用できます。

複数の組織レベルにまたがるタスクリストテンプレートのデータを要約するには、勘定コード表、会計年度バリエント、通貨、または評価領域を使用します。

1つの組織レベルの異なる属性に対して同じ下位構造(サブフォルダ)が提案されます。



図 200: 決算コックピット: テンプレートコピー

選択した階層に応じて、またシステムで使用可能な全組織オブジェクト(管理領域と割当済会社コード、すべての定義済サブフォルダを含む)を使用して、タスクリストテンプレートの提案が生成されます。

コンテキストメニューでは、すでに使用可能な組織階層に階層を追加したり、既存の階層から階層レベルを削除したりすることができます。

たとえば、システム内のすべての管理領域/会社コードに使用できるように設計され、各クライアントに格納されているテンプレートを使用して、特定のクライアントや選択した会社コードに対してコピーを登録したり、タスクフォルダへのタスクの追加、フォルダの削除、またはフォルダの挿入を行ったりすることができます。

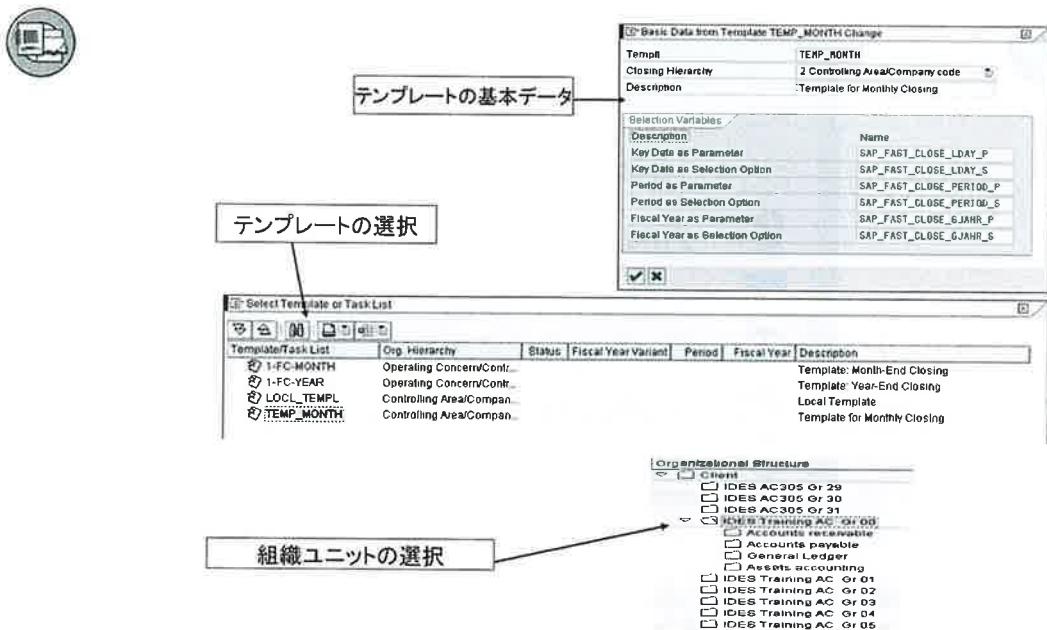


図 201: テンプレートの登録 (登録先の選択)

テンプレートは、プロセスの個別ステップを構築するために使用されます。このインターフェースでは、決算処理プロセスに関連する全ユーザが、**実行されるタスク**に関連する活動にオンラインまたはバックグラウンド処理でアクセスできます。テンプレートの範囲は、アプリケーション関連のアスペクトから決定することはできません。全体的なプロセスおよび関連する組織単位に対して範囲を決定する必要があります。

**手順:** テンプレート/タスクリスト → テンプレート登録... を選択し、テンプレートの 10 文字の技術キーを定義します。次に、決算処理階層項目から組織階層の 1 つを選択し、新規テンプレートのテキストを入力します。

テンプレートに関連する時間依存選択変数が、テンプレートヘッダに表示されるようになります。

選択した階層に応じて、またシステムで使用可能な全組織オブジェクト（管理領域と割当済会社コード、すべての定義済サブフォルダを含む）を使用して、タスクリストテンプレートの提案が生成されます。

タスクフォルダは、組織レベルをタスクリストテンプレートの下位構造へと調整するために使用されます。タスクフォルダの初期値は、組織レベルの一般的な更新でサブフォルダとして格納することができます。

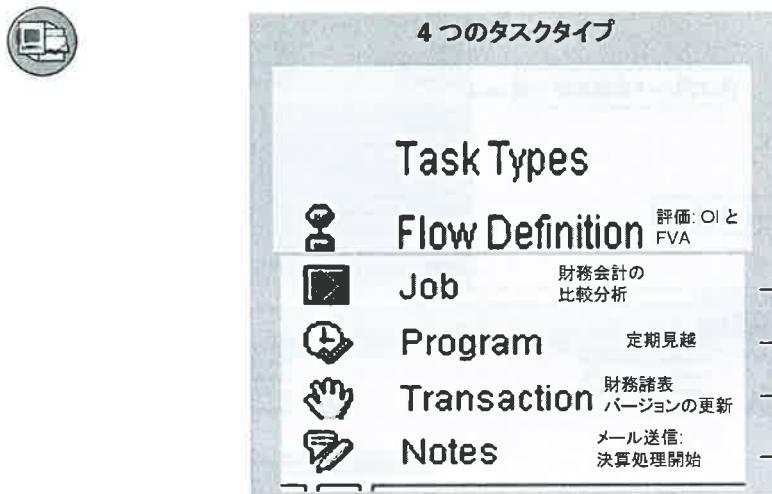


図 202: 決算コックピット: タスクタイプ

決算処理コックピット(CLOCO) アプリケーションのユーザは、プログラムおよびフロー定義の必要なトランザクションまたはバックグラウンド処理に共通インターフェースから直接アクセスできます。

次の 4 つのタスクタイプが利用可能です。

1. **プログラム:** プログラムバリアント(バックグラウンド処理)を使用します。標準プログラムは通常、バックグラウンドでの活動の処理に使用できます。これらのプログラムが対応するパラメータを使用して(すなわちバリアントを使用して)タスクリストテンプレートに含まれている場合は、後で決算処理コックピットから直接バックグラウンド処理を開始することができます。プログラムバリアントなし決算処理コックピットアプリケーションのタスクリストで、レポートを開いてオンライン処理できます。
2. **オンライントランザクション:** これらのトランザクションをタスクリストからマニュアルで開始し、決算処理コックピットから関連するアプリケーショントランザクションに直接移動することができます。
3. **注記:** 確認書またはマイルストーンとしてのみ使用します。
4. **フロー定義:** フロー定義は、自動的に処理されるバリアントのある複数のプログラムで使用されます。このようなプログラムは結合されて、一意の先行と後続の関係を持つ論理フローチェーンを構成します。

フロー定義が実行されると(または実行が計画されると)、関連するすべてのプログラムが指定された順序で処理され、その結果が詳細情報下での分析に使用できるようになります。

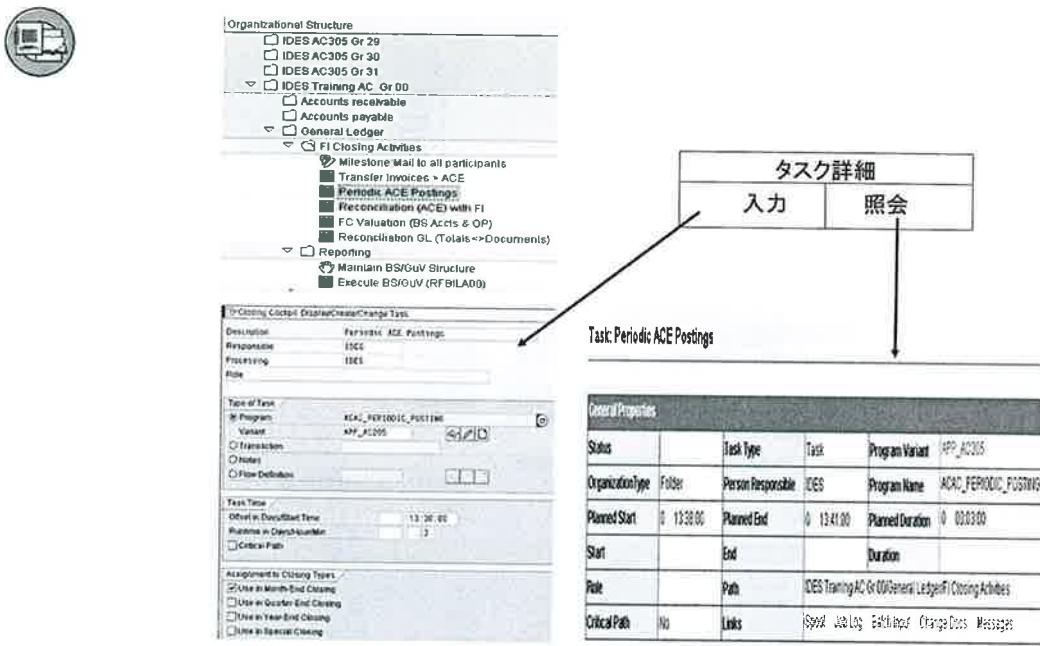


図 203: タスクの調整 (フライトルートの定義)

必要なタスクリストテンプレートをダブルクリックすると、関連する組織構造が照会されます。これにより、タスクフォルダにさまざまなタスクを登録できるようになります。タスクを割り当てるタスクフォルダまたは階層フォルダを選択します。

責任者またはタスク処理担当者としてユーザにタスクを割り当てるとき、次のように一覧照会が構築されます。

一覧照会では、タスク照会(個人処理)機能とタスク照会(責任者)機能を使用して、関連タスクを一覧表示したり、これらのタスクを割当処理担当者による処理または割当責任者による監視で使用できるようにします。

**タスク日付:** モニタのグラフィック照会では、スケジュール日付にもとづいて計画されている実行時間を定義できます。それに応じて、この計画された実行時間がモニタで照会されます。このように、決算処理の日付のスケジュールを行うことができます。

タスクの完了に重要な決算処理の期日が設定されている場合は、この活動をクリティカルパスとして識別し、その旨をアプリケーション(CLOCO)で表示することができます。

**決算処理タイプ区分**を使用すると、タスクリストの作成時に、別の決算処理タイプ(月次処理や年次処理など)に関連する特定のテンプレートからフィルタ処理でタスクを分離することができます。そのため、タスクを少なくとも1つの決算処理タイプに割り当てることが重要です。

テンプレート → リストに追加

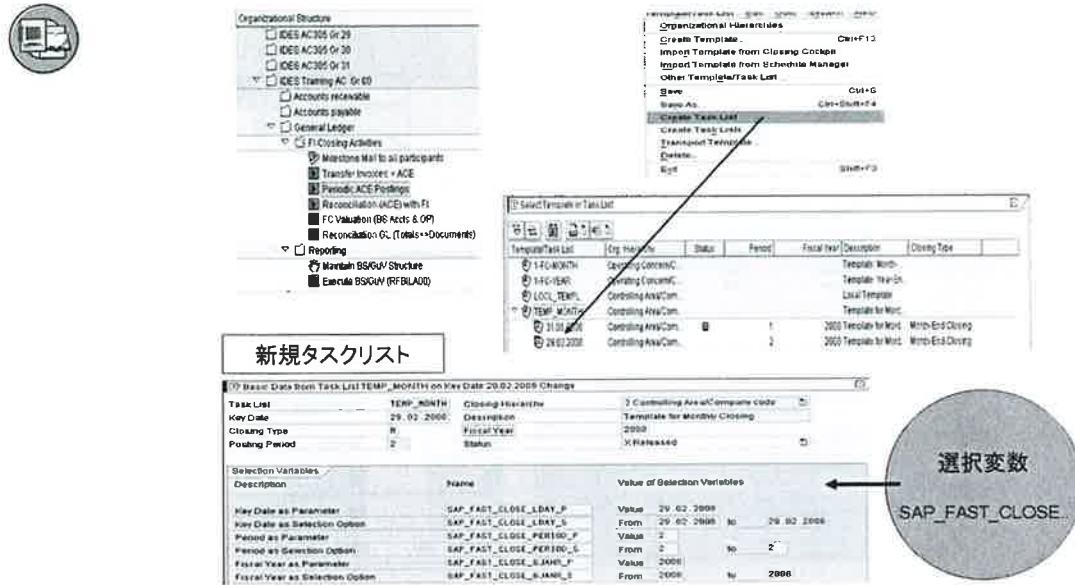


図 204: テンプレート → オートパイロットの登録

タスクリストに含まれているプログラムを実行するには、バリアント値を指定する必要があります。タスクリストからタスクリストテンプレートを分離すると、構造化プロセスフローを一般的なテンプレートとして定義し、特定のパラメータ値を使用した処理でタスクリストを使用できるようにすることができます。

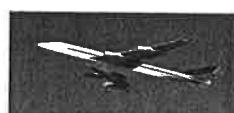
テンプレートから生成されたタスクリストを使用すると、タスクリストで対応するヘッダ情報を入力することによって、選択バリアントの時間関連のプログラムパラメータが自動的に更新されます。

テンプレート/タスクリスト→タスクリストの登録を選択します。

現在のタスクリストテンプレートから、同じ名称のタスクリストが登録されます。このタスクリストの基準日、会計年度、および会計期間の各パラメータの値を入力します。登録されたすべてのタスクリストが、基準日に応じて関連するテンプレート下に一覧表示されます。

**タスクリストで選択された決算処理タイプにもとづいて、その特定の決算処理タイプのタスク定義で許可された決算処理活動のみがタスクリストテンプレートからタスクリストに転送されます。**

アプリケーションで使用されるタスクリストを有効にするには、そのタスクリストをリースします。そのためには、ステータス項目のリリース済エントリを選択します。

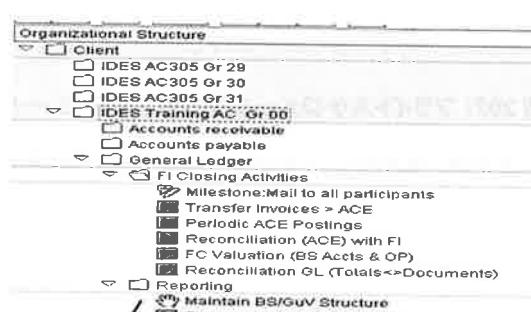


選択済タスクのスケジュール

Task List from Template TEMP_MONTH on 29.02.2008 Change					
Type	Description of a Task	ID	ISU	C/N/C	Org Path
	Milestone:Mail to all participants				IDES Training AC 0
	Transfer invoices > ACE				IDES Training AC 0/ACAC_DATA_TRANSFER_EXAMPLE_ADT_AC305
	Periodic ACE Postings				IDES Training AC 0/ACAC_PERIODIC_POSTING APP_AC305 IDES
	Reconciliation (ACE) with FI				IDES Training AC 0/ACAC_FI_RECONCILIATION APP1_AC205
	FC Valuation (BS Accts & OP)				IDES Training AC 0/SAPF100 AC205
	Reconciliation GL (Totals >> Documents)				IDES Training AC 0/SAPF100 1001
	Maintain BS/GUV Structure				IDES Training AC 0/GMB58
	Execute BS/GUV (RFBILA00)				IDES Training AC 0/RFBILA00 1001

図 205:

タスクリストがリリースされた後は、タスクリストで定義済のタスクが決算処理コックピット(CLOCO)で選択され、スケジュールされます。



依存関係: ドラッグ &amp; ドロップ

Dependencies	Stat	Path	Task
Dependencies			
Execute BS/GUV (RFBILA00) Maintain BS/GUV Structure			IDES Training AC Gr 00/General Ledger/Reporting RFBILA00 OB58

図 206: 従属するフライタ先

組織構造の一部として発生順の処理ステップを使用してタスクリストテンプレートに含まれているプログラムおよびトランザクションには、多くの場合、業務関連またはシステム関連の依存対象が含まれており、プロセスフローを円滑に処理するためには、このような対象を定義する必要があります。

決算処理コックピット(CLOCOC)の構成では、これらの先行関係を依存対象下で照会することができます。ここでプログラムとトランザクション間の関係を入力すると、この関係が後続の処理中(CLOCO)にチェックされ、必ず正しい順序が適用されます。関係の組合せは、後続関係の観点から管理されます。このように、活動に複数の先行関係を設定することができます。

依存対象の登録を行うと、決算処理アプリケーションのプログラムとトランザクションは、先行対象が(エラーなしで)正しく処理された後でないとスケジュールおよび実行を行うことができなくなります。

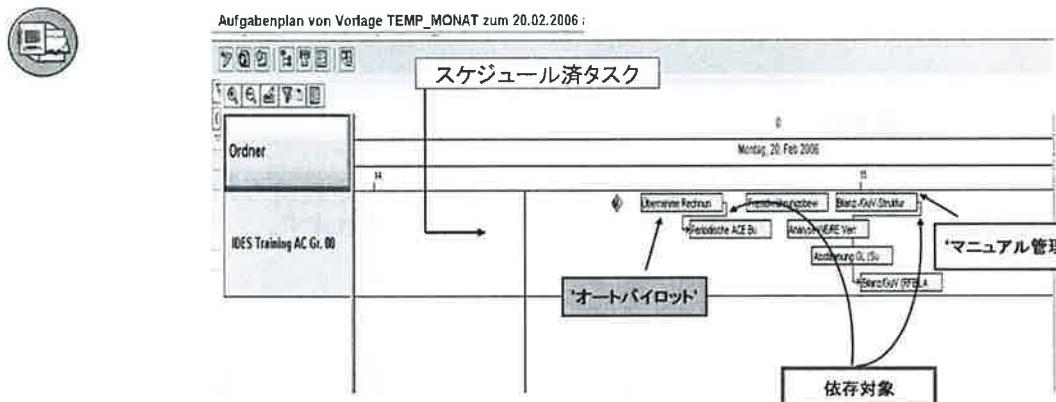


図 207: フライトスケジュールモニタ(スケジュールされたフライト先)

モニタで、スケジュールされているタスクを照会し、'自動'処理されるタスクと、'マニュアル'処理されるタスクを識別することができます。タスク間を結ぶ線は依存関係('先行'ジョブ → '後続'ジョブ)を示します。

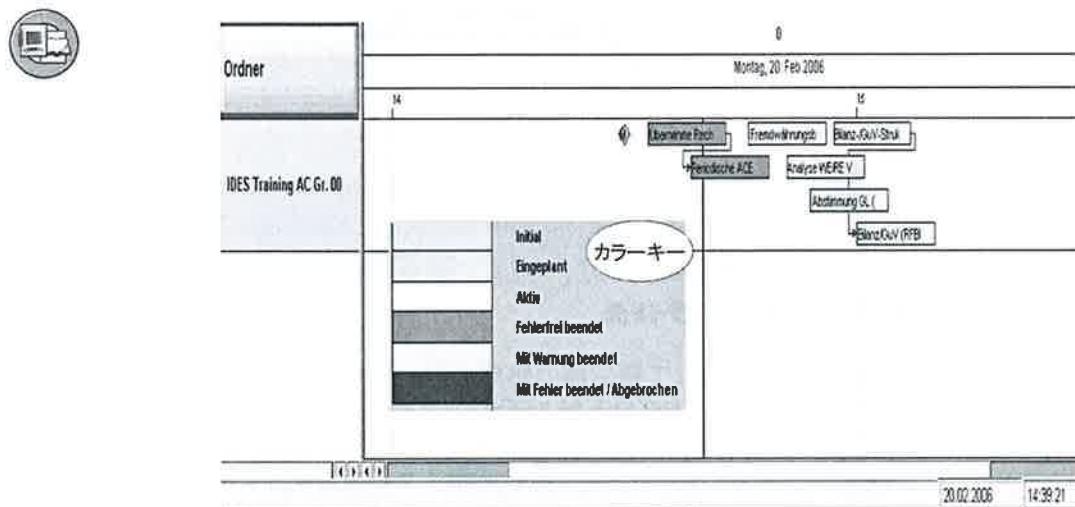
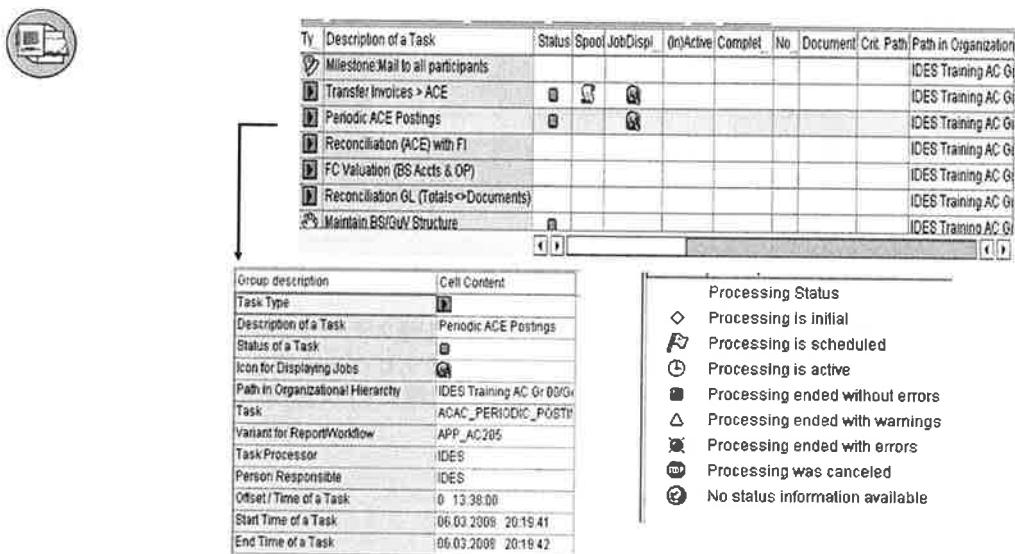


図 208: モニタ: フライト先のステータス

モニタでは、次のようにタスクの処理ステータスが表示されます。

- 青色: スケジュール済
- 灰色: 初期状態
- 緑色: 終了(エラーなし)
- 赤色: 取消/終了(エラーあり)
- 白色: 有効
- 黄色: 終了(警告あり)

青い縦線は、現在の時間を示しています。



The screenshot shows the SAP Cockpit interface. At the top, there is a navigation bar with icons for Home, Overview, and other system functions. Below the navigation bar, a large list of tasks is displayed in a table format. Each task row contains an icon, the task name, its status (color-coded), and its path in the organizational hierarchy. A vertical blue line, representing the current time, is overlaid on the list. An arrow points from the bottom of the list to a detailed view of one specific task, "Periodic ACE Postings". This detailed view is shown in a separate window below the main list. The detailed view includes fields for Group description, Task Type, Description of a Task, Status of a Task, Icon for Displaying Jobs, Path in Organizational Hierarchy, Task, Variant for Report/Workflow, Task Processor, Person Responsible, Offset/Time of a Task, Start Time of a Task, and End Time of a Task. To the right of the detailed view, a legend titled "Processing Status" maps colors to processing states: blue for initial, grey for scheduled, green for active, black for ended without errors, white for ended with warnings, red for ended with errors, orange for canceled, and light blue for no status information available.

Ty	Description of a Task	Status	Spoof	Job Disp	(In)Active	Comple	No	Document	Crit Path	Path in Organization
⌚	Milestone: Mail to all participants									IDES Training AC Gr
⌚	Transfer Invoices > ACE	■	⌚	⌚						IDES Training AC Gr
⌚	Periodic ACE Postings	■	⌚	⌚						IDES Training AC Gr
⌚	Reconciliation (ACE) with FI									IDES Training AC Gr
⌚	FC Valuation (BS Accts & OP)									IDES Training AC Gr
⌚	Reconciliation GL (Totals->Documents)									IDES Training AC Gr
⌚	Maintain BS/GW Structure									IDES Training AC Gr

Group description	Cell Content
Task Type	⌚
Description of a Task	Periodic ACE Postings
Status of a Task	■
Icon for Displaying Jobs	⌚
Path in Organizational Hierarchy	IDES Training AC Gr 000x
Task	ACAC_PERIODIC_POST
Variant for Report/Workflow	APP_AC205
Task Processor	IDES
Person Responsible	IDES
Offset/Time of a Task	0 13:38:00
Start Time of a Task	06.03.2009 20:19:41
End Time of a Task	06.03.2009 20:19:42

**Processing Status**

- ⌚ Processing is initial
- ⌚ Processing is scheduled
- ⌚ Processing is active
- Processing ended without errors
- ⌚ Processing ended with warnings
- ⌚ Processing ended with errors
- ⌚ Processing was canceled
- ⌚ No status information available

図 209: 一覧照会: タスク詳細

モニタと一覧照会は切り替えることができます。一覧照会で特定のタスクの処理ステータスを識別することもできます。

また、タスクの詳細ビューでは次が表示されます。

- 名称および内容説明
- レポート名とバリアント名
- 処理担当者と責任者
- 開始時刻と終了時刻



フライト先に到達することができない → 分析

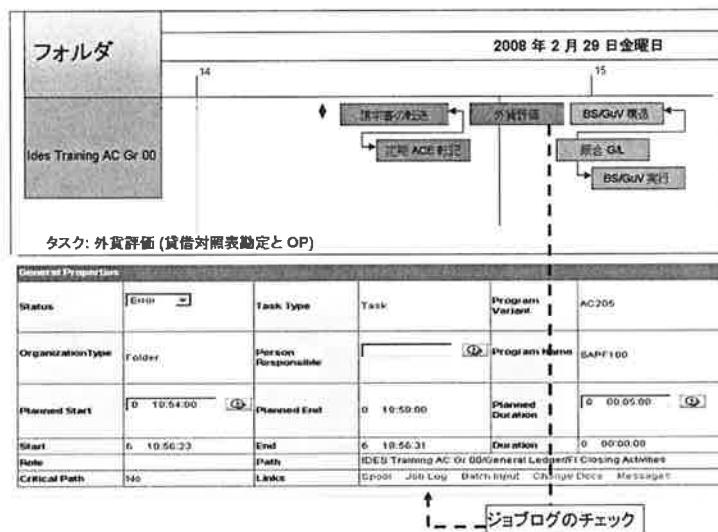


図 210: フライト先に到達していません → 分析

一覧照会では、タスクの詳細すべてと処理ステータスを照会することができます。タスクの詳細一覧にはいつでも直接ナビゲートすることができます。詳細一覧では、次のチェックまたは処理を即座に行うことができます。

- スプール依頼
- ジョブログ
- バッチインプットセッション



フライト先に到達することができない → ルート調整



図 211: フライト先に到達していません → ルート調整

タスクのステータスを変更すると、プロセスの履歴の追跡と文書化が簡単に行えるようにタスクの変更文書が更新されます。



自動処理の  
バックグラウンドジョブ  
のチェーン

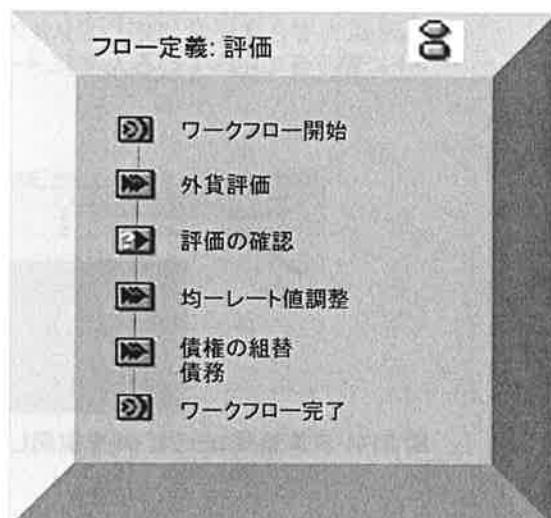


図 212: フロー定義

フロー定義では、バックグラウンドで特定の順序で実行するタスクをグループ化することができます。ワークフローを使用して、これらのフロー定義を管理します。サブフローを構成し、それらをフロー定義に組み込むことができます。

テストを目的としてユーザ決定を挿入することができます。タスクリストを使用して個々のタスクをグループ化します。一連のジョブを実行する必要がある場合は、従属するワークアイテムをすべて含めたフロー定義を登録してください。

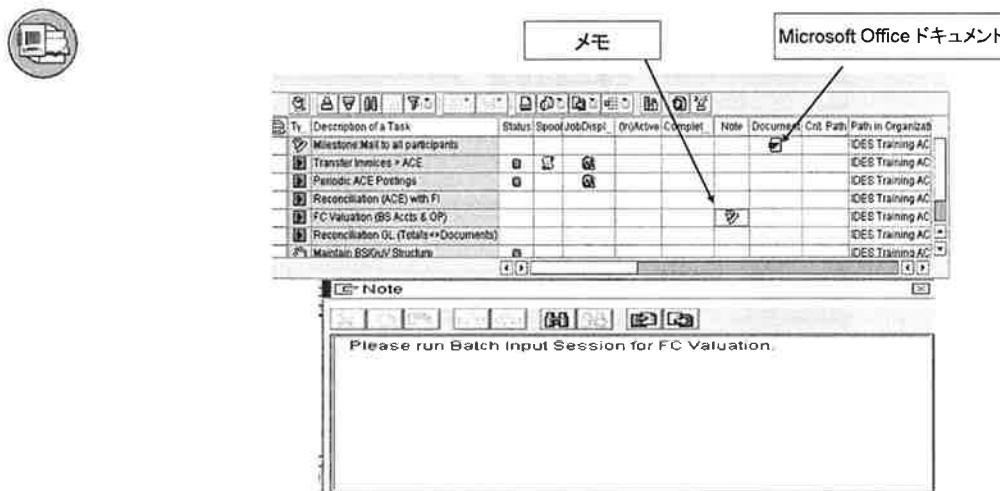


図 213: フライト先の一覧 (アクセシビリティ)

さらにタスクを指定するには、タスクの注記と文書を格納します。モニタでは、処理担当者と責任者に応じてタスクを照会することもできます。さらに、タスクリストに割り当てられている人々にメールを送信することができます。

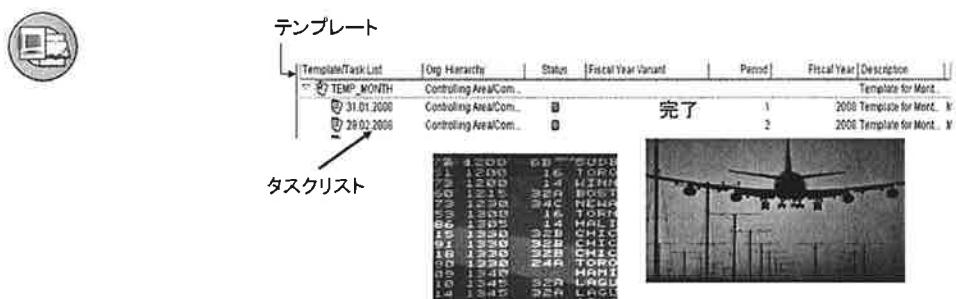


図 214: 決算処理コックピットを使用した安全着陸

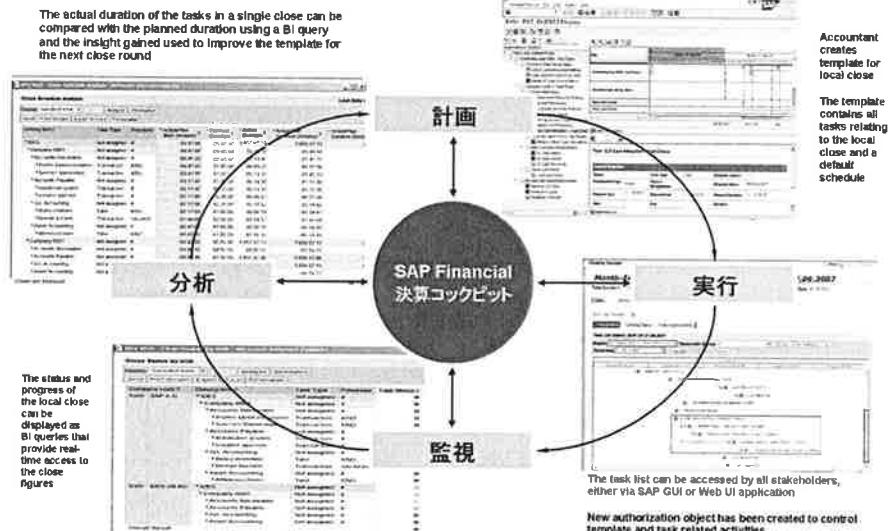
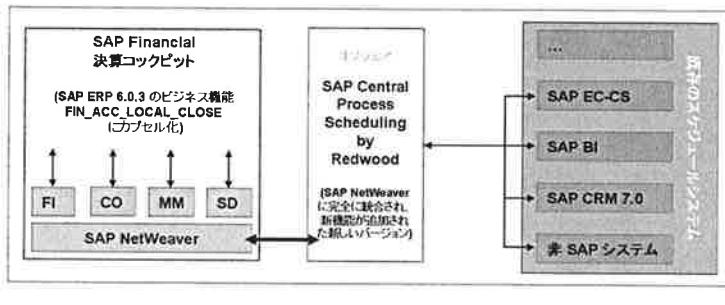


図 215: SAP Financial 決算コックピット - アプリケーションのコンセプト



## 異機種 IT ランドスケープにおけるスケジュールと監視



\* SAP Central Process Scheduling by Redwood は、以下の目的で必要です。

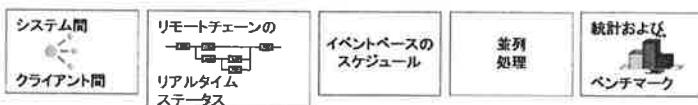


図 216: SAP Financial 決算コックピット

## 概要:

- 決算処理に関する全ユーザーが使用できる共通ツール
- タスクリストに統合された ORG 構造
- グラフィック照会と決算処理タスクを修正する機能
- タスク間の依存関係による制御の実現
- スプール、ジョブログなどへのリンク
- 決算処理プロセスのログ (変更文書)



## 演習問題 28: 決算コックピット

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- テンプレートへのタスクの割当、タスクリストの登録、およびモニタを使用したタスクのチェック

### ビジネスシナリオ

月次処理の場合、決算処理コックピットを使用して、決算処理活動を発生順に定義し、すべての関係者が 1 つの統一されたインターフェースでそれらの活動を利用できるようにします。



**注意:** AC205-## を参照するすべてのタスクで、## はグループ番号を表します。

### タスク 1: 予備転記とレポートバリアントの定義

決算コックピットを準備するには、仕入先請求書が必要です。

- 次のデータを使用して仕入先請求書を入力します(会計管理→財務会計→債務管理→伝票入力→請求書入力を使用します)。

伝票日付: 本日の日付

タイプ: KR

会社コード: AC## (## = 各自のグループ番号)

転記日付: 本日の日付

通貨: EUR

第一明細:

転記キー: 31、勘定: T-F00A00 (仕入先)

金額: 11900

税計算区分: 設定

税コード: VA

明細 2:

転記キー: 40、勘定: 433000 (割増賃金)

金額: \*

次へ

原価センタ:**T-A20A##** (## = 各自のグループ番号)

転記伝票をシミュレートしてから転記します。

2. 後続のタスクでレポートを実行するためには、バリアントが必要です。

システム → サービス → レポート

レポート: **RFBILA00**

ジャンプ → バリアントを選択します。

入力ヘルプを使用して、バリアント BILGUV-205 を選択します。コピーを選択して、このバリアントを独自のバリアント GR## (## = 各自のグループ番号) にコピーします。

バリアント GR## を選択し、変更します。

会社コード AA20 を各自の会社コード AC## (## = 各自のグループ番号) に置き換えます。また、必要に応じて、レポート年度を現会計年度に、比較年度を前会計年度に、レポート期間および比較期間(開始および終了)を現会計期間に置き換えます。

財務諸表構造 INT を独自の財務諸表構造 FS## (## = 各自のグループ番号) に置き換えます。

保存を選択してバリアントを保存します。

## タスク 2: 新規テンプレートおよびタスク

決算コックピットのタスクを開始する前に、メニュー SAP Easy Access → 補足 → 設定 → 技術名称表示を選択して、機能の横に技術名称が表示されていることを確認します。

1. テンプレート **1-FC-MONTH** をコピーして新規テンプレート **G##TEMPL** (## = 各自のグループ番号) を登録します。

テンプレート:**G##TEMPL** (## = 各自のグループ番号)

決算処理階層: 管理領域/会社コード

テキスト:テンプレート:月次処理 ## (## = 各自のグループ番号)

管理領域の値を変更し、単一の値として管理領域 **1000** (CO ヨーロッパ) のみを選択します。

会社コードの値を変更し、単一の値として会社コード **AC##** (## = 各自のグループ番号) のみを選択します。

テンプレートを保存します。

次へ

2. 会社コードフォルダのサブフォルダを登録します。

階層レベル: フォルダ

テキスト: 決算処理テスト

テンプレートを保存します。

3. タスクをサブフォルダに追加します。

テキスト: 歓迎の挨拶メール

責任者: AC205-## (## = 各自のグループ番号)

処理: AC205-## (## = 各自のグループ番号)

タスクタイプ:

プログラム: RKSCMAMAIL

バリアント: GR## (## = 各自のグループ番号) を登録します。

バリアント: 画面割当: 'すべての選択画面用' を選択します。

→ 続行

メール件名: COCKPIT CALLING グループ ## (## = 各自のグループ番号)

メール行 1: シートベルトをお締めください。

メール受信者登録:

SAP ユーザ名 AC205-## (## = 各自のグループ番号) を入力します。

属性を選択し、内容説明としてメール送信を入力します。

バリアント属性を保存します。

タスクに戻ります。決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

→ 続行

テンプレートを保存します。

4. 第 2 のタスクを決済処理テストサブフォルダに追加します。

テキスト: 仕入先残高確認

責任者: AC205-##

処理: AC205-##

タスクタイプ:

プログラム: SAPF130K

バリアント: GR## (## = 各自のグループ番号) を登録します。

次へ

仕入先: **T-F00A00**

追加選択:

個別仕入先を**選択**します。

出力管理:

連絡文書のソートバリエント: **K2** を選択します。

明細ソート: **P3** を選択します。

回答先: **AC##** (##=各自のグループ番号)

印刷制御

書式設定用プリンタ: **LP01**

統制リストのプリンタ: **LP01**

結果テーブル用プリンタ: **LP01**

エラー一覧用プリンタ: **LP01**

選択用プリンタ: **LP01**

**属性**を選択し、内容説明として**仕入先残高確認**を入力します。

また、以下の情報を選択画面に入力する必要があります。

会社コード	選択変数 <b>T</b> (TVarvc) 変数の名称: <b>SAP_FAST_CLOSE_BUKRS_S</b> を選択します。
照合基準日	選択変数 <b>D</b> (動的日期計算) 変数の名称: <b>当月最終日</b> を選択します。
発行日	選択変数 <b>T</b> (TVarvc) 変数の名称: <b>SAP_FAST_CLOSE_LDAY_P</b> を選択します。
回答日	選択変数 <b>D</b> (動的日期計算) 変数の名称: <b>現在日付 + 10 日間</b> を選択します。

バリエント属性を**保存**します。

次へ

タスクに戻ります。決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

→ 続行

テンプレートを保存します。

### タスク 3: 最初のタスクリスト: 登録および実行

1. 次に、テンプレートのタスクリストを登録します。

基準日: 本日の日付

テキスト: タスクリスト 1 (GR##)

決算処理タイプ: M (月次処理)

会計年度: 現会計年度

会計期間: 現会計期間

ステータス: リリース済

転送および終了を選択します。

タスクリストを保存します。

2. 次に、決算処理コックピットを呼び出します (トランザクション CLOCO)。変更モードに切り替えます。メニュー>テンプレート/タスクリスト→その他テンプレート/タスク一覧... を選択して、タスクリストを呼び出します。

タスクリストを選択します。

テンプレート G##TEMPL を展開し、本日のタスクリストをダブルクリックします。左側で、決算処理テストサブフォルダが見つかるまで、組織構造を開いています。フォルダをダブルクリックします。このフォルダ内の 2 つのタスクが右上に一覧表示されます。

次に、最初のタスク (歓迎の挨拶メール) を選択し、選択済タスクのスケジュールを選択します。

タスクのスケジュールが正常に終了したことが通知されます。その後に (マニュアル更新を選択する必要がある場合もあります)、登録者 AC205-## から受信した緊急文書 COCKPIT CALLING というメッセージが表示されます。

受信ボックスを選択し、文書を読みます。

決算処理コックピットに戻ります (F3、緑の矢印)。

タスクリストを選択します。

次へ

このタスクに対して、ジョブログ概要とスプール依頼表示をチェックします。左側でタスクリストからタスクを選択します。下の詳細情報で、スプールを選択してからジョブログを選択します。

次に、**第 2 のタスク (仕入先残高確認)**を選択し、選択済タスクのスケジュールを選択します。

タスクのスケジュールが正常に終了したことが通知されます。

タスク 2 (仕入先残高確認) に対して、複数のスプール番号が照会されます。次のような関連するスプール出力を照会することができます。

- 選択基準
- 残高確認書 + 回答フォーム
- 照合一覧
- 結果テーブル

別のセッションで (システム → セッション登録で) システム → サービス → 出力管理 → 選択 → 実行を選択して照会します。

次に、タスクリストのステータスを完了に設定します。

(→ 編集 → 基本データ... ステータスを "完了" に設定。)

転送および終了 (Enter) を選択します。

タスクリストを保存します。

緑の矢印を選択して SAP Easy Access メニューに戻ります。

## タスク 4: テンプレートの変更: 依存対象を使用した他のタスク

次にテンプレートを変更して、依存対象を使用した新規タスクを試してみます。決算コックピットを呼び出します (テンプレートおよびタスクリスト管理: トランザクション CLOCOC)。

1. 変更モードに切り替えます。

変更を選択します。メニューパステンプレート/タスクリスト → その他テンプレート/タスク一覧... を選択して、テンプレートを呼び出します。

テンプレート G##TEMPL をダブルクリックで選択します。

決算処理テストサブフォルダからタスクを削除します。

タスクをサブフォルダに追加します。

テキスト: 財務諸表バージョンの更新

責任者: AC205## (## = 各自のグループ番号)

処理: AC205## (## = 各自のグループ番号)

次へ

タスクタイプ: トランザクション: **OB58**

決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

→ 続行

テンプレートを保存します。

**第 2 のタスクを決済処理テストサブフォルダに追加します。**

テキスト: **財務諸表の実行**

責任者: **AC205##**

処理: **AC205##**

タスクタイプ:

プログラム: **RFBILA00**

バリアント **GR##** (## = 各自のグループ番号) を入力します。

決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

続行を選択します。

テンプレートを保存します。

画面の下部にある**依存関係**を選択します。

組織構造領域で、**財務諸表の実行**タスクをダブルクリックします。

**財務諸表バージョンの更新**タスクにカーソルを置き、ドラッグ & ドロップを使用して、このタスクを**依存関係**ボックスの**財務諸表の実行**タスク下に移動します。

テンプレートを保存します。

## タスク 5: 第 2 のタスクリスト: 登録および実行

1. 次に、テンプレートのタスクリストを登録します。

基準日: **本日の日付**

テキスト: **タスクリスト 2 (GR##)**

決算処理タイプ: **M (月次処理)**

会計年度: **現会計年度**

会計期間: **現会計期間**

ステータス: **リリース済**

次へ

転送および終了を選択します。

タスクリストを保存します。

2. 次に、決算処理コックピットを呼び出します(トランザクション CLOCO)。(メニュー: SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → CLOCO 決算処理コックピット)

変更を選択します。メニュー→パステンプレート/タスクリスト→その他テンプレート/タスク一覧... を選択して、タスクリストを呼び出します。

第 2 のタスクリスト(ステータス: リリース済)を選択します。

テンプレート G##TEMPL を展開し、本日の第 2 のタスクリストをダブルクリックします。左側で、決算処理テストサブフォルダが見つかるまで、組織構造を展開します。フォルダをダブルクリックします。このフォルダ内の 2 つのタスクが右上に一覧表示されます。

モニタ照会に切り替えます。

組織構造領域で、もう一度決算処理テストサブフォルダをダブルクリックし、フォルダとしてモニタに表示されるようにします。次に、モニタで依存対象がより明確に表示されるように、拡大を複数回選択します。

一覧照会に切り替えます。

次に、第 2 のタスク(財務諸表の実行)を選択し、選択済タスクのスケジュールを選択します。

タスクのスケジュールが正常に終了したことが通知されます。

ステータスマッセージ(処理は有効です)とジョブ照会のアイコンが設定されるまで待機し、次にマニュアル更新を選択します。

タスクのステータスが異常終了に変更されます(タスクは取り消されています)。

次に、ジョブログをクリックします。

“タスク'財務諸表の実行'の先行タスクである'財務諸表バージョンの更新'のステータスが、'財務諸表の実行タスクが取り消されました'になりました”などのメッセージが表示されます。

緑の矢印を選択して、前画面に戻ります。

次に、最初のタスクである財務諸表バージョンの更新を選択します。

右クリックしてトランザクション実行を選択します。財務諸表バージョン FS## (##=各自のグループ番号) が見つかるまでスクロールダウンします。バージョンをダブルクリックします。

B/S P/L 項目を選択します。

次へ

科目 **3061000 賃金/給与**が見つかるまで、構造を展開します。下位レベルの科目 **3061090 その他賃金/給与**で、勘定割当 **433000** が見つかりません。

これは、最初の仕入先請求書で転記する勘定であり、この勘定は後からさまざまなコックピットタスクに必要となります。この勘定をこの科目に追加します。借方/貸方フラグを設定する必要があります。

続行 (Enter) を選択します。

バージョンを保存します。次のメッセージが表示されます。“財務諸表バージョン FS## が保存されました”。

タスクリストに戻ります (緑の矢印を 3 回選択します)。

タスクのステータスを変更します。財務諸表バージョンの更新タスクを選択し、右クリックを使用して Stat. マニュアル変更を選択してから、処理が正常終了しましたを選択します。次のメッセージが表示されます。依存対象のステータスも変更しますか。いいえを選択します。

このタスクのステータスは終了 (エラーなし)となりました。次に、財務諸表バージョンの更新タスクをダブルクリックします。

詳細情報で、このタスクの (新しいステータスを含む) 変更伝票を照会します。

変更伝票を選択します。

転送および終了を選択します。

次に、第 2 のタスクである財務諸表の実行を選択します。選択済タスクのスケジュールを選択します。

別のウインドウに“財務諸表の実行タスクが正常にスケジュールされました”というメッセージが表示されます。このウインドウを閉じます。

ステータスマッセージ (処理は有効です) とジョブ照会のアイコンが設定されるまで待機し、次にマニュアル更新を選択します。

ステータスを終了 (エラーなし) に変更する必要があります。

ジョブログを照会します (“財務諸表の実行の先行タスクである財務諸表バージョンの更新のステータスが、'タスクがエラーなく終了しました'になりました。財務諸表の実行タスクが開始されました”などのメッセージが表示されます)。

また、財務諸表のスプール出力も照会します。

開始時間と終了時間、期間、選択基準などの詳細については、**詳細情報**領域を参照してください。第 2 のタスクリストのステータスを完了に設定します (→ 編集 → 基本データ... ステータスを “完了” に設定)。

転送および終了 (Enter) を選択します。

次へ

タスクリストを保存します。

次のメッセージが表示されます。タスクリスト *G##TEMPLE* (日付:  
*XXXX.XX.XX*) は正常に保存されました。

緑の矢印を選択して SAP Easy Access メニューに戻ります。

## 解答 28: 決算コックピット

### タスク 1: 予備転記とレポートバリエントの定義

決算コックピットを準備するには、仕入先請求書が必要です。

- 次のデータを使用して仕入先請求書を入力します(会計管理→財務会計→債務管理→伝票入力→請求書入力を使用します)。

伝票日付: 本日の日付

タイプ: KR

会社コード: AC## (##=各自のグループ番号)

転記日付: 本日の日付

通貨: EUR

第一明細:

転記キー: 31、勘定: T-F00A00 (仕入先)

金額: 11900

税計算区分: 設定

税コード: VA

明細 2:

転記キー: 40、勘定: 433000 (割増賃金)

金額: \*

原価センター: T-A20A## (##=各自のグループ番号)

転記伝票をシミュレートしてから転記します。

- 次のデータを使用して仕入先請求書を入力します(会計管理→財務会計→債務管理→伝票入力→請求書入力を使用します)。

伝票日付	本日の日付
伝票タイプ	KR
会社コード	AC##
転記日付	本日の日付

次へ

通貨	EUR
----	-----

明細 1

転記キー	31
勘定	T-F00A00 (仕入先)

ENTER

金額	11900
税額計算	設定
税コード	VA

明細 2:

転記キー	40
勘定	433000 (割増賃金)

ENTER

金額	*
原価センタ	T-A20A##

転記伝票をシミュレートしてから転記します。

伝票 → シミュレート

伝票 → 転記

2. 後続のタスクでレポートを実行するためには、バリアントが必要です。

システム → サービス → レポート

レポート: RFBILA00

ジャンプ → バリアントを選択します。

入力ヘルプを使用して、バリアント BILGUV-205 を選択します。コピーを選択して、このバリアントを独自のバリアント GR## (## = 各自のグループ番号) にコピーします。

バリアント GR## を選択し、変更します。

次へ

会社コード AA20 を各自の会社コード AC## (## = 各自のグループ番号) に置き換えます。また、必要に応じて、レポート年度を現会計年度に、比較年度を前会計年度に、レポート期間および比較期間(開始および終了)を現会計期間に置き換えます。

財務諸表構造 INT を独自の財務諸表構造 FS## (## = 各自のグループ番号) に置き換えます。

保存を選択してバリアントを保存します。

- a) システム → サービス → レポートを選択します。

レポート	RFBILA00
------	----------

ジャンプ → バリアントを選択します。

バリアント	BILGUV-205
-------	------------

入力ヘルプ一覧からダブルクリックして選択します。

コピーを選択します。

コピー元バリアント:	BILGUV-205
コピー先バリアント:	GR## (## = 各自のグループ番号)

続いて、バリアント GR## (## = 各自のグループ番号) を入力し、変更を選択します。

会社コード	AA20 を各自の会社コード番号に置き換えます(たとえば、グループ番号 01 の場合は、AC01 を入力します)。
レポート年度	現会計年度
比較年	前年度
レポート期間および比較期間	現会計期間
財務諸表バージョン	INT を独自の構造 FS## (## = 各自のグループ番号) に置き換えます。

バリアントとして保存します。

次へ

## タスク 2: 新規テンプレートおよびタスク

決算コックピットのタスクを開始する前に、メニュー SAP Easy Access → 補足 → 設定 → 技術名称表示を選択して、機能の横に技術名称が表示されていることを確認します。

1. テンプレート **1-FC-MONTH** をコピーして新規テンプレート **G##TEMPL** (## = 各自のグループ番号) を登録します。

テンプレート:**G##TEMPL** (## = 各自のグループ番号)

決算処理階層: 管理領域/会社コード

テキスト:テンプレート:月次処理 ## (## = 各自のグループ番号)

管理領域の値を変更し、単一の値として管理領域 **1000** (CO ヨーロッパ) のみを選択します。

会社コードの値を変更し、単一の値として会社コード **AC##** (## = 各自のグループ番号) のみを選択します。

次へ

テンプレートを保存します。

- メニュー SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → CLOCOC 決算処理コックピット(テンプレートおよびタスクリスト管理)を選択します。

- 変更モードに切り替えます(決算処理コックピットの変更)。

- テンプレート 1-FC-MONTH を選択します。メニュー テンプレート/タスクリスト → その他 テンプレート/タスク一覧... を選択します。

- テンプレート 1-FC-MONTH をダブルクリックします。

- このテンプレートをコピーします。

- テンプレート/タスクリスト → 別名保存... を選択し、G##TEMPL (## = 各自のグループ番号)という名称でテンプレートを保存します。

決算処理階層: 管理領域/会社コード

テキスト: テンプレート: 月次処理 ## (## = 各自のグループ番号)

- 組織構造で、管理領域にカーソルを置き、右クリックを使用して 値変更を選択します。

選択の変更を選択します。単一の値として 1000 を入力します。エンタリをコピーしてから、終了(Enter)を選択します。

- 組織構造で、会社コードにカーソルを置き、右クリックを使用して 値変更を選択します。

選択の変更を選択します。単一の値として AC## (## = 各自のグループ番号)を入力します。エンタリをコピーしてから、終了(Enter)を選択します。

- テンプレートを保存します。

## 2. 会社コードフォルダのサブフォルダを登録します。

階層レベル: フォルダ

テキスト: 決算処理テスト

テンプレートを保存します。

- 組織構造で、会社コードにカーソルを置き、右クリックを使用して サブフォルダ登録を選択します。

階層レベル: フォルダ

テキスト: 決算処理テスト

テンプレートを保存します。

## 3. タスクをサブフォルダに追加します。

テキスト: 歓迎の挨拶メール

次へ

責任者:AC205-## (## = 各自のグループ番号)

処理:AC205-## (## = 各自のグループ番号)

タスクタイプ:

プログラム: RKSCMAMAIL

バリアント:GR## (## = 各自のグループ番号) を登録します。

バリアント:画面割当: 'すべての選択画面用' を選択します。

→ 続行

メール件名:COCKPIT CALLING グループ ## (## = 各自のグループ番号)

メール行 1:シートベルトをお締めください。

メール受信者登録:

SAP ユーザ名 AC205-## (## = 各自のグループ番号) を入力します。

属性を選択し、内容説明としてメール送信を入力します。

バリアント属性を保存します。

タスクに戻ります。決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

→ 続行

次へ

テンプレートを保存します。

- a) 組織構造で、決算処理テストフォルダにカーソルを置き、右クリックを使用してタスク追加... を選択します。

以下の情報を入力します。

テキスト	歓迎の挨拶メール
責任者	AC205-##
処理	AC205-##

タスクタイプ:

プログラム	RKSCMAMAIL
バリエント	GR## (## = 各自のグループ番号)

登録を選択します。バリエント:画面割当: '全選択画面用' を選択します。

→ 続行

メール表題: COCKPIT CALLING グループ ## (## = 各自のグループ番号)

メール行 1: シートベルトをお締めください。

メール受信者登録: SAP ユーザ名 AC205-## (## = 各自のグループ番号) を入力します。

属性を選択し、内容説明としてメール送信を入力します。

バリエント属性を保存します。

タスクに戻ります。決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

→ 続行

テンプレートを保存します。

4. 第 2 のタスクを決済処理テストサブフォルダに追加します。

テキスト: 仕入先残高確認

責任者: AC205-##

処理: AC205-##

タスクタイプ:

次へ

プログラム: **SAPPF130K**

バリアント: **GR##** (## = 各自のグループ番号) を登録します。

仕入先: **T-F00A00**

追加選択:

個別仕入先を選択します。

出力管理:

連絡文書のソートバリアント: **K2** を選択します。

明細ソート: **P3** を選択します。

回答先: **AC##** (## = 各自のグループ番号)

印刷制御

書式設定用プリンタ: **LP01**

統制リストのプリンタ: **LP01**

結果テーブル用プリンタ: **LP01**

エラー一覧用プリンタ: **LP01**

選択用プリンタ: **LP01**

属性を選択し、内容説明として仕入先残高確認を入力します。

また、以下の情報を選択画面に入力する必要があります。

次へ

会社コード	選択変数 <b>T</b> (TVarvc) 変数の名称: <b>SAP_FAST_CLOSE_BUKRS_S</b> を選択します。
照合基準日	選択変数 <b>D</b> (動的日付計算) 変数の名称: <b>当月最終日</b> を選択します。
発行日	選択変数 <b>T</b> (TVarvc) 変数の名称: <b>SAP_FAST_CLOSE_LDAY_P</b> を選択します。
回答日	選択変数 <b>D</b> (動的日付計算) 変数の名称: <b>現在日付 + 10 日間</b> を選択します。

バリアント属性を保存します。

タスクに戻ります。決算処理タイプへの割当てで、**月次処理**で使用を選択します。

→ 続行

テンプレートを保存します。

- a) 組織構造で、決算処理テストフォルダにカーソルを置き、右クリックを使用して**タスク追加...**を選択します。以下の情報を入力します。

テキスト	仕入先残高確認
責任者	AC205-##
処理	AC205-##

タスクタイプ:

プログラム	SAPF130K
バリアント	GR## (## = 各自のグループ番号)

登録を選択します。

仕入先: T-F00A00

追加選択:

次へ

個別仕入先を選択します。

出力管理:

連絡文書のソートバリアント: **K2** を選択します。

明細ソート: **P3** を選択します。

回答先: **AC##** (## = 各自のグループ番号)

印刷制御

書式設定用プリンタ: **LP01**

統制リストのプリンタ: **LP01**

結果テーブル用プリンタ: **LP01**

エラー一覧用プリンタ: **LP01**

選択用プリンタ: **LP01**

属性を選択し、内容説明として仕入先残高確認を入力します。

また、以下の情報を選択画面に入力する必要があります。

会社コード	選択変数 <b>T</b> (TVarvc) 変数の名称: <b>SAP_FAST_CLOSE_BUKRS_S</b> を選択します。
照合基準日	選択変数 <b>D</b> (動的日付計算) 変数の名称: <b>当月最終日</b> を選択します。
発行日	選択変数 <b>T</b> (TVarvc) 変数の名称: <b>SAP_FAST_CLOSE_LDAY_P</b> を選択します。
回答日	選択変数 <b>D</b> (動的日付計算) 変数の名称: <b>現在日付 + 10 日間</b> を選択します。

バリアント属性を保存します。

タスクに戻ります。決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

→ 続行

テンプレートを保存します。

次へ

## タスク 3: 最初のタスクリスト: 登録および実行

1. 次に、テンプレートのタスクリストを登録します。

基準日: 本日の日付

テキスト: タスクリスト 1 (GR##)

決算処理タイプ: M (月次処理)

会計年度: 現会計年度

会計期間: 現会計期間

ステータス: リリース済

転送および終了を選択します。

タスクリストを保存します。

- a) テンプレート/タスクリスト→ タスクリスト登録 (E)を選択します。

以下の情報を入力します。

基準日: 本日の日付

テキスト: タスクリスト 1 (GR##)

決算処理タイプ: M (月次処理)

会計年度: 現会計年度

会計期間: 現会計期間

ステータス: リリース済を選択します。

転送および終了を選択します。

タスクリストを保存します。

2. 次に、決算処理コックピットを呼び出します (トランザクション CLOCO)。変更モードに切り替えます。メニュー→テンプレート/タスクリスト→その他テンプレート/タスク一覧... を選択して、タスクリストを呼び出します。

タスクリストを選択します。

テンプレート G##TEMPL を展開し、本日のタスクリストをダブルクリックします。左側で、決算処理テストサブフォルダが見つかるまで、組織構造を開きます。フォルダをダブルクリックします。このフォルダ内の 2 つのタスクが右側に一覧表示されます。

次に、最初のタスク (歓迎の挨拶メール) を選択し、選択済タスクのスケジュールを選択します。

次へ

タスクのスケジュールが正常に終了したことが通知されます。その後に(マニュアル更新を選択する必要がある場合もあります)、登録者AC205-##から受信した緊急文書 COCKPIT CALLING というメッセージが表示されます。

受信ボックスを選択し、文書を読みます。

決算処理コックピットに戻ります(F3、緑の矢印)。

タスクリストを選択します。

このタスクに対して、ジョブログ概要とスプール依頼表示をチェックします。左側でタスクリストからタスクを選択します。下の詳細情報で、スプールを選択してからジョブログを選択します。

次に、**第2のタスク(仕入先残高確認)**を選択し、選択済タスクのスケジュールを選択します。

タスクのスケジュールが正常に終了したことが通知されます。

タスク2(仕入先残高確認)に対して、複数のスプール番号が照会されます。次のような関連するスプール出力を照会することができます。

- 選択基準

- 残高確認書 + 回答フォーム

- 照合一覧

- 結果テーブル

別のセッションで(システム→セッション登録で)システム→サービス→出力管理→選択→実行を選択して照会します。

次に、タスクリストのステータスを完了に設定します。

(→編集→基本データ...ステータスを"完了"に設定。)

転送および終了(Enter)を選択します。

タスクリストを保存します。

緑の矢印を選択してSAP Easy Accessメニューに戻ります。

a) トランザクションCLOCOを呼び出します。または、次の方法もあります。

メニュー SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → CLOCO 決算処理コックピットを選択します。

変更モードに切り替えます(決算処理コックピットの変更)。

テンプレート/タスクリスト→その他テンプレート/タスク一覧...を選択して、タスクリストを呼び出します。

次へ

テンプレート G##TEMPL を展開し、ステータスが“リリース済”の本日のタスクリストをダブルクリックします。

**決算処理テスト**サブフォルダが見つかるまで、組織構造を展開します。フォルダをダブルクリックします。2つのタスクが右側に一覧表示されます。

左側で最初のタスク（**歓迎の挨拶メール**）を選択します。**選択済タスクのスケジュール**を選択します。別のウィンドウに“タスク‘歓迎の挨拶メールのスケジュール’が完了しました”というメッセージが表示されます。

このウィンドウを閉じます。

その直後に（マニュアル更新を選択する必要がある場合もあります），“登録者 AC205-## から受信した緊急文書 COCKPIT CALLING グループ ##”というメッセージが表示されます。

受信ボックスを選択します。

メールを読んで、タスクリストに戻ります（緑の矢印）。

“歓迎の挨拶メール”タスクの詳細情報を読みます。画面の右下に、スプールおよびジョブログへのリンクが表示されます。このデータを照会します。

左側で第 2 のタスク（**仕入先残高確認**）を選択します。**選択済タスクのスケジュール**を選択します。別のウィンドウに“タスク‘仕入先残高確認’のスケジュールが完了しました”というメッセージが表示されます。

このウィンドウを閉じます。

“仕入先残高確認”タスクの詳細情報を読みます。

タスクが完了したら、別のセッションで（システム → セッション開始で）システム → サービス → 出力制御 → 選択 → 実行を選択して、4 つのスプール一覧を照会することができます。

最初のタスクリストのステータスを完了に変更します。

編集 → 基本データを選択します。

ステータスを完了に設定します。

転送および終了 (Enter) を選択します。

保存します。

次のメッセージが表示されます。“タスクリスト G##TEMPLE (日付: XXXX.XX.XX) は正常に保存されました。”

次へ

## タスク 4: テンプレートの変更: 依存対象を使用した他のタスク

次にテンプレートを変更して、依存対象を使用した新規タスクを試してみます。決算コックピットを呼び出します（テンプレートおよびタスクリスト管理: トランザクション CLOCOC）。

1. 変更モードに切り替えます。

変更を選択します。メニュー→パス→テンプレート/タスクリスト→その他テンプレート/タスク一覧... を選択して、テンプレートを呼び出します。

テンプレート **G##TEMPL** をダブルクリックで選択します。

**決算処理テスト**サブフォルダからタスクを削除します。

タスクをサブフォルダに追加します。

テキスト: **財務諸表バージョンの更新**

責任者: **AC205-##** (## = 各自のグループ番号)

処理: **AC205-##** (## = 各自のグループ番号)

タスクタイプ: トランザクション: **OB58**

決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

→ 続行

テンプレートを保存します。

第 2 のタスクを決済処理テストサブフォルダに追加します。

テキスト: **財務諸表の実行**

責任者: **AC205-##**

処理: **AC205-##**

タスクタイプ:

プログラム: **RFBILA00**

バリエント **GR##** (## = 各自のグループ番号) を入力します。

決算処理タイプへの割当てで、月次処理で使用を選択します。

続行を選択します。

テンプレートを保存します。

画面の下部にある**依存関係**を選択します。

組織構造領域で、**財務諸表の実行**タスクをダブルクリックします。

次へ

財務諸表バージョンの更新タスクにカーソルを置き、ドラッグ & ドロップを使用して、このタスクを依存関係ボックスの財務諸表の実行タスク下に移動します。

テンプレートを保存します。

- a) メニュー SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → CLOCOC 決算コックピット(テンプレートおよびタスクリスト管理)を選択します。

変更モードに切り替えます。(決算処理コックピットの変更。)

テンプレート G##TEMPL を選択します。メニュー テンプレート/タスクリスト → その他 テンプレート/タスク一覧... を選択します。

テンプレート G##TEMPL をダブルクリックします。

決算処理テストサブフォルダからタスクを削除します。

最初のタスク(歓迎の挨拶メール)を選択します。次に、第 2 のタスクである仕入先残高確認も選択するために、Ctrl キーを押します。右クリックしてタスク削除を選択します。次のメッセージが表示されます。“選択されたタスクを削除しますか”。はいを選択します。

決算処理テストサブフォルダを選択します。右クリックしてタスク追加... を選択します。以下の情報を入力します。

テキスト	財務諸表バージョンの更新
責任者	AC205-##
処理	AC205-##

タスクタイプ: トランザクションを選択し、OB58 と入力します。

決算処理タイプへの割当: 月次処理で使用を選択します。

続行 (Enter) を選択します。

テンプレートを保存します。

第 2 のタスクを決済処理テストサブフォルダに追加します。決算処理テストサブフォルダを選択します。右クリックしてタスク追加... を選択します。以下の情報を入力します。

テキスト	財務諸表の実行
責任者	AC205-##
処理	AC205-##

次へ

タスクタイプ: プログラムを選択し、**RFBILA00**と入力します。  
バリアント GR## (## = 各自のグループ番号)を入力します。  
決算処理タイプへの割当で、月次処理で使用を選択します。  
続行を選択します。  
テンプレートを保存します。  
画面の下部にある**依存関係**をダブルクリックします。  
組織構造領域で、**財務諸表の実行タスク**をダブルクリックします。  
**財務諸表バージョンの更新タスク**にカーソルを置き、ドラッグ & ドロップを使用して、このタスクを依存関係ボックスの**財務諸表の実行タスク**下に移動します。  
テンプレートを保存します。

## タスク 5: 第 2 のタスクリスト: 登録および実行

1. 次に、テンプレートのタスクリストを登録します。

基準日: 本日の日付

テキスト: タスクリスト 2 (GR##)

決算処理タイプ: M (月次処理)

会計年度: 現会計年度

会計期間: 現会計期間

ステータス: リリース済

転送および終了を選択します。

次へ

タスクリストを保存します。

- a) テンプレート/タスクリスト→タスクリストの登録を選択します。以下の情報を入力します。

基準日: 本日の日付

テキスト: タスクリスト 2 (GR##)

決算処理タイプ: M (月次処理)

会計年度: 現会計年度

会計期間: 現会計期間

ステータス: リリース済を選択します。

転送および終了を選択します。

タスクリストを保存します。

2. 次に、決算処理コックピットを呼び出します(トランザクション CLOCO)。(メニュー: SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → CLOCO 決算処理コックピット)

変更を選択します。メニュー→テンプレート/タスクリスト→その他テンプレート/タスク一覧... を選択して、タスクリストを呼び出します。

第2のタスクリスト(ステータス: リリース済)を選択します。

テンプレート G##TEMPL を展開し、本日の第2のタスクリストをダブルクリックします。左側で、決算処理テストサブフォルダが見つかるまで、組織構造を開けます。フォルダをダブルクリックします。このフォルダ内の2つのタスクが右上に一覧表示されます。

モニタ照会に切り替えます。

組織構造領域で、もう一度決算処理テストサブフォルダをダブルクリックし、フォルダとしてモニタに表示されるようにします。次に、モニタで依存対象がより明確に表示されるように、拡大を複数回選択します。

一覧照会に切り替えます。

次に、第2のタスク(財務諸表の実行)を選択し、選択済タスクのスケジュールを選択します。

タスクのスケジュールが正常に終了したことが通知されます。

ステータスマッセージ(処理は有効です)とジョブ照会のアイコンが設定されるまで待機し、次にマニュアル更新を選択します。

タスクのステータスが異常終了に変更されます(タスクは取り消されています)。

次に、ジョブログをクリックします。

次へ

“タスク'財務諸表の実行'の先行タスクである'財務諸表バージョンの更新'のステータスが、'財務諸表の実行タスクが取り消されました'になりました”などのメッセージが表示されます。

緑の矢印を選択して、前画面に戻ります。

次に、最初のタスクである財務諸表バージョンの更新を選択します。

右クリックしてトランザクション実行を選択します。財務諸表バージョン FS## (##=各自のグループ番号) が見つかるまでスクロールダウンします。バージョンをダブルクリックします。

B/S P/L 項目を選択します。

科目 3061000 賃金/給与が見つかるまで、構造を開けます。下位レベルの科目 3061090 その他賃金/給与で、勘定割当 433000 が見つかりません。

これは、最初の仕入先請求書で転記する勘定であり、この勘定は後からさまざまなコックピットタスクに必要となります。この勘定をこの科目に追加します。借方/貸方フラグを設定する必要があります。

続行(Enter)を選択します。

バージョンを保存します。次のメッセージが表示されます。“財務諸表バージョン FS## が保存されました”。

タスクリストに戻ります(緑の矢印を3回選択します)。

タスクのステータスを変更します。財務諸表バージョンの更新タスクを選択し、右クリックを使用して Stat. マニュアル変更を選択してから、処理が正常終了しましたを選択します。次のメッセージが表示されます。依存対象のステータスも変更しますか。いいえを選択します。

このタスクのステータスは終了(エラーなし)となりました。次に、財務諸表バージョンの更新タスクをダブルクリックします。

詳細情報で、このタスクの(新しいステータスを含む)変更伝票を照会します。

変更伝票を選択します。

転送および終了を選択します。

次に、第2のタスクである財務諸表の実行を選択します。選択済タスクのスケジュールを選択します。

別のウィンドウに“財務諸表の実行タスクが正常にスケジュールされました”というメッセージが表示されます。このウィンドウを閉じます。

ステータスマッセージ(処理は有効です)とジョブ照会のアイコンが設定されるまで待機し、次にマニュアル更新を選択します。

ステータスを終了(エラーなし)に変更する必要があります。

次へ

ジョブログを照会します（“財務諸表の実行の先行タスクである財務諸表バージョンの更新のステータスが、’タスクがエラーなく終了しました’になりました。財務諸表の実行タスクが開始されました”などのメッセージが表示されます）。

また、財務諸表のスプール出力も照会します。

開始時間と終了時間、期間、選択基準などの詳細については、**詳細情報領域**を参照してください。第2のタスクリストのステータスを完了に設定します（→ 編集→ 基本データ... ステータスを”完了”に設定）。

転送および終了(Enter)を選択します。

タスクリストを保存します。

次のメッセージが表示されます。タスクリスト G##TEMPLE (日付: XXXX.XX.XX) は正常に保存されました。

緑の矢印を選択して SAP Easy Access メニューに戻ります。

- a) 決算コックピットを呼び出します（トランザクション CLOCO）(SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → CLOCO - 決算処理コックピット）。変更を選択します。

メニュー→パステンプレート/タスクリスト→その他テンプレート/タスク一覧... を選択して、タスクリストを呼び出します。

**第2のタスクリスト**（ステータス: リリース済）を選択します。

テンプレート G##TEMPL を展開し、本日の**第2のタスクリスト**をダブルクリックします。左側で、**決算処理テスト**サブフォルダが見つかるまで、組織構造を展開します。フォルダをダブルクリックします。このフォルダ内の2つのタスクが右上に一覧表示されます。

モニタ照会に切り替えます。

組織構造領域で、もう一度**決算処理テスト**サブフォルダをダブルクリックし、フォルダとしてモニタに表示されるようにします。

次に、モニタで依存対象がより明確に表示されるように、**拡大**を複数回選択します。

一覧照会に切り替えます。

次に、**第2のタスク**（財務諸表の実行）を選択し、**選択済タスクのスケジュール**を選択します。

タスクのスケジュールが正常に終了したことが通知されます。

ステータスマッセージ（処理は有効です）とジョブ照会のアイコンが設定されるまで待機し、次にマニュアル更新を選択します。

タスクのステータスが異常終了に変更されます（タスクは取り消されています）。

次へ

次に、ジョブログをクリックします。

タスク'財務諸表の実行'の先行タスクである'財務諸表バージョンの更新'のステータスが、'財務諸表の実行タスクが取り消されました'になりましたなどのメッセージが表示されます。

緑の矢印を選択して、前画面に戻ります。

次に、最初のタスクである財務諸表バージョンの更新を選択します。

右クリックしてトランザクション実行を選択します。財務諸表バージョン FS## (## = 各自のグループ番号) が見つかるまでスクロールダウンします。バージョンをダブルクリックします。

B/S P/L 項目を選択します。

科目 3061000 賃金/給与が見つかるまで、構造を展開します。

下位レベルの科目 3061090 その他賃金/給与で、勘定割当 433000 が見つかりません。

これは、最初の仕入先請求書で転記する勘定であり、この勘定は後からさまざまなコックピットタスクに必要となります。

この勘定をこの科目に追加します。借方/貸方フラグを設定する必要があります。

続行 (Enter) を選択します。

バージョンを保存します。次のメッセージが表示されます。財務諸表バージョン FS## が保存されました。

タスクリストに戻ります (緑の矢印を 3 回選択します)。

タスクのステータスを変更します。

財務諸表バージョンの更新タスクを選択し、右クリックを使用して Stat. マニュアル変更を選択してから、処理が正常終了しましたを選択します。

次のメッセージが表示されます。依存対象のステータスも変更しますか。いいえを選択します。

このタスクのステータスは終了 (エラーなし) となりました。

次に、財務諸表バージョンの更新タスクをダブルクリックします。

詳細情報で、このタスクの (新しいステータスを含む) 変更伝票を照会します。

変更伝票を選択します。

転送および終了を選択します。

次に、第 2 のタスクである財務諸表の実行を選択します。

次へ

選択済タスクのスケジュールを選択します。

別のウインドウに、タスク**財務諸表の実行**が正常にスケジュールされましたというメッセージが表示されます。

このウインドウを閉じます。

ステータスマッセージ(処理は有効です)とジョブ照会のアイコンが設定されるまで待機し、次に**マニュアル更新**を選択します。

ステータスを終了(エラーなし)に変更する必要があります。

ジョブログを照会します(財務諸表の実行の先行タスクである**財務諸表バージョンの更新**のステータスが、'タスクがエラーなく終了しました'になりました。財務諸表の実行タスクが開始されましたなどのメッセージが表示されます)。また、財務諸表のスプール出力も照会します。

開始時間と終了時間、期間、選択基準などの詳細については、**詳細情報領域**を参照してください。

第2のタスクリストのステータスを完了に設定します(→編集→基本データ...ステータスを"完了"に設定)。

転送および終了(**Enter**)を選択します。

タスクリストを保存します。

次のメッセージが表示されます。タスクリスト G##TEMPLE (日付: XXXX.XX.XX) は正常に保存されました。

緑の矢印を選択して SAP Easy Access メニューに戻ります。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ・ テンプレート作成
- ・ タスクリストの登録
- ・ タスクリストのタスクの実行
- ・ コックピットモニタを使用したタスクのチェック

## 関連情報

SCMAPROGRAMS: 決算コックピットに接続されているすべてのレポートを格納

SCMATTRANSACT: 決算コックピットに登録されているすべての SAP トランザクションを格納

コンポーネントの注記: CA-GTF-SCM:

- ・ 325118: 得意先固有レポートのリンク
- ・ 551743: 任意のレポートの接続

権限:

B\_SMAN\_WPL: トランザクション CLOCOC/CLOCO の権限の照会/変更:ACTVT (活動)

- ・ 01 – 登録または生成
- ・ 02 – 変更
- ・ **03 – 照会**
- ・ 06 – 削除
- ・ 16 – 実行
- ・ A3 – ステータスの変更

B\_SMAN\_SEQ: フロー定義:ACTVT (活動)

- ・ 01 – 登録または生成
- ・ 02 – 変更
- ・ **03 – 照会**



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- テンプレート作成
- タスクリストの登録
- タスクリストのタスクの実行
- コックピットモニタを使用したタスクのチェック



# 12 章

## 補足資料

### 章の概要

この章には、参考用の補足資料が用意されています。この資料は標準コース TFIN50 には含まれていません。このため、コース中のプレゼンテーションで講師がこの資料を提示しない場合があります。

この章では、新総勘定元帳が導入される前に SAP ERP Financials で扱われていた財務諸表調整、CO と FI 間の照合、売上原価会計に関する手順の情報を示すだけでなく、“税”領域と“レポート”領域に関するドイツと米国の国依存設定について説明します。また、受講者は“連結”の準備作業の概要についても学習します。

また、“組織的ステップ”、“管理会計”、“売上原価会計”などのレッスンも含まれています。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 財務諸表の調整を実行する手順の説明、および従来の総勘定元帳において財務諸表の調整を実行する利点の説明
- 調整のカスタマイジングを行う項目の特定
- 財務会計に影響を与える管理会計のプロセスについての説明
- 複数の財務会計組織ユニットにまたがる取引について、従来の総勘定元帳の照合元帳を使用して財務会計を更新する方法の説明
- 売上原価会計と期間会計の比較
- IMG での税処理の一般的なカスタマイジング設定の特定
- 1099/1042 ビジネスプロセスについての説明
- 源泉徴収税コードと 1099/1042 出力のカスタマイジング設定の特定
- 請求と支払における源泉徴収税の使用
- 納税申告書の作成
- 消費税の納税申告書の作成
- プログラム RFUMSV00 の実行時における未払税勘定への自動転記に関するカスタマイジング設定の特定
- EU の税レポートに関するデータの分析

- EU の税レポートに関するカスタマイジングの確認
- EU の要件に応じた EC 売上一覧の登録
- ドイツ貿易規則にもとづくレポートの実行
- 財務会計での連結の準備についての説明

## 章の内容

レッスン: 従来の総勘定元帳における財務諸表調整 .....	485
レッスン: 管理会計 .....	488
レッスン: 売上原価会計 .....	491
レッスン: 一般的な税処理 .....	497
レッスン: 米国の税レポート .....	500
演習問題 29: 1099/1042 処理 (米国) .....	521
レッスン: ドイツの税レポート .....	527
演習問題 30: ドイツの税レポート .....	531
レッスン: EU の税レポート .....	535
レッスン: ドイツ貿易規則にもとづくレポート .....	538
レッスン: 連結 .....	540

## レッスン：従来の総勘定元帳における財務諸表調整

### レッスンの概要

このレッスンでは、財務諸表調整の手順について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 財務諸表の調整を実行する手順の説明、および従来の総勘定元帳において財務諸表の調整を実行する利点の説明
- 調整のカスタマイジングを行う項目の特定

### ビジネスナリオ

会社では、事業領域レベルで財務諸表を作成します。そのためには、システムの機能を使用して、会計データの精度のチェックと安全性の確認を行なう必要があります。

### 財務諸表の調整

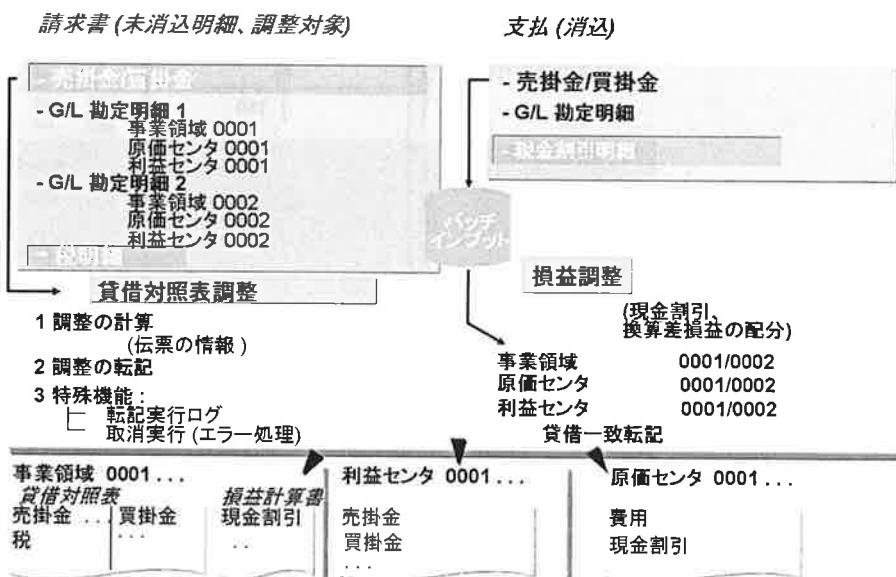


図 217: 財務諸表の調整

財務諸表調整では、売掛金、買掛金、および税が追加勘定割当“事業領域”と“利益センタ”に細分化され、G/L 勘定明細に保存されます。エラーが発生した場合は、取消実行を行うことができます。

転記された調整明細が消し込まれると、次の実行の基準日に反対仕訳が転記されます。

損益計算書調整では、得意先請求書および仕入先請求書の支払時に発生する現金割引および換算差損益が、消込済伝票の G/L 勘定割当の以下の追加勘定割当に従って分割されます。

- 事業領域
- パートナ事業領域(連結)
- 利益センタ
- パートナ利益センタ
- 一部の管理会計対象
- コーディングブロックで定義した全項目

 **ヒント:** 新総勘定元帳における伝票分割は、財務諸表の調整機能を置き換えるものです。そのため、新総勘定元帳が有効である場合は、この機能を使用することができません。



事業領域	初期転記	調整転記
(事業領域指定なし)	売掛金 1,160 税 160 _____ 160	売掛金 - 調整 696 464 1 税 - 調整 96 64 2
0001	収益 600 _____ 600	売掛金 - 調整 696 税 - 調整 96 2
0002	収益 400 _____ 400	売掛金 - 調整 464 税 - 調整 64 2

図 218: 例: 貸借対照表調整

この例では、税率 16% を使用しています。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 財務諸表の調整を実行する手順の説明、および従来の総勘定元帳において財務諸表の調整を実行する利点の説明
- 調整のカスタマイジングを行う項目の特定

## レッスン: 管理会計

### レッスンの概要

このレッスンでは、管理会計のプロセス、およびそれらが財務会計に与える影響について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 財務会計に影響を与える管理会計のプロセスについての説明
- 複数の財務会計組織ユニットにまたがる取引について、従来の総勘定元帳の照合元帳を使用して財務会計を更新する方法の説明

### ビジネスシナリオ

財務会計が管理会計とどのように統合されているかを説明するように財務会計部門の従業員から依頼されました。管理会計の取引は財務会計の複数の組織単位にまたがることがあるため、特に照合元帳について説明する必要があります。

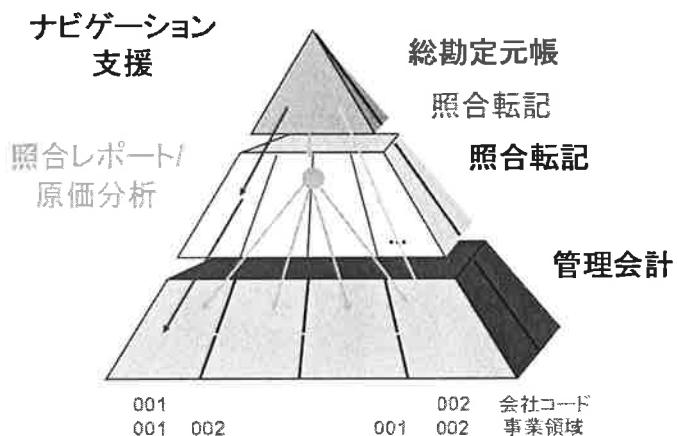


図 219: 従来の総勘定元帳の照合元帳

“CO 内部”で行われた転記において、総勘定元帳を更新する必要がある場合があります。これは、管理会計の原価フローが複数の財務会計組織単位(会社コード、事業領域、および機能領域)にまたがる場合に必要となります。

照合元帳では、管理会計内のすべての原価フローが集計された形式で保存されます。SAP システムでは、照合元帳は原価要素会計に相当します。

照合元帳では、管理会計ビューのデータが財務会計ビューと比較され、管理会計と財務会計を自動的に照合することができます。

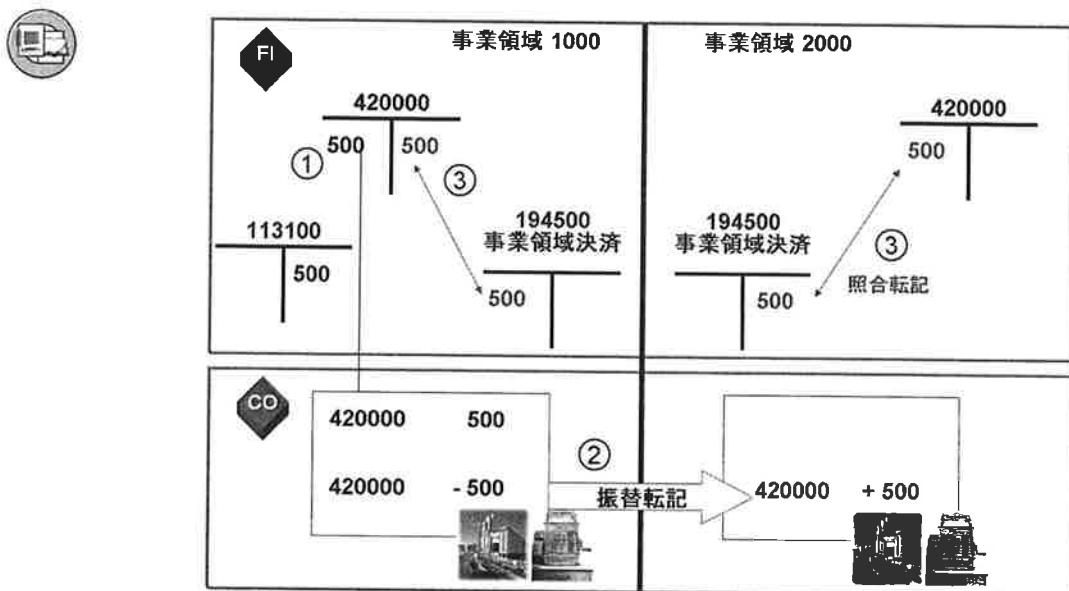


図 220: 照合転記: 勘定設定



**ヒント:** 新総勘定元帳の CO から FI へのリアルタイム統合は、従来の総勘定元帳の照合元帳を置き換えるものです。そのため、新総勘定元帳が有効である場合は、この機能を使用することができません。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 財務会計に影響を与える管理会計のプロセスについての説明
- 複数の財務会計組織ユニットにまたがる取引について、従来の総勘定元帳の照合元帳を使用して財務会計を更新する方法の説明

## レッスン：売上原価会計

### レッスンの概要

このレッスンでは、売上原価会計と期間会計について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 売上原価会計と期間会計の比較

### ビジネスシナリオ

会社の損益計算書は、売上原価会計を使用して作成されます。プロジェクトチームのメンバとして準備作業を担当し、損益計算書に正しい情報が表示されるようにする必要があります。

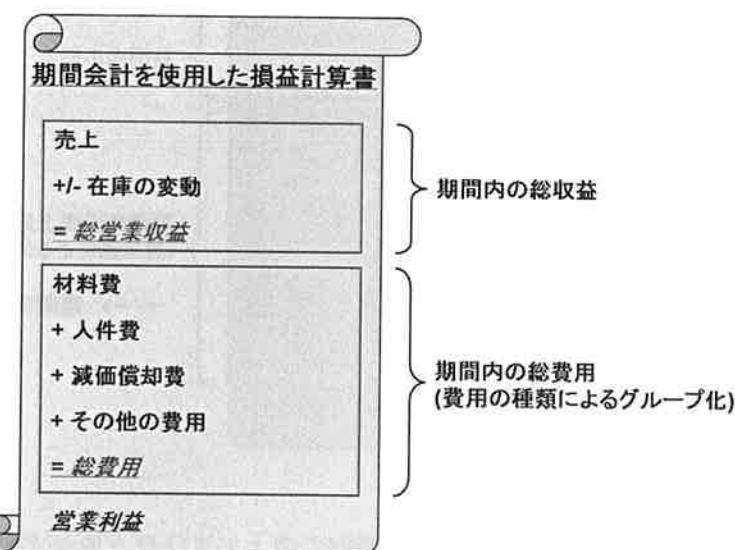


図 221: 期間会計

損益計算書は、以下の 2 種類の会計を使用して作成することができます。

- 期間会計
- 売上原価会計

営業損益は、使用する会計のタイプに関係なく同じになります。使用する手順は以下のいずれかになります。

- 法的に規制されています。
- 複数の種類が法律で規定されている場合は、会社でいずれかを選択することができます。この場合は、使用する会計のタイプを決定するときに、業務基準(国際的な比較可能性など)が考慮されます。

期間会計では、期間内の総営業収益と総費用が集計されます。

- 期間の総営業収益**は、売上から在庫の減少を差し引いたもの、または売上に在庫の増加を加えたものです。
- 期間の総費用**は、費用のタイプによってグループ化されます。つまり、類似する費用勘定(人件費の各勘定など)の残高のみを集計することができます。このグループ化は、さまざまな生産要素に費用が配賦される方法を示しています。

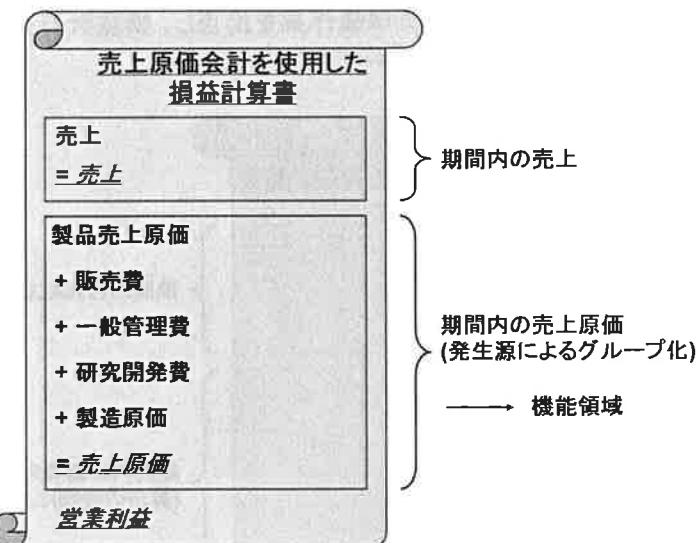


図 222: 売上原価会計

売上原価会計では、期間内の売上および売上原価が集計されます。

- 期間の売上**は、期間会計と同様に算出されます。在庫変動は考慮されません。
- 期間の売上原価**は、販売に関する費用を表しています。費用は、期間会計のように費用のタイプによってはグループ化されません。代わりに、機能(生産、販売、管理、研究開発など)によってグループ化されます。

売上原価は、商品の出庫時に算出されます。期間会計では、“入庫/請求仮勘定 - 在庫変動”に転記されます。売上原価会計では、“入庫/請求仮勘定 - 製造原価”に転記されます。

その他の費用を発生源に割り当てるには、追加特性機能領域が必要です。通常の機能領域は、販売、生産、マーケティング、管理、研究開発です。

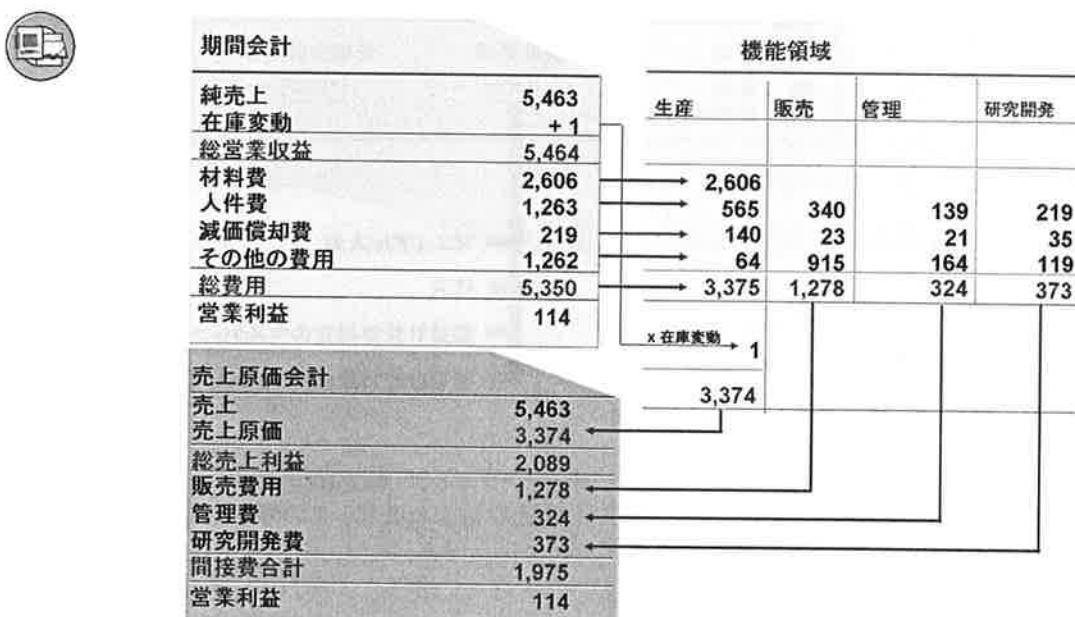


図 223: 売上原価会計と機能領域

財務諸表を作成する標準プログラム (RFBILA00) では、期間会計を使用した損益計算書が作成されます。このビューは、1 つの G/L 勘定または勘定のグループを 1 つのレポート行に単純に表示したものであるため、SAP ERP システムにおいて簡単に作成することができます。

売上原価会計では、機能領域と呼ばれる組織単位を使用して、同じ費用勘定に転記された原価を別個のレポート項目に分割する必要があります。スライドからわかるように、同じタイプの費用を収益性分析のさまざまなセクションに表示することができます。売上原価会計では、費用を機能(生産、販売、管理)によってグループ化することによって、企業内の個々の費用が発生した取引も定義されます。

#### リリース 4.6 の新機能:

- 原価センタ、内部指図、G/L 勘定などのマスタデータレコードに機能領域を直接割り当てることができます。
- マスタデータに機能領域を入力することができないオブジェクトについては、代入ルールによって機能領域が誘導されます。

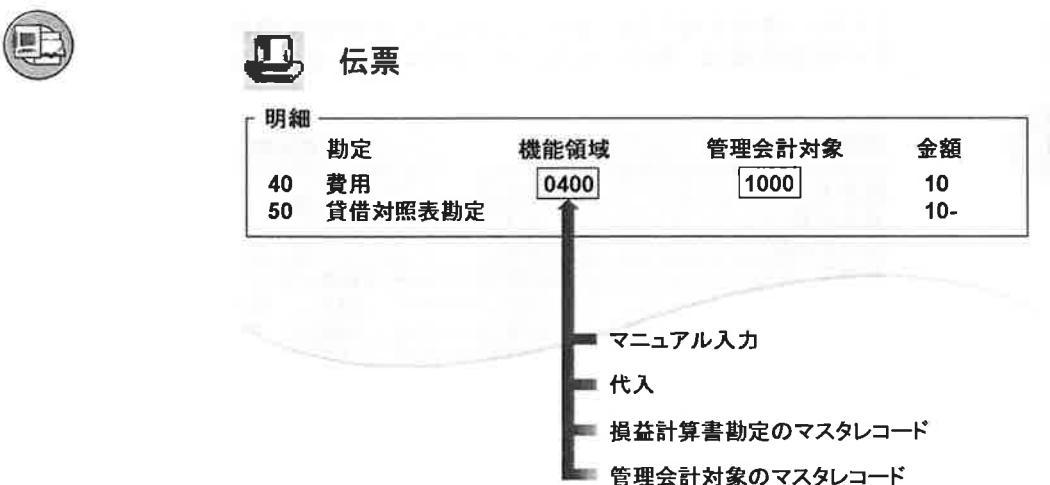


図 224: 機能領域の誘導

売上原価会計では、コーディングブロック(勘定割当オブジェクトの一覧)が拡張されて、**機能領域**の項目が組み込まれます。この項目には、以下の方法でデータが入力されます。

- マニュアル入力
- 代入ルールを使用した機能領域の自動入力
- 損益計算書勘定のマスタレコードに入力された機能領域の自動コピー
- 管理会計対象のマスタレコードに入力された機能領域の自動コピー

上記の順序は、誘導オプションの優先度も示しています。マニュアル入力の優先度が最も高くなっています。ただし、割り当てられた管理会計対象、損益計算書勘定、または代入ルールから機能領域が誘導され、通常はマニュアル入力が必要ないようにシステムを設定する必要があります。

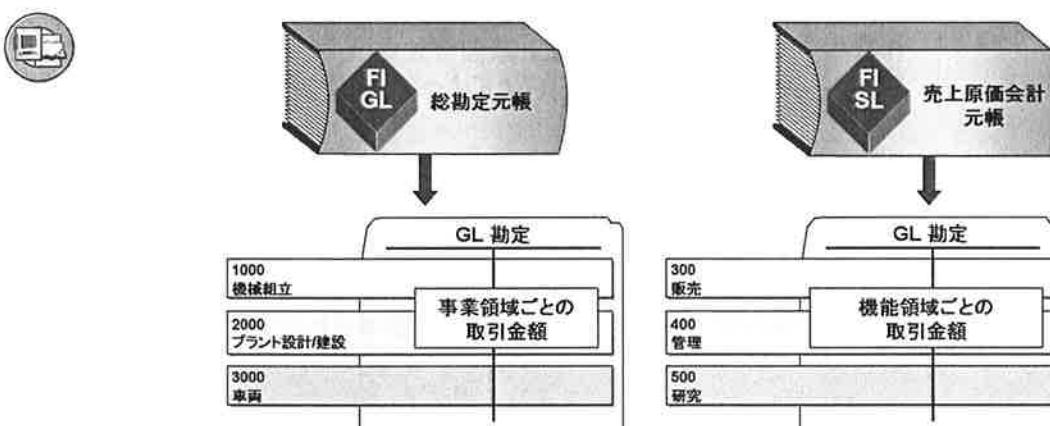


図 225: 売上原価元帳

### 従来の総勘定元帳の売上原価会計：

売上原価会計で財務諸表を作成する場合は、機能領域ごとの取引金額が必要です。ただし、従来の総勘定元帳では、会社コードおよび事業領域の組織ユニットに対してのみ取引金額が更新されます。この場合は、各機能領域についても取引金額が更新される売上原価元帳を使用する必要があります。

特別な財務諸表レポートを使用してこれらの取引金額にアクセスし、売上原価会計で損益計算書を作成することができます。

既存の勘定割当項目または新しい勘定割当項目を使用して追加の取引金額を更新する場合は、**特別目的元帳コンポーネント**を使用して、以下の処理を行う必要があります。

- コーディングブロックの拡張。
- 個々の元帳での追加の取引金額の更新。これらの金額は、レポートペインタ、レポートライタ、またはドリルダウンレポートツールを使用して評価することができます。

### 新総勘定元帳の売上原価会計：

元帳にシナリオ“売上原価会計”が割り当てられている場合は、新総勘定元帳の集計テーブル(=> FAGLFLEXT)によって機能領域が更新されます。特別元帳コンポーネントで特別元帳を有効化する必要はありません。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 売上原価会計と期間会計の比較

## レッスン：一般的な税処理

### レッスンの概要

このレッスンは、特定の国の標準コースにのみ含まれています。ここでは、税処理に必要な一般的なカスタマイジング設定について説明します。



### レッスンの目的

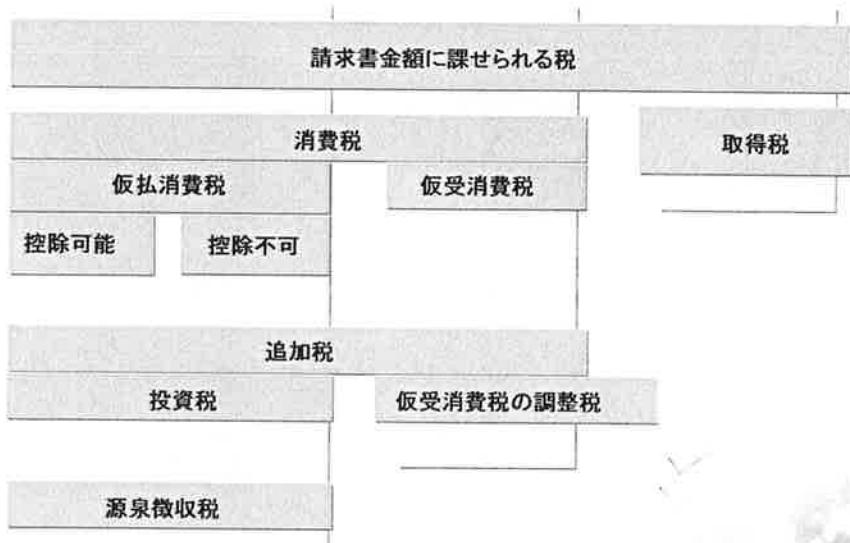
このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- IMG での税処理の一般的なカスタマイジング設定の特定

### ビジネスシナリオ

あなたの会社は多国籍グループの一員です。税レポートに関する国内要件を満たす必要があります。

財務会計プロジェクトチームのメンバーとして、SAP ERP の標準税レポートが国内要件を満たしているかどうかをチェックする必要があります。



T FB41  
未払税転記

図 226: 税

。特別なエディン  
。指紋を公開する 財務会計システムでは、さまざまな国の税要件や課税方法を処理することができます。

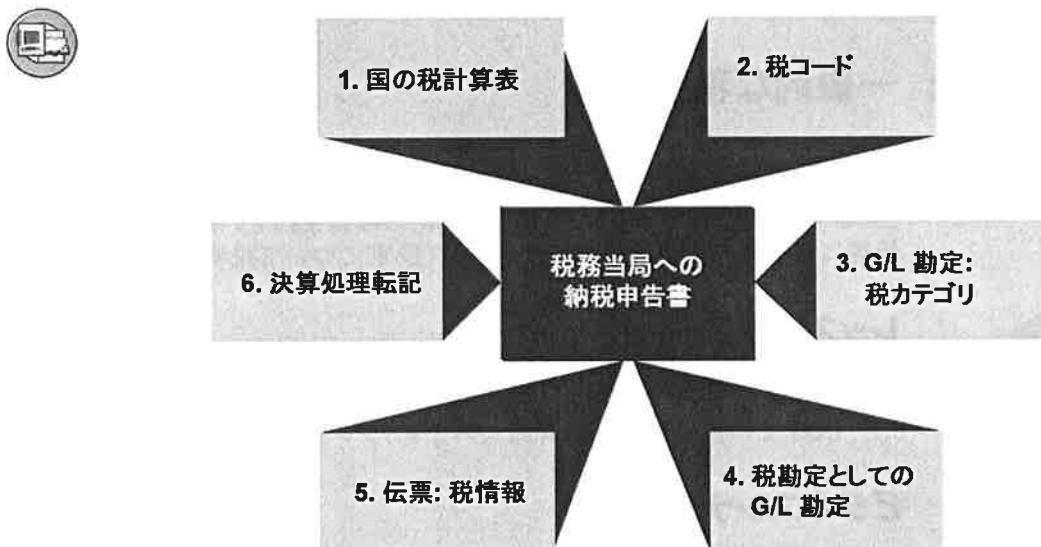


図 227: 税処理の前提条件



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- IMG での税処理の一般的なカスタマイジング設定の特定

## レッスン: 米国の税レポート

### レッスンの概要

このレッスンでは、米国の税レポートに関する国固有の設定について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 1099/1042 ビジネスプロセスについての説明
- 源泉徴収税コードと 1099/1042 出力のカスタマイジング設定の特定
- 請求と支払における源泉徴収税の使用
- 納税申告書の作成

### ビジネスシナリオ

財務会計プロジェクトチームのメンバーとして、SAP ERP の標準税レポートが米国の要件を満たしているかどうかをチェックする必要があります。



図 228: ビジネスプロセス 1099

1099 源泉徴収税のレポートには、非法人仕入先または非従業員に支払った収益が関連します。収益は 11 のカテゴリに分類されます。ほとんどの会社では、カテゴリ 07 “非従業員報酬” が使用されます。

ほとんどの会社では、1099 仕入先への支払から実際に税を源泉徴収するのではなく、1099 仕入先に支払った金額を IRS に報告します。会社が 1099 仕入先から税を控除する場合(通常、仕入先が税番号を提示しないときに発生します)、会社は仕入先に支払う金額の 31% を控除し、後でその金額を IRS に直接支払います。

 **ヒント:** 未払税額と源泉徴収税額との間に差額が生じた場合、その差額は 1099 仕入先と IRS の間で直接処理されます。

1099 税は、年に一度、1 月に報告する必要があります。納税申告書の形式は、書面でもデータファイルでもかまいません。IRS に報告する必要がある金額は、レポート年度の 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間に 1099 仕入先に支払った金額のみです。

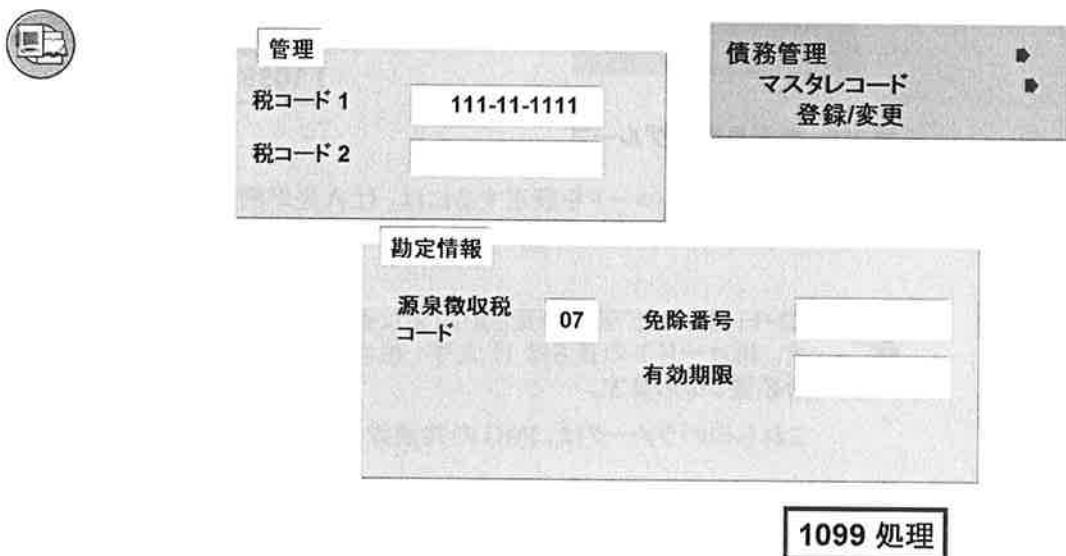


図 229: 仕入先マスタレコード

1099 仕入先は、管理と会計情報という仕入先マスタレコードの 2 つの領域で設定します。

会計情報は、仕入先伝票での処理の初期値として使用されます。



**ヒント:** SAP ERP では、ワンタイム仕入先は 1099 処理から除外されるため、1099 仕入先をワンタイム仕入先として設定することはできません。

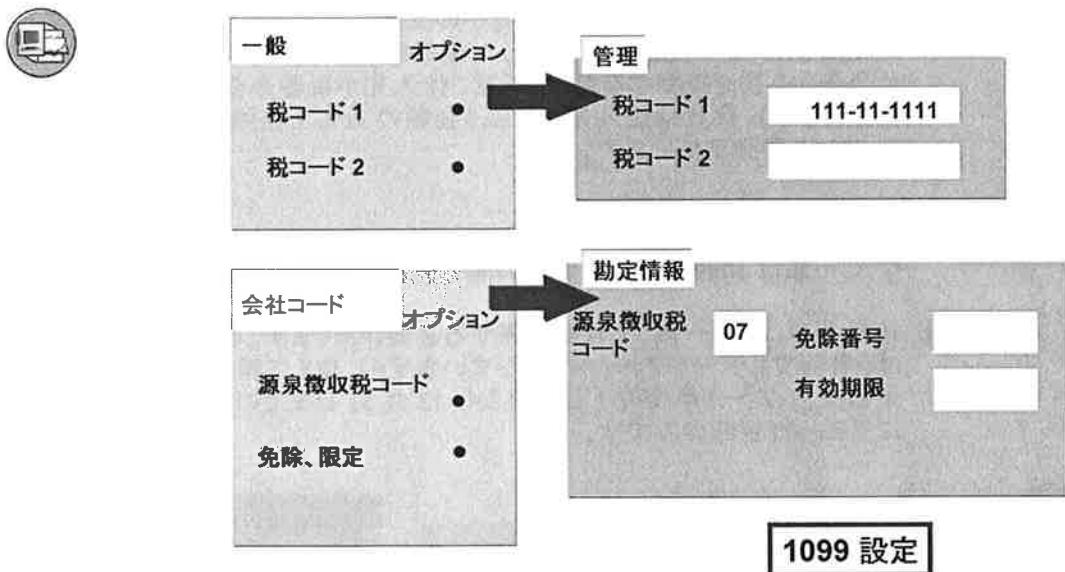


図 230: 仕入先勘定グループ

1099 仕入先マスタレコードを設定するには、仕入先が割り当てられている勘定グループで税コードが入力可能である必要があります。



**ヒント:** 税コード項目の長さが必要な長さを満たしている必要もあります。税コード 1 の長さは 11 文字、税コード 2 の長さは 10 文字である必要があります。

これらのパラメータは、IMG の共通設定セクションで設定します。

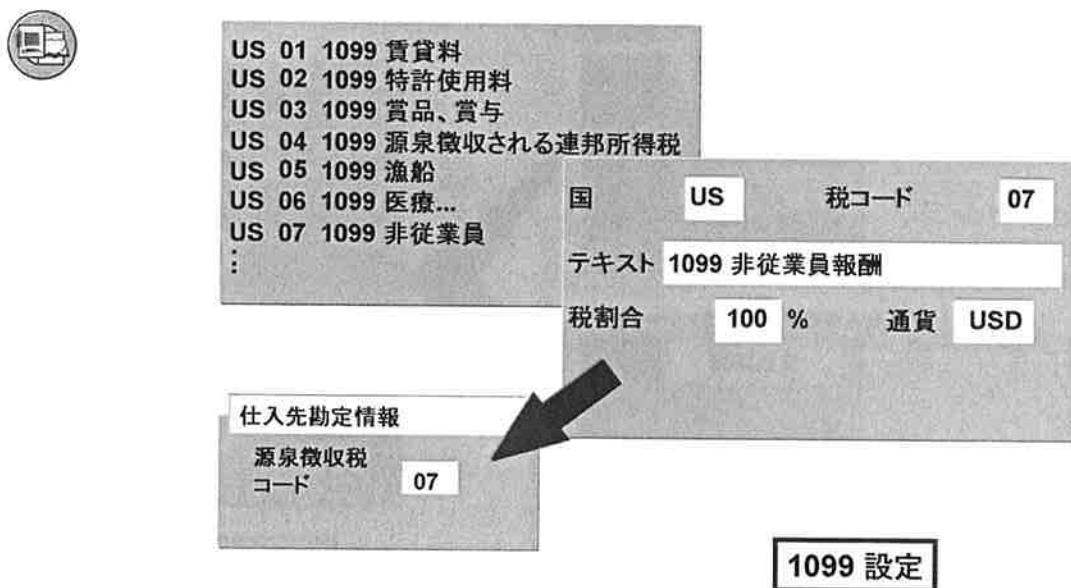


図 231: 源泉徴収税コード

SAP ERP には、11 の基本 1099 源泉徴収税コードが用意されています。各コードは、それぞれ 1 つの税カテゴリに対応しています。

これらの 11 のコードは、実際の源泉徴収税額を控除および転記するように事前設定されていません。ほとんどの会社では 1099 仕入先から源泉徴収しないためです。

リリース 3.0D 以降、会社が 1099 仕入先から所得税を源泉徴収する場合は、税コード F0 ~ F9 を使用します。これらのコードは SAP ERP には用意されていないため、事前定義コード 01 ~ 10 に対応させて登録する必要があります。たとえば、税コード “F” の最後の桁が、関連する事前定義コード (01 ~ 10) の最後の桁に対応するように登録します。税コード F1 は税コード 01 に対応し、実際の源泉徴収を行います (同様に、F2 は税コード 02 に対応します)。税コード “11” は、州源泉徴収税 (後で説明します) に関連するため、対応する “F” コードはありません。



**ヒント:** 1099 プログラム RFKQSU20 と RFKQSU30 では、税コード 01 ~ 11 と F1 ~ F9 のみがハードコーディングされています。

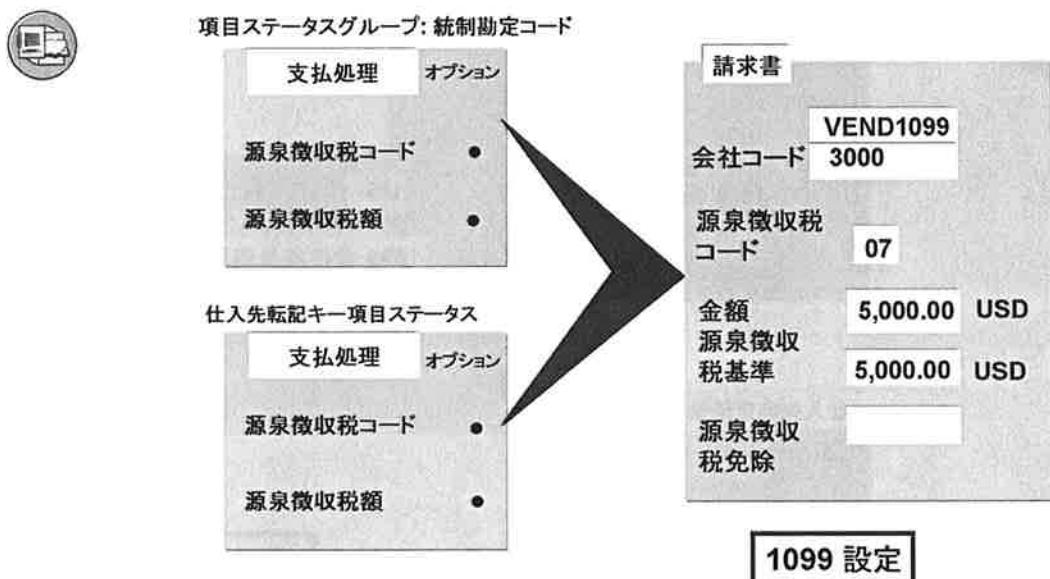


図 232: 項目ステータスグループ/転記キー

FI 伝票で源泉徴収税コード項目を使用可能にするには、仕入先が割り当てられている統制勘定の項目ステータスグループで、税コード項目へのデータ入力が許可されている必要があります（図参照）。

会社において、転記が転記キーによって制御される場合は、統制勘定と転記キーの税コードの項目を入力可能（任意入力ステータス）に設定する必要があります。これは、債務に影響を与えるすべての転記キー（21、25、31など）に該当します。



**ヒント:** また、会社コードの基本設定を行うときに、伝票入力画面バリアントを“2”に設定する必要があります。

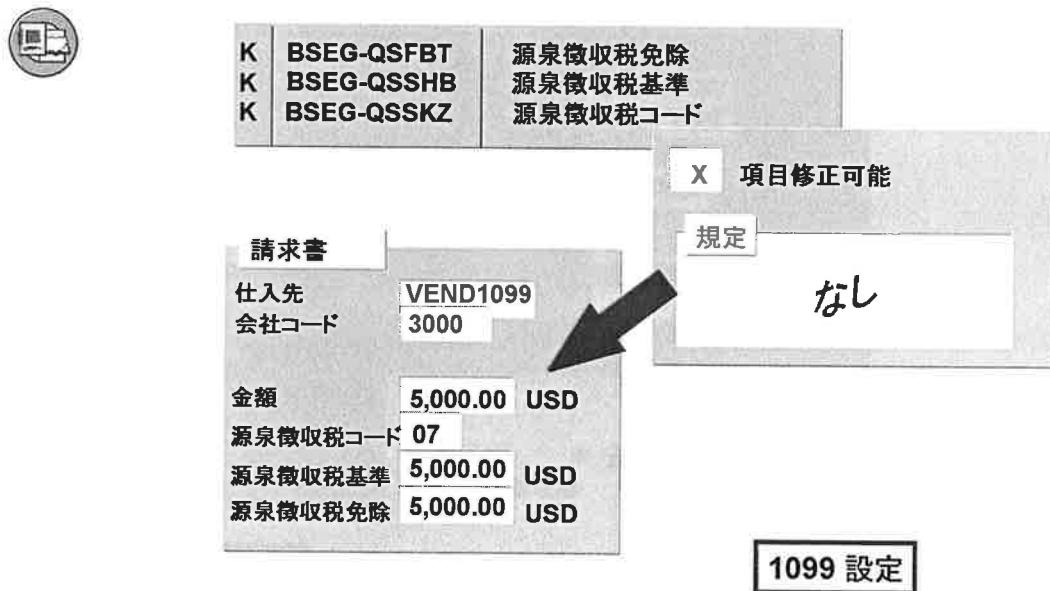


図 233: 伝票変更ルール

IMG の基本設定セクションでは、伝票の源泉徴収税コードの項目を変更するためのルールをカスタマイズ/定義することができます。

システムの標準伝票変更ルールでは、消込前のすべての伝票について源泉徴収税コード項目を変更することができます。ただし、消込済請求書の支払時に請求書金額がまったく源泉徴収されない場合には、標準伝票変更ルールを変更して、消込済請求書を変更可能にすることができます。“伝票変更ルール”画面では、“項目修正可能”区分を設定し、“転記未完了”区分の選択を解除することによって、金額が源泉徴収されない消込済請求書の源泉徴収税コード項目を変更可能にすることができます。これは、1099 と 1042 の両方の処理に該当します。



**ヒント:** 転記画面には、源泉徴収税コード項目と源泉徴収税基準額項目の 2 つの源泉徴収税項目があります。

伝票変更ルールは、税額の転記に使用される源泉徴収税コード (F1 ~ F10) には影響を与えません。そのため、消込済伝票を変更することはできません。税額を転記するように源泉徴収税コードが設定されている場合、報告前に源泉徴収税情報を変更する必要があるときは、伝票を反対仕訳する必要があります。税 (01 ~ 10) を控除しないほとんどの会社では、これらの変更ルールを使用して消込後に源泉徴収税コードの項目を変更することができます。

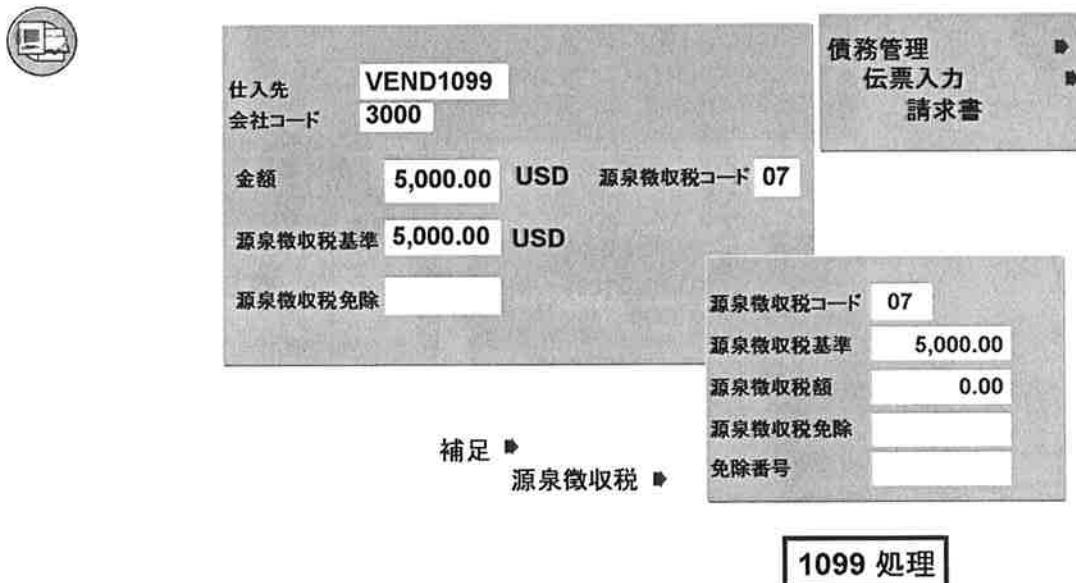


図 234: 仕入先請求書

請求時には、1042 仕入先マスタデータの源泉徴収税コードが明細の初期値として使用されます。このコードは、必要に応じて請求時に上書きすることができます。

“源泉徴収税基準”項目および“源泉徴収税免除”項目には、それぞれ異なる目的があります。“源泉徴収税基準”項目には、IRS に報告する明細の金額が含まれています。請求書転記時にこの項目を空白のままにすると、請求書金額が初期値として使用されます。“源泉徴収税免除”項目は、IRS に報告しない明細(費用の払戻など)の金額です。

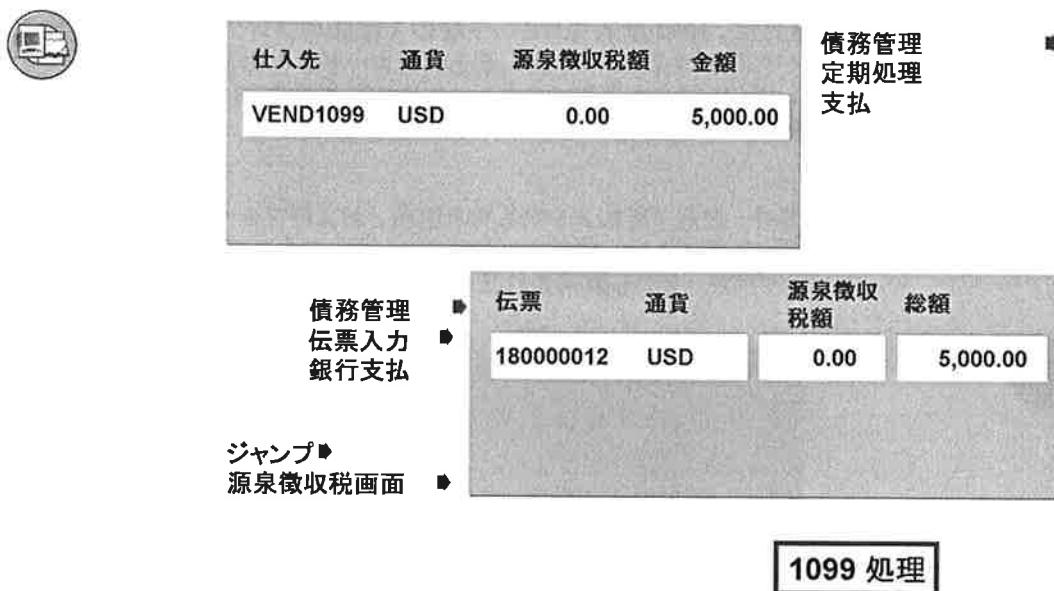


図 235: 仕入先支払

仕入先請求書の支払は、仕入先にとっての収益の受領を表しています。そのため、1099処理には支払伝票が使用されます。マニュアル支払を転記する場合は、ジャンプ→源泉徴収税画面を選択して、支払に関する源泉徴収税情報を照会することができます。

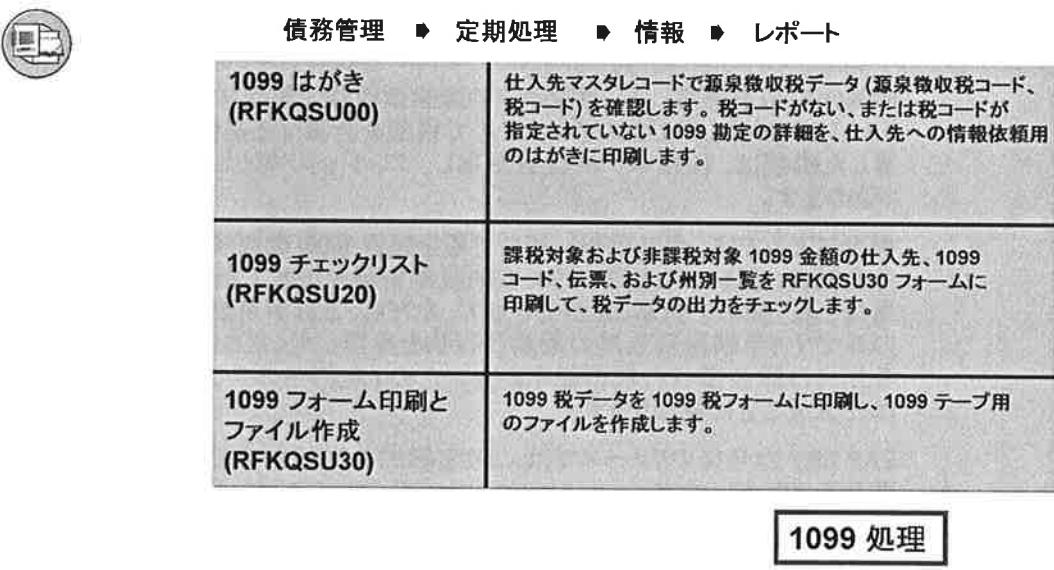


図 236: 1099 レポート

SAP ERP には、1099 仕入先レポート用の 3 種類のプログラムが用意されています。すべてのプログラムで、仕入先と会社コードを自由に選択することができます。各レポートは、仕入先マスタレコードで源泉徴収税コード 01 ~ 11 と F0 ~ F9 を最初に検索するようにプログラムされています。



**ヒント:** 会社(支払人)の名称と住所、およびフォームとテープの TIN(税 ID 番号)は、会社コードマスタレコードからではなく、プログラムパラメータから取得されます。



- RFKQSU30 には、関連する州の統合州源泉徴収税レポートが含まれています。
- 州ごとの源泉徴収額のマニュアル計算と、支払に関する仕入先クレジットメモの登録が必要です。

### 1099 処理

図 237: 1099 州源泉徴収税

RFKQSU30 を使用して、複数の州の源泉徴収税を照会することができます。リリース 3.0 では、州ごとにマニュアルで税額を計算する必要があります。計算した税額は、1099 コード 11 を使用し、クレジットメモとして入力する必要があります。

場合によっては、会社は州レベルで税を報告/源泉徴収する必要があります。各会社は、国レベルと州レベルの納税申告書を併せて提出するように税務当局と取り決めを結ぶことができます。ただし、これが可能なのは一部の州のみです(当該税務当局の最新刊行物を参照してください)。多くの場合、各州には源泉徴収の標準税率がないため(カリフォルニアなど)、控除率は仕入先ごとに異なります。

SAP ERP の今後のリリースでは、より包括的な州源泉徴収税プログラムの提供を予定しています。

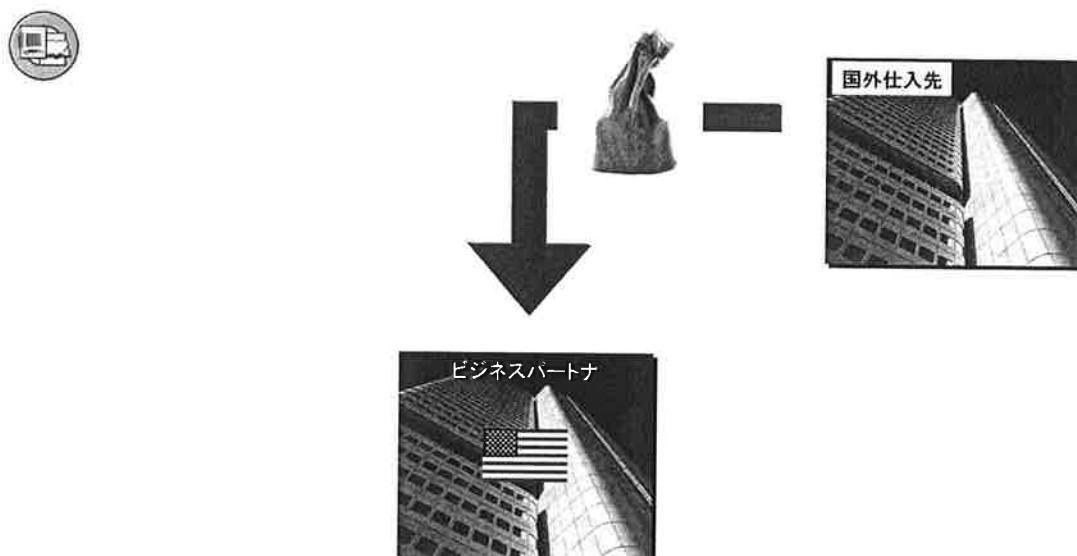


図 238: ビジネスプロセス 1042

1042 税の報告には、国外仕入先や国外非従業員に支払った金額が関連します。これらの金額は、約 20 のカテゴリの 1 つに分類されます (IRS 1042 刊行物を参照してください)。

通常、会社は 1042 仕入先への支払から税を源泉徴収/控除する必要があります。一般には、このタイプの仕入先に行った支払の 31% を控除します (率について、最新の IRS 刊行物を参照してください)。請求書金額のこの源泉徴収分は、後で税務当局に支払います。未払税額と源泉徴収税額との間に差額が生じた場合、その差額は 1042 仕入先と IRS の間で直接処理されます。

1042 税は、年に一度、2 月に報告する必要があります。納税申告書の形式は、書面でもデータファイルでもかまいません。IRS に報告する必要がある金額は、レポート年度の 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間に 1042 仕入先に支払った金額のみです。

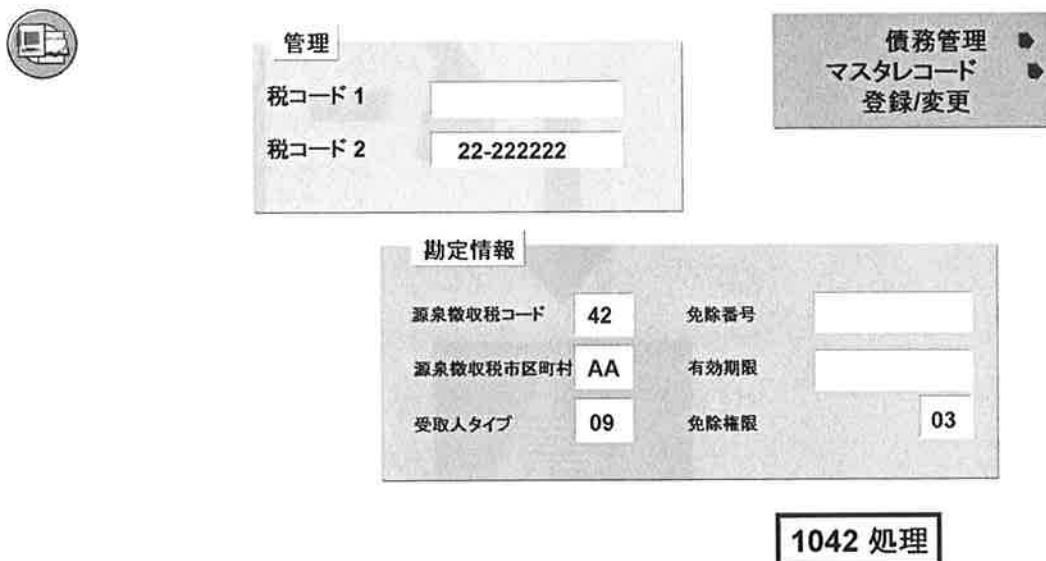


図 239: 仕入先マスタレコード

1042 仕入先は、管理と会計情報という仕入先マスタレコードの 2 つの領域で設定します。

 **ヒント:** 处理中に仕入先伝票で初期設定されるのは、源泉徴収税コードと免除番号のみです。源泉徴収税国、受取人タイプ、および免除権限は、仕入先マスタレコードで更新します。伝票処理時に上書きすることはできません。

 **ヒント:** SAP ERP では、ワンタイム仕入先は 1042 处理から除外されるため、1042 仕入先をワンタイム仕入先として設定することはできません。

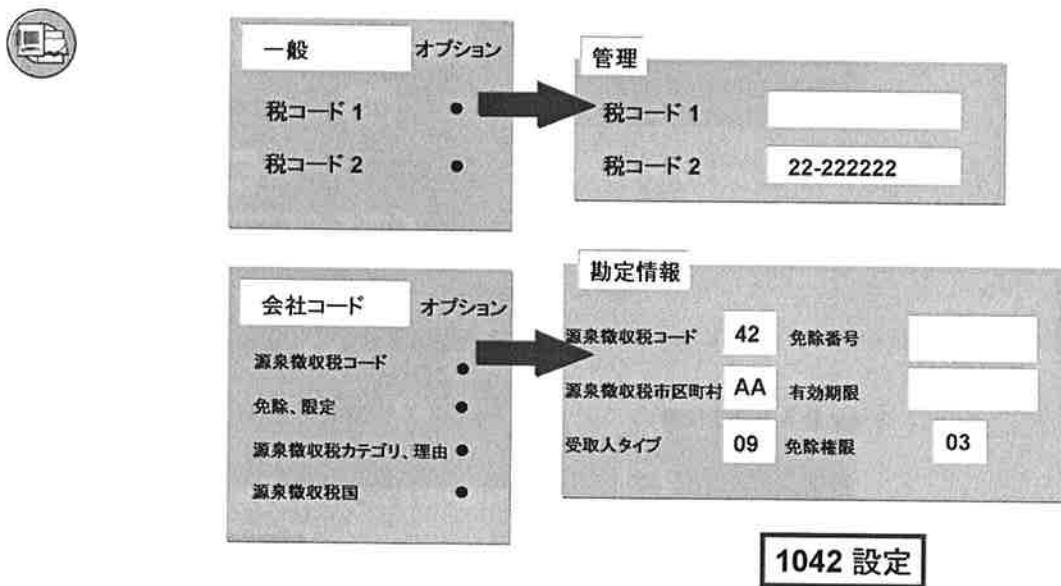


図 240: 仕入先勘定グループ

1042 仕入先マスタレコードを設定するには、仕入先が割り当てられている勘定グループで税コード項目へのデータ入力が許可されている必要があります (スライド参照)。



ヒント: 税コード項目の長さが必要な長さを満たしている必要もあります。税コード 1 の長さは 11 文字、税コード 2 の長さは 10 文字である必要があります。これらのパラメータは、IMG の共通設定セクションで設定します。

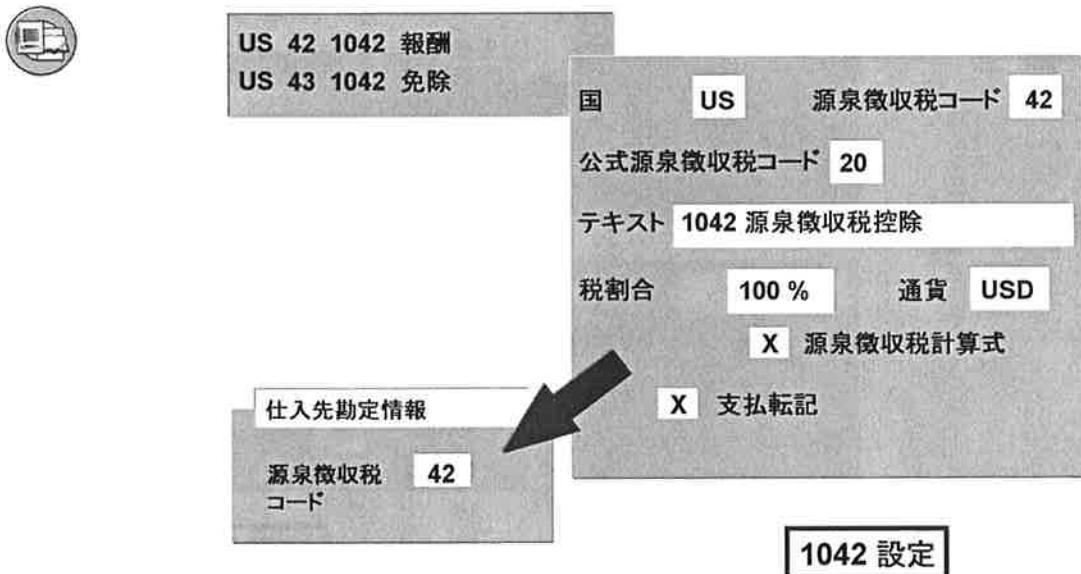


図 241: 源泉徵收税コード

1042 税コードは SAP ERP で事前定義されていないため、ユーザが登録する必要があります。

これらのコード(控除を表すコード“42”や控除免除を表す“43”など)を登録するには、“公式源泉徵收税コード”項目に収入タイプを入力します。源泉徵收税を控除する場合は、“支払転記”区分と“源泉徵收税計算式”区分を設定する必要があります。



ヒント: プログラム RFKQSU40 では、税コード区分はハードコーディングされていません。



ヒント: 複数の収入タイプが必要な場合は、収入タイプごとに異なる源泉徵收税コードを登録する必要があります。

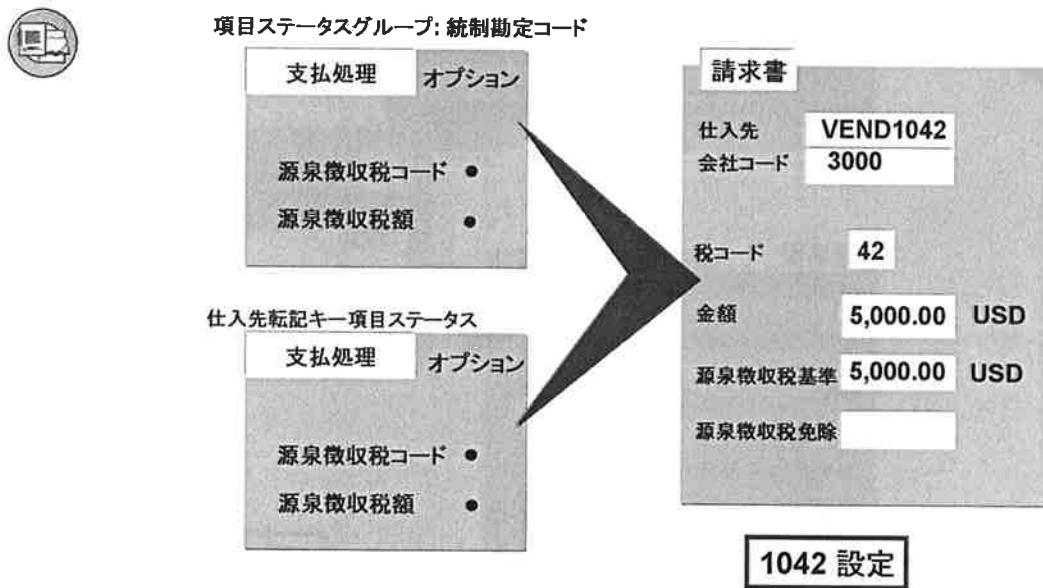


図 242: 項目ステータスグループ/転記キー

FI 伝票で源泉徴収税コード項目を使用可能にするには、仕入先が割り当てられている統制勘定の項目ステータスグループで、税コード項目へのデータ入力が許可されている必要があります(図参照)。

会社において、転記が転記キーによって制御される場合は、統制勘定と転記キーの税コードの項目を入力可能(任意入力ステータス)に設定する必要があります。これは、債務に影響を与えるすべての転記キー(21、25、31など)に該当します。



**ヒント:** また、会社コードの基本設定を行うときに、伝票入力画面バリアントを“2”に設定する必要があります。

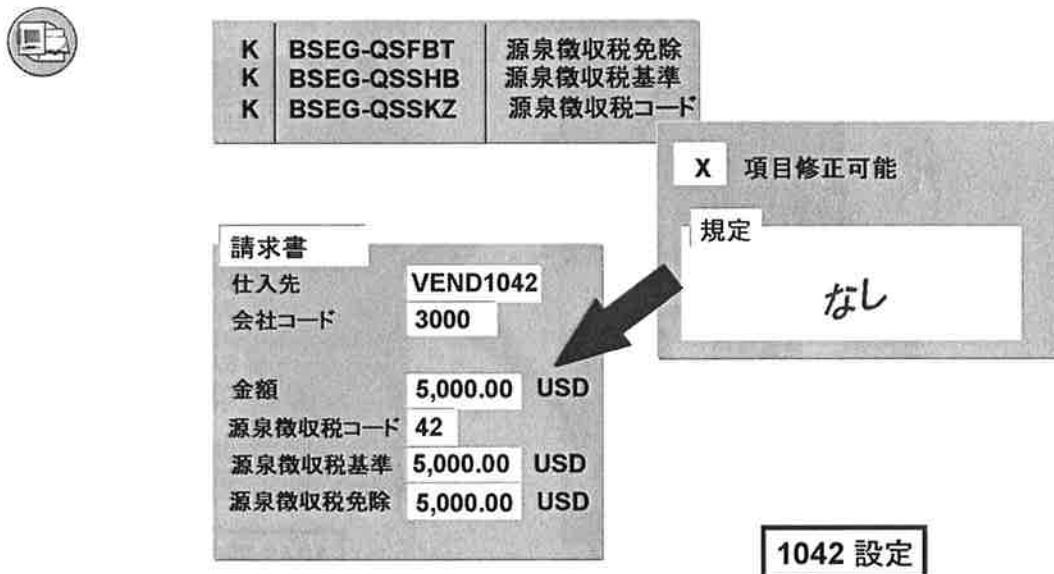
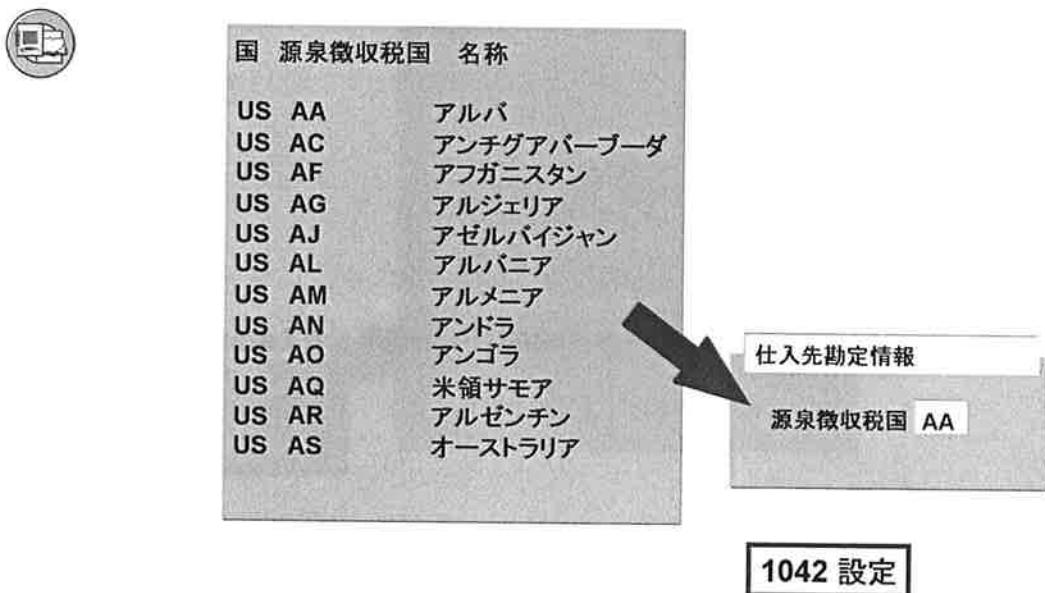


図 243: 伝票変更ルール

IMG の基本設定セクションでは、伝票の源泉徴収税コードの項目を変更するためのルールをカスタマイズ/定義することができます。

伝票変更ルールは、税額の転記に使用される源泉徴収税コード(F1 ~ F10)には影響を与えません。そのため、消込済伝票を変更することはできません。税額を転記するように源泉徴収税コードが設定されている場合、報告前に源泉徴収税情報を変更する必要があるときは、伝票を反対仕訳する必要があります。



国 源泉徴収税国 名称	
US AA	アルバ
US AC	アンチグアーブーダ
US AF	アフガニスタン
US AG	アルジェリア
US AJ	アゼルバイジャン
US AL	アルバニア
US AM	アルメニア
US AN	アンドラ
US AO	アンゴラ
US AQ	米領サモア
US AR	アルゼンチン
US AS	オーストラリア

**1042 設定**

源泉徴収税国 AA

図 244: 源泉徴収税国

源泉徴収税国は、国外仕入先の法律上の所在地がある国です。左側の列には報告対象国(US)を入力し、中央の列には源泉徴収税国を入力します。



**ヒント:** 源泉徴収税国 ID は、必ずしも ISO 9000 規格には対応しません。源泉徴収税国 ID は IRS によって定義されています。国とその正しい ID の完全な一覧については、IRS 刊行物 1042 を参照してください。

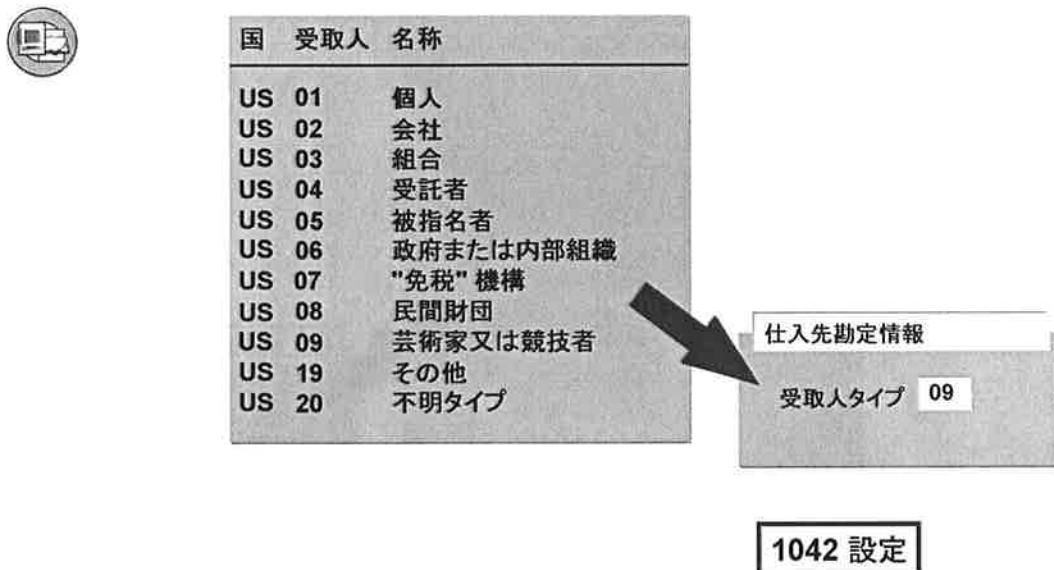


図 245: 仕入先の受取人タイプ

1042 処理では、正しい受取人タイプが存在する必要があります。これらのコードは、必要に応じて仕入先マスタレコードで入力します。



**ヒント:** 源泉徴収税 (テーブル T059E) の収入タイプは定義しないでください。現在、1042 処理の収入タイプはこの設定テーブルからは取得されません。

1042 収入タイプは、源泉徴収税コード自体で定義されます。



国	通貨	源泉徴収 ID	源泉徴収税国	終了基準金額	源泉税
US	USD	42	AA	999,999,999.99	30.00
US	USD	42	AC	999,999,999.99	30.00
US	USD	42	AF	999,999,999.99	30.00
US	USD	42	AG	999,999,999.99	30.00
:					

国	通貨	源泉徴収 ID	源泉徴収税国	終了基準金額	源泉税
US	USD	43	AA	999,999,999.99	30.00
US	USD	43	AC	999,999,999.99	30.00
US	USD	43	AF	999,999,999.99	30.00
US	USD	43	AG	999,999,999.99	30.00
:					

1042 設定

図 246: 源泉徴収税計算式

このテーブルには、以下の 6 つの列があります。

- 1. 国: 報告対象国 (US)
- 2. 通貨: 報告通貨
- 3. 源泉徴収 ID: 源泉徴収税コード (42、43 など)
- 4. 源泉徴収税国キー: 1042 仕入先の国コード
- 5. 上限基準額: 源泉徴収税率が有効になる上限の基準金額
- 6. 源泉徴収税: 源泉徴収税額を計算するために源泉徴収税基準額と共に使用する源泉徴収税率 (パーセント)



**ヒント:** 税を源泉徴収する場合は、列 6 に率を入力する必要があります。源泉徴収税コード (43 など) が特定の理由で控除を免除されている場合は、列 6 に率を入力しないで空白のままにします。

特定の仕入先が所得税の実際の控除を免除されている場合でも (仕入先マスターの“免除権限”項目参照)、会社の支払人は支払った金額を免除理由と共に IRS に報告する必要があります (1099 仕入先と同様)。そのため、源泉徴収税に関連する 1042 仕入先の請求書も、源泉徴収税に関連しない 1042 仕入先の請求書も、同様に処理されます。異なるのは、源泉徴収税に関連しない仕入先の仕入先マスタレコードでは“免除権限”項目に値が入力されるという点のみです。

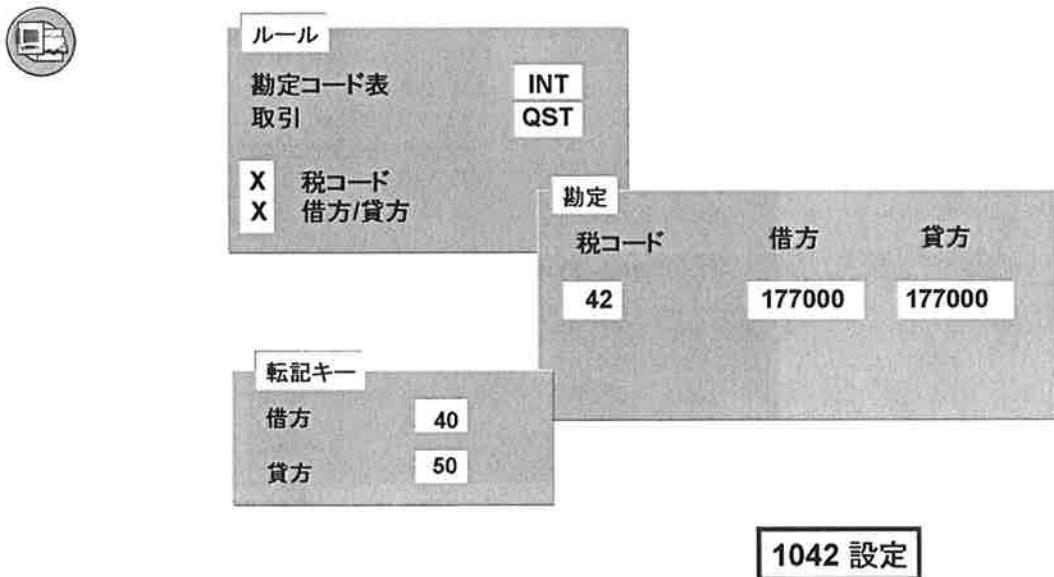


図 247: 自動転記 (源泉徴収税)

ここでは、源泉徴収した税を自動的に転記するためのルール、転記キー、および G/L 勘定を定義します。

1042 仕入先から源泉徴収税を自動的に控除して転記するには、この設定を行っておく必要があります。

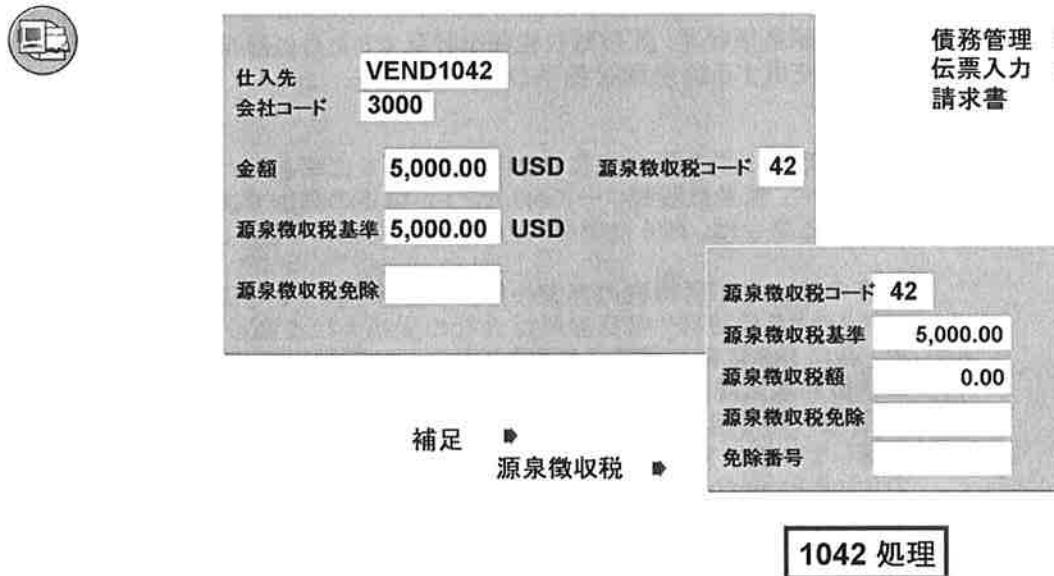


図 248: 仕入先請求書

請求時には、1042 仕入先マスタデータの源泉徴収税コードが明細の初期値として使用されます。このコードは、必要に応じて請求時に上書きすることができます。

“源泉徴収税基準”項目および“源泉徴収税免除”項目には、それぞれ異なる目的があります。“源泉徴収税基準”項目には、IRSに報告する明細の金額が含まれています。請求書転記時にこの項目を空白のままにすると、請求書金額が初期値として使用されます。“源泉徴収税免除”項目は、IRSに報告しない明細(費用の払戻など)の金額です。

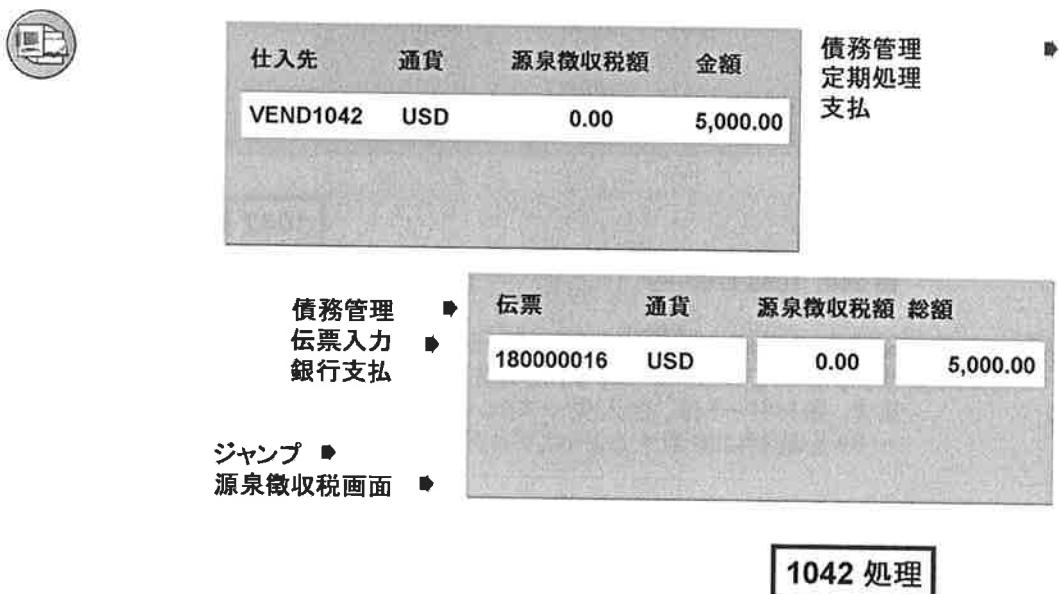


図 249: 仕入先支払

仕入先請求書の支払は、仕入先にとっての収益の受領を表しています。そのため、1042 処理には支払伝票が使用されます。マニュアル支払を転記する場合は、ジャンプ→源泉徴収税画面を選択して、支払に関する源泉徴収税情報を照会することができます。

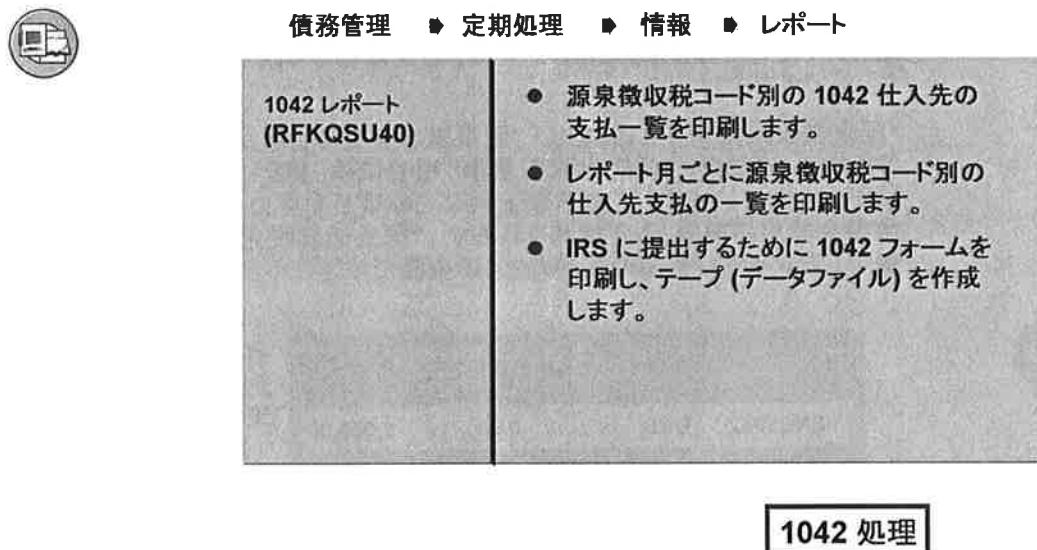


図 250: 1042 レポート

SAP ERP には、1042 仕入先レポート用の 3 種類のプログラムが用意されています。すべてのプログラムで、仕入先と会社コードを自由に選択することができます。各レポートは、仕入先マスタレコードで源泉徵收税コード 01 ~ 11 と F0 ~ F9 を最初に検索するようにプログラムされています。



**ヒント:** フォームとテープの会社(支払人)名、住所、および税 ID(各仕入先マスタレコードの TIN 情報)は、会社コードマスタレコードから取得されます。テープのヘッダレコードは、プログラムパラメータから取得されます。代理支払人の名称と税 ID (TIN) も、プログラムパラメータから取得されます。

## 演習問題 29: 1099/1042 処理 (米国)

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 1099 処理の仕入先の変更
- 1099 レポートに関する取引の転記
- 1099 レポートの特定

### ビジネスシナリオ

会社コードの 1 つである 3000 は米国の会社です。年次処理時に、1099 仕入先の源泉徴収税情報を処理する必要があります。

### タスク:

1099 仕入先請求書の登録と関連する 1099 レポートの生成

1. 仕入先 TE-AC## は、まだ 1099 仕入先として設定されていません。転記を行う前に、仕入先マスタレコードの税コード 1 項目に **111-11-111** と入力する必要があります。また、仕入先マスタレコードの源泉徴収税コード項目に **07** と入力して、この仕入先について 1099 税を処理することができるようになります。
2. 会社コード **3000** の仕入先 TE-AC## について、本日の日付の請求書を入力します。費用金額は **USD 5000** です。この金額は、勘定 **476000** (事務用品) および原価センタ **1000** (コーポレートサービス) に借方転記されます。税額計算区分を設定し、税コードとして **I0 (A/P 売上税、免除)** を入力します。
3. 仕入先請求書のマニュアル支払伝票を転記します。支払金額は **USD 5000** です。この金額は、現金勘定 **113101** (シティバンク - 支払小切手) に転記されます。
4. 必要な 1099 レポートを実行します。



**ヒント:** レポート情報を確認するには、画面を下にスクロールする必要がある場合があります。

## 解答 29: 1099/1042 処理 (米国)

### タスク:

1099 仕入先請求書の登録と関連する 1099 レポートの生成

1. 仕入先 TE-AC## は、まだ 1099 仕入先として設定されていません。転記を行う前に、仕入先マスタレコードの税コード 1 項目に **111-11-111** と入力する必要があります。また、仕入先マスタレコードの源泉徴収税コード項目に **07** と入力して、この仕入先について 1099 税を処理することができるようになります。

- a) **1099 仕入先請求書の登録と関連する 1099 レポートの実行**

#### 仕入先マスタの変更

仕入先マスタレコードを変更するためのメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → マスタレコード → 変更

以下のデータを入力します。

仕入先: **TE-AC##**

会社コード: **3000**

マスタレコードの第一画面の一般データセクションで管理区分を設定し、会社コードデータセクションで会計情報区分を設定します。

'Enter' を選択します。

税コード 1 項目に **111-11-1111** と入力します。

'Enter' を選択します。

源泉徴収税コード項目に **07** と入力します。

仕入先マスタレコードへの変更内容を保存します。

次へ

2. 会社コード **3000** の仕入先 **TE-AC##**について、本日の日付の請求書を入力します。費用金額は **USD 5000** です。この金額は、勘定 **476000** (事務用品) および原価センタ **1000** (コーポレートサービス) に借方転記されます。税額計算区分を設定し、税コードとして **I0 (A/P 売上税、免除)** を入力します。

a) 仕入先請求書の入力

請求書入力のメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 仕入先 → 伝票入力 → 請求書

'会社コード入力' ダイアログボックスが自動的に表示されます。表示されない場合は、'リーディング会社コード変更' を選択してください。

'会社コード' 項目に **3000** と入力します。

以下のデータを入力します。

仕入先: **TE-AC##**

請求書日付: **本日の日付**

金額: **5000**

税計算: **X**

税コード: **I0 (A/P 売上税免除)**

'源泉徴収税' タブページを選択します。源泉徴収税基準項目に **5000** と入力します。

最初の明細に、以下のデータを入力します。

G/L 勘定: **476000**

D/C: **借方**

伝票通貨による金額: **5000**

原価センタ: **1000**

伝票を転記します。

次へ

3. 仕入先請求書のマニュアル支払伝票を転記します。支払金額は USD 5000 です。この金額は、現金勘定 113101 (シティバンク - 支払小切手) に転記されます。

- a) マニュアル支払伝票の転記

マニュアル支払のメニューパス:

会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 伝票入力 → 銀行支払  
→ 転記

以下のデータを入力します。

伝票日付: 本日の日付

会社コード: 3000

銀行データセクション:

勘定: 113101

金額: 5000

未決済明細選択セクション:

勘定: TE-AC##

画面の最上部にある未消込明細処理を選択します。

この機能を呼び出すときにはすべての未消込明細が無効になってい る場合は、未消込明細の 1 つをダブルクリックして選択します。

支払伝票を転記します。

次へ

4. 必要な 1099 レポートを実行します。



**ヒント:** レポート情報を確認するには、画面を下にスクロールする必要がある場合があります。

a) **必要な 1099 レポートの作成**

**1099 レポートのメニューパス:**

会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 源泉徴収税 → 米国  
税コード依頼用 1099 仕入先住所のはがき印刷など、参照するレポートをダブルクリックします。

3 つの 1099 レポートに必要なデータ:

仕入先勘定: **TE-AC##**

会社コード: **3000**

消込日付: **今年度/01/01**

終了日付: **今年度/12/31**

実行します。

レポートを実行するには、以下のデータを入力する必要がある場合があります。

出力デバイス: **講師から指示があります。**

即時印刷: **X**

出力後削除: **X**

**'印刷プレビュー' を選択します。**

残りのレポートについて上記の手順を繰り返します。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 1099/1042 ビジネスプロセスについての説明
- 源泉徴収税コードと 1099/1042 出力のカスタマイジング設定の特定
- 請求と支払における源泉徴収税の使用
- 納税申告書の作成

## レッスン: ドイツの税レポート

### レッスンの概要

このレッスンでは、ドイツの税レポートに関する国固有の設定について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 消費税の納税申告書の作成
- プログラム RFUMSV00 の実行時における未払税勘定への自動転記に関するカスタマイジング設定の特定

### ビジネスシナリオ

財務会計プロジェクトチームのメンバーとして、SAP ERP の標準税レポートがドイツの要件を満たしているかどうかをチェックする必要があります。

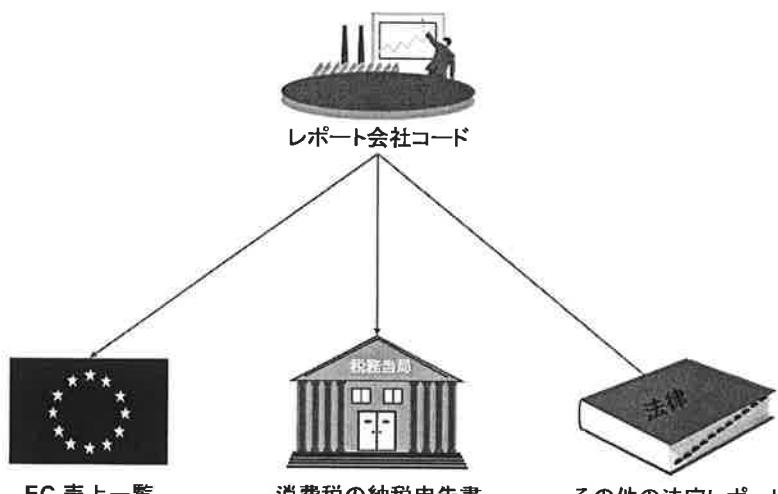


図 251: レポート

現在、レポート処理をサポートするためのさまざまなレポートが用意されています。これらのレポートは、国固有の要件も満たしています。売上税レポート、集計 EU レポート、その他法的に必要とされるレポート(例: ドイツ貿易規則に対するレポート)などのさまざまな国固有のレポートがあります。

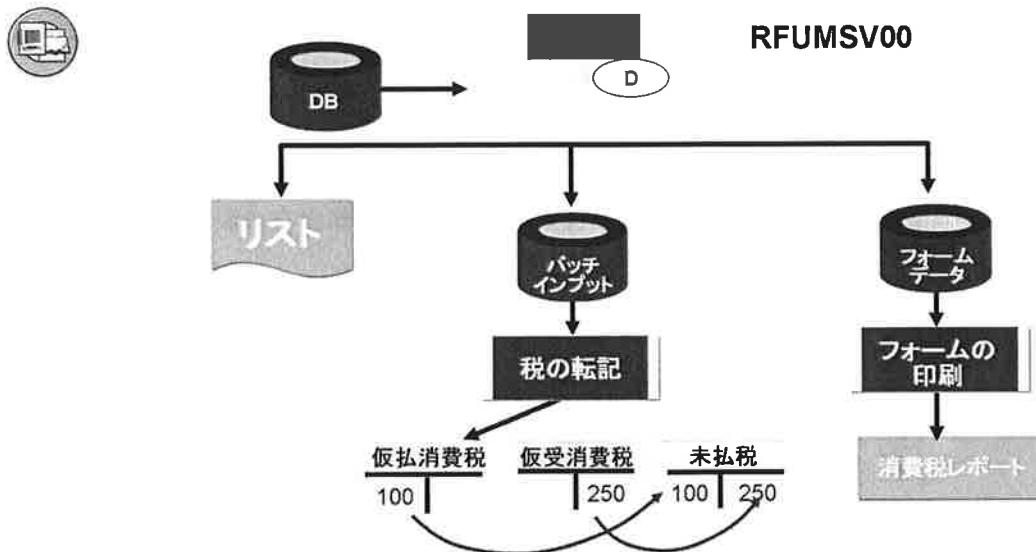


図 252: 納税申告書と転記

レポート RFUMSV00 では、消費税レポートが作成されます。必要に応じて、未払税の自動振替転記のためのパッチインプットセッションも開始されます。

レポートの出力は、税タイプ(仮払消費税と仮受消費税)ごとに明細レベルで照会することができます。

未払税の自動振替転記のためのパッチインプットセッションが開始されると、選択した会社コードごとに伝票が 1 件生成されます。この伝票には、各税勘定について、税勘定への転記に関する明細と未払税勘定への転記に関する明細がそれぞれ 1 件ずつ含まれています。

リリース 4.6C 以降: 未払税の振替転記を仕入先勘定に転記することができます。使用する勘定コード表で、対応する仕入先勘定を内部処理キー “UMS” に割り当てます。この場合、内部処理キー “UMS” に割り当てられた転記キーが、仕入先勘定への転記用に定義されている必要があります。

出力一覧のレイアウトを要件に合わせて設定することができます。そのためには、ABAP リストビューアの機能を使用することができます。

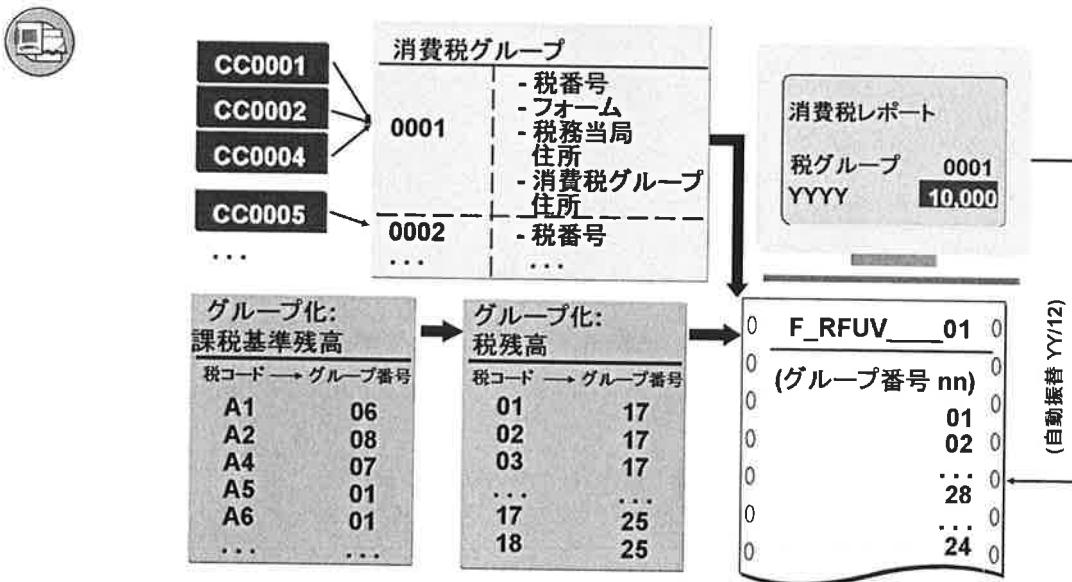


図 253: 消費税レポート(ドイツ)

複数の会社コードについて 1 つの納税申告書を生成する場合は、それらの会社コードを消費税グループに統合することができます。税額はフォームに印刷することができます。

各課税基準額グループは、消費税レポートの 1 件の明細を表しています。課税基準額の税残高は、この明細に入力されます。

特定のグループの金額を小計、繰越残高、総計に分割する必要がある場合は、関連する追加グループをここに入力します。

また、DTA ファイルの形式で消費税の納税申告書を作成し、税務当局に(電子メールなどで)送信することもできます。プログラムによって準備された税データの集計バージョンを XML 形式やフラットファイル形式で出力することができます。



## 演習問題 30: ドイツの税レポート

### 演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ドイツの納税申告書の作成

### ビジネスシナリオ

会社コード AC## はドイツにあり、税の標準月次レポートを作成する必要があります。

### タスク：

以下のタスクを実行します。

1. 月次レポートの一環として、税関連データを税務当局に報告する必要があります。会社コード AC## で現会計年度の現会計期間に行われた転記について、ドイツの消費税レポート(RFUMSV00)を実行します。転記パラメータを指定してバッチインプットセッション TAX## を開始し、次会計期間の初日に取引を転記し、次会計期間の 10 日を支払期日として記録します。転記には伝票タイプ SA を使用します。開始されたバッチインプットセッションを(フォアグラウンド)処理して、総勘定元帳への転記を生成します。“バッチインプット処理完了”というメッセージが表示されたら、処理は完了です。

## 解答 30: ドイツの税レポート

### タスク:

以下のタスクを実行します。

- 月次レポートの一環として、税関連データを税務当局に報告する必要があります。会社コード AC## で現会計年度の現会計期間に行われた転記について、ドイツの消費税レポート (RFUMSV00) を実行します。転記パラメータを指定してバッチインプットセッション TAX## を開始し、次会計期間の初日に取引を転記し、次会計期間の 10 日を支払期日として記録します。転記には伝票タイプ SA を使用します。開始された

次へ

バッチインプットセッションを(フォアグラウンド)処理して、総勘定元帳への転記を生成します。“バッチインプット処理完了”というメッセージが表示されたら、処理は完了です。

#### a) 消費税レポートの作成

一般税レポートのメニューパス:

会計管理→財務会計→総勘定元帳→レポート→税レポート→一般→消費税レポート→消費税レポート

以下のデータを入力します。

会社コード: AC##

会計年度: 今年度

転記日付: 現会計期間の初日

終了日付: 現会計期間の末日

以下のように選択します。

未払税転記を選択し、以下の情報を入力します。

バッチインプットセッション必須: X

転記伝票タイプ: SA

転記日付: 次会計期間の初日

未払税支払期日: 次会計期間の 10 日

セッション名: TAX##

プログラムを実行します。

バッチインプットセッションのメニューパス:

システム→サービス→バッチインプット→セッション。各自のセッションを選択し、処理を選択します。

処理/フォアグラウンドを選択し、処理をクリックします。

'Enter' を押して転記画面に従って処理します。

終了を選択して、“バッチインプット処理完了”メッセージを確認します。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ・ 消費税の納税申告書の作成
- ・ プログラム RFUMSV00 の実行時における未払税勘定への自動転記に関するカスタマイジング設定の特定

## レッスン: EU の税レポート

### レッスンの概要

このレッスンでは、EU の税レポートに関する固有の設定について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- EU の税レポートに関するデータの分析
- EU の税レポートに関するカスタマイジングの確認
- EU の要件に応じた EC 売上一覧の登録

### ビジネスシナリオ

会社は EU 諸国の会社と事業関係があります。財務会計プロジェクトチームのメンバーとして、SAP ERP の標準税レポートが EU の要件を満たしているかどうかをチェックする必要があります。



<p><b>得意先</b></p> <p><b>税コード</b></p> <p>X1 = 納入 X2 = サービス</p> <p><b>消費税の納税申告書 ID</b></p> <p>➤ 会社コード ➤ 得意先</p> <p><b>得意先明細</b></p> <p>伝票への ID の転送</p> <p><input type="radio"/> RFASLMOO <input type="radio"/> EC 売上一覧</p>	<p><b>仕入先</b></p> <p><b>税コード</b></p> <p>Y1 = 取得税</p> <p><b>自動転記</b></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>取得税</th> <th>取得税</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </table> <p><input type="radio"/> RFUMMSV00 <input type="radio"/> 税レポート</p>	取得税	取得税	100	100
取得税	取得税				
100	100				

図 254: ヨーロッパ単一市場

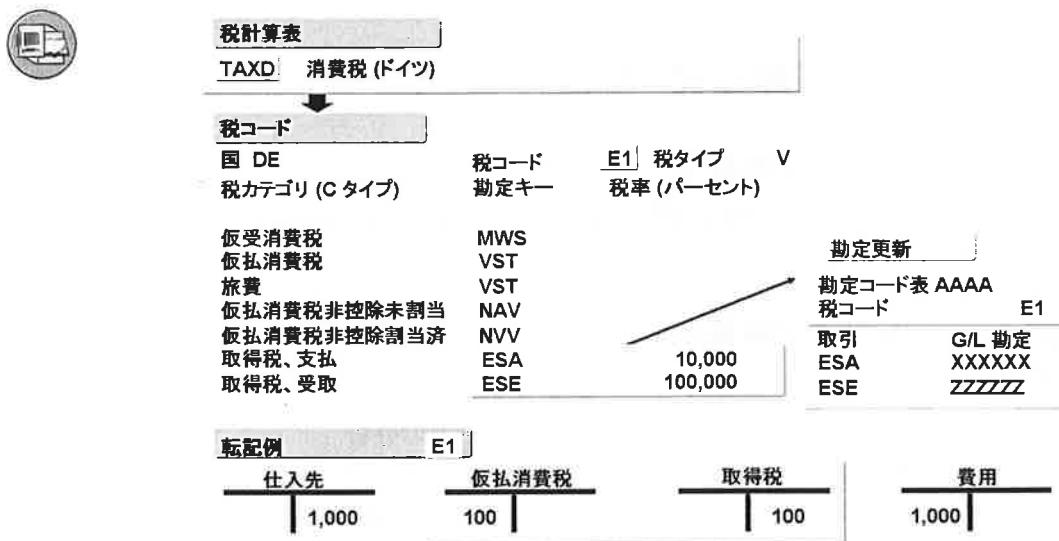


図 255: 例: 取得税コード

税コードは、伝票の勘定設定キーとしての役割を果たします。

税計算表の割当にもとづいて、以下が実行されます。

- 税額の計算 (必要に応じて)
- マニュアルで割り当てられた税額のチェック
- 税転記明細の自動登録



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- EU の税レポートに関するデータの分析
- EU の税レポートに関するカスタマイジングの確認
- EU の要件に応じた EC 売上一覧の登録

## レッスン: ドイツ貿易規則にもとづくレポート

### レッスンの概要

Z1、Z4、Z5a 通知



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ドイツ貿易規則にもとづくレポートの実行

### ビジネスシナリオ

財務会計プロジェクトチームのメンバーとして、SAP ERP のレポートがドイツ貿易規則の要件を満たしているかどうかをチェックする必要があります。



フォーム	目的	R/3 プログラム
Z1	国外取引規則にもとづく支払依頼 国外金融機関によって行われる支払に使用します。	支払プログラム (銀行振込)
Z4	国外勘定レポート(入金額) 国外金融機関の口座に対して行われる、商品のシップメントに 関連しない入金に使用します。  国外勘定レポート(支払額) 国外金融機関の口座から行われる、商品のシップメントに 関連しない支払に使用します。 国外取引規則にもとづく支払 報告する必要がない入金および支払に使用します。	RFAWVZ40
Z5A	- 振替 - 現金支払 - 小切手および手形 - 相殺および消込トランザクション  前受/前払金を含む、商品やサービスの販売による 債務および債権	RFAWVZ5A  RFAWVZ5P

図 256: 貿易



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ドイツ貿易規則にもとづくレポートの実行

## レッスン: 連結

### レッスンの概要

このレッスンでは、グループ会計に関する財務会計の決算準備処理の概要について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 財務会計での連結の準備についての説明

### ビジネスシナリオ

財務会計プロジェクトチームのメンバーとして、SAP ERPにおけるグループ会計について説明するように依頼されました。



科目	A	B	Σ 貸借対照表
投資	800	-	800
その他の資産	-	-	-
流動資産	500	200	700
関連会社からの取得	100	-	100
外部からの債権	300	200	500
債権債務	-	100	100
<hr/>			
自己資本	1000	300	1300
該当年度の利益	100	100	200
外部への債務	400	100	500
関連会社への債務	100	-	100

図 257: 連結の基礎としての個別財務諸表データ

関連するすべての会社の個別財務諸表が連結の基礎となります。

1つの会社のすべての財務諸表が連結勘定コード表(グループの標準勘定コード表と同様)で報告されます。ビジネス上の観点から見ると、これはグループ内のすべての会社の個別財務諸表から構成される、財務諸表の集約されたセットとなります。

これらの単純合計財務諸表には、グループ内のサービスの交換の結果に過ぎない科目別値が数多く含まれています。外部の一般投資家がグループの本当の経済的な実力や業績の実態を把握することができなくなるため、これらの値は貸借対照表から除外される必要があります。グループ内の内部取引をすべて相殺消去するまでは、他のグループとの比較を行うことができません。

例：

- 会社 A は、会社 B の株式の 100% を保有しています。これらの株式に対して EUR 800 が支払われました。
- 会社 A の流動資産は個別財務諸表で EUR 500 と評価されており、そのうちの EUR 100 は会社 B からの原材料の購入によるものです。
- 会社 B は、金額 EUR 100 の債権(会社 A への原材料の出荷)を報告します。一方、会社 A は、金額 EUR 100 の債務(会社 B からの原材料の購入)を報告します。



科目	債権債務の相殺消去
投資	
その他の資産	
流動資産	
関連会社からの取得	
外部からの債権	
債権債務	100 (B) 貸方
自己資本	
該当年度の利益	
外部への債務	
関連会社への債務	100 (A) 借方

図 258: 債権債務の相殺消去

ただし、連結会計の経済単位の概念では、連結貸借対照表に同一グループ内の会社からの債務や債権を含めることはできません。個別財務諸表の貸借対照表の値は、グループ内取引会社が法的に法人としての実体を持っているために生成された値に過ぎません。グループ内の財務関係は、連結処理‘債権債務相殺消去’によって除去します(ドイツ商法 303 条)。

この処理には、以下の科目が関連します。

- 購買発注に関する支払った前払金、受け取った前受金
- 関連会社に対する債権、関連会社に対する債務
- 関連会社からの受取手形、関連会社への支払手形
- 前受収益/前払費用、未収収益/未払費用、当期純利益

実際には、債権債務相殺消去によって相殺差額が発生します。これは、評価アプローチの差異(実相殺差額)や会計期間の差異(統計相殺差額)が原因です。

以下の例では、会社 B の債権(取引先連結単位 A に対する債権)が会社 A の債務(取引先連結単位 B に対する債務)によって相殺消去されています。



科目	未実現損益相殺消去(流動資産)
<b>投資</b>	
その他の資産	
<b>流動資産</b>	
関連会社からの取得	20 (A) 貸方
外部からの債権	
<b>債権債務</b>	
<b>自己資本</b>	
該当年度の利益	20 (B) 貸方
外部への債務	
関連会社への債務	

図 259: 流動資産の未実現損益相殺消去

連結財務諸表に含まれる会社から提供される商品やサービスの全体または一部に関連する資産は、グループ内取引会社が法的に独立した 1 つの会社である場合に報告される金額で報告される必要があります(ドイツ商法 304 条第 1 項)。すべての会社間収益/損失を調整する必要があります。

グループコストは、ドイツ商法 255 条第 2 項に準ずるレポートオプションに従って計算されます。

例:

- ・ 会社 B が会社 A に原材料を供給します。これらの原材料は貸借対照表基準日に消費されず、会社 A の倉庫に保管されます。会社 B は EUR 80 で原材料を生産し、取引会社 A に EUR 20 の利益で販売しました。
- ・ そのため、原材料を EUR 80 の製造原価に合わせて調整する必要があります。また、会社 B では原材料の販売利益が調整されます。



科目	資本連結
投資	800 (A) 貸方
連結調整勘定	500 (A) 借方
その他の資産	
流動資産	
関連会社からの取得 外部からの債権	
債権債務	
自己資本	300 (B) 借方
該当年度の利益	
外部への債務	
関連会社への債務	

図 260: 資本連結

単純合計財務諸表には、親会社とそのすべての子会社の資産、負債、修正仕訳、および自己資本全体が含まれます。

そのため、単純合計財務諸表には、これらの子会社に対する親会社の比例連結用持分および子会社の資産が含まれます。グループの観点から見ると、子会社に対する親会社の比例連結用持分およびこれを表す資産は同じものです。子会社の資産とこれらの子会社に対する親会社の比例連結用持分は、コインの裏と表に相当します。

資本連結の一環として、親会社の比例連結用持分を子会社の資本に対して相殺する必要があります。まず、投資消去差額と連結調整勘定について、比例連結用持分と資本との差異をチェックする必要があります(通常、差異を個別複合資産に分割することができるかどうかという問題を明確にする必要があります)。

例:

- このシナリオでは、差異を個別複合資産に分割することができないと仮定します。連結調整勘定は、子会社 B の獲得した顧客ベース、従業員の意欲、マーケット上の地位、イノベーションの傾向に対して支払われた対価です。
- 子会社 B の資本(金額 300)は、親会社 A の比例連結用持分 800 に対して相殺消去されます。親会社 A では、差異が 500 として報告されます。



科目	連結貸借対照表
投資	-
連結調整勘定	500
その他の資産	-
流動資産	680
関連会社からの取得	80
外部からの債権	500
債権債務	-
自己資本	1000
今年度の金利	180
外部への債務	500
関連会社への債務	-
	$\Sigma$ 1680

図 261: 連結貸借対照表

連結プロセスの結果として、連結貸借対照表が作成されます。

連結貸借対照表では、すべてのグループ内取引会社の資産と負債が集計されます。

グループ内の会社間で交換されたすべてのサービスや活動が相殺消去されます。

これにより、外部の一般投資家は、同じ業界の競合他社とのグループとを比較することができるようになります。連結貸借対照表から、グループ内のサービスの交換が除かれた、グループの本当の経済的な実力や業績を把握することができます。

SAP の連結会計ソフトウェアでは、関連する取引が一連のタスクで相殺消去されます。これらのタスクは、カスタマの要件に合わせて調整することができます。連結プロセスはモニタで実行されます。このモニタには、エンドユーザーが実行する必要があるすべてのタスクが含まれています。

SAP 連結会計では、さまざまな会計原則 (U.S. GAAP, IAS、ドイツ商法) および管理連結アプローチを (利益センタ対象などについて) モデル化することができます。

ビジネスインフォメーションウェアハウスに備えられている柔軟なレポート機能を使用して、連結データを評価することができます。

ビジネスコンテンツには、標準レポート (貸借対照表、損益計算書、資産台帳) がすでに組み込まれています。これらのレポートは、簡単にカスタマシステムに適応させることができます。

BW の Web レポートを使用すると、ユーザは任意のシステムや場所から Internet Explorer 経由でレポートにアクセスすることができます。

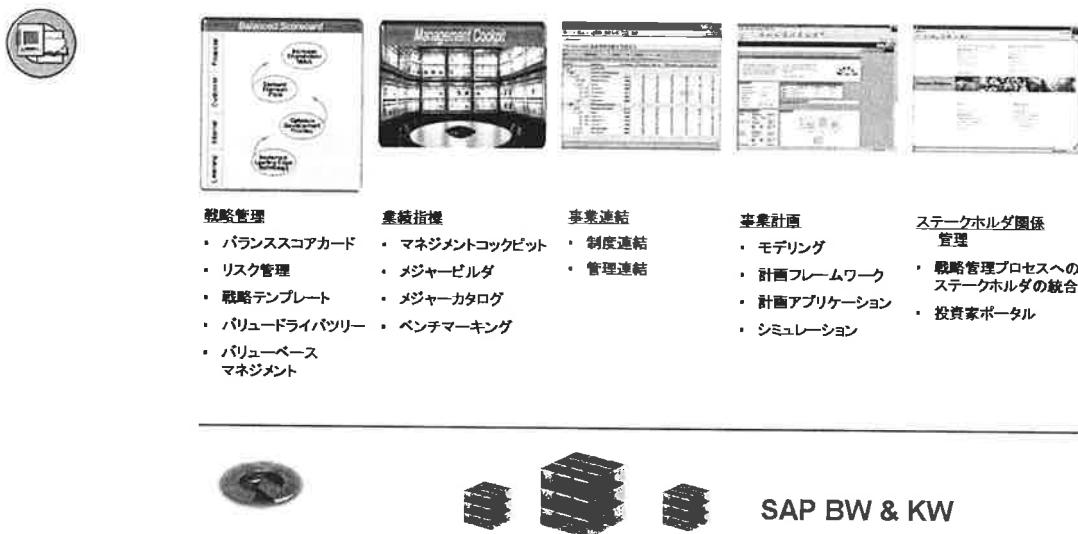


図 262: SAP Strategic Enterprise Management (SEM)

SEM データベースでは、SAP Business Information Warehouse の OLAP 構造が使用されます。これは、実際の SEM システムのインスタンス自体、または SEM データベースに加えて他のデータも含むリモート SAP BW のいずれかです。

ビジネスエクスプローラを使用した多次元 OLAP 分析には、以下の機能があります。

書式設定、Web レポート、自由なドリルダウン、スライス & ダイスを含む Microsoft Excel スプレッドシート

解釈モデルにもとづく KPI レポートには、以下の機能があります。

- メジャービルダ  
ビジネス指向タスクを含むデータベースが、SEM-CPM 解釈モデルの基盤として機能します。
- メジャーのツリー照会  
戦略的に重要な KPI に対する運用バリュードライバの影響を示す解釈モデルです。
- バランススコアカード (解釈モデル)  
戦略のモデル化とその実装を行い、それらを適切な KPI にリンクしてその有効性を測定します。バランススコアカードは、管理システムに含まれています。
- マネジメントコックピット (解釈モデル)  
KPI のグラフをオンラインで表示したり、会議室の壁に表示したりして、経営陣のコミュニケーションの効率を高める効果的な方法を提供します。

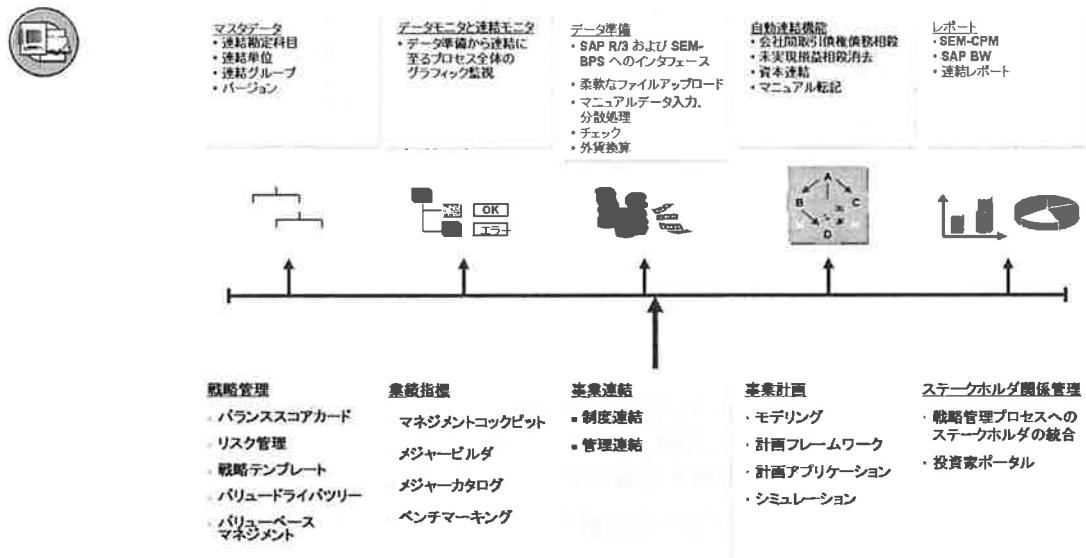


図 263: SAP SEM - 事業連結

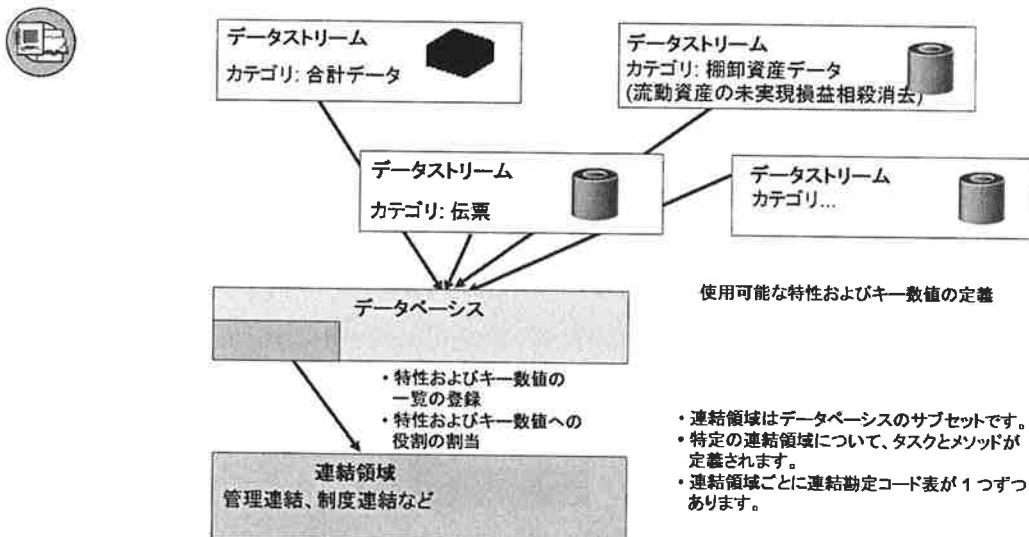


図 264: 連絡領域、データベース、およびデータストリーム間の相関関係

### データモデル

データベースによって、連絡データモデル、つまり特性とキー数値、および連絡におけるそれらの役割が定義されます。連絡領域は、データベース内の特性とキー数値のサブセットとして機能します。

データベースの初期登録後に追加特性(管理連絡に関連する特性など)が必要になった場合は、まずインフォキューブに登録する必要があります。

### データストリーム

データストリームは、連絡データの保管場所を表します。

BWには、連絡マスタデータおよび取引データを格納するRFC宛先が1つだけ存在します。RFC宛先を指定しない場合は、SEMシステムが配置されているシステムクライアントがRFC宛先となります。

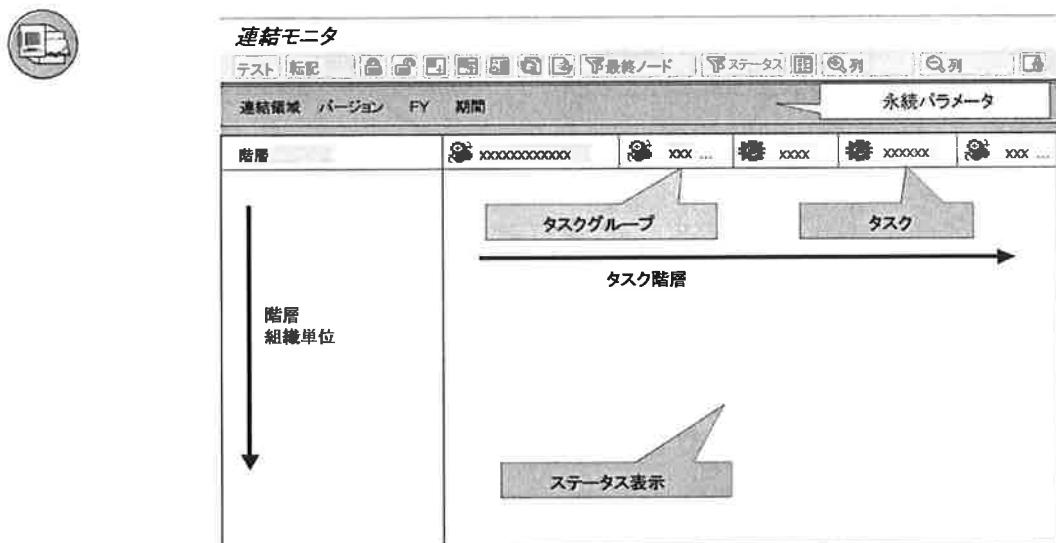


図 265: 連絡モニタ

連絡モニタでは、連結単位や連結グループ/タスクの概要がグラフィカルに表示されます。

連絡モニタは、以下の作業のための集中作業環境です。

- ・ タスク(全体的なレポートデータの収集、レポートデータの標準化、および連結処理のタスク)の実行
- ・ 連結単位およびグループごとのタスク処理プロセスの監視

連絡モニタは、マトリクス形式で構成されています。標準の組織ユニット階層およびタスク階層は、以下のように配置されます。

- ・ 組織ユニット階層は、行に表示されます。
- ・ タスク階層(タスクグループとタスクを含む)は、列に表示されます。

組織ユニット階層のノードごとに、タスクグループおよびタスクのステータスを照会することができます。

連絡モニタのメニューのキーによって、使用されている色、アイコン、テキストの意味を理解することができます。

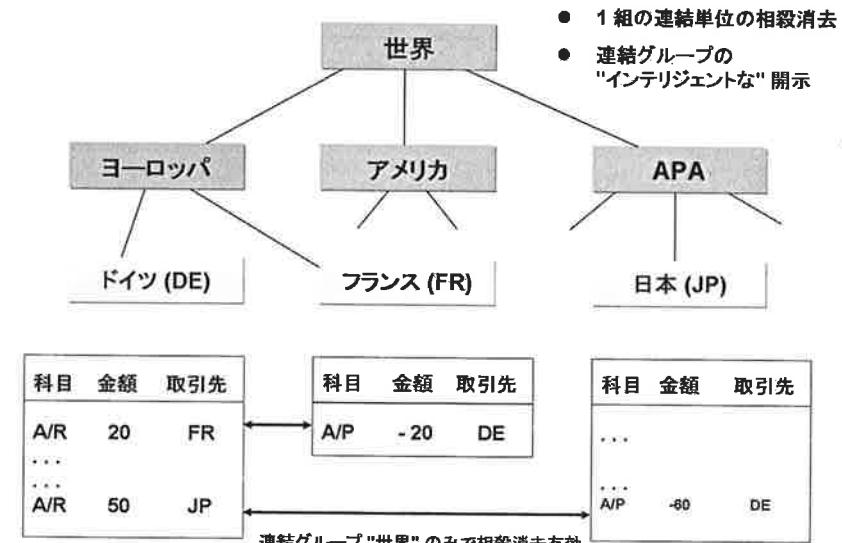


図 266: 会社間取引債権債務相殺

相殺消去は常にペアで転記されます。そのため会社間取引関係を相殺消去するには、取引会社勘定割当を使用して、関連する財務諸表科目データを入力する必要があります。

それぞれの転記時に、階層情報が考慮されます。連結グループレベルでは、ヨーロッパの会社のみが関連会社となります。日本のグループ子会社は、“ヨーロッパ”レベルでは外部と見なされます。“ヨーロッパ”グループレベルのレポートでは、日本の会社に対する債権/債務のデータレコードが表示されます。

“世界”レベルでは、グループ内のすべての会社が関連会社となります。会社間取引関係は、このレベルのみで完全に相殺消去されます。日本の会社に対するヨーロッパの会社の債権/債務は、このレベルでも表示されます。

連結領域内のさまざまな階層の使用例:

- グループの地域構造
- 別個の階層内の会社 A と会社 B および C

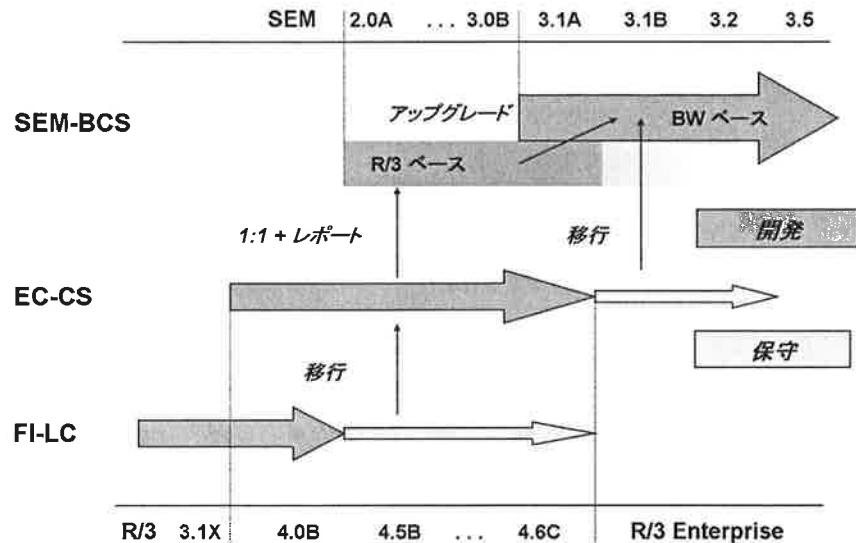
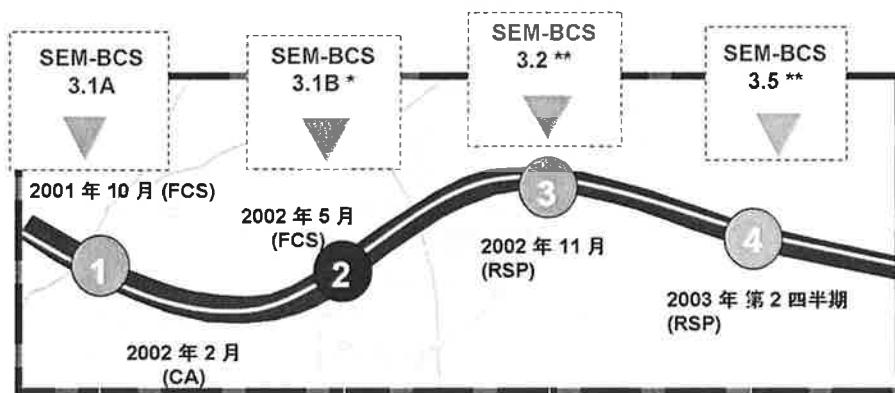


図 267: SAP 連結会計 - 製品と方針



- BW ベースの連結会計の第一バージョン
  - 管理連絡
  - 制度連絡
  - 全エリアの拡張機能
  - リリース 3.2 と同様の機能
- \* = 米国/ドイツのみ  
\*\* = SEM と同じ国々

図 268: SEM-BCS - 新リリースのロードマップ

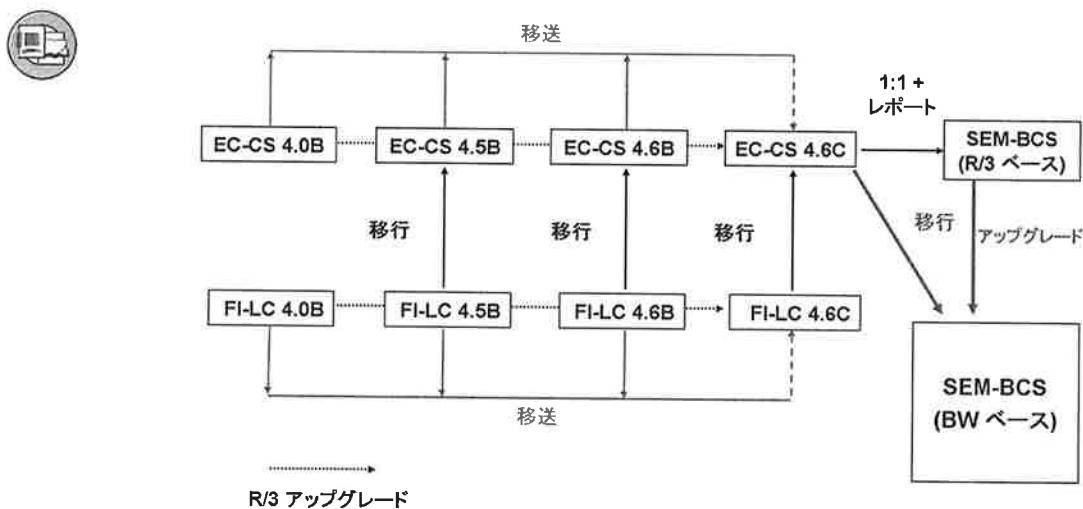


図 269: EC-CS および FI-LC カスタマ向けの移行オプション



図 270: SAPNet へのリンク (エイリアス: /SEM)



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 財務会計での連結の準備についての説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 財務諸表の調整を実行する手順の説明、および従来の総勘定元帳において財務諸表の調整を実行する利点の説明
- 調整のカスタマイジングを行う項目の特定
- 財務会計に影響を与える管理会計のプロセスについての説明
- 複数の財務会計組織ユニットにまたがる取引について、従来の総勘定元帳の照合元帳を使用して財務会計を更新する方法の説明
- 売上原価会計と期間会計の比較
- IMG での税処理の一般的なカスタマイジング設定の特定
- 1099/1042 ビジネスプロセスについての説明
- 源泉徴収税コードと 1099/1042 出力のカスタマイジング設定の特定
- 請求と支払における源泉徴収税の使用
- 納税申告書の作成
- 消費税の納税申告書の作成
- プログラム RFUMSV00 の実行時における未払税勘定への自動転記に関するカスタマイジング設定の特定
- EU の税レポートに関するデータの分析
- EU の税レポートに関するカスタマイジングの確認
- EU の要件に応じた EC 売上一覧の登録
- ドイツ貿易規則にもとづくレポートの実行
- 財務会計での連結の準備についての説明



# 13 章

## ミニケーススタディ

### 章の概要

ミニケーススタディの導入



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP システムでの財務会計の設定

### 章の内容

レッスン：ミニケーススタディ ..... 556

## レッスン: ミニケーススタディ

### レッスンの概要

ミニケーススタディ



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP システムでの財務会計の設定

### ビジネスシナリオ

あなたの部門は、新たに取得した SAP システムのテストを依頼されました。チームでは、企業経営陣にシステムを推奨し、デモを行うための準備ステップとして、このコースで使用されたような SAP システムの数多くのビジネスプロセスをテストする必要があります。シナリオを思いどおりに完了するために、設定の一部を調整または選択する必要がある場合があります。(コースで行ったのと同様に) すべてのオブジェクト名に各自のグループ名を入力して、自分のオブジェクトとその他のオブジェクトを区別してください。



**ヒント:** コースでのデモと説明に従って、他のオブジェクトに割り当てる必要のあるすべてのオブジェクトを割り当てる必要があります。

#### 1. 組織ユニット

- 既存の会社コード 1010 のコピーとして、会社コード ZT## を登録します。会社コード通貨(国内通貨)は、EUR のままにします。G/L 勘定の会社コードデータもコピーします。以下のビジネスプロセスで、会社コード ZT## を使用します。
- 企業グループでは、会社コード間管理会計を使用します。新しい会社コードを管理領域 1000 に割り当てます。

#### 2. 総勘定元帳の基本設定

- 総勘定元帳では、複数元帳アプローチにもとづいてパラレル会計を導入する必要があります。このため、“非リーディング元帳 Gr. ##”という名称の追加の“非リーディング元帳”を登録します。集計テーブル FAGLFLEXT を割り当てます。

ミニケーススタディでは、新しい元帳に 2 文字の ID を指定します。ID の 1 文字目は “N” とし、2 文字目は以下のように指定します。

グループ: 01 = A、02 = B、03 = C、04 = D、05 = E、06 = F、07 = G、08 = H、

グループ: 09 = I、10 = J、11 = K、12 = L、13 = M、14 = N、15 = O、  
16 = P、17 = Q、18 = R

例: グループ 05 の 2 文字目は E です。つまり、元帳の ID は NE となります。

- b) 新しい元帳 N# を会社コード ZT## に割り当てます。異なる会計年度バリエントおよび代替通貨は必要ありません。  
注記: 会社コード ZT## は、まだ本稼動では使用されていません。
- c) 新しい非リーディング元帳 N# では、今後セグメントレポートおよび売上原価会計を導入する必要があります。このため、元帳 N# にこれら 2 つのシナリオを割り当てます。

### 3. マスタデータ

- a) 新たに導入するセグメントレポートでは、新しいセグメントが必要になります。テキスト “セグメントグループ ##” を指定して、セグメント ZS## を登録します。
- b) 会社では、利益センタからセグメントを誘導するという標準的な方法を使用します。テキスト “利益センタグループ ##” を指定して、利益センタ ZP## を登録します。テンプレートとして、管理領域 1000 の利益センタ PRCTR## を使用します。利益センタを登録する場合は、この利益センタが正しい管理領域に割り当てられていることを確認してください。

分析期間として、1999 年 1 月 1 日～9999 年 12 月 31 日を指定する必要があります。セグメント ZS## を新しい利益センタに割り当てます。

必ず利益センタを有効化してください。

- c) テキスト “原価センタグループ ##” を指定して、原価センタ ZCC## を登録します。テンプレートとして、管理領域 1000 の原価センタ 1000 を使用します。有効期間として、1999 年 1 月 1 日～9999 年 12 月 31 日を選択します。この原価センタを会社コード ZT## に割り当てます。利益センタ ZP## を新しい原価センタ ZCC## に割り当てます。

### 4. ビジネスプロセス

- a) 会社コードの得意先 1000 を登録します。会社コード 1000 の得意先 1000 を参照として使用します。

現在の日付を転記日付として使用し、国内通貨で 555 通貨単位の得意先請求書(伝票タイプ DR)を転記します。この請求書を、収益勘定 800200 および税コード A0(国内仮受消費税 0%)と関連付けて入力します。

システムの連絡文書機能のフレキシビリティをテストするために、今月末に英語の残高確認書を登録します。

- b) 会社コード ZT## の新しい得意先を登録し、その得意先を勘定グループ “JUNA - 一般得意先” に追加します。すべての得意先は電子メールによる情報を必要としているため、担当者は新しい得意先の関連項目に入力する必要があります。

これとは別に、偶数番号の会社コードでは、(将来の請求エラーを回避するために) 新しい得意先の登録時に支払条件を必ず入力する必要があります。奇数番号の会社コードでは、未消込明細の消込がサポートされるように、新しい得意先の登録時にソートキー項目に常に値を指定する必要があります。ソートキーとして、“003 伝票日付” を選択します。

得意先コードを記入します: \_\_\_\_\_。

- c) タスク 4a) の請求書は誤って転記されているため、反対仕訳する必要があります。反対仕訳は、システムでは “通常の反対仕訳転記” としてマッピングされます。
- d) 銀行関連会計における外貨取引の転記 (ここでは銀行報告書転記) では、銀行のレートと、固有の伝票番号範囲を使用する伝票タイプを別途定義する必要があります。伝票タイプ ## をこの目的用に定義する必要があります。グループ 1 ~ 9 は番号範囲 Z# を定義し、グループ 10 ~ 18 は番号範囲 Y# を定義します (# は、各自のグループ番号の 2 行目です。たとえば、グループ 15 では、番号範囲間隔のキー項目として Y5 を選択します)。

これらの番号範囲には、間隔 9400000001 ~ 9499999999 が含まれています。セキュリティ上の理由により、この伝票は得意先と仕入先に対してブロックする必要があります。この伝票はこれらの特殊取引でのみ使用される伝票であるためです。これらの取引に対して内部的に番号が割り当てられます。

会社コードで伝票を入力するときに、ユーザが 2 通貨間の換算レートを変更した場合、差異が 5% 以上あると、このユーザに対して警告が表示されます。

会社コードに対して、伝票分割が有効化されています。カスタマイジングで、伝票タイプ ## に対して、伝票分割の適切な取引および取引バリエント 0001 を割り当てます。

これらのステップを完了した後、現会計期間の期末に 1,000 US ドルの銀行転記を実行し、これを Deutsche Bank USD 勘定である勘定 113150 に転記します (借方転記)。相手勘定入力は Deutsche Bank の国内勘定である勘定 113100 に転記されます。このために、新しい伝票タイプを使用します。

転記伝票ではどの換算レートが使用されましたか。換算レートテーブルで、このレートをチェックしてください。

- e) タスク 4b) の得意先への参照をコピーして、各自の会社コード ZT## に対して別の新規得意先を登録します。

すべての伝票において、明細レベルでの未消込明細消込のために得意先の勘定コードを追跡することができるようになります。また、データが入力された後は、会社コードの関連する伝票項目を変更することができないようにします。

この設定が意図したとおりに機能するかどうかをチェックするために、債権管理で国内通貨 5,000 単位の請求書を転記します。転記には、伝票タイプ DR、収益勘定 800200、税コード A0 を使用します。

伝票を転記した後、伝票項目がまだ変更可能であるかどうかをチェックします。

- f) 次に、先ほど登録した得意先に対してさらに 3 つの得意先請求書(伝票タイプ DR)を転記します。転記日付および伝票日付として、現在の日付を使用します。国内通貨 4,000 単位が転記されます。取引には、税(税コード A0)は関連しません。

伝票ヘッダの“参照”項目に、以下のテキストを入力します。最初の請求書には“請求書 1”、2 つ目の請求書には“請求書 2”的ように入力します。ここでも、相手勘定コード割当として収益勘定 800200 を使用します。

この得意先は、これらの未消込明細の 1 つについて、“請求書 3”を参照して、金額 4,000 単位(国内通貨)の小切手で支払いました。債権管理で、関連する未消込明細を消し込みます。消込を転記しますが、その際、参照情報と関連付けて正しい未消込明細を直接特定することができるようになります。相手勘定コードとして銀行勘定 113108 (Deutsche Bank (小切手受領)) を使用します。

- g) 会社コードの仕入先 Z-Vend-## を登録します。転記した後、伝票内の発注番号が常に追跡可能である必要があります。これにより、月末に自動消込プログラムを実行して、入庫/請求仮勘定の関連明細を消し込むことができるようになります。

この特定の仕入先が、企業に新しい床材とケーブルを供給します。仕入先との間で分割支払について合意したため、この仕入先に対して関連する支払条件 ZT## を定義する必要があります。請求書受領時(転記日付)にすべての請求書の 25% (G##1) を支払い、30 日後にさらに 60% (G##2) を支払い、45 日後に残りの 15% (G##3) を支払うことで合意しました。最後の分割支払は自動的に保留になり、商品が入庫されるまで保留のままになります。

デモのために、先ほど債務で受領した国内通貨 10,000 単位の請求書を費用勘定 476900 (その他原価) に転記します。これは税関連取引ではありません(税コード V0)。その後、伝票を照会して、各明細が正しく表示されていることを確認します。

h) 自動支払プログラム F110 を使用して、会社コード ZT## の仕入先 Z-Vend-## に対して小切手(S)で支払を行います。支払処理 ID として GR## を選択します。ただし、設定されている支払保留は解除しないでください。銀行詳細または必要なバリアントは、各自の会社コードに応じて変更することができます。未消込明細の消込のために登録された消込伝票の番号を照会します。

i) 仕入先 Z-Vend-## から、事務用品(勘定 476000)に対する 10,000 国内通貨単位の金額の請求書を受領しました。この事務用品のうち 4 分の 1 のみが自社用です。そのため、会社コード 1000 の原価センタ 1000 の担当者が請求額の 75% の支払に合意しました。税率は 0% (V0) です。

会社コード ZT## と会社コード 1000との間に消込関係を設定します。(債権および債務用の) 消込勘定として、会社コード 1000 の G/L 勘定 194620 を使用することができます。会社コード ZT## の消込勘定として G/L 勘定 194610 を指定します。

さらに、企業構造に会社 ID ZC## を登録します。会社コードに指定したものと同じ国および通貨の値を入力します。会社コード ZT## をこの新しい会社に割り当てます。

上記の事務用品の仕入先請求書を転記することによって、会社コード消込をテストします。会社コード 1000 の原価センタ 1000 に、比率に応じて転記を行います。

j) 保管庫の賃貸に関して、仕入先 Z-VEND-## と 1 年契約を締結しました。この契約は今月初日から有効になり、月次賃料は国内通貨 5,555 単位(税なし)です。転記は、費用勘定 470000(施設費)に対して行われます。

ここで、システムにおけるこの繰返転記を照会して、試しに今月の転記をデモする必要があります。企業の経営陣は、不意の二重支払を防ぐために SAP システムでこの情報がどのように監視および制御されるのかを知りたがっています。

k) 総勘定元帳に、G/L 勘定伝票(伝票タイプ SA)を入力します。このときに、国内通貨 66 単位の金額(総額)の事務用品の現金仕入(勘定 405200)を税コード 11(トレーニング用仮払消費税 10%)を使用して入力します。相手勘定コードとして、小口現金(勘定 100000)を使用します。

伝票を照会します。総勘定元帳ビューに切り替えて、事業領域情報が元帳 0L には表示される一方で、新しい元帳 N# には表示されない理由を経営陣のチームに対して説明します。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP システムでの財務会計の設定



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP システムでの財務会計の設定



## コースのまとめ

以下について学習しました。

- カスタマイジングにおける、定期処理の実行のために使用可能な機能の特定
- 外部財務会計での定期的な日次取引における必要な設定の実行
- 個別勘定決算処理に関するプログラムとレポートの実行



# 付録 1

## チェックリスト

月次決算処理				
決算準備処理				
エリア	パス	タスク	月	注記
HR	#57	給与計算転記	旧	
MM	#12-13	入庫/請求仮勘定の更新	旧	継続的
GL	#43-44	見越/繰延転記	旧	
FI	#45	繰返入力	旧	
FI	#85	見越と繰延	旧	
SD	-	出庫/請求	旧	期間の転記がすべて生成されているかどうかをチェック
FI	#63	新会計期間のオープ	旧	
AA	#5 48	- 減価償却計算 - 金利 - 建設仮勘定決済	新	建設仮勘定 (AUC) を運用資産に決済
MM	#14-15	品目評価	新	必要時
MM	#17	品目元帳クローズ	新	

MM	#18-19	品目マスタクローズ	新	期末前の転記が許可されている場合、期末前の決算処理の実行が可能
AR/AP	#63	前会計期間クローズ	新	G/L での決算仕訳後
FI	#63	前会計期間クローズ	新	G/L での決算仕訳後

“パス”列内の数字の前の # 記号は、メニュー一覧内のアクティビティの番号を表します。

月次決算処理				
管理会計上の決算処理				
エリア	パス	タスク	月	注記
FI/CO	--	仮レポート	新	
CO	#51	原価センタ: - 付加原価 - 付替と配賦 - 間接活動配分 - 実績活動価格の計算と配分の更新	新	
CO	#47, 50	内部指図 - 間接費 - 決済	新	期間中に複数回の決済が可能  AA や FI への外部決済については、適切な総勘定元帳勘定を再オープン

CO/PP	#49	製造指図 - 間接費 - 仕掛品計算 - 差異計算 - 決済	新	必要に応じ、原価センタおよび内部指図配分後  適切な総勘定元帳勘定を再オープンして決済
CO	#52	収益性分析 - 原価センタ配賦  - 活動基準原価計算配分	新	
CO	#53	管理会計取引のロック	新	各取引タイプを完了済としてロックまたは期間全体のロックが可能

月次決算処理				
外部決算処理				
エリア	パス	タスク	月	注記
FI	#63	調整のための会計期間の再オープン	新	
FI/CO	#54-55	CO/FI 照合転記	新	(従来の GL のみ) CO での会社コード間、事業領域間、機能領域間のフローを FI に転記
FI	#39	未消込明細(外貨)の再評価	新	
GL	#43	貸借対照表勘定(外貨)の再評価	新	
FI/PCA	#67-70	貸借対照表調整	新	(従来の GL のみ)
FI/CO-PA	#71	損益の調整	新	(従来の GL のみ)

FI	#63	最終決算処理	新	
FI/CO	#72 #2-4 #82 --	最終レポート: - 要約伝票仕訳帳 - 財務諸表 - 消費税 - 内部レポート	新	
FI	#74-75	残高監査証跡	新	

## 年次決算処理

年次決算処理				
決算準備処理				
エリア	パス	タスク	月	注記
FI	#63	新会計年度オープン	旧	
MM	#25	実地棚卸処理	旧	年度末または必要時
CO/PP	#15	新しい品目原価見積による品目再評価	旧	年度末または必要時
AR/AP	#29	残高確認書	旧	
AA	#8	会計年度変更	旧	旧年度の最終会計期間より前は実行不可
FI	#64	繰越残高	旧	
MM	#19-24	在庫評価 - 低価法決定、LIFO、FIFO	新	その会計年度へのMM転記完了後
AA	-	- 評価 - 国庫補助金等	新	その会計年度へのAA転記完了後
AA	#9-10	年度末処理	新	会計年度変更およびAAでの償却記帳完了後
AR/AP	#63	会計年度クローズ	新	

年次決算処理				
外部決算処理				
エリア	パス	タスク	月	注記
FI	#26-27	入庫/請求仮勘定転記 の分析	新	
FI	#40-41	債権と債務の再グ ループ化	新	
FI	-	一般調整	新	
FI	#63	会計年度最終処理	新	
GL	-	残高一覧 - 旧会計年 度から新会計年度へ	新	前年度の最終残 高と繰越残高の照 合
FI/CO/AA	#10	最終レポート:  月次処理に以下を追 加:  - 残高一覧 (年度末)  - 資産台帳	新	
FI	#76-79	残高監査証跡 (累積)	新	
FI	#86	会社間照合	新	



# 付録 2

## メニュー・パス

トランザクション	メニュー・パス	トランザクション
章 - 財務諸表		
1. 財務諸表バージョンの定義	IMG → 財務会計 → 総勘定元帳 → トランザクション → 決算処理 → 伝票 → 定義: 財務諸表バージョン	OB58
2. 貸借対照表の作成 (RFBILA00)	<p>情報管理 → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 貸借対照表</p> <p>または</p> <p>会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理(新) → 財務諸表/キャッシュフロー → 一般 → 実績/実績比較 → 財務諸表</p>	F0.01  S_ALR_87012284
3. 貸借対照表ドリルダウンレポートの作成	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理(新) → 財務諸表/キャッシュフロー → 一般 → 実績/実績比較 → 財務諸表(実績/実績)	各種
固定資産と流動資産(TFIN50 の範囲外)		

トランザクション	メニューパス	トランザクション
4. 償却記帳の実行	会計管理→財務会計→固定資産→定期処理→償却記帳→実行	AFAB
5. 投資援助の算出	会計管理→財務会計→固定資産→定期処理→投資援助	AR11N
6. 再評価転記	会計管理→財務会計→固定資産→定期処理→貸借対照表の再評価→再評価転記	AR29
7. 会計年度変更 (AA)	会計管理→財務会計→固定資産→定期処理→会計年度変更	AJRW
8. 会計年度変更 (AA) - 統制勘定	会計管理→財務会計→固定資産→定期処理→年度末処理→勘定照合	ABST2
9. 年度末処理 (AA)	会計管理→財務会計→固定資産→定期処理→年度末処理→実行	AJAB
10. 資産台帳の作成	会計管理→財務会計→固定資産→情報管理→固定資産管理レポート→財務諸表注記→国外→資産台帳 または 会計管理→財務会計→固定資産→情報管理→固定資産管理レポート→財務諸表注記→国依存→...	S_ALR_87011990 各種
11. 入庫/請求書受領勘定残高一覧の作成	ロジスティクス→在庫/購買管理→在庫管理→関連処理→残高照会→入庫/請求差異一覧	MB5S
12. 入庫/請求仮勘定の更新	ロジスティクス→在庫/購買管理→ロジスティクス請求書照合→入庫/請求差異決済→入庫/請求差異決済	MR11

トランザクション	メニューパス	トランザクション
13. 品目評価 - 價格変更 (マニュアル)	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→品目単価の変更→品目単価変更	MR21
14. 品目評価 - 品目貸借転記	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→品目単価の変更→品目貸借転記	MR22
15. 原価積上の品目価格更新	会計管理→管理会計→製品原価管理→製品原価計画→原価積上→価格更新	CK24
16. 品目元帳決算処理	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→実際原価計算/品目元帳→定期品目評価→決算処理転記	CKMI
17. 在庫/購買管理の期間クローズ	ロジスティクス→在庫/購買管理→品目マスター→その他→会計期間締め処理	MMPV
18. 在庫/購買管理決算処理 - 前期会計期間への転記の制御	ロジスティクス→在庫/購買管理→品目マスター→その他→前会計期間転記可能	MMRV
19. 低価法評価 - 市場価格	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→在庫期末評価→低価法評価→市場価格	MRN0
20. 低価法評価 - 在庫日数	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→貸借対照表評価→低価法評価→在庫日数(供給日数)	MRN1
21. 低価法評価 - 移動率	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→貸借対照表評価→低価法評価→移動率	MRN2
22. 低価法評価 - 差損無評価	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→貸借対照表評価→低価法評価→差損無評価	MRN3
23. LIFO 評価	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→貸借対照表評価→LIFO 評価	各種

トランザクション	メニューパス	トランザクション
24. FIFO 評価	ロジスティクス→在庫/購買管理→評価→貸借対照表評価→FIFO 評価	各種
25. 実地棚卸の処理	ロジスティクス→在庫/購買管理→実地棚卸→...	各種
26. 入庫/請求仮勘定分析と取得税照会	会計管理→財務会計→総勘定元帳→定期処理→決算処理→再グループ化→入庫/請求仮勘定	F.19
27. 入庫/請求仮勘定の調整勘定の定義	IMG → 財務会計 → 総勘定元帳 → 取引 → 決算処理 → 再グループ化 → 定義: 入庫/請求仮勘定の調整勘定	OBYP
"債権と債務" の章		
28. 残高確認書の印刷	会計管理→財務会計→債権管理/債務管理→定期処理→決算処理→チェック/計算→残高確認書: 印刷  または  会計管理→財務会計→債権管理/債務管理→定期処理→連絡文書印刷→残高確認書→文書印刷	F0.17
29. 残高確認書の設定	会計管理→財務会計→債権管理/債務管理→定期処理→決算処理→チェック/計算→...  または  会計管理→財務会計→債権管理/債務管理→定期処理→連絡文書印刷→残高確認書...	F.1B、F.1A
30. 個別値調整の転記	会計管理→財務会計→債権管理→伝票入力→その他→振替転記(消込なし)	F-21

トランザクション	メニューパス	トランザクション
31. 均一レート値調整の勘定設定の定義	IMG → 財務会計 → 債権管理および債務管理 → トランザクション → 決算処理 → 評価 → 評価 → 定義: 勘定	OB00
32. 均一レート値調整の設定	IMG → 財務会計 → 債権管理/債務管理 → トランザクション → 決算処理 → 評価 → 評価...	SPRO
33. 均一レート値調整の実行	会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 定期処理 → 決算処理 → 評価 → 追加評価	F107
34. 不良債権の取崩	会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 伝票入力 → その他 → 振替転記(消込あり)	F-30
35. 換算レートのカスタマイズ	IMG → SAP NetWeaver → 一般設定 → 通貨 → 入力: 換算レート	各種
36. 換算レートの更新	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 環境 → 現在の設定 → 入力: 換算レート	OB08
37. 評価方法の定義	IMG → 財務会計(新規) → 総勘定元帳 → 定期処理 → 評価 → 定義: 評価方法	OB59
38. 外貨建未消込明細および外貨建貸借対照表勘定の評価	IMG → 財務会計(新規) → 総勘定元帳 → 定期処理 → 評価 → 外貨評価 → 自動通貨評価	F0.05
39. 換算レート差損益の勘定設定	IMG → 財務会計(新規) → 総勘定元帳 → 定期処理 → 評価 → 外貨評価 → 自動通貨評価	OBA1
40. 債権と債務の再グループ化	会計管理 → 財務会計(新規) → 債権管理/債務管理 → 定期処理 → 決算処理 → 再グループ化 → 債権/債務の組替	F101

トランザクション	メニューパス	トランザクション
41. 債権と債務を再グループ化するための勘定設定	IMG → 財務会計(新規) → 総勘定元帳(新) → 定期処理 → 債務	OBBV、OBBW、OBBX
42. 外貨貸借対照表勘定の評価(39を参照)	IMG → 財務会計(新規) → 総勘定元帳 → 定期処理 → 評価 → 外貨評価 → 自動通貨評価	
43. 見越/繰延転記	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 評価 → 見越/繰延伝票入力	FBS1
44. 見越/繰延伝票の反対仕訳	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 評価 → 見越/繰延伝票の反対仕訳	F0.81
45. 繰返伝票からの転記伝票の登録	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 繰返入力 → 実行	F0.14
<b>損益(TFIN50の範囲外)</b>		
46. 売上原価損益レポートの実行	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳レポート → 貸借対照表/損益計算書/キャッシュフロー → 一般 → ...	各種
47. 投資プロジェクト - 建設仮勘定への指図の決済	会計管理 → 設備予算管理 → 内部指図 → 期末処理 → 単一機能 → 決済...	各種
48. 投資プロジェクト - 運用資産への建設仮勘定の決済	会計管理 → 設備予算管理 → 資産 → 記帳 → 建設仮勘定の資本化 → 決済	AIBU
49. PP/CO 期末処理	ロジステイクス → 生産 → 製造管理 → 期末処理 → ... または会計管理 → 管理会計 → 製品原価管理 → 原価対象管理 → 指図別製品原価 → 期末処理 → 単一機能 → ...	各種

トランザクション	メニューパス	トランザクション
50. 内部指図の期末処理	会計管理 → 管理会計 → 内部指図 → 期末処理 → 単一機能 → ...	各種
51. 原価センタ会計の期末処理	会計管理 → 管理会計 → 原価センタ会計 → 期末処理 → 単一機能 → ...	各種
52. 収益性分析の期末処理	会計管理 → 管理会計 → 収益性分析 → 実績転記 → 期末処理 → 原価センタ原価/プロセス原価の振替 → ...	KEU5、KEG5、CPAE
53. 管理会計取引のロック	会計管理 → 管理会計 → 原価センタ会計 → 環境 → 期間ロック → 変更 ...	OKP1
54. 照合元帳 (従来の GL のみ)	会計管理 → 管理会計 → 原価要素会計 → 実績転記 → FI との照合	KALC
55. 照合元帳の追加転記 (従来の GL のみ)	会計管理 → 管理会計 → 原価要素会計 → 環境 → 照合元帳 → 繼続転記	KAL1
56. 照合元帳の設定 (従来の GL のみ)	IMG → 管理会計 → 原価要素会計 → 照合元帳	各種
57. 会計管理への給与管理情報の転記	人事管理 → 給与管理 → (国依存)	PC00_M99_CIPE
58. 会計管理への転記に関する給与管理の設定	IMG → 給与管理 → 給与管理: (国依存)	各種
"技術的ステップ、組織的ステップ、および伝票関連ステップ" の章		
59. 会計年度バリアントの定義	IMG → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 会計年度 → 更新: 会計年度バリアント(短縮会計年度更新)	OB29
60. 会社コードへの会計年度バリアントの割当	IMG → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 会計年度 → 割当: 会社コード-> 会計年度バリアント	OB37

トランザクション	メニューパス	トランザクション
61. 会計期間バリアントの定義	IMG → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 会計期間 → 定義: 会計期間バリアント	OBBO
62. 会社コードへの会計期間バリアントの割当	IMG → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 伝票 → 会計期間 → 割当: バリアント->会社コード	OBBP
63. 会計期間のオープン/クローズ	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 環境 → 現在の設定 → 会計期間オープン/クローズ	OB52
64. 新会計年度への残高繰越	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 残高繰越 → 繰越残高	F.16 または FAGLGVTR
65. 未処分利益勘定の定義	IMG → 財務会計 → 総勘定元帳 → トランザクション → 決算処理 → 残高繰越 → 定義: 未処分利益勘定	OB53
66. スケジュールマネージャ	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → スケジュールマネージャ	SCMA
67. 貸借対照表調整の計算 (従来の GL のみ)	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 再グループ化 → 貸借対照表調整 → 計算	F.5D
68. 貸借対照表調整転記 (従来の GL のみ)	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 再グループ化 → 貸借対照表調整 → 転記	F.5E
69. 利益センタ会計への貸借対照表項目の転送 (従来の GL のみ)	会計管理 → 経営管理 → 利益センタ会計 → 実績転記 → 期末処理 → 買掛金/売掛金転送	1KEK
70. PCA 繰越残高	会計管理 → 経営管理 → 利益センタ会計 → 実績転記 → 期末処理 → 残高繰越	2KES

トランザクション	メニューパス	トランザクション
71. 損益の調整 (従来の GL のみ)	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 再グループ化 → 損益調整	F0.50
72. 要約伝票仕訳帳の作成 (RFBELJ00)	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳レポート → 伝票 → 一般 → 要約伝票仕訳帳	S_ALR_87012289
73. 残高監査証跡のワークファイルの作成	IMG → 財務会計 → 総勘定元帳 → トランザクション → 決算処理 → 伝票 → 定義: 残高監査証跡の累積ワークファイル	OBQQ
74. 未消込明細勘定の月次残高監査証跡の実行 (RFKKBU00)	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 未消込明細勘定 → 伝票ファイルからの未消込明細勘定の残高監査証跡	S_ALR_87012317
75. その他の勘定の月次残高監査証跡の実行 (RFHABU00N)	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 全勘定 → 伝票ファイルからの総勘定元帳	S_ALR_87100205
76. 未消込明細管理勘定の累積残高監査証跡の抽出の登録 (RFKLET01) 従来の SAP メニューのみ	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 未消込明細勘定 → 残高監査証跡 → 未消込明細管理勘定の累積残高監査証跡の抽出	S_ALR_87012318
77. 未消込明細勘定の累積残高監査証跡の実行 (RFKKBU10) 従来の SAP メニューのみ	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 未消込明細勘定 → 残高監査証跡 → 未消込明細管理勘定の累積残高監査証跡からの勘定残高	S_ALR_87012319

トランザクション	メニューパス	トランザクション
78. その他の勘定の累積残高監査証跡の抽出の登録(RFKLET01) 従来の SAP メニューのみ	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 未消込明細勘定 → 残高監査証跡 → 累積履歴残高監査証跡の抽出	S_ALR_87012314
79. その他の勘定の累積残高監査証跡の実行(RFKLBU10) 従来の SAP メニューのみ	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → 伝票 → 残高監査証跡 → 未消込明細勘定 → 残高監査証跡 → 累積履歴残高監査証跡からの勘定詳細	S_ALR_87012315
"補足資料" の章		
80. 税の勘定設定	IMG → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 消費税 → 転記 → 定義: 税勘定	OB40
81. その他の税設定	IMG → 財務会計 → 財務会計共通設定 → 消費税 → ...	各種
82. 税レポート	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → レポート → 税レポート → ...	各種
83. 連結の抽出方法の選択	IMG → 経営管理 → 連結 → 統合: 連結処理準備 → センダーシステムでの準備 → データ転送準備/有効化 → 有効化: データ転送	OCCI
84. 連結会計へのデータの送信(定期抽出) 従来の GL のみ	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → 決算処理 → レポート → 連結会計へのデータ送信 または	GC44 F0.01

トランザクション	メニューパス	トランザクション
	情報管理 → 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 貸借対照表	
85. 見越と繰延	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 定期処理 → マニュアル見越/繰延	
86. 会社間照合	会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳(または債権管理/債務管理) → 定期処理 → 決算処理 → チェック/計算 → 会社間照合...	



# フィードバック

SAP AG 社は、本コース開発において、内容の正確さに尽力しております。ご意見/ご質問等がございましたら、コース評価の該当箇所にご記入ください。





リリース

SAP ERP

ECC 6.0 Ehp4

**TFIN50\_2**

**財務会計 I Week2 補助資料  
(支払プログラム)**



**練習問題／解答**



## 第1章: 基礎知識

### トピック: 得意先/仕入先勘定

この演習問題の目的は、以下のとおりです。

- 会社コードの登録
- 得意先/仕入先勘定の登録

新しい会社コードを登録します。

会計管理部門で得意先/仕入先マスターを登録します。

本コースでは会社コード GR## を使用して演習問題を行います。  
会社コード GR## が登録されていない場合、組織コピー機能を使用し、日本用に設定されている会社コード 5000 をコピーして GR## を登録して下さい。

#### 1-1 会社コード定義

##### 1-1-1 会社コード登録

組織コピー機能を使用して、会社コード 5000 をコピーし、会社コード GR## を登録します。

会社コードの登録は IMG から行います。

#### IMG へのメニューパス

SAP Easy Access メニュー: ツール → カスタマイジング → IMG → プロジェクト実行 (SPRO)

 SAP 完全版 IMG ボタンを押して、IMG を表示します。

#### 会社コードコピー

IMG: 企業構造 → 定義 → 財務会計 → 編集/コピー/削除/チェック: 会社コード

「コピー/削除/チェック: 会社コード」をダブルクリックで選択します。 (EC01)

 を押します。

コピーダイアログボックスで以下を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
会社コード(コピー元)	5000
会社コード(コピー先)	GR##

を押します。

「G/L 勘定コードの会社コードデータもコピーしますか」というメッセージは、

Yes を選択します。

「コピー先の会社コードに別の国内通貨を割当てますか」というメッセージは、

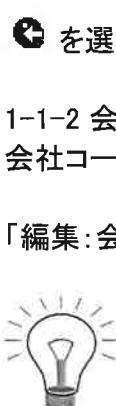
No を選択します。

「コピーされていないデータがあります」というメッセージは、 を選択します。

「元帳 8A (利益センタ会計) に不整合が発生しています」というメッセージは、

を選択します。

コピーが終了したら、「会社コード 5000 が GR## にコピーされました」というメッセージを確認し、 を押します。

 を選択し、アクティビティ選択画面に戻ります。

### 1-1-2 会社コード定義の変更

会社コード GR## の会社コード定義を変更します。

「編集:会社コードデータ」をダブルクリックで選択します。



位置

ボタンを押すと、入力値の検索を行うことができます。

会社コード GR## をダブルクリックで選択し、以下を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
会社名	## 株式会社
市区町村	任意
国	JP(日本国)
通貨	JPY(日本円)
言語	JA(日本語)

を押し、変更を保存します。

### 1-1-3 グローバルパラメータの確認

組織コピーでコピーされた、会社コードのグローバルパラメータを確認します。

IMG:財務会計 → 財務会計共通設定 → 会社コード → 登録:グローバルパラメータ

会社コード GR## をダブルクリックで選択し、グローバルパラメータを表示します。  
勘定コード表が CAJP(勘定コード表 日本)、会計年度バリエントが K4(暦月 +4 特別期間)であることを確認します。

## 1-2 仕入先マスタ登録

会社コード GR## に勘定グループ VEND(仕入先(外部、アルファ)) を使用して、仕入先マスタを登録します。

SAP Easy Access メニュー：会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → マスタレコード → 登録 (FK01)

項目名またはデータタイプ	値
仕入先コード	VEND##
会社コード	GR##
勘定グループ	VEND(仕入先(外部、アルファ))
参照仕入先コード	空白
参照会社コード	空白

を押します。

住所情報ページで以下を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
名称	任意
検索文字列 1	TFIN50_2
都道府県	任意
郵便番号	任意(7桁の数字)
市区町村	任意
国コード	JP(日本国)
言語	JA(日本語)

を 3 回押します。

会計情報ページで以下を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
統制勘定	412100(買掛金 - 国内)
資金管理グループ	A1(国内支払(A/P))

を押します。

支払処理ページで以下を入力します。

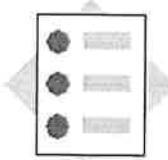
項目名またはデータタイプ	値
支払条件	0001(即日支払 正味支払)

を押し、仕入先マスタを登録します。



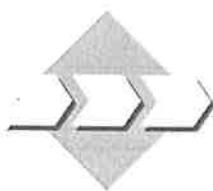
## 第1章: 基礎知識

### トピック: SAP 財務会計の基本伝票



この演習問題の目的は、以下のとおりです。

- 仕入先請求書登録



財務会計で直接、仕入先からの請求書を登録します。

#### 1-3 仕入先請求書登録

##### 1-3-1 仕入先請求書登録

仕入先 VEND## に 50,000 円 の仕入先請求書を転記します。

“税額計算”オプションを選択し、税コード V1 を使用します。

相手勘定として 消耗品費勘定 826700 の費用に転記します。

**SAP Easy Access メニュー : 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 伝票入力 → 請求書(Enjoy) (FB60)**

会社コードが GR## になっていることを確認します。



会社コードの入力が指示されたら、GR## を入力し、 を選択します。



すでに GR## と異なる会社コードが選択されている場合は、 会社コード ボタンを選択し、GR## に変更します。



画面全体に入力画面を表示するには、 品 ツリー オフ ボタンを選択します。



請求書日付（伝票日付）にシステム日付を初期値表示させるには、 編集オプション ボタンを押し、「伝票日付と転記日付は同じ」フラグを選択し、 を押して保存します（ユーザごとの設定）。再度トランザクションに入り直すと、請求書日付の初期値が表示されます。

基本データタブで以下を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
仕入先	VEND##
請求書日付	本日日付
転記日付	本日日付
金額	50 000
通貨	JPY
税額計算	ON
税コード	V1 (消費税 5% - 仕入)

明細で以下を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
G/L 勘定	826700 (消耗品費)
借方/貸方	借方
伝票通貨額	50 000
税コード	V1



**■ シミュレーション** を押すと、転記前に自動仕訳明細を含む仕訳内容を確認することができます。

**■** を押し、仕入先請求書を登録します。

伝票番号を書き留めます。

1900000000

### 1-3-2 仕入先請求書登録

追加で 150,000 円 の仕入先請求書を転記します。

相手勘定として 買入部品費勘定 823200 の費用に転記します。

これ以外の条件は 1-3-1 の演習問題と同じです。

**SAP Easy Access メニュー : 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 伝票入力 → 請求書(Enjoy) (FB60)**

前の演習問題の処理を繰り返し、仕入先に対する 150,000 円 の請求書を買入部品費勘定 823200 に転記します。

伝票番号を書き留めます。

1900000000



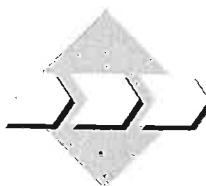
## 第2章: 自動支払

### トピック: 支払プログラム設定



この演習問題の目的は、以下のとおりです。

- 支払プログラム設定の確認
- 支払プログラムの設定
- 会社コード設定のカスタマイズ



支払プログラムで入金および支払を効率的に処理するために、カスタマイズ設定を確認し、必要な調整を行う必要があります。  
この演習問題では、それを実施します。

#### 2-1 支払プログラム設定

支払プログラムに関する現在の設定を確認し、自分の会社コード GR## の設定を行います。

支払プログラムの設定画面にアクセスするメニュー・パスはいくつかあります。  
どれを使っても同じ画面を開くことができます。  
好きなメニュー・パスを使用して、設定画面を開いてください。

#### 支払プログラムシステム設定メニュー(I):

IMG: 財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 銀行支払 → 自動銀行支払 → 支払プログラム用の支払方法/銀行選択 → ...

#### 支払プログラムシステム設定メニュー(II):

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 定期処理 → 支払 (F110)

メニュー・バー: 環境 → システム設定更新 (FBZP)

#### 支払プログラムシステム設定メニュー(III):

トランザクションコード: FBZP

##### 2-1-1 全会社コード設定

会社コード GR## の全会社コードの設定を確認します。

(I): → 設定: 支払取引の全会社コード

(II) (III):  を選択します。

(C) SAP Japan

TFIN50\_2/2010/11/01

7

会社コード GR## をダブルクリックで選択します。  
以下の情報を入力/確認します。

項目名またはデータタイプ	値
支払会社コード	GR##

必要に応じて  を選択して、保存します。  
 を選択して、画面を終了します。

### 2-1-2 支払会社コード

会社コード GR## の支払会社コードの設定を確認します。

- (I): → 設定:支払取引の支払会社コード  
(II) (III):  支払会社コード を選択します。

会社コード GR## をダブルクリックで選択します。  
以下の情報を入力/確認します。

項目名またはデータタイプ	値
銀行入金最低額	1 JPY
銀行支払最低額	1 000 JPY

書式 を選択して書式入力欄を開きます。  
以下の情報を入力/確認します。

項目名またはデータタイプ	値
支払明細通知書用書式	F110_JP_AVIS

センダ詳細 を選択してセンダ詳細入力欄を開き、支払通知書に印刷するセンダテキストが割り当たっていることを確認します。

必要に応じて  を選択して、保存します。  
 を選択して、画面を終了します。



注: これ以降、本演習問題では、日本用の国内銀行振込(支払方法:T)の設定を扱います。  
設定内容は、国や支払方法によって異なりますので注意してください。

### 2-1-3 国別支払方法

国コード JP(日本国)の支払方法 T(国内銀行振込)の設定を確認します。

(I): → 設定:支払取引の国別支払方法

(II) (III):  国別支払方法 を選択します。

国コード JP(日本国)の支払方法 T(国内銀行振込)をダブルクリックで選択します。  
以下の情報を確認します。

項目名またはデータタイプ	値 (T)
銀行支払	×
銀行振込	×
人件費支払方法	×
銀行詳細	×
支払伝票タイプ	ZP
消込伝票タイプ	ZV
支払媒体プログラム	RFFOJP_T
印刷データセット名	LIST3S

④ を選択して、画面を終了します。



国別支払方法の設定は、その国のすべての会社コードに影響するため、  
本演習問題では設定を変更しないでください。

#### 2-1-4 会社コード別支払方法

会社コード GR## の支払方法 T(国内銀行振込)の設定を確認します。

(I): → 設定:支払取引の会社コード別支払方法

(II) (III):  会社コード別支払方法 を選択します。

会社コード GR## の支払方法 T(国内銀行振込)をダブルクリックで選択します。  
以下の情報を入力/確認します。

項目名またはデータタイプ	値 (T)
最低支払額	1 JPY
最高支払額	1 000 000 000 JPY
国外ビジネスパートナー可	空白
外貨支払可能	空白
得意先/仕入先の国外口座からの支払	空白
銀行グループによる最適化	×

④ 書式データ を選択して書式データ欄を開き、国に合った書式が割り

当たっていることを確認します。

項目名またはデータタイプ	値 (T)
入出金データ転送媒体書式	F110_JP_TRANS
次書式	F110_JP_DME

「書式上の振出人」欄には、振込ファイルに出力する振込人情報を入力します。

必要に応じて  を選択して、保存します。

を選択して、画面を終了します。

## 2-1-5 取引銀行設定

### 2-1-5-1 取引銀行登録

会社コード GR## の取引銀行の設定を確認します。

銀行コード 0001005 を会社コード GR## の新しい取引銀行として登録します。

(I): IMG:財務会計 → 銀行関連会計 → 銀行口座 → 定義: 取引銀行 (F112)

(II) (III):  取引銀行 を選択します。

項目名またはデータタイプ	値
会社コード	GR##

を押し、会社コード GR## に登録された取引銀行を確認します。

新規エントリ ボタンを押し、新しい取引銀行を登録します。

項目名またはデータタイプ	値
取引銀行	HB##
銀行国コード	JP
銀行コード	0001005

DME を選択して DME データ欄を開き、振込情報を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
会社コード	12345678##
電信振込	×

→ 全銀連 (全銀連) (日本支)

を選択して、保存します。

### 2-1-5-2 銀行口座登録

会社コード GR## の取引銀行 HB## に新しい銀行口座 10000## を登録します。

画面左の「銀行口座」フォルダをダブルクリックで選択し、銀行口座を確認します。  
 ボタンを押し、新しい取引銀行に新しい口座を登録します。

項目名またはデータタイプ	値
会社コード	GR##
取引銀行	HB##
口座 ID	AC##
テキスト	任意
銀行口座番号	12345##
預金種別	02(当座預金)
通貨	JPY

を選択して、保存します。  
 を選択して、画面を終了します。

## 2-1-6 銀行設定

会社コード GR## の取引銀行 HB## の設定を確認します。

(I): → 設定: 支払取引に使用する銀行定義

(II) (III):  を選択します。

### 2-1-6-1 優先順序

取引銀行 HB## を日本円(通貨コード:JPY)の国内銀行振込(支払方法:T)で優先順序 1 位になるように登録します。

会社コード GR## を左のボタンを押して選択し、画面左の「順序」フォルダをダブルクリックします。



支払方法および通貨コードの組み合わせで優先順序が一意に決まる必要があります。

日本円(通貨コード:JPY)の国内銀行振込(支払方法:T)すでに優先順序 1 位の取引銀行が登録されている場合、その取引銀行の優先順序を変更後、保存してから登録します。

優先順位一番の取引銀行を 5100 から HB## に変更します。

項目名またはデータタイプ	値
支払方法	T
通貨	JPY
優先順序	1
取引銀行	HB##

□ を選択して、保存します。

#### 2-1-6-2 銀行口座

銀行口座 AC## に債務の相手勘定となる銀行仮勘定を割り当てます。

画面左の「銀行口座」フォルダをダブルクリックします。

新規エントリボタンを押し、取引銀行 HB##、銀行口座 AC## の設定を行います。

項目名またはデータタイプ	値 (T)
取引銀行 ID	HB##
支払方法	T
通貨	JPY
銀行口座 ID	AC##
銀行仮勘定	111202

□ を選択して、保存します。

#### 2-1-6-3 支払可能額

銀行口座 AC## に支払限度額を設定します。

画面左の「支払可能額」フォルダをダブルクリックします。

新規エントリボタンを押し、取引銀行 HB##、銀行口座 AC## の設定を行います。

項目名またはデータタイプ	値
取引銀行	HB##
銀行口座 ID	AC##
日数	999
通貨	JPY
支払可能額	2 000 000 000

□ を選択して、保存します。

◎ を選択して、画面を終了します。

#### 2-1-7 銀行手数料設定

銀行ごとの手数料額の設定を確認します。

(I): IMG:財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 銀行支払 → 自動銀行支払 → 支払媒体 → 支払媒体の国別設定 → 国内銀行振込(日本) → 定義:日本の銀行手数料

(II) (III): メニューバー：編集 → 会社コード → 銀行手数料(日本) → 銀行手数料

項目名またはデータタイプ	値
支払会社コード	GR##
取引銀行	5000

を押し、会社コード GR## の取引銀行 5000 の設定を確認します。



ここで設定する手数料は、手数料を相手(仕入先)が負担する場合に必要になります。

本演習問題では手数料は自社(会社コード)負担のため、新しい取引銀行 HB## 用の手数料の設定は必要ありません。

仕入先  
マスター  
設定され

④ を選択して、画面を終了します。

## 2-1-8 銀行手数料勘定設定

取引銀行 HB## 用の手数料勘定および銀行仮勘定の振替先の勘定を設定します。

(I): IMG:財務会計 → 債権管理および債務管理 → 取引 → 銀行支払 → 自動銀行支払 → 支払媒体 → 支払媒体の国別設定 → 国内銀行振込(日本) → 定義: 日本の銀行手数料勘定

(II) (III): メニューバー：編集 → 会社コード → 銀行手数料(日本) → 勘定設定

項目名またはデータタイプ	値
支払会社コード	GR##

を押し、会社コード GR## 用の勘定設定を確認します。

ボタンを押し、新しい取引銀行用の勘定設定を登録します。

項目名またはデータタイプ	値
銀行 ID	HB##
PM	T
通貨	JPY
銀行仮勘定(銀行本勘定)	111200 (当座預金勘定)
転記キー	50
銀行手数料勘定	879000 (雑収入勘定)
転記キー	50

④ を選択して、保存します。

④ を選択して、画面を終了します。



## 第2章: 自動支払

### トピック: 支払プログラムの実行

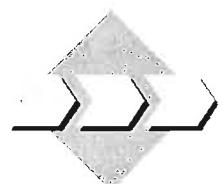


この演習問題の目的は、以下のとおりです。

- 未消込の仕入先請求書の支払保留設定
- 支払プログラム実行の準備
- 仕入先への支払方法および取引銀行の割当
- 支払実行パラメータの入力
- 提案実行の開始
- 支払提案の編集
- 提案一覧の支払を処理するための支払実行の開始
- 支払媒体の印刷

割引の有効期日までに仕入先への請求書の支払を行う必要があります。

処理が必要な仕入先請求書は大量にあります。  
会計管理部門では、請求書の支払を週に1度、自動で行いたいと考えています。



#### 2-2 仕入先マスタ変更

支払プログラムを実行するために仕入先 VEND## の仕入先マスタに必要な情報を入力/確認します。

クライアントレベルの支払処理画面で、仕入先の銀行情報、会社コードレベルの支払処理画面で支払方法を登録します。

*SAP Easy Access メニュー : 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → マスタレコード → 変更 (FK02)*

項目名またはデータタイプ	値
仕入先コード	VEND##
会社コード	GR##
一般データ: 支払処理	×
会社コードデータ: 支払処理	×

を押し、仕入先の銀行情報を入力します。

項目名またはデータタイプ	値
国	JP (日本国)
銀行コード	0001142
銀行口座	10000##
口座名義人	仕入先名 (半角カナ)
CK (預金種別)	02 (当座預金)
手数料負担コード	01 (支払人負担)

を 2 回押します。

項目名またはデータタイプ	値
支払条件	0001 (即日支払 正味支払)
支払方法	T (国内銀行振込)
支払保留	空白 (支払可能)

を押し、仕入先マスタを変更します。

### 2-3 仕入先請求書の照会

仕入先 VEND## に少なくとも 2 明細以上の未消込請求書があることを確認します。ない場合は、1-3 の演習問題を参照して、仕入先に請求書を転記してください。

SAP Easy Access メニュー : 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 勘定コード → 明細照会/変更 (FBL1N)

項目名またはデータタイプ	値
仕入先コード	VEND##
会社コード	GR##
全明細	×

を選択し、結果を確認します。

未消込明細が少なくとも 2 明細以上あることを確認します。

### 2-4 支払プログラム実行

支払プログラムを実行して、仕入先勘定の未消込請求書に対する支払処理を行います。

SAP Easy Access メニュー : 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 定期処理 → 支払 (F110)

項目名またはデータタイプ	値
実行日	本日日付
ID	##



支払プログラムの各ステップは「States」タブ画面から実行します。  
作業が終了したら States タブに戻ってから、次のステップに進みます。

#### 2-4-1 パラメータ入力

支払プログラムの実行に必要なパラメータを入力します。

Parameter タブを選択します。

項目名またはデータタイプ	値
転記日付	本日日付
伝票最終入力日	本日日付
会社コード一覧	GR##
支払方法	T (国内銀行振込)
次支払日	本日日付 + 7日
仕入先コード	VEND##

追加ログタブを選択します。

項目名またはデータタイプ	値
支払期日チェック	×
共通支払方法選択	×
支払伝票明細	×
仕入先	VEND##

を押し、パラメータを保存します。

States タブを選択します。

#### 2-4-2 提案実行

支払提案を実行し、提案データを作成します。

**[ 提案]** ボタンを選択します。

項目名またはデータタイプ	値
即時開始	×

を押し、提案実行を計画します。

ステータスが「支払提案が登録されました」になるまで、**[ ステータス]** あるいは  を繰り返し押して、ステータスを更新します。

#### 2-4-3 提案編集

提案データを照会し、必要に応じて変更します。

 提案編集 ボタンを選択します。

記帳担当者ダイアログ画面は、初期値のままで（「全会計担当者」にフラグ）を選択します。

支払明細が表示されます。

行頭のフラグが赤は例外、緑は支払対象です。

行をダブルクリックで選択し、支払対象明細の一覧を表示します。

任意の1明細をダブルクリックで選択し、明細変更画面を表示します。

項目名またはデータタイプ	値
支払保留	A(支払保留)

支払保留を設定し、を選択します。

を選択し、変更内容を保存します。

を選択し、支払明細の一覧画面に戻ります。

支払保留を設定した明細の行頭のフラグが赤で表示されていることを確認します。

を選択し、Statesタブに戻ります。

ステータス「支払提案が編集されました」が表示されていることを確認します。



提案処理をやり直す場合は、提案データを削除してから、再度提案実行をしてください。

提案データは メニューバー: 編集 → 提案 → 削除 で削除を行います。

## 2-4-4 支払処理実行

### 2-4-4-1 支払処理実行

編集した提案データを元に支払処理を実行します。

 支払処理 ボタンを選択します。

項目名またはデータタイプ	値
即時開始	<input checked="" type="checkbox"/>

を押し、支払実行を計画します。

ステータスが「支払提案が実行されました。転記順序:X 生成済 X 処理完了」になるまで、 ステータス あるいは  を繰り返し押してステータスを更新します。

### 2-4-4-2 仕入先明細照会

支払処理を実行すると、仕入先明細が消し込まれます。

消込伝票を確認します。

SAP Easy Access メニュー：会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 勘定コード → 明細照会/変更 (FBL1N)

項目名またはデータタイプ	値
仕入先コード	VEND##
会社コード	GR##
全明細	×

を選択し、結果を確認します。

未消込明細が消し込まれていることを確認します。

消込伝票の明細をダブルクリックで選択し、消込明細の詳細を表示します。

を選択し、消込伝票の概要を表示します。

#### 2-4-5 印刷処理

##### 2-4-5-1 印刷プログラム用バリアント登録

印刷プログラム実行時にはバリアントを指定する必要があります。

日本用国内銀行振込の印刷プログラム RFFOJP\_T に必要なバリアントを登録します。

メニューバー：システム → サービス → レポート

項目名またはデータタイプ	値
プログラム	RFFOJP_T

を選択し、プログラムの選択画面を表示します。

項目名またはデータタイプ	値
支払会社コード	GR##
支払方法	T (国内銀行振込)
DME	×
支払明細通知書印刷	× プリンタ: LP01
支払概要印刷	× プリンタ: LP01
コード区分と媒体	5 (TemSeへの出力 - JIS)
改行区分	2 (LF : ラインフィード)
転記方法	N (画面非表示)
見本印刷数	0

を押し、パラメータを保存します。

項目名またはデータタイプ	値
バリアント名	##
内容説明	任意

を押し、バリアントを保存します。

#### 2-4-5-2 印刷プログラムにバリアント割当

印刷プログラム RFFOJP\_T に今回の支払処理で使用するバリアント ## を割り当てます。

支払プログラムの画面に戻ります (F110)。  
プリント/データ媒体タブを選択します。

項目名またはデータタイプ	値
プログラム	バリアント
RFFOJP_T	##

を選択し、バリアントの割当を保存します。  
States タブに戻ります。

#### 2-4-5-3 印刷実行

印刷プログラムを実行するジョブを登録します。

印刷 を選択します。

項目名またはデータタイプ	値
即時開始	×
ジョブ名	末尾の「?」を1などに置換

を押し、ジョブを実行します。  
画面下部に印刷ジョブがスケジュールされたことを知らせるメッセージが表示されます。

#### 2-4-5-4 DME ファイルの確認

銀行振込ファイルが作成されたことを確認します。

支払プログラム実行画面の States タブに戻ります (F110)。

メニューバー : 環境 → 支払媒体 → DME 管理

DME データの一覧が表示されます。

該当するデータの左のボタンを押して選択します。

を選択して、ファイルの内容を照会します。

データ媒体内容照会画面を閉じ、 を選択して支払プログラム実行画面に戻ります。

2-4-5-5 画面での印刷書式照会  
プリンタにスプールされた報告書類を確認します。

メニューバー : システム → サービス → 出力制御

を選択し、スプール依頼の一覧を表示します。  
支払明細通知書と支払概要が表示されます。  
行頭のボックスにチェックを付けて選択し、 を押して内容を照会します。

2-4-5-6 銀行仮勘定の明細照会  
銀行仮勘定の明細照会を行い、仮勘定が消し込まれて、本勘定に振り替わっていることを確認します。

SAP Easy Access メニュー: 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 勘定  
→ 明細照会/変更(FBL3N)

項目名またはデータタイプ	値
勘定コード	111202 (銀行仮勘定)
会社コード	GR##
全明細	×

を選択し、結果を確認します。  
未消込明細が消し込まれていることを確認します。  
消込伝票の明細をダブルクリックして選択し、消込明細の詳細を表示します。  
 を選択し、消込伝票の概要を表示します。

2-5 空欄に答えを記入してください。  
2-5-1 支払プログラムには 4 つのステップがあります。  
それぞれの名前を挙げてください。

パラメータ更新  
提案実行  
支払実行  
支払媒体印刷

2-5-2 支払プログラムの設定は 5 つの領域に分けられます。  
それぞれの名前を挙げてください。

全会社コード  
支払会社コード  
国別支払方法  
会社コード別支払方法

## 銀行選択

2-5-3 \_\_\_\_\_ によって、支払処理の対象となる勘定および伝票が指定される。

## パラメータ

2-5-4 支払プログラムでは未消込明細を今回の支払実行で払う必要があるか、次回の支払実行で支払うかを \_\_\_\_\_ で決定する

## 次支払日

2-5-5 支払方法が \_\_\_\_\_ に入力された順番によって支払方法の優先度が決まる

## パラメータタブの支払方法欄

### 2-6 復習: 正誤問題

2-6-1 パラメータタブの会社コードはすべて同じ国に属していなければならない。

○

2-6-2 仕入先マスタに入力されている支払方法以外の支払方法を使用することはできない

×

支払方法は明細に指定することもできます。

2-6-3 支払提案は必要に応じて何度も編集、削除、再登録を行うことができる。

○

2-6-4 例外一覧は、支払提案データの一部である

○



# エンドユーザ向けプロジェクトサポート

## SAP Productivity Composer by RWD

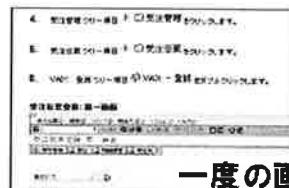
～個人のパフォーマンス向上とチームの成功、企業業績の向上をサポートする「企業内情報ナビゲーションの登場」

現代の知識集約型経済における企業の最大の資産は社員です。貴重な社員のパフォーマンスを最大化させるにあたって、必要な社内外の情報にどうアクセスし、その情報コンテンツをどう最新のものにアップデートしていくべきでしょうか。今日のビジネスにおいて、マーケットリーダーとそれ以外の企業との差は、結局のところ一人ひとりの社員のパフォーマンスを最大化できる仕組みを企業内に持っているかどうかで決定されてしまうのです。

### SPC Value Cycle

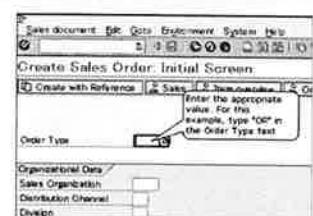
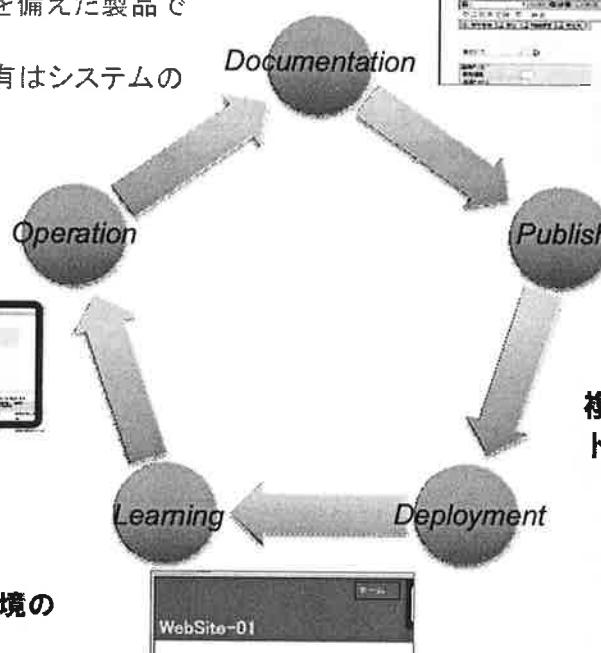
SPCはユーザー教育と情報公開を最小限のコストで実現するために必要な機能を備えた製品です。

統一されたフォーマット、情報共有はシステムのユーザー一定着を実現します。



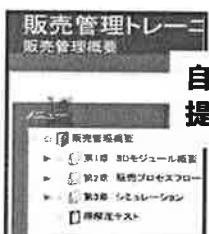
一度の画面操作でドキュメントとシミュレーションの作成、さらに多言語対応

### 実運用環境で最新のドキュメントをSAP画面から参照

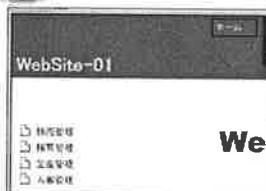


複数のユーザ用公開フォーマット

- ドキュメント
- シミュレーション
- e-Learningコンテンツ
- オンライン参照



### 自席での自習環境の提供



Webサイトでの情報一元管理と公開

### 企業を取り巻く環境1:社員にとって複雑で多様なビジネスアプリケーションの習得

企業は、業務向上のためにあらゆるビジネスアプリケーション(システム)に膨大な投資を行います。このようなビジネスアプリケーションがもたらす高効率化や顧客満足の向上およびその結果としての増収増益を実現するためには、実際にそれらを使うエンドユーザが社内に導入されているビジネスアプリケーションを効率的に活用し、所属部署別、職務役割別に適切な情報に常にアクセスできる環境、つまり継続的にエンドユーザのパフォーマンスをサポートする環境を構築し、維持していくことが求められます。

### SAP Productivity Composer by RWD の機能1 ~ XMLベースのコンテンツ作成、管理、および公開

- 一度の画面操作でドキュメントとシミュレーション(動画)の両方を記録可能
- シングルソースコンテンツのため、ドキュメント作成画面、またはシミュレーション作成画面を簡単に切り替え可能
- さまざまなフォーマット、およびファイル形式でドキュメントとシミュレーションを一括発行可能
- カスタムテンプレートの作成により、ドキュメントとシミュレーションのデザインを変更可能
- 用語と用語に対する定義文を管理する用語集の作成機能を提供

### 企業を取り巻く環境2:一貫性のあるビジネスプロセスの維持・徹底の実現

世界中で同じ方法・同じプロセスに則ってビジネスを進めていく、すなわちビジネスプロセスの一貫性を維持・徹底していくためには、同じ資料、同じ内容のトレーニング、さらには同じレベルのパフォーマンスサポートを受けられる環境を構築する必要があります。

## SAP Productivity Composer by RWD の機能2 ~ 多言語対応、e-Learning コースの作成

- 作成したコンテンツで他言語変換設定を行うだけで、指定した言語で自動的にドキュメント、シミュレーション共にテンプレートテキストと画像が自動的に置換可能
- コンセプト、評価、ポップアップ、シミュレーションを組み込んだ e-Learning コースを作成可能
- スケルトン(e-Learning 用テンプレート)を使用して、一貫性のあるレイアウトの e-Learning コースを作成可能
- Microsoft PowerPoint から e-Learning コースにコンテンツをインポート可能
- 独立型の Flash ファイルを e-Learning コースにインポート可能
- e-Learning コースのストーリーボードを印刷可能
- LMS(ラーニングマネジメントシステム)への対応

## 企業を取り巻く環境3: 加速する人材の流動化への対応

新卒新入社員、他社からの転職社員、社内部署間異動社員等、人材の流動化はめまぐるしく加速する一方です。新規加入の新しいメンバーによる新しいアイディアによって新しいビジネスチャンスが生まれる一方で、こういった新しい社員を組織やチームに適応させ、また地理的にも分散している社員をトレーニングし、今までの社員も含め知識をアップデートさせ、結果として社員のパフォーマンスを最大化させなければなりません。

## SAP Productivity Composer by RWD の機能3 ~ On-the-job のパフォーマンスサポート

- SAP 操作中のトランザクションに関連したファイルを、SAP GUI から直接呼び出すオンラインヘルプ機能
- 呼び出したファイル(ブラウザ)は常に画面の手前に表示されるため、ブラウザ画面を見ながらの操作が可能

---

2010年 9月 29日 版  
発行 SAPジャパン株式会社

本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは伝達することを、電子的、機械的、フォトコピー、錄音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本書は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。

